

2020年度

事業報告書

社会福祉法人

聖隷福祉事業団

2020年度 事業報告書 目次

2020年度事業報告にあたり	… 1
2020年度事業成績報告	… 4
聖隷三方原病院	… 7
聖隷おおぞら療育センター	… 11
三方原ベテルホーム	… 13
聖隷浜松病院	… 15
聖隷淡路病院	… 18
聖隷横浜病院	… 20
聖隷佐倉市民病院	… 22
浜松市リハビリテーション病院	… 24
聖隷袋井市民病院	… 26
保健事業部	… 28
聖隷健康診断センター	… 29
聖隷予防検診センター	… 31
聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	… 33
地域・企業健診センター	… 35
在宅・福祉サービス事業部	… 37
<p><和合せいれの里> 特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき 障害者支援施設みるとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター … 39 聖隷放課後クラブはなえみ和合 聖隷チャレンジ工房和合 障害者相談支援事業所くすのき 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉</p>	
聖隷めぐみ保育園	… 44
<p><聖隷ケアセンター初生> 和合愛光園初生サテライト … 46 聖隷デイサービスセンター初生</p>	
<p><聖隷ケアセンター高丘> 訪問看護ステーション高丘 地域包括支援センター高丘 … 48 聖隷リハビリプラザIN高丘 聖隷ケアプランセンター浜松</p>	
訪問看護ステーション住吉第二	… 50
聖隷コミュニティケアセンター	… 51
浜松市生活自立相談支援センターつながり	… 53
<p><聖隷厚生園信生> 聖隷厚生園信生寮 聖隷厚生園まじわりの家 障害者相談支援事業所信生 … 55 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江 聖隷ヘルパーセンター浜松北</p>	
<p><聖隷厚生園讃栄> 聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド … 58 地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド 福祉共同住宅ファーストステップ</p>	
聖隷厚生園ナルド工房	… 60
もくせいの里	… 62

2020年度 事業報告書 目次

<いなさ愛光園> 特別養護老人ホームいなさ愛光園 いなさ愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターいなさ いなさ愛光園在宅介護支援センター いなさ愛光園ヘルパーステーション ほのぼのケアガーデン	… 64
<聖隷ケアセンターいなさ> 地域包括支援センター細江 聖隷ケアプランセンターいなさ南部 聖隷リハビリプラザいなさ	… 67
<聖隷ケアセンター三方原> 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原	… 69
聖隷訪問看護ステーション三ケ日	… 71
<浜北愛光園> 特別養護老人ホーム浜北愛光園 浜北愛光園デイサービスセンター 障害者相談支援事業所浜松東 聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜 訪問看護ステーション貴布祢 聖隷チャレンジ工房浜北 生活介護事業所きらめき	… 72
<森町愛光園> 特別養護老人ホーム森町愛光園 森町愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター森町 森町愛光園ホームヘルパーステーション 森町愛光園天宮サテライト 聖隷相談支援事業所森町 聖隷放課後クラブはなえみ森町	… 75
<聖隷ぴゅあセンター磐田> 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田 聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田 磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび 磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター	… 78
<浅田地区在宅複合事業> 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	… 81
<浜松学園> 障害者支援施設静岡県立浜松学園 聖隷チャレンジ工房浜松学園	… 82
<浦安市高洲高齢者福祉施設及び 猫実高齢者デイサービスセンター> 浦安市特別養護老人ホーム 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市高洲地域包括支援センター 浦安市ケアハウス 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	… 84
浦安愛光園	… 87
浦安ベテルホーム	… 89
浦安せいれいクリニック	… 91
聖隷ケアプランセンター浦安	… 92
聖隷訪問看護ステーション浦安	… 93

2020年度 事業報告書 目次

<松戸愛光園> 特別養護老人ホーム松戸愛光園 松戸愛光園デイサービス … 94 松戸愛光園ケアプランセンター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸
<横須賀愛光園> 特別養護老人ホーム横須賀愛光園 横須賀愛光園デイサービスセンター … 96 西第二地域包括支援センター 聖隷ヘルパーステーション横須賀 聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀
<宝塚せいのりの里> 特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園 … 99 宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターすみれ
ケアハウス宝塚 … 101
結いホーム宝塚 … 103
宝塚栄光園 … 105
<聖隷ケアセンター宝塚> 聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター … 107 聖隷ケアプランセンター宝塚 訪問看護ステーション宝塚 逆瀬川地域包括支援センター
<聖隷ケアセンター北神戸> ・聖隷訪問看護ステーション北神戸 … 110 ・聖隷ケアプランセンター北神戸 ・障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸
聖隷逆瀬台デイサービスセンター … 112 聖隷デイサービスセンターあゆむ
聖隷デイサービスセンター結い … 114
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店 … 115
<花屋敷せいのりの里> 特別養護老人ホーム花屋敷栄光園 花屋敷デイサービスセンター … 116 花屋敷地域包括支援センター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷 聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷
ケアハウス花屋敷 … 118
<聖隷カーネーションホーム> 特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム 聖隷カーネーションホームデイサービスセンター … 120 聖隷在宅介護支援センター淡路 聖隷ケアプランセンター淡路 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ
<淡路栄光園> 特別養護老人ホーム淡路栄光園 … 120 淡路栄光園デイサービスセンター
<聖隷ケアセンター津名> 聖隷訪問看護ステーション淡路 … 124 聖隷ケアプランセンター淡路第二 聖隷ヘルパーステーション淡路
聖隷こども園夢舞台 … 126

2020年度 事業報告書 目次

<奄美佳南園> 特別養護老人ホーム奄美佳南園 奄美佳南園デイサービスセンター 奄美佳南園在宅介護支援センター 奄美佳南園ホームヘルプ事業所 奄美佳南園訪問入浴事業所 奄美佳南園春日デイサービスセンター 聖隷チャレンジ工房カナン		... 128
春日保育園		... 130
のぞみ園		... 132
聖隷かがやき		... 134
<聖隷ケアセンター沖縄> 聖隷訪問看護ステーションゆい 聖隷居宅介護支援センターゆい 聖隷デイサービスセンターゆい		... 136
聖隷こども園わかば		... 138
聖隷こども園桜ヶ丘		... 140
聖隷こども園ひかりの子		... 142
聖隷こども園めぐみ		... 144
聖隷浜松病院ひばり保育園		... 146
聖隷のあ保育園		... 148
こうのとり保育園		... 150
聖隷こども園こうのとり東		... 152
聖隷こども園こうのとり豊田		... 154
<聖隷こうのとり富丘> 聖隷こども園こうのとり富丘 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘		... 156
野上あゆみ保育園		... 159
野上児童館		... 161
逆瀬川あゆみ保育園		... 163
御殿山あゆみ保育園		... 165
御殿山児童館		... 167
高齢者公益事業部		... 169
浜名湖エデンの園		... 171
宝塚エデンの園		... 173
松山エデンの園		... 175
油壺エデンの園		... 177
浦安エデンの園		... 179
横浜エデンの園		... 181
<聖隷藤沢ウェルフェアタウン> 藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園二番館 藤沢愛光園 聖隷デイサービスセンター藤沢 聖隷ケアプランセンター藤沢 聖隷ヘルパーステーション藤沢 聖隷訪問看護ステーション藤沢		... 183
奈良ニッセイエデンの園		... 188
松戸ニッセイエデンの園		... 194
明日見らいふ南大沢		... 196
法人本部		... 198
2020年度施設整備事業報告		... 202
法人の概要		... 203
実施する事業の概要		... 204
役員状況/理事会、評議員会運営の状況		... 216
附属明細書		... 217

2020 年度事業報告にあたり

理事長 青木善治

2020 年度は聖隷福祉事業団創立 90 周年の節目の年でしたが、新型コロナウイルスによる感染症の影響を大きく受け、経験したことの無い試練に直面した 1 年となりました。感染拡大当初は新たな感染症のため情報が少なく、行政の支援体制も整わない中で感染対策を迫られました。ご利用者の皆様のご協力もいただき、入館時の体調確認、動線の分離、面会の制限などを迅速に実施し、疾病、健診、高齢者、障がい者、子ども、在宅などご利用者の特性に応じた感染対策を徹底しました。一時はマスクや防護着などが不足し、不安な状態で業務をせざるをえない状況となりましたが、事業部間の情報交換や物資の融通、共同購入などにより迅速に体制を整えることができました。さらには専用病床などの体制整備、感染対策設備の充実などにより、通常時の機能を極力維持しつつ、陽性者の受け入れなどを行うことができ、聖隷福祉事業団の規模と総合力を活かし地域貢献につなげることができました。

経営面では病院事業、保健事業における受診控えなどにより大きな減収となりましたが、職員の献身的な対応や陽性者の受け入れ、さらには感染対策強化などに対する補助金の一部支援により、黒字決算とすることができました。

新型コロナウイルス感染症に対応する一方、新規事業として、聖隷横浜病院の回復期リハビリテーション病棟と緩和ケア病棟、聖隷こうのとり富丘（とみがおか）、聖隷訪問看護ステーション三ヶ日、聖隷ライフサポート津名、浜松市中障がい者相談支援センター、浜名湖エデンの園新 1・2 号館などを開設しました。また、5 年後の聖隷福祉事業団のあるべき姿として Vision2025「地域連携体制の強化・デジタル改革・経営基盤の安定化を実現し、未来につなげる地域共生社会をつくる」を定め、その道標として中期事業計画 2021-2025 の策定を行いました。聖隷福祉事業団が未来に向けて新たな一步を踏み出す年度ともなりました。

コロナ禍において多くの皆様からご声援をいただき、我々も大いに勇気づけられました。ご利用者の皆様のご協力と、地域の皆様、行政をはじめ関係者の皆様のご支援に心より感謝を申し上げます、決算報告のご挨拶とさせていただきます。

基本理念

キリスト教精神に基づく
「隣人愛」

使命

- ・いのちと尊厳のために
- ・利用される人々のために
- ・地域社会とともに
- ・未来を築く
- ・最高のものを

ビジョン2020

人・地域・社会・時代が必要とする
ヒューマンサービスを追求し、
新たな価値を創造する

中期事業計画

事業部中期事業計画

事業団年度目標

事業部年度目標

職員行動指針

わたしたちは、
ひとりひとりの
命と尊厳を守ります

わたしたちは、
サービスを求める
すべての人々に、
誠実かつ献身的に仕え、
その自立を支援します

わたしたちは、
「保健・医療・福祉・介護」
サービスを通して
社会に貢献し、
地域の人々との
強い絆を育みます

わたしたちは、
先駆的・開拓的精神で
新たなニーズの発見に努め、
常に課題に挑戦します

わたしたちは、
ひとりひとりが専門職としての
倫理と誇りを持ち、
最高の技術を提供します

次ページへ

【用語の定義】

○使命：職員は何を大切に考えて仕事をするか ○ビジョン2020：2020年にどのような組織であるべきか

ビジョン2020
人・地域・社会・時代が必要とする
ヒューマンサービスを追求し、
新たな価値を創造する

1. 最高の質を追求し提供する
2. 社会福祉法人としての使命を追求する
3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する
4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する
5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する
6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス^{※1}なサービスを提供する
7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益 年2.5%^{※2}成長を維持する

2016年度

2017年度

2018年度

2019年度

2020年度

最終年度です

1. 最高の質を追求し提供する	6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス^{※1}なサービスを提供する
①利用者視点に立った良質なサービス提供の実践	①地域枠での聖隷独自の事業展開と事業部の融合
②人口動態の変化に伴うサービスの変革	②聖隷と他法人の連携による地域包括ケアシステムの構築
③最新医療・介護技術、システムの導入・構築	③地域包括ケアシステムにおける連携の仕組み作り
2. 社会福祉法人としての使命を追求する	7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益 年2.5%^{※2}成長を維持する
①社会福祉法人としての公益活動の推進・情報発信	<2020年度到達目標>
②新たな組織体制の追求	①サービス活動収益 対2015年度比 112.5%以上
3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する	②経常増減差額率 5か年累計平均 3.0%以上
①サービスの質を意識し、専門職としての知識・技術・価値の追求	③職員一人あたりサービス活動収益 対2015年度比 107.0%以上
②経営を担う人材、新たな価値を創造する人材の育成	④職員一人あたり経常増減差額 対2015年度比 112.0%以上
③中期事業計画を理解し、自ら考えて行動する人材の育成	⑤実質資金増加額 5か年累計 60億円以上
4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する	⑥純資産比率(自己資本比率) 40.0%以上
①多様な働き方の創出	⑦人件費率 58.0%以内
②女性の活躍を推進するためのキャリア形成支援	⑧有利子負債比率(対サービス活動収益) 30.0%以内
5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する	※1 シームレス：地域において保健・医療・福祉・介護サービスを事業団内、他法人との連携により継ぎ目なく受けられること。
①効果的な投資による経営資源の最大活用	※2 成長率 年2.5%：新たな事業展開、医療・福祉人材の確保等を行う中で、安定的な経営を行うために年2.5%以上の成長が必要である。
②社会環境の変化を先取りした事業の展開	2020年度終了時、サービス活動収益対2015年度比112.5%以上
③地域に求められるサービスの提供	

(2015.11.27 理事会承認)

2020年度 事業成績報告

常務執行役員 井上 英樹

(1) 事業の経過及びその成果

2020年度は、新型コロナウイルス感染症が全国に拡大する中、当事業団のすべての事業において、地域の方々の健康と暮らしを支えるべく、職員一丸となって全力で対応した。

経営的には、病院や保健事業に対する受診控えの傾向が収益面に多大な影響を及ぼしたが、新型コロナウイルス感染症入院患者の受け入れや感染予防設備の整備に対する国庫補助の交付があり、最終的にはサービス活動収益 1211.3 億円（前年度比 101.4%）まで回復することができた。費用面においては、オンライン会議が進むことで旅費交通費や研修費が減少し、業務の効率化につながった。

これらにより、事業団全体の税引前当期活動増減差額（以下、税前増減差額）は、23.4 億円（前年度比 392.7%）を計上することができた。

(2) 医療・保健事業

病院においては、新型コロナウイルス感染症対応として帰国者接触外来、発熱外来、PCR 検査体制、ICT を活用したオンライン面会など、地域の要請に応じた体制を整備した。

聖隷三方原病院事業部においては「ドクターヘリ格納庫及びヘリポート」の工事が完了し、手術支援ロボットの活用、遺伝子パネル検査の実施を積極的に進め、税前増減差額 10.6 億円となった。

聖隷浜松病院は、高度急性期病院としてがん診療をさらに推進していくにあたり、「サイバーナイフ（放射線治療装置）」を整備するとともに、救急患者の受け入れや手術室の効率的運用に力を入れ、税前増減差額 7.3 億円となった。

聖隷淡路病院では、地域包括ケア病床を 40 床から 47 床へ増床し、近隣急性期病院からの転院を積極的に受入れたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、税前増減差額は▲1.8 億円という結果となった。今後は開業医や病院への広報を継続的に行い、経営の安定を目指していく。

聖隷横浜病院では、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟合わせて 67 床を増床し、地域完結型医療の体制整備を行った。税前増減差額は▲15.0 億円と大変厳しい結果となったが、今後は既存設備を最大限に活用し、経営基盤の確立に努めていく。

聖隷佐倉市民病院も同様に、病棟再編、救急車応需率向上、人件費率の適正化等に取り組んだが税前増減差額▲4.9 億円という結果となった。今後は 3 年後の黒字化を目指して経営改善に努めていく。

指定管理病院である浜松市リハビリテーション病院は、リハビリ先進機器の活用により患者様の ADL 改善指数が大幅に上昇し、聖隷袋井市民病院においても中東遠総合医療センターの後方病院として地域医療の一翼を担うことができた。

保健事業部では、上半期は受診控えにより大幅な減収になったものの、下半期はドック、一般健診の期ずれ受診者を積極的に受け入れ、かつ巡回健診の新規契約が締結でき、税前増減差額▲0.1 億円まで回復することができた。

(3) 在宅・福祉サービス事業

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、福祉施設においては面会制限が設けられたため、携帯端末による「リモート面談」を実施した。また、年度当初は生活困窮者からの相談が殺到したため、社会福祉協議会や行政と連携しながら積極的に支援にあたった。新たな事業展開としては、磐田市に「聖隷こうのとり富丘」、淡路市に「聖隷ライフサポート津名（デイサービス等の事業）」を開設し地域ニーズに合致した事業展開を行い、介護現場に記録支援システムを導入する等、業務の効率化も図った。経営面では高齢者、障害者入所事業や保育事業は安定稼働を続けることができた一方、通所サービスや訪問サービス等は利用控えにより稼働率が低下した。事業部全体では税前増減差額 12.5 億円となり着実な実績を残すことができた。

(4) 高齢者公益事業

浜名湖エデンの園 1、2 号館建替工事が 3 年の工事期間を経て、2020 年 5 月にグランドオープンし、感染症対策を講じた上で新たな入居者を迎えることができた。また、「園内自主放送設備」を整備することで、入居者が自室にてコミュニケーションを維持し、健康活動に取り組むことができるようになった。また、5 施設において「見守りシステム」を導入することができ、入居者の安全に努めると同時に、職員の負担軽減につなげることができた。経営面では、浜名湖エデンの園の固定資産廃棄損や消費税を計上したため、税前増減差額は▲2.4 億円となったが、キャッシュ・フローについては、直営エデンの園 7 施設合計で新規入居 164 件、入園金 55.2 億円を達成し、事業団の資金繰りに大きく貢献した。

(5) 財務の状況

浜名湖エデンの園、聖隷横浜病院の建築工事やその他備品更新等により事業団全体で約 67 億円の固定資産整備を行った。資金繰りについては、新型コロナウイルス感染症による経営環境の悪化に備えるため、無担保・無利子の緊急支援融資を受け、有利子負債残高は 383 億円となった。そのため、サービス活動収益に対する有利子負債比率は 31.4%（2019 年度 29.6%）に上昇することとなった。

なお、期中においては資金管理を徹底し、賞与資金や運転資金を全額自己資金で賄い、なおかつ有利子負債を積極的に返済する等、財務体質の健全化を進めることができた。

《直近5年間のサービス活動収益及び経常増減差額》

(単位：百万円)

【サービス活動収益】	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
医療・保健事業 計	83,437	85,908	88,101	90,295	91,261
高齢者公益事業	9,405	9,353	9,456	9,341	9,533
在宅・福祉サービス事業	17,820	19,093	19,613	20,420	21,109
本部会計	508	655	377	874	691
内部取引	▲1,331	▲1,422	▲1,444	▲1,472	▲1,462
合 計	109,839	113,587	116,103	119,458	121,132

【経常増減差額】					
医療・保健事業 計	2,685	2,870	2,575	409	913
高齢者公益事業	1,277	996	840	755	581
在宅・福祉サービス事業	871	1,041	1,119	1,227	1,502
本部会計	▲156	▲80	▲606	▲600	559
合 計	4,675	4,827	3,928	1,791	3,555

《中期事業目標の進捗状況》

指 標		2020年度	
サービス活動収益	(対2015年度)	112.5%以上	114.8%
経常増減差額率	(累計)	3.0%以上	2.9%
一人当たりサービス活動収益	(対2015年度)	107.0%以上	98.8%
一人当たり経常増減差額	(対2015年度)	112.0%以上	106.4%
実質資金増加額	(5年累計)	60億円以上	140.3億円
純資産比率		40.0%以上	40.1%
人件費率		58.0%未満	57.7%
有利子負債比率		30.0%未満	31.4%

医療保護施設 総合病院 聖隷三方原病院

2020年度は、日本国内で新型コロナウイルス感染症が拡大し、医療機関にも大きな影響を与えた。当院においても、帰国者接触者外来や発熱等特殊外来の環境整備、自費を含むPCR検査体制の確立、新型コロナウイルス感染症入院患者の受け入れなど、多方面での対応が求められた。新型コロナウイルス感染症重点医療機関として地域医療を維持するために尽力した一年であった。

そのような状況下で、対面形式の会議や研修を避ける目的からオンラインでのWeb会議が浸透した。この普及により、院外との会議や職員の採用活動がオンライン上で行われ、業務の効率化にも繋がっている。

2020年度は診療報酬改定の年度でもあり、医療従事者の常勤配置に係る要件及び専従要件の見直しなど医師の働き方改革と診療報酬の結びつきが強化された。今回の改定にて、地域の救急医療体制において重要な機能を担う医療機関に対する評価として、地域医療体制確保加算が新設となった。当院も、地域救急医療体制強化のために院内を整備し、施設基準の届け出を行った。

2021年3月には念願であったドクターヘリの格納庫及びヘリポートの工事が完了した。2021年7月より正式に供用開始を予定している。この格納庫の活用により、ドクターヘリ整備の効率化や運航体制の強化が見込まれ、高度急性期医療へのさらなる貢献を目指す。

医師の確保に関しては、初期研修医が15名フルマッチとなり、後期研修医は5名が当院で研修することとなった。専門医制度においては、2019年度に引き続き8領域での基幹施設として研修プログラムを実行している。

政府が進めている医師の働き方改革については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、政府の予定通りに政策が進まなかった。医療現場の混乱を避けるため例外として2024年4月まで猶予期間を与えられたが、医師労働時間短縮計画のための準備を着実に進めている。これからも、政府の動きを注視しながら勤務環境の改善に努めていく。

看護師を教育する医療機関としては、2020年度から看護師特定行為研修が開始された。5区分の特定行為実践看護師の育成を行い、7名の修了生を輩出した。特定行為実践看護師は医師の働き方改革にも大きな効果を与えるため、引き続き育成に力を入れていく。

新たな医療提供として、手術支援ロボットによる直腸切除・切断術の開始、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の新機種更新などを実施した。また、がんゲノム医療連携病院として、昨年度に引き続きがん遺伝子パネル検査を実施し、件数も着々と増加している。今後も地域の方々によりよい医療を提供できるよう体制の確立に取り組んでいきたい。

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	635名	585名	92.1%	92.3%	外来患者数	1,000名	888名	88.8%	87.0%
入院単価	64,900円	68,681円	105.8%	107.4%	外 来 単 価	19,200円	21,329円	111.1%	114.1%
職 員 数	1,577名	1,558名	98.8%	100.5%	病床利用率	83.1%	76.5%	92.1%	92.2%
サ ー ビ ス 活 動 収 益	21,891 百万円	22,364 百万円	102.2%	103.3%	サ ー ビ ス 活 動 費 用	21,402 百万円	21,219 百万円	99.1%	100.3%

(注:外来患者数、外来単価は歯科を除く)

1. 安全で質の高い医療の提供

(ア) 安全な医療の提供

① 医療安全管理体制の評価と充実

医療安全管理室会議、医療安全管理委員会を定期的開催するとともに、『患者誤認事例減少』を目的として、診療科含む各職場に積極的に関わった一年であった。また、必要時メディカル・リスクマネジメントマニュアルの改訂・追加・削除を実施した。

② 感染管理体制の評価と充実

行政検査をはじめとする PCR 検査を 3,162 件実施した。また、発熱等特殊外来の環境整備、新型コロナウイルス感染症患者の入院体制整備を行い地域の医療提供体制に貢献した。

(イ) 質の高い医療の提供

② 専門・認定・特定行為実践看護師の育成と活用

新たに小児看護専門看護師が誕生し、専門・認定看護師 30 名となった。コロナ禍で地域から感染管理認定看護師へのニーズが高く、予防対策や原因究明のため数多く派遣でき地域貢献につながった。特定看護師を 7 名育成し、職務規程・業務基準も整備でき、2021 年度から手順書に基づいた実践に入る。

(ウ) 新たな病院機能の提供

③ 手術室機能の更なる促進

手術支援ロボットによる直腸切除術の開始、ダヴィンチの最新機種への更新を実施した。

④ 外来・画像診断部門の再構築

合同カンファレンスや外来運営会議を実施し、2020 年 8 月より、肝臓内科外来が再開された。また、呼吸器内科の下に呼吸器腫瘍内科、消化器内科の下に内視鏡内科が追加された。

2. 働き方改革と人づくり文化の継承

(ア) 働き方改革の推進

① 医師の働き方改革への対応

医師の有給取得状況及び超過勤務実績について毎月確認をし、必要な時期に診療部へ情報提供・アラートを可能とする体制を構築した。

(イ) 医師・看護師・介護職の人材確保と定着

① 専門医・専攻医採用の強化

初期臨床研修については、15 名のフルマッチとなった。専攻医については当院初期研修医から継続して 6 名が専攻医として当院に残り、さらに他院で初期研修をされた医師から専門研修プログラムへ応募があり内科、外科に 1 名ずつ受入となった。

② 看護師の安定した確保

エントリー数 114 名(2019 年度比+24 名)採用者数 71 名(2019 年度比+3 名)につながった。

③ 介護職・看護助手採用の強化

おおぞら療育センター介護職については、採用者数 4 名であった。

(エ) 多様な雇用形態の促進

① 障がい者雇用の維持

法定雇用率 2.2%に対して 2.74%と継続して高い雇用率を維持することができている。

②エルダー職の活用

魅力的な職場環境を提供することでエルダーA 職 10 名、エルダーB 職 1 名の雇用ができた。

③両立支援が必要な人達の雇用

子育て世代 3 名の見学・採用面接を行った。その後採用の 3 名は地区限定職員として採用となり、子育てと仕事の両立を図っている。

3. 地域完結型医療実現への取り組み

(ア) 地域医療構想への対応

①病床機能の検討

病床機能報告においては「定量的な基準(静岡方式)」を参考にした形で報告を行い、当院の医療圏における位置づけについて再検討を行った。

(イ) 地域包括ケアシステムの推進

③アドバンス・ケア・プランニング (ACP) の推進

浜松市作成「人生会議手帳」北区意思決定支援プロジェクト「なおとらシート」を活用し、地域と連携を行い、患者さんご家族に対して継続的な支援を開始することができた。

4. 地域より求められる病院機能の整備

(ア) 各種認定施設としての機能の充実

①高度救命救急センター

a 重症救急患者の受け入れ体制の充実

ドクターヘリの運航をはじめ、救急医療の実践を円滑に行うために地域医療機関や消防機関など関係各機関と連携をしている。各市町の消防機関との訓練や Web 会議を使用した検証会など関係機関と連携ができるように継続して実施している。高度救命救急センターとして熱傷・急性中毒・指肢切断などの特殊疾患にも各診療科と連携し対応している。

b ドクターヘリ格納庫・ヘリポートの整備

2019 年 9 月に計画始動し、行政や関係業者の協力を得て 2021 年 3 月に竣工となった。今後、実運用を検討し、2021 年 7 月に供用開始の予定。

②基幹型認知症疾患医療センター

a 他医療機関との連携システムの整備

浜松市認知症疾患医療連携協議会を開催し、認知症サポート医や地域包括支援センターと共に、認知症初期集中支援事業をはじめとする浜松市の認知症施策について情報共有及び意見交換を行なった。

b 地域包括支援センター、福祉・介護施設との連携

地域包括支援センター向け勉強会、県事業による出張相談会を開催して連携を深めると共に、認知症対応力向上や地域の実情把握に努めた。

c 相談支援体制の充実

認知症看護認定看護師と共に認知症相談会を毎月開催した。年に 3 回予備日を設け相談体制を整えた。

④災害拠点病院

例年の各種訓練は中止となったが、EMIS（広域災害救急医療システム）確認や通信訓練など関係機関と実施した。静岡空港では航空機事故を想定した訓練が行われ当院 DMAT が参加した。院内では、事業継続計画（BCP）に基づいた地震総合訓練を実施した。

⑤地域がん診療連携拠点病院

2020 年度に実施したがん遺伝子パネル検査は 8 件であり、全ての症例がエキスパートパネルを実施することができた。がん遺伝子パネル検査の実施件数も増えてきているため、院内フローの作成にも取り組んだ。

(ウ)病院ボランティアの充実

ボランティア説明会・講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全て中止としたため、新規加入は 0 名であった。

(オ)環境保全のための省エネ活動の継続

新型コロナウイルス感染症予防のため例年以上の換気のため、冷暖房を運転することになったが、照明の LED 化推進や設備機器の適正な運転管理等によりエネルギー使用量削減に努めた。

5. 安定した経営基盤の確保

(ア)診療報酬改定への対応

医事課が中心となり情報収集・発信・共有を行い、多職種共同の下、急性期一般入院基本料 1 の重症度、医療・看護必要度Ⅱへの対応など既存項目の維持と、新設項目である地域医療体制確保加算の取得を実施した。

(イ)施設基準の精度管理

新型コロナウイルス感染症の影響により大きく医療体制・患者動向が変化する中で、各種通知や臨時的な取扱いなどにも留意し、例年通り事業団統一フォーマット「施設基準管理統計」による適切な施設基準の精度管理を実践することができた。

(ウ)職員の経営参画意識の向上

①生産性向上への取り組み強化

医療技術部門と事務部門において、自職場及び他部署との連携で実現が可能な費用削減・増収対策を検討し、目標を設定することで生産性の向上を行った。

6. その他公共事業

高校生の看護体験 20 名を受け入れた。市民公開講座は、YouTube 配信にて 1 回開催を行い、総再生回数は計 142 回であった。産後ケア事業は 0 件であった。

〈医療保護施設・無料低額事業〉

生活困窮者、無保険者、外国人労働者などに対する医療費・室料の減免を行った。引き続き福祉施設などへの医師・薬剤師・理学療法士などの派遣協力を行った。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

「医療型障害児入所施設/療養介護(重症心身障害児施設)・短期入所(ショートステイ)」

聖隷おおぞら療育センターの施設入所サービスは、2012年の障害者総合支援法の成立以降、医療型障害児入所施設(18歳未満)と療養介護(18歳以上)の並立施設運用になっている。2020年度の利用実績は、4月時点の入所者は125名であったが、年度内の入所者15名(期間限定11名含む)、退所者14名(期間限定9名含む)で、2021年3月末では126名となった。また、地域の在宅利用者のご家庭の事情により一時的な入所が必要と判断したケースで実施している期間限定の入所受け入れは2020年度11名(静岡県6名、愛知県5名)で、緊急時など必要な時に安心して利用できる施設として役割を果たすことができた。重症心身障害で医療ニーズが高い当施設のサービス利用者にとって、新型コロナウイルスへの感染は生命危機に直結する問題で、家族面会の在り方や職員の会議・休憩の密対策の徹底を最重要課題として取り組んだ。

ショートステイの2020年度利用実績は、1日平均利用者数が7.5名(定員20名)、利用登録者の総数は245名であった。新型コロナウイルス施設対策として、政府の緊急事態宣言、各県独自の警戒宣言等を基準に4月、5月、6月、8月、1月、2月、3月にショートステイのサービス提供を中止又は地域制限を実施した。

7月より、来館する利用者全員に対し体調確認トリアージを実施し、施設内への感染持ち込み防止策を厳にした。

2021年2月に浜松市障害者総合支援事業費補助金(新型コロナウイルス感染症対策に係る特別事業分)により、簡易陰圧装置4台を新規導入し、併せて入所病床8部屋を簡易陰圧装置が設置できるよう改修工事を実施した。これにより、施設内で感染症が発生した際でもゾーニングによるまん延防止対策が実施可能となった。

あさひ(生活介護)

2020年度は、利用登録者数49名でスタートし、年度内の利用開始者0名、利用終了者3名で、46名で年度を終了した。利用実績は、1日平均利用者数28.1名(定員35名)となった。職員配置では、常勤専従の看護師・生活支援員の配置を維持し、安定した日中活動支援を継続的に提供することができた。重度の医療的ケアの必要な方が増えている中で、小グループ単位で日中活動に重きを置いたサービスを提供することができた。

新型コロナウイルス施設対策として、4月、5月はサービス利用の自粛を呼びかけた。政府の緊急事態宣言、各県独自の警戒宣言等を基準に1月、2月3月にサービス提供の地域制限を実施した。

児童発達支援センターひかりの子

〈児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援〉

児童発達支援センターは、通所利用の障害児への支援だけでなく、在宅障害児の支援を積極的に行い地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たす必要がある。

児童発達支援は、障害や発達に沿った遊びや保育を重視して実践した。2020年度は、利用登録者数15名でスタートし、年度内の利用開始者1名、利用終了者0名で、最終的には16名となった。利用実績は、1日平均利用者数8.6名(定員15名)となった。新型コロナウイルス対策として、政府の緊急事態宣言、各県独自の警戒宣言等を基準に4月、5月、1月、2月、3月はサービス提供を中止又は地域制限を実施した。

放課後等デイサービスは、静岡県西部圏域の特別支援学校に通う医療的ケアのある重症心身障害児を主な対象とし、学校の授業終了後や休日に利用できるサービスである。2020年度は、利用登録者数47名からスタートし、年度内の利用開始者0名、利用終了者1名で、最終的には46名となった。利用実績は、1日平均利用者数4.0名(定員5名)となった。新型コロナウイルス対策として、4月、5月はサービス利用の自粛を呼びかけた。政府の緊急事態宣言、各県独自の警戒宣言等を基準に1月、2月、3月はサービス提供を中止又は地域制限を実施した。利用希望が集中する土曜日と特別支援学校の長期休暇中の休日枠の定員拡大を中止した。

相談支援事業所おおぞらは、児童を対象とした障害児相談支援と主に成人を対象とした特定相談支援を行っている。2020年度は新規契約者10名、契約終了者8名で、最終的な登録者数は187名となった。

	入 所		短期入所		あさひ		ひかりの子	
	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績
入院患者・利用者数	140名	129名	16名	7名	—	—	—	—
入院単価(医療)	29,500円	29,656円	—	—	—	—	—	—
入院単価(福祉)	8,980円	9,076円	29,680円	29,145円	—	—	—	—
外来患者・利用者数	53名	27名	—	—	40名	33名	20名	13名
外来単価(医療)	4,900円	4,660円	—	—	12,550円	12,514円	14,440円	15,268円
サービス活動収益	2,241,000 千円	1,936,239 千円	左記含む	左記含む	124,000 千円	96,681 千円	80,500 千円	56,233 千円
サービス活動費用	1,956,000 千円	1,785,976 千円	左記含む	左記含む	137,000 千円	115,783 千円	74,800 千円	60,908 千円

(注:外来患者数、外来単価は歯科を除く)

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2020 年度は新型コロナウイルス感染症が全国に拡大する中、施設整備や職員による感染防止対策に取り組み、事業を継続することができた。4 月から訪問リハビリテーション事業を開設し、施設利用者へシームレスな在宅復帰支援を提供した。併せて医療依存度の高い方、終末期の方、緊急入所、緊急ショートステイの受入れなども引き続き積極的に取り組み、聖隷三方原病院の後方支援施設として、地域を担う老人保健施設として役割を果たすことができた。国の推奨する科学的介護情報システムに対応すべく 2020 年度当初から介護看護記録の ICT 化を実現した。利用者数は予算には大きく未達ではあったが、質の高い充実したサービスを提供することにより超強化型の類型を維持し、高単価で安定した事業運営となった。

1. 在宅復帰・在宅生活継続支援のさらなる強化

訪問リハビリテーション事業の開設により在宅復帰後も継続的支援が可能となり、在宅復帰率も 68.2%と過去最高となった。通所リハビリテーションでは医師のかかわるリハビリマネジメントの割合が 6 割を超え、多職種による総合的支援を継続し社会復帰につながった。また、ショートステイとの連携により人生の終末期に至るまでの支援に取り組んだ。

2. 安定した経営基盤構築への取り組み

充実したリハビリテーションの提供や在宅復帰率を高く維持するなど、指標を意識した取り組みにより超強化型を通年維持することができた。2021 年の介護報酬改定に対応するため、情報収集や Web 勉強会への積極的参加で準備を進めた。施設運営状況を職員へ継続的に発信することで情報共有と経営参画の意識向上を図った。通所リハビリテーション・ショートステイ送迎運転手の不足と高齢化に対応すべく専門業者への委託契約を拡大した。

3. 安全で質の高いケアの提供

新型コロナウイルス感染症においては、早期より面会制限、簡易陰圧装置の設置、飛沫対策器具の設置、発症時のシミュレーション実施など万全な対策で有事に備えた。Web 面会の環境も速やかに構築し家族へのケアを図った。全国老人保健施設協会主催の新型コロナウイルス感染症に関する Web 研修を全職員に受講させ、感染症対応力の向上を図った。

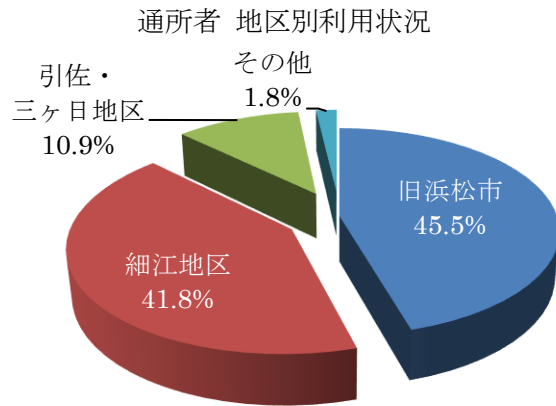
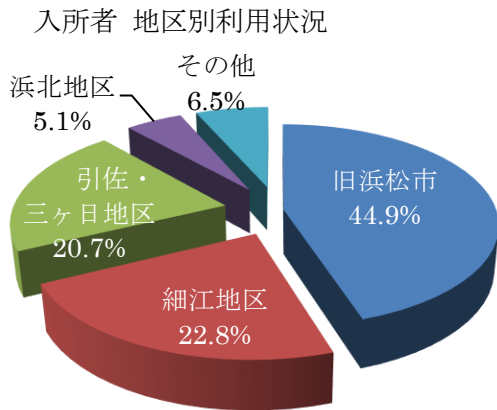
4. 次世代を担う人材育成と働く支援

人材確保等支援助成金の活用によりフロアの介護浴槽を更新し、介護職員の負担軽減と利用者の満足度向上を図ることができた。全職員対象に認知症高齢者の意思決定支援（ACP）の理解を深める研修を数回に分け実施した。また ACP および通所リハビリテーションの高齢者自己効力感尺度の研究について浜松医科大学と共に取り組むことができた。

5. 地域社会に期待される施設づくり

緊急入所、緊急ショートステイの積極的受入れを継続。新型コロナウイルス感染症により地域ボランティアについては受け入れできなかったが、学生実習については対策を万全に可能な範囲で受け入れることができた。無料低額利用事業として生活困難者への経済的支援により生活自立に繋いだ。

【数値実績】



入所者 性別年齢別状況 (%)

	男 (39.5)	女 (60.5)
65歳未満	1.1	1.4
65歳～	3.3	1.4
70歳～	3.3	2.5
75歳～	2.9	5.4
80歳～	8.3	9.4
85歳～	10.9	15.6
90歳～	7.6	14.9
95歳～	2.2	9.8

通所者 性別年齢別状況 (%)

	男 (45.5)	女 (54.5)
65歳未満	1.8	2.7
65歳～	5.5	0.9
70歳～	7.3	4.5
75歳～	6.4	4.5
80歳～	4.5	10.0
85歳～	6.4	11.8
90歳～	10.0	10.9
95歳～	3.6	9.1

入所(短期含)利用状況 (定員 150 人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均(人)	120.6	119.4	121.3	117.7	124.5	120.6	109.4	120.0	122.6	124.9	128.4	121.3	120.9
延人数(人)	3,608	3,695	3,632	3,646	3,847	3,611	3,380	3,583	3,781	3,871	3,588	3,752	43,994
稼働率(%)	80.2	79.5	80.7	78.4	82.7	80.2	72.7	79.6	81.3	83.2	85.4	80.7	80.4
平均要介護度	3.0	3.1	3.2	3.2	3.1	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.2	3.1

通所リハビリテーション利用状況 (定員 50 人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日平均(人)	26.5	27.5	28.5	29.2	29.1	28.7	29.4	28.2	27.1	26.2	27.0	26.7	27.9
延人数(人)	688	714	740	788	757	747	793	705	650	628	649	721	8,580
稼働率(%)	52.9	54.9	56.9	58.4	58.2	57.5	58.7	56.4	54.2	52.3	54.1	53.4	55.7
平均要介護度	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.2	2.2	2.1	2.2

訪問リハビリテーション利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数(人)	7	8	19	12	11	7	0	5	13	16	13	8	119
平均要介護度	3.0	3.0	2.1	1.8	1.7	2.1	-	1.0	1.5	2.0	2.2	2.3	2.0

総合病院 聖隷浜松病院

2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大により、日常生活や医療提供体制が大きく変化し、当院においても受診抑制等により患者数が減少し経営的な影響を大きく受けた。そのなかで PCR 検査をはじめとする診療体制を整備することにより、患者さんが安心して受診できる環境を整えることができた。また、入院患者さんの面会制限や市民公開講座延期など様々なことに制約を受けるなか、ICT を活用したオンライン面会やオンラインセミナーを開始するなど新たな取り組みを行い、成果をあげることができた。今後も患者サービスの拡大と業務の効率化に向け、さらにデジタル化を推進していく。そして、高度急性期病院として診療の質を高め、地域の要望に応える病院を目指す。最後にこの 1 年間様々な制約を受けるなかで、新型コロナウイルス感染症の対応を行いながら診療にあたってくれた全職員に感謝したい。

【病院使命】

“人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します”

【病院理念】

“私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ”

【運営方針 2020】

私達は常に信頼される病院であり続けます

■望まれる良質な医療を提供します ■地域とのつながりを大切にします

■良い医療人を育てます ■働きやすい環境を作ります ■健全な経営を継続します

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足の向上

- | | |
|--------------|--|
| (ア) 選ばれ続ける病院 | ①患者満足度調査結果（LINE）年 4 回実施
この病院に満足している 90%以上（実績：88.7%）
職員満足度調査結果（デスクネッツ）年 4 回実施
この病院で働くことにして良かった 66%以上（実績：73.7%） |
| | ②新入院患者数 1,790 人以上/月（実績：1,711 人） |
| | ③外来患者数 1,623 人以上/月（実績：1,527 人/月） |
| | ④院内滞在時間 対前年比 10%短縮（初診・再診別）
（実績：0.8%・0.4%短縮） |
| (イ) 丁寧な説明と対応 | ①限度額適用認定証提出率 65%以上（実績：63.5%） |

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 地域に必要とされる高度・急性期医療の充実

- | | |
|---------------|---|
| (ア) 断らない医療の提供 | ①救急車制限時間（重症患者制限）30 時間以下
（実績：46.1 時間） |
|---------------|---|

	②紹介患者断り率 3%以下	(実績: 3.3%)
(イ) 効率的な病床活用	①DPCⅡ期退院患者比率 54%以上	(実績: 54.1%)
	②病床稼働率 93.5%以上	(実績: 88.1%)
	③病棟別稼働率の差異 (7:1 病棟比較) 20%以下	(実績: 22.7%)
(ウ) 患者家族支援の強化	①入退院支援加算 1,3 算定率 40%以上	(実績: 46.3%)
(エ) 地域連携の強化	①紹介患者数 2,050 人以上/月	(実績: 1,841 人/月)
	②中東遠地域から紹介件数 235 人以上/月	(実績: 198 人/月)
(オ) 事業団内連携	①新規患者に対する ID リンク利用率 50%以上	(実績: 12.6%)
(カ) がん診療の推進	①定位照射件数 (サイバーナイフ件数) 10.5 件/月	(実績: 15.2 件/月)
	②新規がん患者数 130 件以上/月	(実績: 131 件/月)
(キ) 手術室の効率利用	①8:30~19:00 手術室稼働率 63%以上	(実績: 66.9%)
	②手術室曜日別稼働率の差異 10%以下	(実績: 7.8%)
(ク) 災害対策	①ANPIC24 時間以内返信率 80%以上	(実績: 73.8%)

3. 医療の質と安全の保証

(ア) 安全な職場風土の醸成	①医師の IA レポート数 40 件以上/月	(実績: 51 件/月)
	②患者誤認発生率 事象レベル 2 以上 0.04‰以下	(実績: 0.02‰)
	③麻薬・ハイアラート薬品関連の IA 発生率 事象レベル 2 以上 0.1‰以下	(実績: 0.10‰)
	④転倒・転落による負傷発生率 事象レベル 2 以上 2.5‰以下	(実績: 2.54‰)
	⑤手指衛生実施率 医師 35% 看護 74% 医技・事務 35%以上	(実績: 医師 42.8%・看護 78.5%・医技 事務 67.9%)

4. チーム医療推進

(ア) 働き方改革	①超勤時間 前年比医師-10% 看護-0.2% 医技・事務-0.2%	(実績: 前年比医師+2.3%・看護-5.8%・医技 事務-4.5%)
	②有給休暇 5 日取得率 100%	(実績: 医師 84.3% 看護 94.0% 医技・事務 97.2%)

「成長と学習」の視点 (人材確保・成長のために)

5. 明日を担う人材育成と活用

(ア) 心身共に健康に働ける職場作り	①目標参画面接実施率 看護部 95% 医技・事務 85%以上	(実績: 看護 97.0%・医技 事務 97.5%)
	②暴力発生報告書提出件数 前年度比 10%増	(実績: 30%増)

(イ) 新しい技術の資格取得支援

- ①ダビンチ手術件数 10 件以上/月 (実績：11.3 件/月)
 ②新規資格取得者数 80 件/年以上 (実績：121 件/月)

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

6. 目指す医療ができる安定した財務

- (ア) 年度予算の達成
- ①収益（サービス活動収益） 33,507 百万円以上
 (実績：32,753 百万円)
- ②費用（サービス活動費用） 32,555 百万円以下
 (実績：31,523 百万円)
- ③利益（経常増減差額） 1,040 百万円以上
 (実績：1,281 百万円)

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
入 院 患 者 数	701 名	660 名	94.2%	96.6%
入 院 単 価	88,500 円	90,795 円	102.6%	104.3%
外 来 患 者 数	1,623 名	1,527 名	94.1%	100.4%
外 来 単 価	20,500 円	21,693 円	105.8%	105.7%
病 床 稼働率	93.5%	88.1%	94.2%	96.8%
サービス活動収益	33,507 百万円	32,753 百万円	97.7%	102.7%
サービス活動費用	32,555 百万円	31,523 百万円	96.8%	101.4%
職 員 数	2,100 名	2,112 名	100.6%	102.5%

(注：入院単価、外来単価は歯科を除く)

【地域における公益的な取組】

2020 年度は、コロナ禍で会場に集まる市民公開講座等の開催ができないなか、3 月に「オンライン市民講座」を開催した。全国約 300 名の参加者に対し、当てんかんセンター専門医 3 名によりてんかんに関する解説を行なった。

また患者に対する支援活動では、治療と仕事の両立支援として、がんを含む長期療養者に対し、ハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに相談会を毎月定期開催した。事業主向けには「治療と仕事の両立支援セミナー」を Web 開催し 44 名の参加者に対し、疾病を抱えながらも働き続けられる社会の構築を目指した普及啓発活動を行なった。

聖隷淡路病院

1999年12月に国立病院から移譲を受けて開設し20年が経過した。2020年度は21年目の節目の年であることから「新しい出発」の年と位置付けた。4月より新たに整形外科医師2名が着任し3名体制となり、「新しい出発」の年に相応しい診療体制が整った。2020年1月より3階病棟の地域包括ケア病床は40床から47床に増床し、急性期治療を終えた患者の在宅復帰を支援する当院の医療機能がさらに明確になった。高齢化が進んでいる淡路島で地域住民が安心して暮らせるために訪問診療や訪問リハビリテーションにも力を入れ、地域包括ケアシステムを支える役割を果たしている。

新型コロナウイルス感染症による病院経営への影響は全国の医療機関と同様に当院の診療実績を大きく引き下げる結果となった。年度の後半に向けて少しずつ患者数は回復したが、当初の予算目標に到達することができなかった。

1. 病院機能の強化

3階の地域包括ケア病床は4階病棟の急性期治療を終えた患者の転棟や地域の急性期病院からの転院の受け入れを積極的に行った。特に県立淡路医療センターから速やかに転院を受け入れることで地域医療を円滑に動かすことにも貢献した。5階病棟は島内在住で長期療養となる患者の受け皿となるだけでなく、緩和ケアを行う病棟として地域からのニーズに応えた。新体制となった整形外科の診療機能を周知するため、コロナ禍で可能な限り地域に出かけ、地元の開業医や病院等に積極的に広報活動を行い、着実に患者数を増やすことができた。

2019年度に産科診療の継続が困難となり分娩を中止しているが、新たに立ち上げた「産後ケア事業」は淡路市をはじめ島内の行政機関と連携し、2020年度は延べ4件の利用があった。今後も地域の子育て支援を推進する事業となるよう発展させていきたい。

保健事業は、前半はコロナ感染症により自粛せざるを得なかったが、後半は前半のマイナスを補うべく実績を大きく伸ばすことができた。2021年度に向けて、より効率的に健診事業が行えるよう受診者の検査の流れの改善や予約枠の見直し等を行った。

2019年度から開始した「訪問リハビリテーション」「訪問診療」は、淡路市内の聖隷施設と連携し、訪問依頼を積極的に受け入れた。ターミナル期の患者が自宅で最期を迎えたいという希望を叶えるため、訪問看護師と密接にコミュニケーションを図り、聖隷ならではの医療サービスの提供に繋がった。訪問リハビリテーションは担当する療法士が複数体制となり訪問件数が増えた。

2. 質の高いチーム医療の推進と人材育成の推進

医療安全・感染予防・医療倫理など、病院が取り組むべき大きな課題に対する抜本的な体制の見直しを行い、2021年度に向けた各委員会や管理者の役割分担について検討を行った。

人材育成はコロナ禍で予定された集合研修が開催方法や内容の変更を余儀なくされたが、OJTの強化やオンラインでの研修実施など新たな様式での取り組みとなった。

地元出身者を採用し、定着化を図り、さらに役職者として育成することにより、複数の遠隔地異動者を本拠地に戻すことができた。

3. 利用者及び職員の満足度向上

利用者からの意見を積極的に収集し、改善活動に取り組んだ。また職員が働きやすい環境づくりを目指し、労働環境の整備を行った。

4. コンプライアンス経営とエコロジーの取り組み

“職種、職場を超えたチーム目標”を通して日々の活動を共有し合う体制は、各職種の相互理解を進め、その結果として質の高いコンプライアンス経営に繋がった。

「目標進捗管理」の“職場ごとの目標”のなかで省エネルギーを目標に設定する職場もあり、施設をあげてエコロジーに取り組むことができた。

5. 健全な経営基盤の確立

医業事業収益は全体で予算未達であり、2019 年度比で入院診療収益 98.3%、外来診療収益 94.6%、保健予防活動収益 100.6%であった。患者数は入院・外来ともに予算未達、単価は外来が予算を達成したが、入院は未達成であった。保健事業は順調に契約数・受診者数を増やしている。

費用面では人件費が抑えられ、サービス活動費用は予算比 96.2%となり目標達成した。しかし収益額の未達の影響が大きく、経常増減差額では予算から大きく乖離し、マイナス実績となった。以前より経営改善策を積み重ね、自立した経営を目指して取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症による経営不振により成果を出すことができなかった。2021 年度はコロナ禍であっても安心・安全な医療提供を行うことで予算目標の達成に再チャレンジしていきたい。

6. 地域における公益的な取り組み

「せいれい健康フェスタ」など例年行われる地域向けのイベントは中止となった。整形外科が新体制になったことに合わせて市内の救急隊員と合同カンファレンスを行った。

【無料又は低額診療事業】

無料低額診療事業を行う医療機関として、地域課題である高齢者の低所得層の救済に取り組んだ。行政や各医療機関の相談員など関係機関への周知を行い、「生計困難者」だけでなく「生活困窮者」が必要な医療を安心して受けられるよう事業を継続していく。

2020 年度の減免実施率は 14% であった。

【数値実績】

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	134 名	118 名	88.1%	93.7%	外来患者数	140 名	116 名	82.9%	88.5%
入院単価	31,000 円	30,417 円	98.1%	105.3%	外来単価	9,500 円	9,809 円	103.3%	104.9%
サービス活動収益	2,100 百万円	1,847 百万円	87.9%	98.2%	サービス活動費用	2,077 百万円	1,999 百万円	96.2%	99.8%
病床利用率	88.2%	77.6%	88.0%	93.6%	職員数	199 名	191 名	95.9%	100.0%

聖隷横浜病院

2020年度は、地域完結型医療を行うための体制整備と新型コロナウイルス感染症との戦いの年であった。

地域完結型医療の体制整備においては、回復期リハビリテーション病棟 38 床、緩和ケア病棟 20 床を新たに開設、さらに地域包括ケア病棟を 9 床増床し、2019 年 3 月に横浜市病床整備事前協議にて承認された 67 床の増床計画を完遂することができた。また、泌尿器科、腎臓・高血圧内科、整形外科に常勤医師を新たに招聘し、診療体制の強化を図ることができた。

新型コロナウイルス感染症との戦いにおいては、「新型コロナウイルス感染症患者(疑いを含む)を院内に持ち込まない、持ち込ませない」を掲げ、全職員が一丸となり感染症対策に取り組み、安心・安全な療養環境を常に提供し続けることができた。特に入館時の体調確認は、全ての入館者に理解と協力を得ながら、延べ 23 万 4 千人に対し実施した。さらには、帰国者・接触者外来の開設、神奈川モデルにおける重点医療機関協力病院への参画など、地域や行政から求められる役割を果たすことができた。全職員の感染症対策に対する努力と取り組みに感謝したい。一方で、二度の緊急事態宣言による不要不急の外出制限は、利用者の受診控えなど自粛行動に拍車がかかり、外来、入院共に利用者数が減少し、経営面へ大きく影響を与える年度となった。

1. 安全で良質な医療の提供

(ア) 救急診療体制の再構築と強化

2020 年 2 月より一般輪番病院として救急体制をスタートし、コロナ禍においても応需率向上に向け、病院全体で取り組んだ。その結果、3,814 件(目標:3,000 件)の救急搬送を受け入れた。

(イ) 救急重点診療科の受け入れ体制の強化

心疾患、脳疾患における 24 時間 365 日の救急受入体制を維持し、急性期ケアユニット、脳卒中ケアユニットを高稼働で運営できた。整形外科は常勤医師が増員となり外傷患者の受け入れ体制が強化された。

(ウ) 診療科体制の整備

内科系診療科による内科定例会議を毎月開催し、病院運営ならびに診療科の課題解決に取り組み、診療科の垣根を越えた連携が構築された。新たに遺伝子カウンセリングを開始し、がん治療にとどまらず、遺伝子レベルの解析を取り入れた、質の高い医療の提供が開始できた。手術件数は、コロナ禍の影響により年間 1,376 件(目標:1,680 件)に低迷した。

2. 地域包括ケアシステムの構築と推進

(ア) 新たな病床機能の構築 67 床

7 月に回復期リハビリテーション病棟 38 床、8 月に緩和ケア病棟 20 床を新規開設。2021 年 3 月に地域包括ケア病棟 9 床を増床し地域完結型医療を行うための基盤が構築できた。

(イ) 外来機能の充実

泌尿器科、腎臓・高血圧内科、整形外科に常勤医を招聘できた。第 2・4 土曜日の整形外科外来の再開、内科当番制による内科診療体制の充実が図られた。訪問看護は、利用者数増加に伴い

スタッフ数を増員、訪問車両も増やし、利用者ニーズの拡大に応えるための体制を整備した。

(ウ) 地域連携部門の強化

月間平均紹介件数 696 件（目標：800 件）。年度前半は緊急事態宣言と重なり、営業活動ができない状況下であったが、その中で広報媒体の改善、紹介状に対する即日返信率の向上に取り組み月間目標 800 件超を 2 度達成した。緩和ケア病棟開設により、近隣医療機関からの紹介件数が増加し、病床稼働率の向上にも寄与した。入院時支援加算 1 の算定を 9 月より開始できた。

3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践

人件費率 単月目標 58%を目指し、収入の確保、費用削減に取り組んだ。感染症対策において感染防護具（マスク、手袋、ガウン）が一時品薄状態で在庫が枯渇したが、物品供給は滞ることなく、感染症対策に全力で取り組むことができた。安心して受診できる病院併設のドック・健診施設として新規利用者が増加し、2019 年度を上回る売り上げ実績を残した。看護部にて発災時におけるトリアージ訓練を実施した。B 棟を活用し、帰国者・接触者外来を開設することができた。今後は、新型コロナウイルスワクチン接種会場としても活用していく。

4. 多様な人材確保と育成

両立支援制度（育休・介護休等）利用 75 名、障がい者雇用 1 名、定年後再雇用 4 名。

5. 最適な環境づくりの推進

全ての入館者に体調確認を実施し、感染リスクに対する安心・安全な療養環境の整備が実践できた。また、外来エリアでは、スペースを最大限活用し、3 密防止対策を行った。B 棟旧外来受付スペースを活用して職員休憩スペースを拡充し、飲食時の感染リスク対策を行った。また、外壁塗装を実施し、壁面クラックならびにサッシからの雨漏り対策を行った。しかしながら、一部の病棟では雨漏りが継続しており、療養環境の整備が近々の課題である。

<地域における公益的な取り組み>

低所得者に対し広く事業を実施し、国が定める基準 10%に対して 11.0%の実績であった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
入院患者数	302 名	241 名	79.8%	89.6%
入院単価	54,200 円	57,813 円	106.7%	103.7%
外来患者数	556 名	499 名	89.7%	89.6%
外来単価	14,700 円	16,474 円	112.1%	111.8%
サービス活動収益	85.3 億円	79.3 億円	92.9%	96.8%
サービス活動費用	99.2 億円	92.8 億円	93.6%	98.7%
職員数	681 名	681 名	100.0%	104.4%

聖隷佐倉市民病院

2020年度は第4期工事後の増床、各機能の強化・拡張を計画し迎えた年度であったが、新型コロナウイルスの蔓延により取り組むべき課題に大きなうねりが生じた。コロナ対応では病院機能を維持しつつ、最大限の持てる力を注ぐことを念頭に職員が一丸となって取り組んだ。2020年度における主なコロナ対応は以下の通りである。

- 4月 コロナ対策会議立上げ
病院入館時の全員検温開始、面会制限等感染防止策強化
コロナ専用病棟設置・コロナ陽性患者受入れ開始
- 5月 ドライブスルー方式 PCR 検体採取委託事業開始
- 7月 「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」指定
- 8月 コロナウイルス抗原定量検査の院内化・入院前全員検査開始
- 11月 発熱外来開始
- 12月 濃厚接触者外来開始・高齢者施設等入所前検査委託事業開始
- 1月 「新型コロナウイルスワクチン基本型接種施設」指定
- 2月 コロナ専用病棟増床（15床稼動）
- 3月 コロナワクチン対応専従者（感染管理室事務局専従）配置
コロナワクチン接種開始

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 利用者ニーズを把握して、地域から選ばれる病院づくり

患者支援センターが本格運用となり通院から入院までスムーズな導線を構築した。8月より、患者が不安なくスムーズに受診できるよう病院コンシェルジュを配置した。また、近隣医療機関との連携強化に向け、医療機器の共同利用を推進した。コロナ対応においては、4月より緩和ケア病棟をコロナ専用病棟として機能を変更し、いち早く陽性患者の受入を開始した。また、PCR検体採取委託事業や濃厚接触者外来、高齢者施設等入所前検査委託事業などにも対応し、地域医療に貢献することができた。

2. 安心・安全で質の高いサービスの提供

手術麻酔管理システムの導入により、正確な患者情報の共有ができ患者にとって安全な手術運営が行えるようになった。2月より健診後外来を1診から2診へ増設し、再検査の待ち期間を短縮することができた。また、質の向上としてドクタークラーク業務の拡充や、全職員へ感染勉強会を実施した。

コロナ禍において安心して受診できるよう様々な感染対策を講じた。入館時の検温やマスク着用の徹底、飛まつ防止アクリル板の設置、入院前の抗原定量検査、二酸化炭素濃度の測定などはもちろん、館内放送やホームページ、デジタルサイネージなどで患者への感染予防対策の啓蒙を行った。

3. 多職種協働による病院機能の強化と PR

腎センターをはじめ、せばねセンター、関節センター、摂食嚥下センターなど各種センター機能の強化と地域への情報発信に力を入れて取り組んできた。また、患者支援センターと入院受付窓口を一本化するとともに、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・社会福祉士などの多職種が連携し、患者情報を病棟と共有することにより、患者への適切な案内ができる体制を整えた。コロナ対応においては全職種協力のもとで感染対策を講じることができた。

4. この病院で働きたい、働き続けたいと思える環境づくり

全国的に学会や会議がWEB配信での開催が主になってくるなか、ストレス無く参加できるようWEBカメラやWEB会議のライセンスを購入し整備を行った。また、職員が業務で取り組んできた成果を発表する機会を失わないよう感染防止対策を徹底し院内学会を開催した。職員向けに研究活動での統計手法のスキルアップのために慶應義塾大学病院・臨床研究推進センター・生物統計

部門長の佐藤泰憲准教授による統計セミナーを定期的で開催した。職員の健康と安全の確保のため、入院前抗原定量検査の実施や、職員を対象としたワクチン接種などを行った。また、職員食堂や休憩室の利用制限に伴い、ホールや会議室を開放しスペースの確保を行った。

5. 成長可能な経営基盤への改革

効率的な病棟運営のため病棟再編成を含め 365 床まで増床を行った。コロナの影響を受け、業績が低迷したため、経営改善アクションプランを策定し、経営改善に努めた。増収対策としては、救急車の応需率向上策や、地域包括ケア病棟の安定稼働施策などを講じた。費用抑制対策としては、人員体制や採用計画の見直しによる人件費率の適正化や、設備投資抑制や保守委託費の見直しを行った。職員の経営参画を促すために、月次経営解説書や手術件数動向、資材在庫状況などをデスクネットςで継続配信した。また、経営の安定化を目指し中期事業計画を策定し、3年後の黒字化を目標として取り組む方針とした。

6. 地域における公益的な取組み

(ア) 無料又は低額診療事業（減免実施率 20.9%）

(イ) 行政より新型コロナウイルス感染症重点医療機関およびワクチン基本型接種施設の指定を受け、地域住民のための陽性者受入体制整備と感染防御に取り組んだ。

【数値指標】

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	314 名	258 名	82.2%	89.3%	健診受診数	186 名	206 名	110.8%	102.0%
入院単価	54,040 円	54,838 円	101.5%	103.0%	健診単価	18,080 円	15,967 円	88.3%	99.3%
外来患者数	878 名	790 名	90.0%	93.3%	サービス活動 収益	11,114 百万円	10,285 百万円	92.5%	100.2%
外来単価	14,340 円	14,521 円	101.2%	102.2%	サービス活動 費用	11,258 百万円	10,646 百万円	94.6%	99.0%
病床利用率	92.9%	72.0%	82.2%	89.3%	職員数	811.8 名	820.4 名	101.5%	104.8%

せいのり訪問看護ステーション佐倉

介護保険	予 算	実 績	対予算	対前年	医療保険	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	340 件	320 件	94.1%	100.0%	利用回数	140 件	90 件	64.3%	105.9%
単 価	8,200 円	8,125 円	99.0%	103.0%	単 価	10,500 円	10,736 円	102.2%	102.6%

せいのりケアプランセンター佐倉

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	372 件	343 件	92.2%	252.2%	単価	11,430 円	10,708 円	93.7%	96.9%

浜松市リハビリテーション病院

2020年度は浜松市から指定管理を受託してから13年が経過し、5年契約の2年目を終えた。新型コロナウイルス感染症への対応として、入院、外来、通所リハビリテーションにて使用する訓練室を区分けし、リハビリテーションスタッフの担当を固定するなど、様々な制約を伴う対策を行った。その中で「最新リハビリテーションの追求」をテーマにリハビリテーション先進機器を導入し、本格的に運用を開始した。特にトヨタ自動車が開発した歩行リハビリテーション訓練支援ロボット「ウェルウォーク」については月間280例以上の利用実績に至り、高いリハビリテーション効果と自宅復帰率を示す成果が得られた。またボトックス治療や電気、磁気刺激装置を活用した促通療法など、「浜松市リハビリテーション病院でしか受けられない治療」を市民に提供出来る体制を構築した。利用者へのサービス向上として、入院患者がWi-Fiを利用できる環境の整備に加え、コロナ禍におけるオンラインでの面会、面談ができるサービスを開始した。

2020年度は日本医療機能評価機構が実施する「病院機能評価」の更新年にあたり、1年をかけ現状確認と運用整備を進め、当院の「臨床倫理指針」および「質改善に関する指針」を策定した。また、当院の「高次脳機能センター」が中心となって進めた「当院における自動車運転再開支援の取り組み」が、2018年度の「えんげと声のセンター」2019年度の「スポーツ医学センター」に引き続き、浜松市医療奨励賞を3年連続で受賞し、当院の特色が評価された。さらに毎年実施されている浜松市事業評価委員会（第三者評価）では、評定86.2点（2位/166施設）と当院の運営状況を高く評価いただいた。

1. 安全で質の高い医療の提供

リハビリテーション先進機器を導入した効果として、リハビリテーションによる改善を示す実績指数が50.5（対2019年比+5.6）と大幅に上昇した。また、入院後早期の自宅訪問件数も25件（対2019年比+15件）と増加し、入院後早期より自宅退院を想定した関わりを強化できた。臨床場面で生じるジレンマについて検討する「臨床倫理カンファレンス」は月2回開催され、職員の倫理観を高める機会が定着した。

医療安全管理については、食事の誤配膳や調剤ミスなど患者誤認防止の徹底に課題を残した。感染制御では、現場職員が手指消毒剤を携行した状況をモニタリングし、使用量記録や感染巡視などにより消毒剤の適切使用を評価し、接触に伴う感染防御体制の強化を図った。

2. 地域に求められるサービスの充実

新型コロナウイルス感染症の影響で、当院が提供出来る専門分野（えんげ、スポーツ、高次脳機能）の研修会等の直接開催が出来ず、オンラインを活用し地域に向け積極的な発信を行った。脊髄損傷治療においてはニーズが高く、年間35例（目標15例）と多くの患者を受け入れ、この地域において他には無い「脊髄損傷のリハビリテーション医療」を提供した。

介護保険事業については、自動車運転評価や失語症への関わりに高いニーズがあり、利用者の増加につながった。2019年度利用実績と比較し、訪問リハビリテーションについては198%、通所リハビリテーションでは254%の利用実績を示した。

3. 人材の育成と労働環境の整備

専攻医・専門医および看護補助者の採用に向け、WEB 説明会や Facebook での病院紹介など、オンラインを活用した方法を積極的に展開し、看護補助者については 8 名の採用につながった。

2019 年度の課題であった障害者雇用率は、障害者ボランティアからの就労支援が奏功し、2020 年度の障害者雇用率は 2.82% に上昇した。定年後の再雇用について看護師 5 名（100%）がエルダー職として当院での就労を継続した。有休取得率は年初より職場長を通じ取得状況を見える化したことで、全体で 43.8% と目標（40% 以上）を達成したが、超過勤務時間は 13.6 時間/月（2019 年度：13.2 時間/月）と削減に至らなかった。

4. 安定した経営基盤の確立

病床利用コントロールを病棟看護課長主体の運用に変更したことで、病床利用率 94.7%（213 人/日）と安定した病床管理が可能となった。カンファレンスや報告書のテンプレート化など運用を整理し、回復期リハビリテーション病棟のリハビリテーション提供率は 7.31 単位/人と 2019 年度比 105% と向上した。新型コロナウイルス感染症の影響で、外来患者数は減少したものの、ボトックス治療や介護保険サービスへのニーズが高く、サービス活動収益は 2019 年度比 104% を達成した。

5. 地域における公益的な取組み

2011 年より実施している「市民いきいきトレーナー養成事業」は継続開催し、2020 年度は事業参加が難しい中山間地域（天竜区）において、オンラインを活用した遠隔講習会を開催し 19 名のトレーナーを養成した。浜松市健康増進課、介護保険課と連携し、市民からの体操指導や介護予防のニーズに対応出来るよう、トレーナーの活動支援を行った。

西部地区 17 施設の集まりである「静岡県西部リハビリテーション病院会」も 2020 年度はオンラインでの開催となったが、回復期病棟における感染症対策やクラスターへの対応について情報共有を図り、自施設の対応についても振り返る機会を得た。

【数値指標】

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	214 名	213 名	100%	100%	外来患者数	178 名	165 名	94%	93%
入院単価	39,081 円	39,124 円	100%	104%	外来単価	7,315 円	8,159 円	112%	107%
職員数	400 名	403 名	101%	105%	病床利用率	95.1%	94.7%	100%	100%
サービス活動 収益	3,514,422 千円	3,550,846 千円	101%	104%	サービス活動 費用	3,497,559 千円	3,539,739 千円	101%	106%

<病床別患者一人あたりリハビリ実施単位数>

	単 位 数
回復期病床	7.3 単位
一般病床	4.9 単位

<病床別入院単価>

	単 価
回復期病床	41,725 円
一般病床	35,039 円

聖隷袋井市民病院

開院後 8 年目となる 2020 年度、新型コロナウイルス感染拡大により医療需要が大きく変動した。住民の受診控えや外出自粛による骨折や外傷などの減少により、紹介患者の減少や疾患割合の変動などを実感した。着実に役割を果たす、そんな 1 年であった。

運用面においては、感染対策として職員の健康管理や患者家族の面会制限、会議の時間短縮やイベントの中止など、従前とは異なる対応が必要であった。当院の役割である『地域包括ケアの推進』では、市民が安心して住み慣れた場所で療養を継続していけるよう在宅支援室の活動を中心として検討を開始した。経営面では、紹介患者の獲得のため、地域診療所や急性期病院に対してより具体的にアピールし、専門外来や回復期病棟の入院患者の増加を図った。

切れ目のない医療と介護の連携体制を充実させることを継続しつつ、市民や関係者のコロナワクチン接種の一翼を担うべく活動する中で、袋井市との連携はこれまで以上に強固になったと実感できる。2021 年度もコロナ禍での活動となるが、市民に必要とされ続けるため機能の充実を図っていききたい。

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに対応した質の高い医療サービスの提供

入院および外来、医療機器の有効活用のため、地域の診療所や急性期病院に対し、当院の特長を明示かつ先方が活用しやすい資料を作成しアピールした。下半期には地域連携室と病棟課長が垣根を超えたベッドコントロールを行ったことにより、過去最高の病床稼働単月 91%・平均 84%（2019 年度 83%）となった。放射線科やリハビリテーション科、心臓血管外来も新規患者を獲得し、コロナ禍であっても安定した運用ができた。

医療安全管理では、患者の離院や不審者対応なども充実させ実際の事例に対応した。感染管理では、職員の健康管理や患者家族の面会制限、会議の時間短縮やイベントの中止などに加え、行動や考え方に関する職員啓発を継続した。

医療の質向上については、栄養サポートチームの活動を開始、訪問リハビリテーションについては利用者数を拡大かつポータブルの運動器具を導入し利用者の持久力向上に努めた。

2. 働きやすい職場環境と人材確保・育成

看護師および看護補助者採用のため学校訪問を行った。特に看護補助者については、訪問先を拡大かつ複数回訪問、ホームページの内容充実、地域の回覧版を活用して採用活動を行い、新卒 2 名、中途 4 名の採用に至った。

事業団開催の看護師特定行為研修の協力施設となったため、今後受け入れ環境を充実させる。

働きやすい職場環境づくりにおいては、長時間労働（45 時間超）は 3 名であったが、会議室にプロジェクターを設置して会議等の準備に関する効率化を図った。今後は身体的負担軽減のための設備整備も検討していく。

3. 地域包括ケアシステムの推進と連携体制の強化

入退院支援センター設置については、患者受け入れの円滑化や退院後の生活を見据えた支援体制の充実が目的であり、2019年度設置した在宅支援室の役割と重複していたため、中止した。

在宅支援室では、『①地域住民が（袋井市＋当院から5km圏内）②自宅で③最期まで（看取りまで）④自分らしく生活し続けるための（QOL向上、健康寿命延長）支援すること、またそのための⑤人材育成および院外連携先との“チーム感”を醸成すること』を目的とし、『訪問診療』『看護訪問』『訪問リハ』『連携・支援』『人材育成』の5つのグループで活動を開始した。地域で活動するには様々なハードルがあるが、ひとつひとつ進めていく予定である。

コロナ禍において、住民がん検診の時期や場所が課題となった。元来医療機器の有効活用を目的として検診の受け入れを計画していたが、2021年度はバリアフリーで密を避けられる当院の活用を可能とした。

4. 安定した経営基盤の確立

入院患者数は予算を下回ったが、過去最高の病床稼働単月91%・平均84%（2019年度83%）となった。『選ばれる回復期となるためにプロジェクト』活動の効果と考える。

介護保険事業である訪問リハビリテーションは担当を1名増員かつ週一回言語聴覚士も参画、月平均469回（2019年平均209回）と拡大した。

5. 地域における公益的な取り組み

袋井市の政策的活動でもある認知症初期集中支援チーム活動、袋井市総合事業へのリハビリ専門職の派遣を継続している。講演会の開催はかなわなかった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
一般病棟入院患者数	44名	43名	97.2%	93.5%
一般病棟入院単価	23,900円	25,231円	105.6%	105.5%
療養病棟入院患者数	44名	45名	101.5%	105.8%
療養病棟入院単価	23,000円	23,562円	102.4%	100.7%
回復期病棟入院患者数	44名	39名	87.6%	104.9%
回復期病棟入院単価	34,700円	35,229円	101.5%	102.9%
外来患者数	64名	56名	87.0%	91.3%
外来単価	6,700円	6,679円	99.7%	99.8%
訪問リハビリテーション 延患者数	3,652名	5,627名	154.1%	237.3%
訪問リハビリテーション 収益	13,626千円	19,451千円	142.7%	219.1%
サービス活動収益	1,610百万円	1,552百万円	96.4%	104.2%
サービス活動費用	1,608百万円	1,528百万円	95.0%	104.7%
職員数	197名	182名	92.1%	105.8%

保健事業部

保健事業部は、厚生労働省健康局の方針である「人生 100 年時代を見据え、健康寿命の延伸を図り、国民一人ひとりができるだけ長く、元気に暮らすことができるよう、健康づくり、疾病の予防や重症化予防、健康危機管理」に従い、2020 年度はフレイル対策、PHR（パーソナルヘルスレコード）への対応、がん検診受診率向上、がんゲノム医療提供体制の強化、がん検診精度管理等への取り組みを計画していた。しかし、世界中の脅威となった未知の Covid-19 ウイルスにより、利用者が安心して受診できる環境づくりのための感染対策を最優先せざるを得なくなり、職員が感染源とならないために、事業部独自の行動規範の作成・周知と体調管理の徹底を図った。その結果、職員からひとりも感染者が出なかったことは事業継続への大きな推進力となった。

新型コロナウイルス対策には万全な体制を敷いたものの、4～6 月における利用者減や市町村のがん検診中止などにより、経営的には大きなダメージを負った。健診施設内では 3 密防止対策、巡回健診では消毒の徹底などの感染予防対策を行いながらも、経営建て直しに取り組んだ。この苦境の中、各職場から増収及び費用削減対策がそれぞれ提案され、事業部合計では約 150,000 千円もの経営改善効果を出せたことは、職員一丸となって取り組んだ結果である。

また、「がん検診精度管理」については、10 月に「精度管理センター」を発足、がん検診のみならず、事業部全体の「健診の質を管理するセンター」としてのスタートとなった。利用者が信頼・安心して受診できるよう、健康診断の「入口（契約、品質評価）から出口（精密受診、結果、請求、統計）までの質的管理はもちろんのこと、受診後の精密検査受診勧奨までを施設横断的に捉え、「聖隷基準」の確立を目指す。

さらに、「がんゲノム関連事業」については、乳がん・卵巣がんの未発症者を対象にチャットボット（問診）によるスクリーニングを行い、遺伝性がんのリスクが疑われる利用者に対して、専門カウンセリング、遺伝子学的検査を提供していく、日本初の未病検診「SEIREI-CARE プログラム」を 2021 年 4 月よりスタートできた。

「がん検診受診率向上」については、浜松市健康福祉部と共同で「がん検診受診啓発キャンペーン」を行うなど、事業部として取り組むべき事業は実行できたと考える。

経営的には、第一四半期の大きなマイナスを挽回できず、予算達成はできなかったが、コロナ禍という未曾有の危機に対して、事業部全体が目標達成に取り組んだことは、2021 年度以降に繋がる確信となった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算 (%)	対 2019 年度 (%)
人間ドック	65,780 名	61,769 名	93.9%	96.4%
健康診断	660,833 名	630,502 名	95.4%	95.5%
外来精密	38,759 名	39,622 名	102.2%	99.2%
サービス活動収益	8,623,400 千円	8,117,170 千円	94.1%	96.2%
サービス活動費用	8,177,230 千円	8,009,928 千円	98.0%	100.3%

聖隷健康診断センター

2020 年度上期は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い感染予防対策に重点をおいた運営となった。4～6 月の経営成績は、通常の 6 割程度と前例のない不調となった。しかしながら、利用者の密を避ける対策として、新たなサービスを検討し提供することができた。人間ドックについては、計測・血液検査までの簡易的な結果説明を含み“午前で終わる人間ドック”の短時間コースを新設した。食事の提供開始時間を 1 時間半早め、食堂の混雑緩和と滞在時間の短縮を達成できた。情報機器を活用し遠隔から利用者呼び出せる運用を構築し、2、3 階の待合に加え 4 階を新たな待合フロアとして拡張することができた。しかし、利用者数に対し施設は飽和状態であり、コンシェルジュを各階に配置し検査順路の組替えや工夫をしているものの、一部検査では利用者が集中し密状態が生じてしまっている。受診枠の均等配分や滞在時間の減少について随時見直しを行い、改善していく。

また、浜松市との連携も強化できた 1 年であった。「浜松ウェルネスプロジェクト」に参画し、MCI（軽度認知障害）の臨床実験や、浜松市主体の「がん検診受診推進キャンペーン」に参加した。今後も継続して連携強化に努める。

2021 年度も、「サービスの質の向上」・「経営基盤の安定」・「人財（人材）育成」に拘り活動したい。職員が心身の健康を保ち、自身に余裕や自信をもって働くことを支援し、生産性や効率性を高められる環境づくりの整備を図る。また、協働や適切な評価による「やりがい」を感じられる職場風土づくりを支援していく。

1. 質の高いサービスの提供

コロナ禍の中の「密対策」に重点を置き、利用者が安心して受診できる環境を創ってきた。従来、朝の時間帯に利用者が集中していたが、全課協力のうへ受診枠と呼び出し時間を調整し、10 時及び 10 時 30 分の時間帯に利用者を分散した。併せて性別により受付場所を分けたことで、サービスの向上と受付前の利用者をさらに分散させた。また、滞在時間や待ち時間の軽減を図る目的で、“午前で終わる人間ドック”は、3 月末までに 507 名の利用があった。今後も改善を継続し、検体分析及び結果判定の時間帯を早め、全項目結果説明ができる“リアルタイムドック”の実現を継続検討していく。

受診後のフォローについても強化し、精密検査総数は 18,158 名と予算を達成できた。精密検査呼出方法や受診確認の運用変更、精密検査枠の増加を行い、特に心疾患や脳疾患が懸念される労災二次健診については 8 月以降増加枠により 108 名を受入れた。

2. 人材（人材）の確保と育成

医師の確保は今後も継続的に対応を続ける。2019 年退職した循環器医師 2 名の補充はできなかった。労災二次健診等の重症化の恐れがある利用者も増加する中で、精密検査枠の確保のためにも優先度を高め、採用活動に尽力する。

人材の育成では、新人及び中堅職員によるミーティングを開始し、「聖隷健康診断センターをより良くする」という観点で問題解決に挑んでもらった。所属を超えた横断的な活動が展開でき、

業務改善に繋がっている。また、自信を持って働くことのできる仕組みづくりとして、“スマイルコネクト制度”、「笑顔が笑顔を繋ぐ」という考えを基に職員を認めあう制度を導入し、毎月、好事例を紹介し、全体会にて優秀者を表彰した。

労働衛生コンサルタントの育成活動としては、職員向け「第一種衛生管理者」の育成を行い、参加者 24 名中、現時点で 2 名の合格者を輩出した。

3. 経営基盤強化のための取り組み

緊急事態宣言下、内視鏡検査を中止する旨の指示が医師会より発出された。宣言解除後の中止期間の利用者を受入れと、年々増加する胃カメラ検査の要望に応えることを目的に受診枠を増設し対応した結果、7,601 名（対 2019 年度比 107.2%）が利用した。今後も効率化に努め、受診枠拡大を検討する。

稼働率の低い午後に有効活用する「午後ドック」も 3 年目を迎え、近隣の健康保険組合と連携し、年間 110 件の利用となった。カメラ付きの短時間コースということで好評を得ているため、さらなる拡大を目指す。

コロナ禍の中、ICT を活用した遠隔保健指導は利用者ニーズと合致した。保健師や管理栄養士の派遣が困難な状況でも、事業所や利用者に合わせて健康づくりを提案できた。集団形式や往訪形式は減少したが 5,080 人の実績であった。生活習慣改善及び重症化予防等に対する講話についても、遠隔方式や動画提供による実施件数が伸びた。

4. 地域における公益的な活動

8 月に開催予定だった、こども向け医療体験イベント“メディカルフェスティバル”はコロナ禍のため、中止した。参加予定者からは「残念」との意見が多数寄せられたため、2021 年度は工夫のうえ開催する。

婦人科健診啓発としては、2021 年度より“ジャパン・マンモグラフィー・サンデー”に参加した。その他のイベントも年 2 回開催し、計 95 名の参加があった。健康診断未受診の方の参加もあり、今後も継続すべき有意義なイベントであると認識している。

高齢者のフレイル予防として、65 歳以上の人間ドック利用者に握力の測定を開始した。握力の基準値以下の方へは運動指導（116 名）及び BMI20 以下の方へ栄養指導（500 名）を実施した。また、事後フォローとして、フレイル予防教室“フレフレ教室”を週 1 回開催している。まだ利用者は 6 名と少数ではあるが、「高齢の方が生き生きと活動できる、通いの場」を今後も提供していきたい。

【数値指標】

ドック	P E T 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
25,735 名	206 名	49,095 名	5,080 名	22,093 名
特殊健診	外 来	合 計	サービス活動収益	職員数
2,701 名	18,158 名	122,862 名	2,377,607 千円	215 名

聖隷予防検診センター

2020年度は、世界中が新型コロナウイルスとの戦いの年となった。聖隷予防検診センターにおいても、上半期を中心に利用者の方々に多くの制限を強い、また職員に対しても感染予防に向けたあらゆる手段を講じる中で、3密対策の実施など多くの負荷をかけることとなった。そのような厳しい状況においても常に笑顔で現場に立ち続け、利用者に向けて最善を尽くすため奮闘した全ての職員に対し、この場を借りて心からの感謝を伝えたい。

下半期は、感染予防対策を行いながら利用者の受入れを積極的に推進、利用者数は前年とほぼ同水準まで回復することが出来た。地域資源との連携も積極的に推進、聖隷クリストファー大学の学生との共同プロジェクト「SGE♥プロジェクト(※)」では浜松市とのコラボによるAYA世代に向けたがん検診の啓発活動を行い、多くの市民に対してがん検診の重要性を伝えることが出来た。また、浜松市の課題であるフレイル対策として、高齢者の人間ドック時に握力検査を行い、適切な情報提供を行うとともに、浜松市や地域企業との協働による「フレイル予防弁当」の開発など、積極的な健康啓発活動を推進した。あわせて「オンラインによる保健指導」や「重症化予防事業」の構築など、新たな生活様式にあわせた事業モデルの開発も進んでいる。

上記の施策を中心に事業を推進、経営数値としては、受診者数82,547人(対予算95.7%、対前年94.7%)、医療事業収益1,461,190千円(対予算94.4%、対前年95.6%)となった。

2021年度は、Withコロナ/Afterコロナの新しい生活様式、変化する社会ニーズへの対応など、新たな事業モデルの構築に挑戦しながら、経営基盤の安定と利用者からの信頼獲得に努め、職員に向けても「ワクワクしながら生き活きと活躍できる環境」を提供、引き続き「職員も利用者も『また来たくなる』予検センター」を目指す。

※SGE♥プロジェクト S…聖隷 G…gynecology(婦人科) E…enlightenment(啓発)に
対して♥(愛)を持って活動する

1. 全ての職員が生き活きと働くことができる職場づくりの実践(健「幸」経営)

「健康がスタッフを支え、スタッフがセンターを支える」の考えのもと、センターをあげて健康経営の推進を行った。ストレスチェックのサマリレポートに基づき、全部署に対し管理会議にてストレスチェック結果の振り返りと職場環境改善事例について報告会を行った。健康イベントについても衛生委員会等が中心となり計画的に開催され、2020年度は前年同様「個人の尊重」「上司による人材育成」「キャリア形成教育・施策」の項目が強みとして評された。

2. 良質な予防医療を永続的に提供するための安定した経営基盤の確立

午前的一般健診枠を午後大きくシフトし、人間ドック枠拡大を目指す「ピークシフト3ヵ年計画」の最終年として受入態勢を整えたが、コロナ禍により上半期を中心に高齢者や海外赴任者の人間ドック・がん検診等が減少、1日人間ドックは対前年で603人減(同97.0%)となった。そのような中でも、特殊健診・特定保健指導・精密検査においては各担当チームが奮起し予算を達成、また所長を含め全職場長が参加した「アフターコロナ戦略会議」にて策定した取組み等に

より業務に対する意識改革も進み、超勤時間が対前年で 90.1%（4～2 月累計）となるなど、費用に対する意識がより向上した 1 年となった。

3. 利用者目線に立った質の高いサービスの提供

ワンランク上のおもてなしを目指し、感染予防対策を万全に行いながらも質の高いサービスの提供を行った。センターの売りであるスピードドック稼働率は 96%を超えており、3 密回避の一助となっている。また保健指導の時間短縮に伴い、適切な指導ができなくなることを危惧する現場の声を取り入れ、10 月から結果票の裏面に二次元コードを添付、結果に応じた健康情報動画の提供を開始した。また、婦人科については丁寧な問診とともに追加検査を提案、経膈エコー検査数が前年比 106.9%になるなど、利用者目線に立ったサービスの提供を行うことが出来た。

4. 地域における公益的な活動

若い世代に対する婦人科検診啓発を目的として、聖隷クリストファー大学と共同で 2019 年に立ち上げた「SGE♥プロジェクト」は、大学や行政、企業からも高い関心・評価を受けている。2020 年度も引き続き浜松市が主催する健康イベントの参画やドック食の共同開発とともに、浜松市の実証実験サポート事業「LINE 等の DX を活用した子宮頸がん検診受診率向上施策」のオブザーバーや、20 歳の女性に対し配布される「子宮がん検診無料クーポン券」のデザイン協力依頼も頂き、今後さらなる発展が予想されている。

また、高齢者のフレイルの認知向上を目的に、市や地域企業・団体と協働開発し 3 月に販売を開始した「フレイル予防弁当」は、販売初日 1 時間で全店完売するなど、好評を博している。このような行政や地域資源との連携による新たな取組みは、メディアや他企業からも注目されており、引き続き地域の課題解決に向けた新企画も進行中である。

【数値資料】

ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科検診	特殊健診
19,366 名	30,492 名	3,632 名	15,572 名	1,780 名
外 来	合 計	サービス活動収益(地域含)		職員数
11,705 名	82,547 名	3,903,664 千円		159 名

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

2020年度、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*(以下サポートセンター)は、2020年4月に設立より10年が経過し、聖隷静岡健診クリニック・巡回健診機能の充実化、静岡県中部圏内への健診事業の展開を進めてきた。年度初めより、コロナ感染拡大による健診事業停止や市町村における特定健診クーポン発行の遅れなどにより、4～6月は、健康診断利用者が2019年度対比40%減少したが、感染予防対策を講じつつ、運営体制の見直しや予約枠の拡大調整を実施することで2019年度対比95%まで回復することができた。現在もコロナ感染の影響が残っていることもあり、コロナ禍以前への回復へは、まだまだ時間を要する。しかし、インターネットを利用した新たな情報提供に着手できた。また、感染防止の徹底を図った結果として利用者エリア環境の改善を大きく進める機会となった。職員も職場環境改善への意識が高まり、利用者と施設のためにできることを深く考える機会となり、サポートセンター全体における「アメンバー経営思想」のもと、職員個々及びチームにおける提案活動が活性化され、今回の経営回復に大きく貢献した。

これからもサポートセンターは、情報をいち早く収集し対応できるよう準備を行い、「選ばれ続ける総合保健施設」として、静岡地区で最高の質の医療サービスを提供できるよう“職員一人ひとりが自ら気づき考え行動する自立した組織”を目指す。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 質の向上と情報発信力の強化

コロナ禍で第一四半期は、健診控え及び一部検査中止などの混乱があり、利用者数も例年に比べ40%少なくなり、3ヶ月間は通常稼働が困難であった。この反動で8月より、1日の利用者が集中し、「ゆったり感」が失われたという評価を受けた。予約時間枠を月ごとに調整・改善をし、待合椅子の配置変更や検査時間短縮を日々検証して改善に努めた。婦人科は、年間100枠増が可能となったが、内視鏡は、4月当初内視鏡検査全面中止・肺機能検査中止等コロナ感染状況や対応に苦慮した。情報サービスとしてLINE公式アカウントの開設により、チャットによる質問対応や健康情報の発信などが可能になった。

今期は、コロナにおける予防備品購入等によって計画した医療機器更新及び設備投資など大半は、2021年度へ繰越となり、CT装置・超音波診断装置のみ更新した。遠隔読影システムについては、呼吸器専門医師不在による胸部X線画像読影を外部機関へ依頼した初年度であったが、大きなトラブルは無く運用ができた。しかし、日帰りドックにおける即日結果説明ができない状況下であったため、2021年度は、通常運用に戻す予定である。講演取材対応については、コロナ禍のもと、どのイベントも中止となるが、一部WEB講演・電話取材などの対応を行った。

2. 経営基盤強化と新たなサービスの創造

巡回健診契約における期ずれと、検査項目省略などの通常契約と違う動きを実施することになった。また、巡回実施していた職域契約を施設内へ移行した企業も多く、2021年度における契約更新もコロナ禍の影響で見通しが立っていない健康保険組合も多い状況である。「平準化への取り組み」については、契約原価評価を実施して順次切り替えていく活動が始動した。遠隔面談については、同意事業所のみ実施。今後さらに対象事業者を増やしていく。

2020年度は特にリアルタイムドックの効率向上を追求でき、8～12月の繁忙期には、日平均70名の利用者を受入れることができた。閑散期における誘導は、キャンペーンなどの充実を図った。聖隷静岡健診クリニックにおいて、国民健康保険の特定健診に人間ドック並みの血液検査やがん検診を付加した「しずクリプチドック」や、健康保険組合加入の被扶養者（女性）向けの「バリューパック」といった新メニューの提供を始め好評を得た。

3. 人材育成・確保

職場長候補育成に向けた係長教育強化のため、提案型業務改善増収・削減計画「ライズアップ計画」を実施し、35提案により約4,180万円の経営改善が実現した。また委員会活動・業務改善などでのリーダーシップを発揮する場を多く設け、意識を高めた。保健事業部としては、各センター選出の係長を対象に、集合研修となる「係長塾」を実施し、継続中である。

4. 健康経営の実現

職員一人ひとりが働きやすく、魅力を感じる施設づくりを目指すために、「ライズアップ計画」により職員意識を統一化し、楽しみながら費用削減増収提案を実施した。この効果として、時間外取得時間軽減を実現することができ年間を通して36協定違反を出さない管理ができた。また離職率も低下し、職員満足度も向上した。

5. 連携の可視化

静岡済生会総合病院との連携を2020年より開始、呼吸器・消化器医師における読影と内視鏡検査をお願いすることが可能となった。

6. 地域における公益的な取組

過疎地域における健康診断の実施継続として、藁科地区の聖隷静岡健診クリニックへの送迎健診を2月に実施（2日間9名）、羽高団地の巡回健診は、コロナ感染拡大抑止のため中止となった。

【数値指標】 聖隷健康サポートセンター *Shizuoka*

1日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
16,668名	93,605名	3,010名	15,861名	7,819名
外来	合計		サービス活動収益	職員数
9,759名	146,722名		1,817,993千円	171名

医療事業収益内訳	聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	1,169,805千円
	巡回健診事業	306,001千円
	聖隷静岡健診クリニック	289,810千円

地域・企業健診センター

2020年度は、「経営基盤の安定」・「働き方改革を意識した職場づくりの推進」・「利用者サービスの質や生産性・効率化」の3点を重点目標に事業を行った。

「経営基盤の安定」としては、富士宮市住民健診初め多くの団体と新規に契約を結ぶことができた。医局や渉外担当はじめ各課協力のもと、大きなトラブルも無く順調に運用ができた。

「働き方改革を意識した職場づくりの推進」については、巡回健診に携わる職員の超過勤務過多の解消と繁忙期と閑散期を無くす「平準化」に取り組んだ。超過勤務過多については組織改変や業務改善を行い、2019年度と比べ超過勤務45時間を越える事例は激減した。繁忙期と閑散期の差を無くす「平準化」を推進する元年となった2020年度は、検診車の空き状況をもとに新規団体を追加していた手法を、人・機材・検診車にて管理し日程の偏りを無くす運用に変更した。

「利用者サービスの質や生産性・効率化」については、職場長会にて事故事例を共有し、必要があればすぐに運用を改善し、安全・安心の確保に努めた。生産性・効率性についてはコロナ対策を継続しながら、日程の圧縮や検査項目追加、午後健診の推進を積極的に行った。

経営指標は、受診人数 379,762 人(対予算比 94.8%、対 2019 年度 94.8%)、医業事業収益 2,341,340 千円(対予算比 94.5%、対 2019 年度 96.1%)と予算・前年ともに大きくマイナスとなった。要因としては新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発令の影響を受け、4～6月の巡回健診は市町の住民健診を中心に健康診断を取りやめる団体や期をずらす団体が多く発生し、6月の段階で対予算マイナス 261,359 千円(対予算比 66.1%)であった。7月以降には期をずらした団体の受け入れを行いながら、同時に感染予防対策を行い、さらには夏場でマスク着用に伴う熱中症対策も行った結果、職員からの感染症発症やクラスターが発生する事はなかった。新規検診車の作成や、検診車駐車場拡大計画等の大型投資を見送り、感染症予防に関わる投資は積極的に行いながらの経営であった。

地域・企業健診センターは、組織拡大により、正職員以外にもパート・アルバイト職員、派遣職員が増える中、接遇の強化等によるCS向上に取り組んでいく。また、2022年4月に基幹システム変更に向けた準備期間として運用の簡素化・標準化に取り組んでいく。

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供

新型コロナウイルス PCR 検査の要望が多数寄せられた為、9月から実施体制を構築した。実績としては12名のみとなったが、当時は行政指示によるPCR検査以外に民間で早急に対応できる機関が少なかったため、大変感謝された。

今まで看護課が行っていた採血業務を施設内健診同様に検査課が行う運用を一部取り入れた。そうする事で、看護課が行う特定保健指導の方向数を増やす事ができ、特定保健指導の実施数を増やしたいという健康保健組合からの要望に応える準備ができた。

2. 経営基盤安定のための取り組み

2020年度は、富士宮市住民健診・(株)ユーコープ・(株)スズキ部品製造等の大口団体に加え、他12団体の新規受注があった。また、インフルエンザ予防接種については1,984名新規に接種できた。

県東部の近隣市町村での聖隷の評判を聞いての受注に結びついた案件や、他団体については長年の営業努力にて受注できた案件もあった。職員の日頃の活躍により新たな受注に繋がり、改めてスタッフに感謝する年であった。

3. 人材の育成と確保

地域・企業健診センター課長会が主催で行う「人材育成研修」を役職者中心に年3回実施をした。また、聖隷健康サポートセンターshizuoka や聖隷富士病院との人員の傾斜配置を積極的に行い、お互いの業務を理解し合うと共に、レベルアップを推進した。

4. 健康経営の実践と発信

2019年度に引き続き、2020年度についてもストレスチェックの結果を基に職場環境改善の実施を推進した。全部署に対し、管理会議にてストレスチェック結果の振り返りと職場環境改善案の発表および改善結果について報告会を行った。

5. 地域における公益的な取り組み

4月には「ヤマハレディースオープン葛城」に参加する女子プロゴルフ選手に無料で子宮がん検診を行う啓発活動を計画したが、新型コロナウイルスの影響で大会自体が中止となった。10月には「いかまい検診浜松」に乳がん検診として参加。11月には浜松市健康増進課・聖隷学園・杏林堂薬局とのコラボによる若い世代に対する婦人科検診啓発活動「SGE♥プロジェクト」を杏林堂薬局3店舗で行った。

【数値指標】

一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診	合計	職員数
313,707名	109名	28,641名	37,305名	379,762名	186名

在宅・福祉サービス事業部

事業部では次の時代（society5.0）に向けて、現場の革新（フィールドイノベーション）に取り組むことを2020年度の重点目標とした。奇しくも新型コロナウイルス感染対策によって業務は大きく変わる事を余儀なくされ、対人援助を基本とする福祉現場は加速度的に現場改革が進む年度となった。エリア毎の意思決定を重んじた組織管理は各自治体によって変わる感染管理に対して柔軟な対応が出来た。また、現場改革のための実験的取り組みについて幅広く行うことが出来、結果として感染症対策の補助金によって支援を頂くこととなった。

福祉施設においては人と対面しないように、面会制限が行政指導により強く求められた。利用者と家族の会えない苦しさから、リモート面会が始められ、複数の家族が携帯端末を利用して同時に面談する予約面談システムへと変化した。文書郵送による情報伝達だけでなくLINEによる情報交換も可能となった。また、人材不足に苦しむ介護現場で始められた人手だけに頼らない効率化への取り組みは、記録支援システム導入によって今まで手書き入力だった体調測定が自動入力となり、手書きの介護記録も携帯端末による入力へと移行し、ナースコール連動型インカムの変更により、職員同士の情報連携は格段に改善されることとなった。また、対面で行ってきた相談援助も、緊急事態宣言下では都市部において交通機関による移動や訪問が著しく規制され、在宅でのリモートワーク対応が即座に行われた。これは2017年度に在宅事業で行われた介護記録システム変更に伴う大量の端末機器（タブレット）導入がこれを支えた。訪問看護では記録を持ち歩かないシステムになった事で情報管理の安全が保たれ、医療機関と連携したACPへの参画を積極的に行った。

危機的な状況に対する取り組みにおいても、各エリア一体となった危機管理を行った。エリア長、事業別統括所長を軸にしながら各施設各事業における情報の共有と伝達、不足物品の調達、職員の応援体制の構築、医療機関との連携と交渉、補助金活用等々、共にこの困難に対応してきたが苦しい状況は今も続く。マスク不足がピークに達した際、障害者就労支援施設において布マスクを作成し民生委員を通して困っている高齢者への配布を行った。施設では、学校の臨時休校に伴い子供を持つ職員に対して施設内に児童の居場所づくりを行った。利用者、ご家族、職員の心と身体を支えていくためにすべきことは多く、地域ごとに自ら考えて続けていく必要がある。

生活困窮者支援事業においては4、5月の2ヶ月間で年間相談者数を超える相談が殺到した。生活困窮に関わる問題として失業、住宅、家族、心身の問題が金銭に絡んで個人の生活を追い込んでいる。未だ解決をみることはなく、一時貸与金支給を行政、社協と連携しながら凌ぎ、安易な生活保護制度利用とならぬよう利用者支援を継続している。

2020年度は歴史に刻まれる激動の年度であることは間違いなく、今もこれは続いている。事業報告にあたり各施設各事業が法人の支援、聖隷各病院の支援を受けて事業が続けられていることに改めて感謝したい。物資の調達支援、感染対策、感染検査、職員応援等、聖隷だから出来たことがある。今後も、他法人とも連携協力しながらこの難局に臨むこととしたい。

【中期事業計画における事業部理念】

地域への感謝と貢献

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2020年事業目標】

現場改革

私たちは2025年に向けて変えねばならない何かを見つけていく

【2020年重点目標】

1. 仕事の仕組みを変える
2. 組織体制を整える
3. 現場支援体制を整える
4. 職員自身が変わる
5. 地域（エリア）毎に主体性を持った事業を実践する

【2020年度主な取り組み】

（介護保険・高齢者福祉事業）

- ① 淡路市津名地区で聖隷ライフサポート津名を開設。
- ② 聖隷訪問看護ステーション三ヶ日を開設、同時に聖隷リハビリプラザいなさのサテライト型デイサービスの提供を開始。
- ③ 介護現場でのICT化としてタブレットによる介護記録支援システムの導入（4施設）。
- ④ AIケアプラン（宝塚4事業所）、訪問看護スケジュールソフト、訪問介護の訪問支援システム、送迎スケジュールシステム、ナースコールに代わる見守りシステムの導入に向けての検討準備をおこなった。
- ⑤ 重度化に合せた入浴設備（シャワー浴）の導入の実施。

（障害福祉事業）

- ① 静岡県立浜松学園の事業移譲及び増築計画を含む協議を推進し2022年聖隷への事業移譲、増築計画が決定し、障害福祉の新たな取り組みが為される事となった。
- ② 聖隷チャレンジ工房浜松学園で、福祉施設における車椅子・ベットマットのレンタル・消毒保管のサービスを開始した。
- ③ 聖隷チャレンジ工房磐田の野菜カット作業の停止が余儀なくされ、新事業への移行を計画した。
- ④ 浜松市中障がい者相談支援センターの受託運営を他法人と共同して開始した。

（保育事業）

- ① 聖隷こうのとり富丘（こども園・児童発達支援・訪問看護）を開設し運営を開始した。
- ② 聖隷めぐみ保育園、聖隷こども園めぐみの統合により、児童発達支援事業の開設に向けての準備を行った。
- ③ 保育磐田エリア、保育宝塚エリアにおいて保育ICTシステムの導入に向けての準備を行った。

（生活困窮支援事業他）

- ① 生活困窮家庭児童への学習教室の再編を行った。
- ② 宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センターの受託について協議を行った。

和合せいれいの里

2020年度、和合せいれいの里は、介護・福祉現場業務の省力化・自動化に向けての取り組みを促進した。従前システムの効果的活用の他に、従来型特別養護老人ホームに「とろみ自動調理サーバー」を導入し給茶に関わる業務時間を削減した。また、ナースコールの不具合という不測の事態に後押しされる形で「見守り支援システム」も試験的に導入し、人からモノへのシフトチェンジができた。一方、新型コロナウイルス感染症の影響は甚大で感染リスクに常に怯える日々だった。しかし、適時適切に情報を収集し、関連する事業所が知恵を出しあうことで対策が徹底でき、感染拡大を防止することができた。あわせて、これまで当たり前に行えていたことができなくなったが、「できないこと」を数えるのではなく、過酷な状況下でも「できること」は何かを求め続けることができ、新たな価値や可能性に気づくことができた。

そのような中、2020年4月、社会福祉法人聖隷福祉事業団、社会福祉法人小羊学園、NPO法人遠州精神保健福祉をすすめる市民の会（E-JAN）の3法人が共同運営し、新たな相談支援センターとして「浜松市中障がい者相談支援センター」が開設した。また、2021年度の児童発達支援事業所の新規開設を視野に、聖隷めぐみ保育園（事業所内保育所）を聖隷こども園めぐみに統合した。このように、和合せいれいの里は、高齢者、障がい者、こどもの隔てなく、必要なサービスを提供し続けるという役割をこれからも強化し続けていく。

1. 高齢者・障がい児（者）に対し切れ目なく質の高いサービスを提供する

(ア) 特別養護老人ホーム和合愛光園・和合愛光園和合サテライト

- ①ユニット・フロア間でのサポート体制が強化でき、業務の効率化を図った。
- ②シーティング技術を見直すことで、褥瘡等の皮膚トラブルの発生予防に努めた。
- ③ケアプランの重要性を再認識し、状態変化等に応じ、多職種連携のもと適宜更新に努めた。
- ④地域包括ケア病棟等とのネットワークを強化することで空床減少を図った。
- ⑤緊急ショートステイは2019年度に続き、積極的に受け入れることができた。

(イ) 和合愛光園デイサービスセンター・聖隷トライサポート和合

- ①定期的に専門職による勉強会の実施や他事業所との連携を重ねることで、職員の視野の拡大や知識・技術の取得等が図れ、スキルアップに繋がった。
- ②既存マニュアルやサービス提供方法等を積極的に見直すことで、業務効率化とサービスの質の向上が促進できた。

(ウ) 障害者支援施設みとす

①「みとす」（施設入所支援・生活介護第1単位）

- ・従来の相談員以外に在宅担当者を配置することで、効率的なベッドコントロールや業務の効率化を図った。
- ・リーダーが中心となり業務改善を進めることで、突発的なアクシデントに対し主体的に対応できる職員が増加した。

②「みとす」（生活介護第2単位）あすなろ

- ・相談支援事業所との情報交換を密に図ることで、臨時的な短期入所利用者の日中支援の利

用が拡大できた。

(エ) 障害者相談支援事業所くすのき

- ①多職種連携会議・オンライン研修・合同勉強会等へ参加をすることで、知識や対応力の拡大が図れた。
- ②計画的に特定事業所加算Ⅲの取得ができた。

(オ) 聖隷チャレンジ工房和合

新型コロナウイルス感染症の影響で求人の激減や既存作業量の減少等が見られたが、新たな利用者の確保や新たな作業等の創造に繋がり、著しい低下を抑制できた。

(カ) 聖隷放課後クラブはなえみ和合

- ①聖隷トライサポート和合と連携し、はなえみ体操クラブを試行できた。
- ②新型コロナウイルス感染症の影響で、休校や長期休暇対応に切り替わる情勢下でも、感染対応の徹底を図り、運営の安定化に努めた。

(キ) 生活支援ハウスやまぶき

特別養護老人ホームとの協力体制が構築でき、安定した運営に努めた。

(ク) 聖隷ヘルパーセンター

- ①介護保険法における身体介護比率を約70%に引き上げることができた（前年59%）。
- ②受診や冠婚葬祭への付き添い等、適時適切に有償サービスの提供が実施できた。

(ケ) 訪問看護ステーション住吉

- ①聖隷浜松病院・聖隷トライサポート和合等の他機関・事業所と積極的な連携を図ることで、スムーズな退院調整や新たな利用者の発掘に繋がった。
- ②浜松市西区エリアをターゲットにした効率的な移動や訪問方法の検討を進めた。

(コ) 聖隷ケアプランセンター和

- ①タブレットの効果的な使用等、業務整理を進めることで職員の負担軽減を図った。
- ②支援困難ケースの発掘や災害時の具体的な役割等について検討を重ね、ケアマネージャーとしての対応力強化を図った。

(サ) 地域包括支援センター和合

新型コロナウイルス感染症対策を進めながら、新たな地域ニーズを積極的に発掘し、圏域内の事業所等との連携を密にすることで地域課題解決力の強化を図った。

(シ) 浜松市中障がい者相談支援センター

3法人の職員が積極的な情報交換等を進めることで、強固なチームが編成できた。

2. 職場環境改善・業務改善を進めることでサービスの質も高める

(ア) 同一サービス間での人員や加算等の相互チェックを実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響があり実施は不十分。2021年度の継続課題とする。

(イ) 「とろみ自動調理サーバー」を導入し給茶に関わる業務時間を12.3%削減した。あわせて、「見守り支援システム」も試験的に導入し、業務省力化・自動化の基礎を固めた。

(ウ) WINCARE システムの活用を継続し、できうる限りの改善を図ることで、2021年度の新システム導入に向けて準備を行った。

(エ) 事業毎の送迎体制の見直しを行ったが完了に至らなかった。2021年度の継続課題とする。

3. 共生社会実現のための連携関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する
 - (ア) 地域包括支援センター和合・浜松市中障がい者相談支援センター等の相談援助職がこまめに情報交換を行い、地域課題の顕在化、並びに解決に向けた対応に努めた。
 - (イ) 高齢者・障がい者・こどもの日常的な交流について、新型コロナウイルス感染症の影響で積極的な機会を逸したが、その中でも感染予防に最大限留意し可能な限り交流に努めた。
 - (ウ) 浜松市との継続協議の結果、2021年度、児童発達支援事業所の新規開設を計画した。

4. 新たな役割を与え成長を実感できる体制強化と多様な人材の働き方を支援する
 - (ア) 目標参画・各種ラダーの運用等は計画通り実施した。しかし、職員個々が将来の目標をイメージし、意欲的に目標達成に向けた活動を展開するには不十分であったため、引き続いての関わり等は必要である。
 - (イ) ケアサポーターの雇用は進んだが、業務内容や役割精査には課題が残り、業務の省力化ややりがい・働きがいの創造は不十分。継続的な取り組みが必要。
 - (ウ) 新型コロナウイルス感染症の影響で EPA や新入職員の受け入れ・教育計画等は混乱したが、その状況下でも介護職・看護職の e - ラーニングやオンライン研修等、新たな方法の発見・活用は意欲的に実施できた。

5. 防災・防犯対策の強化と地域との関わりを増やす
 - (ア) 防災訓練は計画通り実施。防犯想定訓練は新型コロナウイルス感染症の影響で未実施。
 - (イ) BCP マニュアルの再整備は始めたが、完成には至らなかった。継続作成中。
 - (ウ) 和合サテライト・3号館に防犯カメラを設置した。

6. 地域における公益的な取組
 - (ア) 聖隷キッチン和合の学習支援事業等への弁当配食支援は計画通り実施できた。
 - (イ) 介護保険利用者負担軽減制度は継続して実施した。
 - (ウ) 新型コロナウイルス感染症の影響で地域に出向く機会は減少したが、都度、感染状況を判断し、可能な範囲で実施した。
 - (エ) 蛍の生育に合わせた河川美化と育成活動（草刈り、カワニナ撒き等）を実施した。
 - (オ) 新型コロナウイルス感染症の状況に合わせ、実習生等の受け入れは可能な限り実施した。

【数値実績】

■高齢者入所・通所関係事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園デイサービスセンター		やまぶき	聖隷トライサポート和合		
	特養入所		短期		通所介護			生活支援ハウス	通所介護・予防	共生型機能訓練
	従来型(3号館)	ユニット型			従来型(障害)	ユニット型				
利用者定員	62名	40名	20名	29名	50名	12名	5名	40名		
利用延数	21,955名	14,240名	6,374名	10,562名	8,132名	2,397名	386名	7,859名	1,404名	
一日平均利用者数	60.2名	39.0名	17.5名	28.9名	26.2名	7.7名	1.1名	30.5名	5.4名	
稼働率	97.0%	97.5%	87.3%	99.8%	52.5%	64.4%	21.2%	59.8%		
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	310日	310日	365日	258日		
平均介護度	4.01	3.90	3.10	3.77	2.01	3.12	—	1.09	—	
単価(一人一日)	12,409円	14,663円	12,275円	14,626円	10,496円	13,913円	—	6,717円	8,823円	
サービス活動収益	285,934千円	208,886千円	78,502千円	154,556千円	87,583千円	33,206千円	7,266千円	65,131千円		
正職常勤換算数	31.4名	23.5名	9.1名	13.6名	7.9名	2.8名	0名	7.1名		
パート常勤換算数	10.7名	5.3名	0.8名	5.0名	9.9名	3.3名	1.2	7.4名		

■障がい者入所・通所・相談関係事業

	障害者支援施設 みるとす			相談支援事業所 くすのき 特定・児童	浜松市中障がい者相談支援センター
	施設入所支援生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所		
利用者定員	20名	20名	2名	(者)延数	相談延数
利用者延数	7,149名	5,978名	1,065名	922名	9,300名
一日平均利用者数	19.6名	20.4名	2.9名	(児)延数	—
稼働率	97.9%	102.0%	145.9%	293名	—
稼働延日数	365日	293日	365日	—	—
平均介護度・区分	5.77	4.84	4.43	—	—
単価(一人一日)	18,194円	14,628円	9,751円	—	—
サービス活動収益	133,441千円	87,141千円	10,973千円	21,808千円	43,646千円
正職常勤換算数	12.4名	6.8名	—	2.9名	7.0名
パート常勤換算数	5.1名	8.3名	—	1.0名	(出向含)

■就労支援事業・放課後等デイサービス事業

	聖隷チャレンジ工房和合				聖隷放課後クラブ はなえみ和合	
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	学校日	休校日
利用定員	10名	15名	10名	一名	20名	
利用者述べ人数	3,291名	3,754名	2,302名	91名	2,862名	917名
一日平均利用者数	12.2名	14.0名	9.5名	—	16.2名	
稼働率	122.3%	93.0%	94.7%	—	81.1%	
稼働日数(延べ)	269日	269日	243日	—	233日	
単価(一人一日当り)	8,172円	8,205円	8,071円	—	10,343円	11,742円
サービス活動収益	35,582千円	41,140千円	47,489千円	3,419千円	43,480千円	
正職常勤換算数	7.1名				5.8名	
パート常勤換算数	16.5名(うち、就労A型利用者7.5名)				3.3名	

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数	
	205名	1,051件	12,612件		9,597円		126,491千円	19.2名	
聖隷ヘルパーセンター	介護給付		予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数	
	平均利用者数	訪問件数	利用者		介護(回)	予防(月)			
	63名	月間 686件 年間 8,231件	月間 38名 年間 497名	4,208円	18,395円	62,791千円	15.5名		
聖隷ケアプランセンター和	年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益	常勤換算職員数	
	介護	予防	介護	予防	年間件数	単価			
	1,872件	375件	17,708円	4,077円	0件	0円	37,564千円	5.5名	
地域包括支援センター和合	浜松市受託収入		予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	サービス活動収益	常勤換算職員数		
	30,490千円		3,270件	2,555件	4,400円	55,761千円		7.0名	
	日常生活支援総合事業の予防プラン								
	種別	ケアマネジメントプラン請求件数	うち再委託件数	予防ケアマネジメントプラン単価					
	ケアマネジメントA	1,986件	1,523件	4,400円					
ケアマネジメントB	139件	0件	2,256円						

聖隷めぐみ保育園

和合せいれの里及び浜松市リハビリテーション病院の職員のこども0.1.2歳児の従業員枠23名と地域枠7名の定員30名の園として開設、運営して6年が経過した。2020年度は7月に、翌年度の聖隷こども園めぐみへの統合が決定。それに伴う聖隷こども園めぐみへの転園が可能な対象を10月に在籍する園児と限定していたこともあってか、11月以降は入園もなく、前年度同様経営的に厳しい状況となった。しかしながら、結果的に在籍児24名全員が、聖隷こども園めぐみを希望した。同じ敷地内にある施設に移行できたことは、こどもたちにとっての負担を最小限に軽減し、無理なく次へと繋げていくことができたのではないかとと思われる。

新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により、行事の中止が相次いだ。その都度、職員間でその狙いや内容について話し合いの時をもち、見直しを図る機会となった。聖隷こども園めぐみや和合せいれの里との連携はこれまでのようには取ることが出来なかったが、感染症対策の面では、互いに伝え合い、集合体であることが大きな力となっていることを感じた。複合施設の中にあるこどもの施設としての役割を担い、今後はこども園の一員として、相互に良い影響をもたらす共生を目指していく。

1. 入所状況

4月に19名でスタートし、3月末には24名の入所となった。年間入所率は72.6%であった。地域枠については今年度も早い段階で定員を満了した。11月以降は保育園のこども園統合に伴い、入所希望はなかった。

2. 年度事業目標・年度重点施策への取り組み

(ア) 保育の質の向上。利用者に質の高い保育・保護者支援を行う。

定期的に職員で勉強会の場を設け、保育学会に向けて、保護者支援をテーマに研究を深めた。文献から学んだことを共有したり、現状把握からの保育・保護者支援を見直したりすることができた。

(イ) 和合せいれの里施設利用者同士の日常的な交流を図る

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、直接的・日常的な交流を図ることはできなかったが、感染対策のもと、保育園が企画をし、交流の時をもつことができた。また、職員間のより良い関係づくりに努めた。

(ウ) 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくりを目指す。

法人内の、保育システムの定期的な会議により、保育システムの活用がしやすくなった。職員も使い方に慣れ、業務省力につながった。

(エ) 子育て支援と地域における公益的な取組

前年度に引き続き、長期休暇中については学童担当職員を1名配置することが、継続的にこどもと関わることにつながり、学童保育の充実を図ることができた。

【数値実績】

(ア) 歳児別入所保育児童数 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	1	1	2	2	3	5	7	7	7	7	7	7	56	4.6
1歳児	10	10	10	8	9	9	9	9	9	9	9	9	110	9.1
2歳児	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96	8
計	19	19	20	18	20	22	24	24	24	24	24	24	262	21.8
													入所率	72.6%

(イ) 保育日数および延べ出席 (利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数 (名)	348	291	368	335	310	384	434	398	398	374	382	494	4516	376.3
保育日数 (日)	25	23	26	25	25	24	27	23	24	23	22	26	293	24.4
一日平均 (名)	13.9	12.6	14.1	13.4	12.4	16	16	17.3	16.5	16.2	17.3	19	184.7	15.3
延長保育 (名)	24	14	27	35	15	16	14	7	14	12	4	1	183	15.2

(ウ) 職員の状況 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職場長 (非)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士 (正)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
(バ)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
保育助手	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
管理栄養士 (委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員 (バ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13

※保育士 (正) 1名4月～11月育休

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト

聖隷デイサービスセンター初生

2020年は、新型コロナウイルス感染症対応に迫られた1年であったが、そのような中でも、あらためて自分たちが、地域において果たすべき役割と提供すべきサービスとは何かを考え、利用者職員ファーストを問い続け、試行を繰り返した1年でもあった。以下に報告する。

1. 「自立支援ケア」を確実に実践し、利用者の生きがいを支援する

(ア) 通所介護利用者においては、活動への参加を支援する以前に、コロナ禍の影響により利用控えが緊急事態宣言以降特に顕著となった。まずは感染症対策を徹底し、安心して利用できる事業所として、利用者が感じられるように、様々な取り組みを常に見える化した上で以下に取り組んだ。

①Barthel Indexによる評価は、毎月確実に実施、記録した。結果を個々の利用者へのフィードバックと同時に、介護報酬改定に備えて機能訓練サービス提供体制を整えた。

②個々の「利用者が求める活動」のために、個別機能訓練Ⅱを実施することが「心身機能の活性化」につながることを意識して取り組むことができ、加算算定率も向上した。

③利用者の通所利用目的を明確にするアプローチを試行した1年であった。全職員が、意識して取り組めたことは、自立支援を標準化した介護報酬改定への対応につながった。

(イ) 特養などの高齢者施設系のクラスター発生が報道される中で、いかに入居者を守るかに終始する1年であったため、不十分ながら、以下の支援に取り組んだ。

①十分ではないが、入居者の生活歴に着目することは、あらためて利用者理解を深めるきっかけになった。

②①の視点は、常に「利用者が何を望んでいるか」を意識した介護につながったが、閉じこもりの中で外出等の制限をせざるを得ず、手段は限られた。

③新型コロナウイルス感染症の影響により、入居者が閉じこもりの生活となり、十分な「暮らしの創造」には取り組めなかったが、オンライン面会等の仕組みを活用した家族との新たな関係作りは、次につながる取り組みとなった。

④人生会議は、度重なる面会制限の影響もあり、十分に実施できなかったが、オンライン面会の仕組みは、家族だけでなく嘱託医やその他多職種で、看取り利用者の情報共有連携及びタイムリーな対応を、実践するツールとしての可能性も感じる事ができた。

2. 通所介護、小規模特養それぞれにおいて「認知症ケア」は、利用者がコロナ禍においても、いかに不安なく生活できるかを常に考えながら取り組むこととなった

(ア) ケアセンター全体で、認知症の利用者とのコミュニケーションスキルを高める取り組みは、コロナ禍での対面研修中止などの影響で、限定的となった。今後はeラーニングやWEB研修をさらに活用できるように環境整備を進めたい。

①「ユマニチュード」のケア技法は、参考サイトや資料等の紹介提供することにとどまった。

②日常会話式認知機能評価方法「CANDy」は実践できず、次年度以降再考することとした。

(イ) 通所介護職員の研修参加機会がなく、感染対策に迫られる中で取り組みは限定的となった。

①認知症サポーター養成講座は、コロナ禍での中止が続き参加できなかった。

- ②新たな趣味活動として脳活性プログラム「寺子屋」を次年度実施する準備を整えた。
- (ウ) 小規模特養入居者における認知症利用者への対応力を向上させる。
- ①外出制限などの影響で手段が限られ、「望む暮らし」の実現に十分取り組めなかった。
- ②認知症実践者研修は、中止が続き参加できなかった。
- ③人の採用は進まなかったが、「生活総合機能改善機器 DK エルダーシステム」フリーダムの導入を試行した結果、心身活性化の効果が見られたため、次年度、導入を進めたい。
3. コロナ禍での利用者、職員の「感染への不安」を少しでも解消できるよう、正確で確実な情報を解りやすく提供するとともに、具体的な感染対策の実施に年間通じて取り組んだ。年度後半は、学研メディカルのeラーニングプログラムを活用し、全職員の受講をすすめた。
- (ア) 仕事への満足度や成果が実感できる組織づくりは、特に感染対策に対し迅速に取り組んだ。
- ①通所介護へのリフト浴導入、小規模特養へのシャワー浴槽や介護ロボットの導入等により、感染対策および、肉体的な負担軽減にもつながった。
- ②全職員が、eラーニングを受講できたことにより、介護の知識と技術を等しく学ぶ機会となり、利用者のケアにも活かされる場面が見られた。
- (ア) 個々の職員の能力特性を活かす事業提案までは至らないが、日々のケアの中で、気づいた細かな配慮(小規模特養でのオンラインによる利用者のご様子を家族に配信など)に取り組めた。
4. 地域における公益的な取組
- (ア) コロナ禍でのボランティア活用は進めることができず、関係の継続と活動の在り方を模索した。施設の周りをイルミネーションし、地域住民も楽しめるよう配慮した。
- (イ) コロナ禍での福祉避難所運用のために、必要となる備品類の見直しを検討した。日頃から使用運用できるパーテーション設置や、ゾーニングのための通所介護の静養室改修に取り組んだ。災害用トイレや食糧備蓄の見直しが、課題である。

【数値実績】

	和合愛光園 初生サテライト	聖隷デイサービスセンター初生	
		介護給付	総合事業
利用者定員	29人	50人	(50人)
利用延数	10,535人	10,380人	210人
一日平均利用者数	28.9人	33.7人	4.0人
稼働率	99.0%	75.4%	
稼働延日数	365日	308日	
平均介護度	3.85	1.7	—
単価	14,716/日	9,884円/回	36,100/月
サービス活動収益	153,294(千円)	109,338(千円)	
職員数(正職)	15.2人	5.3人	
職員数(パート)	6人	16.1人	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザ I N高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

【事業報告】

1. 聖隷ケアセンター高丘内の連携強化を図り、センター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる
 - (ア) 訪問看護ステーション高丘は、リハビリテーション強化型ステーションとして浜松地区ステーションの新規採用スタッフへのリハビリオリエンテーションを継続して行っている。ケアプランセンターとの連携はスムーズにとれるようになったが、機能強化型ステーションには至っていない。
 - (イ) 聖隷リハビリプラザ I N高丘は共生型の機能訓練ができるデイサービスの開始ができなかった。2021年4月開設となる。
 - (ウ) 地域包括支援センター高丘は地域ケア会議を通じて地域課題抽出を行い、他分野と連携して対応を行うことができた。地域づくりは認知症に対する取り組みについて重点的に行うことができた。
 - (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は地域との交流機会自体は少なかったが、後半はロコ友や民生委員との交流会に参加できた。多様なニーズに対応できるよう勉強会の開催やウェブ研修の参加等により知識やアセスメント力の向上を図った。
2. それぞれの事業が経営的に自立した上でセンターとして安定した経営基盤を築く
 - (ア) 高丘地区の特徴を活かし移動距離の少ない効率的な訪問ができた。病院の退院支援・居宅介護支援事業所・相談支援事業所からはリハビリテーションを含め訪問の新規依頼が継続的にあり経営的には安定していた。
 - (イ) コロナ対策の補助金もあり、環境が整い、オンラインでの研修や会議が定着してきた。
 - (ウ) センター内のレイアウト変更を実施したことにより、事務の業務分担、協力体制の整備が進んだ。
3. 地域における広域的な取り組み
 - (ア) 「ロコ友高丘」はコロナ感染予防のために上半期は休業したが、下半期より継続して実施できている。コロナ禍で高丘センター祭りは中止となった。
 - (イ) 昨年度に引き続き、高丘地区にて徘徊高齢者模擬訓練を行い、認知症に対する理解を深めることができた。また認知症に関する啓発活動として、北部協働センターと協働してパネル展示を年間通して行うことができた。
 - (ウ) コロナ禍にて地域の防災訓練は中止のため、参加できなかった。コミュニティスクールと協働し、小学4年生に対して認知症サポーター養成講座を行った。
 - (エ) 各専門職の実習の受け入れはコロナ禍で減少したが感染対策を行い実施した。

【数値実績】

訪問看護事業(訪問看護ステーション高丘)

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価 (円)	サービス活動 収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
207 人	1,076 件	12,913 件	9,425 円	120,435 千円	15.19 名

通所介護事業 (聖隷リハビリプラザ I N高丘)

介護給付			予防給付		単価 (円)		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤 換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護 (月)	予防 (月)		
24.3 名	622 名	7462 名	67.9 名	815 名	6,325 円	33,109 円	73,266 千円	14.9 名

地域包括支援事業 (地域包括支援センター高丘)

浜松市受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤 換算)		
39,980 千円	3,112 件	2,416 件	4,400 円			64,715 千円	6.7 名
日常生活支援総合事業の予防プラン							
種別	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	64,715 千円	6.7 名		
ケアマネジメントA	2,259 件	1,243 件	4,400 円				
ケアマネジメントB	273 件	0 件	3,195 円				
ケアマネジメントC	0 件	0 件	2,195 円				

居宅介護支援事業 (聖隷ケアプランセンター浜松)

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤 換算)
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
2,373 件	455 件	15,831 円	4,016 円	2 件	4,400 円	40,438 千円	5.8 名

訪問看護ステーション住吉第二

2020年度訪問看護ステーションの運営は安定して推移することができた。
聖隷浜松病院との連携により在宅移行がスムーズに行えるシステムができ、継続看護が実現した。
又、地域貢献活動では、住吉交友会での関わりや地域とのつながりを介護保険サービス学会で発表し、今後の地域とのつながりをより強固なものにした。

1. 病院や地域の連携（居宅介護支援事業所・相談支援事業所・他サービス）
 - （ア）聖隷浜松病院との連携、スタッフ誰もが医療依存度の高い利用者さんにと関わる事ができる仕組みづくりを行った。
 - （イ）新規や既存のサービス地域の包括・ケアプランにエリア拡大の挨拶を行った。
2. 地域における公益的な取り組み
 - （ア）住吉区友会への定期的な健康相談・健康体操の実施
 - （イ）難病患者等介護家族リフレッシュ事業に登録しているが、利用がなかった。
3. 施設内の連携
 - （ア）ひばり保育園と感染症の勉強会や施設内環境について話し合い、感染症発生時の対応を共有した。
 - （イ）ひばり保育園との防災訓練の実施。
4. 個々のやりがいを具体化し、それに合ったOJTを実施する
 - （ア）研修中止が相次ぎ、勉強ができにくい環境でも職場内で勉強会を開催しモチベーションの維持を図った。

【数値実績】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
132人	665件	7,981件	10,049円	77,496千円	12人(8.70)

聖隷コミュニティケアセンター

2020年度はコロナ禍において衛生材料が全国の施設、事業所で不足していた中、コミュニティケアセンターの役割として衛生材料確保と安定した供給を行い一定の役割を果たす事が出来た。また店舗販売事業では、コロナ禍の影響で入院患者面会禁止等もあり、院内店舗の利用者数が激減した結果、浜松市リハビリテーション病院店では経営の見直しにより、2021年度より業務委託契約を解除し、直営店として運営の立て直しをする事となる。

新たな取り組みとしては、車いすとマットレスの施設向けレンタルを開始した。介護保険だけに依存しないレンタルの形を作る事ができた。

1. 障害者福祉事業との連携強化

- (ア) 障害者福祉事業と連携し、施設向け車いす・マットレスレンタルを開始。和合愛光園、浜北愛光園、厚生園の3施設で開始する事ができ、2021年度よりいなさ愛光園開始予定。サービスの拡大をする事ができた。
- (イ) 3施設に併設された就労支援事業所と業務委託契約を締結し車いす、マットレスレンタルの管理メンテナンス・消毒等、障害者向けの就労作業メニューを作る事ができた。
- (ウ) おむつの配送業務を、チャレンジ工房浜松学園に業務委託から会計含め全ての業務を完全移管する事ができた。

2. 業務効率化と経営安定の推進

- (ア) 職場内の人員配置と業務の見直しを行ったが、福祉用具専門相談員退職に伴う補充が整わず、特定の職員に負担が掛かる結果となり効率的で働きやすい職場環境を整える事ができなかった。
- (イ) 貸与業務支援ソフトを導入して3年が経過し、スケジュール管理はソフト内で共有できているが利用者経過記録入力には職員によって記録内容に差が出てきている。2021年度の課題として記録の標準化を進めていきたい。
- (ウ) ノー残業デイは定着してきたが、福祉用具専門相談員の欠員が影響し年間360時間超過者が1名出る結果となった。
- (エ) 自社資産ベッドの貸与稼働率は平均75%で目標の80%未達。年々介護ベッドも低価格の新商品が出ている為、高機能自社ベッドの活用法を見直していく必要がある。
- (オ) 聖隷居宅支援事業所、地域包括支援センターの平均紹介率70%以上達成。担当制が定着し、信頼構築に繋がった。

3. 福祉用具専門相談員としての専門性を高める

- (ア) 内部研修、勉強会はコロナ禍の影響で定期的で開催する事ができなかったが、事業団内の研修はウェブを活用する等新しい形で開催する事ができた。
- (イ) 目標参画を実施する事ができなかった。2021年度は実施していく。
- (ウ) 外部研修はコロナ禍の影響もあり、参加がなかった。
- (エ) リーダーに新規事業の取り組みを担ってもらい、自主的に考え行動できる職員を育成す

る事ができた。今後もこのような機会を作っていきたい。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 聖隷在宅サービス事業所、行政が行う地域に向けた取り組みがコロナ禍の影響で中止になり展示・案内を行う事ができなかった。

【2020 事業収益：数値指標】

レタレ件数	介護保険 収益	販売 収益	住宅改修 収益	その他の 事業収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
12,113 件	160,451 (千円)	341,463 (千円)	20,343 (千円)	6,031 (千円)	528,288 (千円)	27.9 名

浜松市生活自立相談支援センターつながり

2020年度は、コロナウィルスの影響に伴う生活困窮の相談が急増した。(2019年度 681件⇒2020年度 2,675件)。相談内容では、仕事が減少した、離職したなど収入減の相談や住居を失う恐れのある相談が大半を占めていた。また、食べ物が無い、ライフラインが停まるなど緊急の支援が必要な相談者も増加した。2020年度3月になっても上半期に比べ相談数は落ち着いてきているが、例年の2～3倍の相談数が継続している。コロナウィルスの終息が見えない中、今後も生活困窮世帯は増加していくことが予測されるため、関係機関と連携し「食事」等の緊急一時的な支援や「住まい」「働く」に関する支援体制の強化、構築が課題である。また、子を持つ世帯からの生活困窮の相談も増加している。世帯への支援だけではなく、様々な課題を持つ子供たちに対して、学習支援やキャリア形成支援、訪問・通信型の学習支援の充実も課題である。

1. 地域における公益的な取組

- (ア) 教室に通えない、通うことができない生徒への訪問型・通信型の学習支援を企画実施する
 - ①訪問型・通信型の学習支援を実施した。不登校の生徒が登校を再開することができた。
- (イ) 総合的かつ狭間のない対応ができる場所での学習支援教室を企画実施する
 - ①総合的な支援ができる和合せいれいの里、ケアセンターいなさ内で新規教室を開室した。
- (ウ) 学習サポート卒業生を対象に高校定着・退学防止支援を行う
 - ①卒業生へアンケート調査を実施し、必要な生徒には個別面談、学習サポートを実施した。
- (エ) キャリア形成支援の一環として「就労体験」を年4回行う
 - ①キャリア形成支援として、職業選択や進学先調べ等の企画を年4回実施した。

2. あらゆるニーズに対応できる支援体制づくり

- (ア) 障がい児・者相談支援、高齢者相談支援事業所との連携を強化しサービスの利用調整及び福祉サービスにはない「新たなサービス」の検討をする
 - ①個々のケースを通して、関係機関と連携した支援を実施した。制度に無い「新たなサービス」の検討を実施した。「緊急一時的な食の支援」や「住まいの確保」などのニーズが今後高まることが予想されるため、具体的な支援、サービスを明確にしていくことが課題である。
- (イ) 緊急を要するニーズに対し食の提供などの緊急一時支援を実施する
 - ①聖隷キッチン和合のお弁当やフードバンクを利用し緊急一時支援を実施した。(156世帯、279名) また、学習支援教室に通う食事のニーズがある生徒へ聖隷キッチン和合のお弁当を夕食として提供した。(301食提供)

3. 地域との連携強化・充実

- (ア) 各地区の民生・児童委員会定例会に参加し、連携事例に関する情報共有を積極的に行う
 ①各地区の民生・児童委員会定例会、専門部会に参加し、情報共有を積極的に行った。
- (イ) 各地区の民生・児童委員会において、生活困窮事例の発掘を行う
 ①各地区の民生・児童委員会後に個別に困窮世帯の相談を受け、生活困窮事例の発掘につながった。
- (ウ) 支援開始時から民生委員や関係機関などを含め支援を検討し、地域支援体制を構築する
 ①民生・児童委員が支援検討当初から関る取り組みについて、未実施であった。
 次年度個別のケースで支援開始時より参画できるよう調整していく。

4. 就労支援および就労準備支援

- (ア) 就労支援対象者のうち、年間 100 名を就職につなげる
 ①就労支援対象者のうち、年間 128 名を就職につなげた。年間目標 120 名を達成することができた。一方、コロナウィルスの影響に伴い求職者数が増加している。就労支援の強化が今後の課題である。
- (イ) 就職者のうち、正規雇用率 30%、6ヶ月定着率 70%を目指す
 ①就職者のうち、正規雇用率 17.2%、6ヶ月定着率 73%となった。コロナウィルスの影響に伴い、求人数が減少したことが正規雇用率目標未達成の要因と考える。
- (ウ) 就労準備支援事業の対象者を年間 15 名とする
 ①就労準備支援事業の対象者を年間 15 名実施した。
- (エ) 中間的就労や職場体験ができる協力企業を各地区 2 か所以上開拓する
 ①中間的就労や職場体験ができる協力企業 2 事業所の登録ができた。

	生活困窮者 自立支援事業	学習支援事業	ホームレス 巡回支援事業	学習サポート 事業
利用者定員	- 名	75 名	- 名	- 名
利用者延べ人数	8,456 名	561 名	49 名	642 名
一日平均利用者数	31.2 名	4.2 名	1.5 名	5.2 名
稼働率	- %	- %	- %	- %
稼働日数（延べ）	271 日	133 日	31 日	124 日
単価（一人一日当り）	- 円	- 円	- 円	- 円
サービス活動収益（千円）	58,593 千円	4,387 千円	445 千円	-千円
職員数（常勤換算）	10.7 名			2.3 名

聖隷厚生園 信生

2020年度は、高齢者福祉と障がい福祉の連携、医療と介護との連携強化が図られ、在宅で暮らす方々が住み慣れた地域で生活できるように一体的なサービス提供がさらに進んだ1年となった。また、新型コロナウイルス等の感染症対策を強化するとともに、制限のある生活の中で利用者が快適に暮らせる支援が新たな課題となった。

訪問看護においては、2020年10月「聖隷訪問看護ステーション三ヶ日」を新規開設し、事業所が少ない三ヶ日町の在宅医療への充実に努めた。訪問介護や居宅介護支援も障がい福祉分野との連携をさらに強化させ、地域共生社会への実現に向けて事業を推進させることができた。

1. 利用者の尊厳を守り、利用者主体の支援の提供

- (ア) 身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、利用者の“できる”を引き出す個別支援計画を立案することができた。
- (イ) 利用者の嚥下機能評価を行うことができた。ふれあい広場やクリスマス会では、食事形態を工夫し、普段形あるものを食せない利用者の「食べたい」に寄り添うことができた。
- (ウ) 夜間の排泄介助方法の見直しを行い、利用者の安眠につなげることができた。
- (エ) 虐待防止セルフチェック表を年2回実施して、職場で振り返りをおこなうことができた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、外部チェックの導入ができなかったため、実施方法を再検討し、次年度の取り組みとした。
- (オ) 社会資源を活用した入居利用者の外出支援は、新型コロナウイルスの感染拡大により実施を保留とした。

2. 地域課題の解決に向けた取り組み

- (ア) 聖隷訪問看護ステーション三ヶ日を新規開設し、在宅医療の強化に貢献した。
- (イ) 聖隷ヘルパーセンター浜松北では、浜松市北区、西区のサービスが不足している地域へのシェア拡大に努め、稼働収益が前年度比13%上昇した。
- (ウ) 聖隷ケアプランセンター細江では、聖隷三方原病院の病棟カンファレンスに参加して入退院時の情報交換に努め、ターミナルや医療依存度の高い利用者への対応を強化させることができた。
- (エ) 在宅サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等が合同ケアカンファレンスを定期的に行い、8050問題や老障世帯等の支援困難ケースへの対応を強化させた。
- (オ) 浜松市基幹相談支援センター等の緊急一時入所の要請に応え、年間2ケースの受け入れを行った。
- (カ) 西部特別支援学校からの体験実習を受け、2021年度より卒業生をまじわりの家で1名受け入れることとなった。

3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

- (ア) ノーリフトケアを宣言し、リフト等の使用率が90%を超えた。次年度は作業療法士等と

意見交換し、手技のさらなる深化を図る。

- (イ) 日々の申し送り時間を前年度比 50%カットし、業務効率化を図った。その結果、超過勤務時間を前年度並みに抑えることができた。
- (ウ) 介護リフト等の選定を複数業者と打合せ、職員や利用者の状況にあったものを導入し、労働環境を整えることができた。
- (エ) 感染症対策では、静岡県看護協会や聖隷三方原病院の感染管理認定看護師の派遣を受け、施設環境や発生時対応マニュアル等に対する助言をいただき、体制強化に繋げることができた。

4. 介護人材の確保と育成の取り組み

- (ア) 各専門職ラダーを実施し、職員一人ひとりが自分自身の課題を見出し、解決する方法を考えることができた。
- (イ) 人事企画部と連携し、EPA 介護福祉士候補生の就業・学習支援を行い、2 名中 1 名が介護福祉士の国家資格を取得することができた。
- (ウ) 聖隷クリストファー大学・介護専門学校等と連携し、実習及びインターンシップの受け入れを積極的に行い、2021 年度の新卒採用に繋げることができた。
- (エ) ナルド工房と連携し、障がいをもつ方がやりがいをもって介護の仕事をしてもらえるよう、障がい者雇用、就労継続支援の受け入れを行うことができた。

5. 災害時対策と地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域住民向けの無料「介護体験講座」の開催は、新型コロナウイルス感染拡大のため、実施を見合わせることにした。
- (イ) 大規模災害への対応ができるように、災害時におけるマニュアルを周知し、定期的に訓練を実施することができた。

【数値指標】

■障がい者入所・通所事業

	聖隷厚生園信生寮			聖隷厚生園まじわりの家	
	入所	短期	日中一時	生活介護	機能訓練
利用者定員	60 名	10 名	4,180 時間	14 名	6 名
利用者延べ人数	22,420 名	3,987 名		4,235 名	1,220 名
一日平均利用者数	61.4 名	10.9 名	-	16.4 名	4.7 名
稼働率	102.4%	109.2%	-	116.8%	78.5%
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	365 日	259 日	259 日
単価 (一人一日当り)	17,429 円	10,941 円	-	15,309 円	
サービス活動収益	390,758 千円	43,622 千円	4,067 千円	83,511 千円	
職員数(常勤換算)	55.0 名			14.0 名	

■訪問看護ステーション細江

利用者数		訪問件数		単価	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
年間	月平均	年間	月平均			
2,361名	197名	10,779件	898件	10,021円	110,085千円	15.1名

■聖隷ケアプランセンター細江

年間請求件数		平均単価		サテライト(三方原)	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	年間相談件数		
1,891件	366件	16,247円	4,124円	521件	33,339千円	5.6名

■聖隷ヘルパーセンター浜松北

介護給付		予防給付		単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)	
平均利用者数	訪問件数		利用者数		介護(回)			予防(月)
	月間	年間	月間	年間				
48名	414件	4,964件	39名	463名	4,251円	19,664円	51,147千円	5.9名

聖隷厚生園讃栄

2020年度は利用者の「やりがい」に焦点をあて、利用者主体の支援に取り組んだ。讃栄寮ではコロナ禍における「新しい生活様式」を取り入れ、感染予防の取り組みを強化し、可能な限り利用者の日常生活を守ることに努めた。利用者、職員共に楽しみを共有しながら、「利用者主体」での取り組みを実施できた1年となった。

1. 「やりがい」に着目し自立助長を促す事が出来る利用者主体の支援強化

- (ア)利用者の「できること」に着目した、個別支援計画の作成と個別支援計画のWEB研修に参加した。
- (イ)リーダー職員が中心となり、定期的な研修を開催できた。
- (ウ)利用者と職員と一緒に生活環境の整備に取り組むことができた。
- (エ)コロナ禍で、出来る限り予定していた食事企画や遠足行事等を開催することができた。係の利用者にも感染予防対策を考えてもらい、今後の行事などの実施方法にも繋がる機会となった。

2. 支援が必要なご利用者に対し、それぞれのライフステージにあった支援の提供

- (ア)居宅生活訓練事業において、年間3名の地域移行支援を実施できた。
- (イ)地域移行支援した利用者に対して、在宅サービス事業所と連携し福祉共同住宅ファーストステップへの入居支援を行った。保護施設通所事業と在宅サービスを利用しながら地域生活を継続できている。
- (ウ)65歳以上の利用者に対して、高齢者施設への移行を1名実施できた。
- (エ)利用者の機能低下予防のため、作業療法士と連携し、日常リハビリ内容の見直しやレクリエーション(革細工)活動を始めることができた。
- (オ)利用者・職員の負担軽減の為、浴室への介助道具導入や各スタッフルームの収納増設など環境整備を行った。

3. 障がい者がより自立した生活ができる地域づくりへの貢献

- (ア)個別支援計画に基づき、利用者に合わせた支援を行い、生活訓練では前年比100.6%、生活介護では前年比98.2%、相談支援事業所も障がい者相談・障がい児相談を断らずに受ける事ができた。
- (イ)障害者相談支援事業所ナルドでは、定期的に事業所内で情報交換をする機会を設けて、障がい者・児に対応できる体制が整った。
- (ウ)福祉共同住宅ファーストステップは3床増床し、定員11名とした。利用者支援の向上のため、世話人と他在宅サービス事業との連携強化を次年度の課題とした。
- (エ)浜松市障がい者基幹相談支援センターや障害者相談支援事業所ナルドからの緊急一時入所の受入れにおいて、前年比延べ利用日数が73日増加した。うち2名が入所支援に繋がった。

4. 公益的活動における地域貢献等

(ア) 養成校からの依頼を受け、感染予防を徹底し、延べ128日の介護実習等受け入れを実施することができた。また「救護施設の実働」について養成校で講義を実施した。

【数値指標】

	聖隷厚生園讃栄寮			福祉共同住宅 ファーストステップ
	救護施設	救護通所	短期入所 (総合支援法)	
利用者定員	60名	10名	4名	10名
利用者延べ人数	21,977名	4,179名	1,140名	2,611名
一日平均利用者数	60.2名	11.4名	3.1名	7.1名
稼働率	100.4%	114.5%	78.1%	71.5%
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	365日
単価(一人一日当り)	9,992円		7,525円	4,442円
サービス活動収益	261,340千円		8,579千円	11,598千円
職員数(常勤換算)	27.9名			2.5名

	生活訓練事業所ナルド		相談支援事業所ナルド	
	生活訓練	生活介護	一般・特定 相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	10名	10名	-	-
利用者延べ人数	2,606名	2,544名	-	-
一日平均利用者数	10.1名	9.8名	-	-
稼働率	100.6%	98.2%	-	-
稼働日数(延べ)	259日	259日	-	-
単価(一人一日当り)	9,484円	7,343円	-	-
サービス活動収益	24,715千円	18,681千円	37,773千円	3,703千円
職員数(常勤換算)	4.0名		4.7名	

聖隷厚生園ナルド工房

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、年度当初、企業からの請負作業が一時減少し、施設内作業が影響を受けた。そのような状況において、職員と利用者が一緒にできることを考えたり、関係各所からの協力を得て臨時の作業を受けたり、従来業務の範囲を拡大する等、実践的な就労機会の場を提供し続けることができた。

その結果、コロナ禍においても安定した就職者を輩出することができ、地域社会で活躍していただくためのアフターフォローとして就労定着支援の利用促進にも取り組むことができた。

【事業報告】

1. 利用者が働くことを通して人から感謝され、様々な経験ができる喜びを体感できる実践的な就労機会の提供
 - (ア) 聖隷厚生園信生寮における介護補助作業の範囲拡大、いなさ愛光園で臨時の窓拭き作業を受ける等、多くの利用者が実践的な仕事の経験ができる場を提供することができた。また、これまでなかった事務作業の訓練機会として名刺印刷作業を開始した。
 - (イ) 菓子販売では、コロナ禍で利用者がお客様や社会と接する機会に制限を受けたものの、受注販売や注文販売を軸に年間売上 2019 年度比 11%向上することができた。
 - (ウ) 利用者が施設外へ出てより実践的な仕事の経験ができるように支援を行い、新たに 14 名の利用者が施設外での仕事を体験することができた。
 - (エ) 就労移行支援ではソーシャルスキルズトレーニングや企業見学会を企画し、より利用者の就職への意欲向上に結び付く支援を行い、年間 5 名の就職者を輩出することができた。

2. 多機能型の強みを活かして利用者の能力や課題に応じたステップアップや再チャレンジができる場の提供
 - (ア) 菓子製造では、職員・利用者共に担当を製造と販売に役割分担をしたことで、利用者の能力に応じて作業を提供することができた。
 - (イ) 相談支援事業所ナルドと連携し、利用者の個別支援計画の評価や目標を設定することができた。
 - (ウ) 特別支援学校からの実習を計画的に受け入れ、生徒や保護者、学校との情報交換を定期的に行った。卒業後の進路として、2021 年度から 2 名の新規就労移行支援利用につながった。
 - (エ) 就労定着支援では、就職時からのご案内により、職場 6 ヶ月定着後のスムーズな支援介入をすることができ、3 名が就労定着支援の利用を開始した。

3. 利用者・職員ともに安心感が持てる職場環境の整備と人材育成

- (ア) 利用者の障がい特性の理解を深めるため、コロナ禍におけるウェブでの勉強会に参加することができた。
- (イ) 職員を2チーム制に分けて、各チーム内で目標参画に取り組むことができた。
- (ウ) 利用者への関わりを定期的に振り返るため、虐待防止セルフチェックを年2回実施することができた。
- (エ) 職員業務のムリ・ムダを整理し、業務分担を明確にすることで、超過勤務時間を前年度より142.2時間削減することができた。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) コロナ禍において、地域で困っている方に向けて布マスクを作成し、地域包括支援センターから地域の民生委員を通じて273枚のマスクを届けることができた。

【数値実績】

	聖隷厚生園ナルド工房			
	就労移行	就労継続B型	就労継続A型	就労定着支援
利用者定員	10名	15名	10名	-
利用者延べ人数	2,702名	4,336名	1,253名	139名
一日平均利用者数	10.7名	17.2名	4.3名	-名
稼働率	107.2%	114.7%	42.6%	-%
稼働日数(延べ)	252日	252日	294日	-日
単価(一人一日当り)	13,638円	9,131円	18,485円	24,086円
サービス活動収益	36,849千円	39,590千円	23,162千円	3,348千円
職員数(常勤換算)	15.6名			

軽費老人ホーム もくせいの里

2020年度は、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。入居者の生活は制限され、体力やADLの低下、不安やストレスへの対応が求められた。施設行事も中止や規模縮小せざるを得ない状況において、少しでも入居者に喜ばれるように配慮し、実施に努めた。

入居者の高齢化・重度化が進む中で、自助努力だけでは自立生活が難しい方が増えてきており、職員によるサポートや外部サービスの利用を促すことで対応してきた。今後も増えていくことが予測されるため、職員による直接援助業務内容などの基準作りを進めていく。

「自立～要介護2」また「64歳～100歳」と多様な入居者が生活する施設において、ひとりひとりの「その人らしさ」を応援するために個別支援計画の運用を充実させたい。

築42年となり、設備・備品の老朽化が進む中、早期対応することで入居者への不便を最小限に抑え、大規模修繕を避けることができた。

【事業報告】

1. 利用者に合わせたサービスの提供

- (ア) 担当職員が入居者とコミュニケーションをとる意識は高まったが、個別支援計画への反映は不十分であった。さらなる充実を図るため「CareGrowth」（個別支援計画作成ソフト）を導入した。
- (イ) 聖隷ケアプランセンター細江・聖隷ヘルパーセンター浜松北・訪問看護ステーション細江との連携を強化し、外部サービスを利用することにより、要介護2までの方が生活できる体制が整いつつある。また、施設として提供する直接援助業務に関して検討を進めた。
- (ウ) コロナ禍の生活となり、施設内外の交流を控えざるを得なかった。入居者の好きなこと・得意なことを活かして施設内で貢献できる仕組み「かがやき隊」をつくった。

2. 安心と安全を重視したサービス

- (ア) 夜間を想定した防犯訓練を宿直職員に対しておこなった。また、入居者に対しても不審者対応訓練を実施し、防犯意識の向上を図った。
- (イ) 配食サービス配達時に不在だった利用者に対し、時間をずらして安否確認をおこなった。必要に応じて、家族等にも連絡を取り、所在確認をおこなうことができた。障害者への配食サービスについて、他事業所への紹介はできなかった。
- (ウ) ノロウイルスや新型コロナウイルス発生時の対応訓練を実施した。備蓄品の確保も進め、感染症への対応策を強化した。

3. 職員の資質の向上

- (ア) 外部研修への参加が困難だったため、施設内の勉強会として、認知症の理解や身体拘束廃止に関する研修をおこなった。
- (イ) 他施設との交流はできなかったが、法人内のケアハウスとの情報交換をおこない、入

居契約書や重要事項説明書の改訂をおこなった。

- (ウ) 嚙下能力に応じた食事を提供できるよう職員間で情報共有をおこない、安全な食事を提供できた。

4. 地域社会への貢献

- (ア) 配食サービスを継続して受託し、安心・安全・おいしい食事の提供に努めた。
(イ) コロナ禍により、近隣幼稚園との交流はできなかったが、入居者とともに卒園時へのプレゼントをつくって、渡すことができた。

5. その他

- (ア) 設備点検等で指摘された事項について早期に対応し、大規模修繕を避けることができた。
(イ) 食堂の椅子を新たに購入し、食堂全体のリニューアルが完了した。また一部自由席を設け、入居者の個別性に配慮した。
(ウ) 新型コロナウイルス感染対策として、食事の2部制の導入などをおこない、職員の勤務体制も変更した。

【数値実績】

	軽費老人ホーム	食事サービス	計
利用者定員	50名	—	
利用者延べ数	18,250名	16,443名	
稼働延日数	365日	309日	
一日平均利用者数	50.0人	53.2人	
稼働率	100.0%	—	
単価(1人1日当たり)	6,216円	683円	
サービス活動収益	113,434千円	11,224千円	124,658千円
職員数(常勤換算)	12.6名	2.4名	15.0名

いなさ愛光園

新型コロナウイルス感染症や大規模自然災害が発生する中で、「感染症や災害への対応力向上」が課題であると感じた1年であった。施設への影響も大きく、幼稚園児や各種ボランティア等の全面的な受入れ中止や面会制限が始まり、利用者、家族の方にも迷惑をかけた。

年間を通して、入所サービス、短期入所、グループホームともに稼働率は高く、7月からは新型コロナウイルスに係る通所介護、短期入所生活介護報酬の見直しがされ、介護保険事業収益が増額されたことで、全般的に安定した運営ができた。特別養護老人ホームは人材確保として、EPA介護福祉士候補生2名は2年目を迎えた。日本語学習に苦戦していたが業務に慣れて活躍を始めた。通所介護は機能訓練、生活リハビリ希望者に対して、理学療法士、看護師が対応し成果をあげた。認知症対応型通所介護は自然と畑を活かした認知症ケアが評価されて、利用回数が増加した。認知症共同生活介護は外出する機会は減少したが、新しい生活様式を取り入れた生活が始まった。訪問介護は中山間地域に住む利用者よりも他地域の利用者が増えているが、緊急や突発的な依頼等、中山間地域に住む方の依頼を断らないように、調整しながら常に体制を整えた。配食サービスは年間約1,823食を提供し、自費の利用者が増加した。居宅介護支援事業所は聖隷ケアセンターいなさと連携し、提供エリアを拡大した。在宅介護支援センターは地域の要請に応じて高齢者サロン活動の支援や中山間地域介護予防支援活動等を開催してきたが、コロナ禍であり数回にとどまった。

1. 利用者の尊厳を守り、生活の質の向上を目指した取り組みをする

- (ア)各サービスともに、ケアプランの更新時には家族の情報収集に努めた
- (イ)入所サービスでは面会制限を実施しているので、対応には十分に配慮した
- (ウ)入所では23名が退所され、うち22名が施設での看取り介護を実践した（看取り加算：20名）
- (エ)座面の大きさを選択できる車椅子40台をリースし、利用者にあった車椅子に変更した

2. 人材育成と働きやすい職場環境の整備をする

- (ア)ナースコールに代わる、介護ロボット・ICTの導入可能な機器類の検討をした
- (イ)介護分野ICT化事業費補助金を活用し、短期入所に移乗機器を導入した
- (ウ)新規に特殊寝台19台を購入して腰痛予防に努めた
- (エ)地域理解や他部署理解を推進するために施設内の交換研修を4名実施した
- (オ)介護福祉士の喀痰吸引研修を園内で実施して6名終了した

3. 質の高いサービスを提供するように努める

- (ア)看護・リハビリ・栄養・介護・相談の各ラダーが始まり有効的に活用が始まった
- (イ)利用者本位の福祉サービスを提供するために、短期入所、訪問介護、通所介護、認知症対応型通所介護で利用者満足度調査を実施し、下半期の活動に活かした
- (ウ)各サービスに対して、食事の嗜好調査を実施し、献立に反映するように心掛けた

- (エ) 看護師と介護職員が合同で看取りケアの学習をし、園内学会で発表した
- (オ) 病院受診を伴う介護事故は 12 件、昨年と比較して 4 割減少した

4. 安定した施設運営をする

- (ア) 特別養護老人ホームの入所希望者は 73 名と昨年比 8 名減少で、うち 44 名は介護度 3 以上であった
- (イ) 特別養護老人ホームの平均空床期間は 3.56 日で稼働率を高めた
- (ウ) 「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」で、新規福祉車両 3 台、次亜塩素酸空間除菌脱臭機を購入し、「介護サービス提供体制整備促進事業補助金」で簡易陰圧装置を購入した
- (エ) 設備更新として非常用自家発電機、真空包装機等、車両更新として 2 台を購入した

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 中山間地域介護予防支援活動 (延べ回数 2 回、延べ人数 34 人)
- (イ) 高齢者サロン活動 (伊平) の支援 (延べ回数 4 回、延べ人数 90 人)
- (ウ) 社会福祉法人利用者負担軽減事業 (実人員 40 人、延べ人数 1,196 人)

【数値実績】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	介護	予防
利用者定員(名)	30名	40名	20名	35名	
利用者延べ人数(名)	10,827名	14,884名	6,319名	7,844名	899名
一日平均利用者数(名)	29.6名	40.7名	17.5名	25.3名	2.9名
稼働率(%)	98.8%	101.9%	86.5%	80.5%	
稼働日数(延べ日)	365日	365日	365日	310日	
単価(一人一日当り)	13,268円	14,744円	13,824円	9,713円	
サービス活動収益	144,000千円	219,700千円	87,353千円	84,922千円	
職員数(常勤換算)	45.8名		15.7名	14.3名	
	認知症対応型 共同生活介護	居宅介護支援		認知症対応型通所介護	
		介護	予防	介護	予防
利用者定員	9名			10名	
利用者延べ人数	3,257名	1,607名	450名	2,666名	29名
一日平均利用者数	8.9名			8.6名	0.1名
稼働率	99.1%			86.9%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	310日	
単価(一人一日当り)	13,941円	17,609円	3,741円	12,585円	
サービス活動収益	45,407千円	30,821千円		33,918千円	
職員数(常勤換算)	8.6名	4.0名		6.8名	
	訪問介護		居宅介護 (障害)	配食サービス	在宅介護支援 センター
	介護	予防			
利用者定員					
利用者延べ人数	2,480名	1,198名	357名	1,823名	
一日平均利用者数	6.8名	3.3名	0.9名	6.2名	
稼働率					
稼働日数(延べ)	361日		361日	293日	365日
単価(一人一日当り)	4,871円		3,368円	673円	
サービス活動収益	18,213千円		1,202千円	1,227千円	
職員数(常勤換算)			4.5名		
	合計				
利用者定員					
利用者延べ人数					
一日平均利用者数					
稼働率					
稼働日数(延べ)					
単価(一人一日当り)					
サービス活動収益	666,763千円				
職員数(常勤換算)	99.7名				

聖隷ケアセンターいなさ

2020年度北区旧引佐三町地域は高齢化率が進み、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、高齢者が住み慣れた地域での生活がますます困難な状況になった。社会資源が乏しい当該地域において、高齢者本人が望む暮らしの継続実現の為、ケアセンター内の事業所の連携、協働による拠点機能の強化を進めると共に、法人内の病院、施設、サービス事業所を中心として地域の医療、介護、障がい、地域の支援者などとの連携を強め支援を行った。

1. 旧引佐三町へのサービス提供体制強化

(ア) 各事業所の三ヶ日地区への支援

① 聖隷リハビリプラザいなさ

サテライトデイを開所し、これまで送迎が困難で利用いただけなかった方にも聖隷デイサービスの専門的なサービスの提供をスタートした。

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日との連携が強化され、利用者の健康管理を行った。

② 聖隷ケアプランセンターいなさ南部

三ヶ日サテライトデイ及び聖隷訪問看護ステーション三ヶ日との連携が進み、積極的に三ヶ日地区の新規利用者を受け入れ、在宅療養や生活の継続の支援ができた。

③ 地域包括支援センター細江

コロナ禍における地域の介護力強化の為、法人内のサービス事業所の連携はもちろん、三ヶ日地域の狭義の地域連携についてもコーディネータの役割を行い、タイムリーな情報の共有を行い、サービス提供が安全に行える状況の支援を行った。

(イ) 法人内在宅サービス事業所及び聖隷三方原病院との連携による地域への支援

聖隷三方原病院看護相談との定期的な事例検討を通じて連携が強化された。

(ウ) 在宅生活延伸のための支援

引佐地区において社会資源の有効活用と継続の支援を目的とした社会資源アプリの開発と運用を行った。

2. 運営の安定化の推進

(ア) 新規利用者の積極的な受け入れと適正な加算の算定

聖隷ケアプランセンターいなさ南部が新規利用者を積極的に受け入れ各ケアマネの担当件数が増えた。聖隷リハビリプラザいなさで職員配置の精査により加算を算定することができた。

(イ) サテライトデイによる定員増と収益の向上

聖隷リハビリプラザいなさサテライト三ヶ日の開所により、定員を増やすことができ、収益が向上した。

3. 拠点機能の強化

(ア) 高齢者分野以外の要援護者、世帯の支援

①地域包括支援センター細江

8050 世帯や多課題のある世帯への支援のために浜松市北障がい者相談支援センター、生活自立相談支援センターつながり、各居宅介護支援事業所、行政等との連携機会が増え、支援困難世帯、虐待高リスク世帯への支援や対応を行った。

4. 地域における公益的な取組

聖隷ケアセンターいなさ全体

(ア) 学習支援教室への場所の提供

(イ) ノルディックウォーク愛好会の継続的な活動の支援

(ウ) 地域の大学（クリストファー大学・静岡大学）及び浜松市高齢者福祉課との協働による社会資源アプリの開発

(エ) 引佐郡医師会との協働による多職種連携の研修会の開催と市民フォーラムの開催

【数値実績】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

浜松市 受託収入	予防支援 マネジメントA・B	内 再委託件数	予防ケアマネジメント単価 (円)	総収入 (千円)	職員数 (常勤換算)
47,530 (千円)	予防支援 4,006 件	3,146 件	4,400 円	82,197 千円	8.6 人
	マネA 2,790 件	2,091 件	4,400 円		
	マネB 1,329 件	一件	3,195 円		
	マネC 5 件	一件	2,195 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	総収入 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,748 件	331 件	15,491 円	4,036 円	37 件	4,400	29,837 千円	4.8 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		総収入 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
22.8 人	587.3 人	7,048 人	94.6 人	1,136 人	6,591 円	26,146 円	85,071 千円	16.5 名

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

【事業報告】

1. 浜松市北部エリアにおいて「地域を支える」ケアセンターになる
 - (ア) 利用者・家族・相談支援事業所からの相談に応じ継続的に新規利用者を受け入れた。
 - (イ) ケアセンター内での事業所間の交換研修を一部実施し、各事業の理解を深めた。
 - (ウ) 訪問看護主体の事例検討会・勉強会を開催し、疾患に関する知識・感染対策を学ぶ機会を持った。
 - (エ) 週1回訪問看護とケアプランセンター職員が聖隷三方原病院の病棟カンファレンスへ参加し、終末期の利用者が安心して在宅へ復帰できるよう支援できた。
2. 利用者ひとりひとりの思いに沿ったケアを提供するための質の向上を目指す
 - (ア) 利用者の思いを形にするためのケアの質の向上を図る。
 - ① デイサービスセンター三方原は「食を楽しむ」をテーマに近隣畑での収穫作業、施設内での調理活動を積極的に行った。自費での外出活動は新型コロナウイルスの影響で実施できなかった
 - ② ケアプランセンターは事業所内での事例検討を通じて利用者の思いを理解し、必要なサービスを提案できた
 - ③ 訪問看護は外部の講師を招いての勉強会・事例検討会を行い、気づきを高め、根拠に基づいたケアが提供できるよう学び・振り返る機会を持った
3. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域包括支援センターと共同で話し合う機会を持ち、認知症予防教室を開催できた。
 - (イ) 三方原公民館でのロコモーショントレーニング活動の回数を増やし登録者を増やした。
 - (ウ) 新型コロナウイルスの影響で地域活動（防災訓練・清掃活動）は中止になった。
 - (エ) 感染対策のためボランティアの受け入れを制限し、外出活動も中止した。

【数値実績】

■ 訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数(常勤換算)
168人	842件	10,103件	9,622円	101,339千円	13.3名

■居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,979件	443件	15,879円	3,820円	3件	4,400円	34,004千円	6.9名

■通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
36人	929人	11,145人	63人	758人	6,418円	31,334円	95,942千円	15.1名

■通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価	サービス活動 収益	職員数(常勤換算)
1.3人	33件	392件	8,520円	3,412千円	15.1名

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

2017年11月より、「訪問看護ステーション細江サテライト三ヶ日」として活動してきたが、三ヶ日地区の利用者の増加に伴い、2020年10月より「聖隷訪問看護ステーション三ヶ日」として新規開設した。

2020年度は、地域の医療機関・サービス事業所との連携を強化するため、「利用者により良いサービスを提供すること」・「信頼される事業所を作ること」を目標として、新規紹介者を断らない姿勢、聖隷三方原病院との連携継続、積極的な営業活動に取り組んだ。

今後は、地域が必要としているニーズを捉え、医療機関・サービス事業所との連携をさらに強化し、地域から頼られる事業所を目指していく。

1. 三ヶ日地区の医師・サービス事業所との関係を強化する

営業活動や勉強会の開催を通して、地域の医師・サービス事業所との関係強化に取り組んだ。また、障害福祉事業所の見学に出向き、障害分野の理解に努めた。

2. 聖隷内の役割を生かした連携

聖隷ケアセンターいなさと定期的に会議を行い、情報交換を行い、新規利用者の獲得に繋がった。また、同じ建物内で運営している聖隷リハビリプラザいなさサテライト三ヶ日と連携し、デイサービス利用者に対して早期段階での訪問看護の介入できる体制づくりを行った。

3. 聖隷三方原病院との連携継続

退院前カンファレンスへの参加や看護相談室との連携を密にし、スムーズに在宅移行ができるよう情報共有を行った。

4. 地域における公益的な取組み

地域の民生児童委員協議会民生委員会で、訪問看護について説明する機会をいただき、三ヶ日地区における訪問看護の普及に繋がった。

【数値指標】 ※2020年10月～2021年3月

利用者数		訪問件数		単価	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
年間	月平均	年間	月平均			
345名	58名	1,556件	259件	10,044円	17,929千円	5.4名

浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園	浜北愛光園デイサービスセンター
障害者相談支援事業所浜松東	訪問看護ステーション貴布祢
聖隷ケアプランセンター浜北	地域包括支援センター北浜
聖隷チャレンジ工房浜北	生活介護事業所きらめき

2020年度は、未曾有の災厄である新型コロナウイルス感染症との戦いの一年であった。感染症拡大防止策として、段階的な面会制限や各種イベントの開催方法の変更等、自粛や制限を強いられた反面、制限の多い状況下でも感染症対策を徹底しながら利用者のためにできることは何かを常に探り、挑み続けた一年でもあった。2018年度より取り組んでいる介護職の業務を仕分けた上で、周辺業務を高齢者や障害者等のケアサポーターに委ねるといった業務省力化の流れを継続、発展させるとともに、タブレット型介護記録システムの導入や介護職向けのe-ラーニング講義配信サービスの導入、シャワー入浴装置の導入等を実施した。これら、ICTやロボット等を効果的に活用したこと、コロナ禍を業務改善の契機と捉え、会議体の見直し、帳票の削減等を行い、介護・福祉職の現場改革を進めた。

1. 制度の枠を超えた支援体制の構築

- (ア) ①訪問看護ステーション貴布祢は、2019年度まで続けてきた磐田市での事業拡大の流れを2020年4月に開設した聖隷訪問看護ステーション富丘へ継承するとともに、応援職員を派遣し、安定した運営体制の協力を行った。
- ②障害者相談支援事業所浜松東は、委託事業の終了に伴って新規利用者が減少しないよう、営業を強化した。とりわけ中・東障がい者相談支援センターとの連携を密に行うことで、両センターからの紹介を含め前年を大幅に上回る新規利用者の獲得に繋げることができた。
- ③聖隷チャレンジ工房浜北では、これまでの就労訓練メニューにワックスがけを追加しプログラムの幅を広げた。
- (イ) 障害者相談支援事業所浜松東とケアマネジャーが連携を密にとることで、高齢者、障害者という制度の枠を超え、同一世帯内のそれぞれの制度利用者を2名同時にショートステイで受け入れることができた。
- (ウ) 2019年度からの持ち越し課題である「人生会議手帳」の活用について、カンファレンス等を重ね、在宅から施設まで一貫して使用できる情報シートの作成を行った。

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 入所前訪問を専門職数名で行うことで、漏れのないニーズ抽出に努めた。入所後の意向もサービス担当者会議や看取り期のムンテラ等を通し、利用者・家族の意向を具体的に把握し、ニーズに即したサービス提供に努めた。また、職員に対する質の評価として職場間で相互チェックを実施し、サービスの質の向上に努めた。
- (イ) リスク管理について、事故防止のためのマニュアルや運用の変更に留まらず、人員配置

や備品購入等経営資源を含めた視点からも対策を検討しリスク回避を図った結果、介護者が原因となる事故の発生を防ぐことができた。

(ウ) 多職種・多事業所が連携し、支援困難者の受け入れを随時検討し、調整が図れた。成果として医療的ケア児を入浴支援で受け入れることができた。

検討、調整を継続する中で、特別養護老人ホーム（短期入所含む）、通所介護とも稼働率は堅調に推移した。

(エ) 利用者のやりたいことを聞き取り、日常の中でやりがいや喜びを得られるレクリエーション（やきいも、畑づくり、お花見甘酒会、花火等）を企画した。コロナ禍でイベント等の縮小、制限がかかった分、利用者個々の希望をできるだけ取り入れた結果、2020年度を大幅に上回る回数のレクリエーションを実施することができた。

(オ) 認知症実践者研修が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、認知症利用者のケース検討を行う等、内部研修により質の向上に努めた。

3. 新たな働き方の創造

(ア) 外部研修の殆どが新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。2021年度はオンラインでの研修、講習の受講にシフトしていく。

(イ) 新人教育のみならず感染やリスクマネジメント研修といった法定研修もe-ラーニングに移行し、OJTと組み合わせて効果的な教育、研修を実施した。

(ウ) 業務の切り出しを進め、ケアサポーターの雇用は10名まで増加した。また、ケアサポーターに対して介護員へのキャリアアップの道を提示し、2名が介護員へ職種変更した。

(エ) タブレット型記録入力システムを導入し、業務の省力化、自動化を推進した。また、シャワー入浴装置の導入により、短時間で温まることができ、利用者の身体の負担を軽減した入浴が可能となった。

(オ) 介護・福祉職の「やりたかった」、「やりたい」を集約した結果、利用者の「やりたい」とも合致する内容が数多くあり、それらをレクリエーションとして具現化した。コロナ禍で制限が多い中、今できる身近な事柄を実行する過程で利用者との交流の機会が多く得られたことは収穫であった。

4. 運営安定化の推進

(ア) 稼働年数、必要度を評価しながら適切な設備更新を実施できた。

(イ) 予定通りに実施できた。また、適正な人員配置を維持できた。

(ウ) 消耗品の見直しを随時実施する等費用コントロールに努めた。新型コロナウイルス対策費用を含めて予算内に収めることができた。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 近隣の福祉施設と福祉避難所の相互連携について打合せを行った。地域の防災訓練等へは参加できなかった。

(イ) 新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。

【数値実績】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 浜松東
	特養入所		短期入所		通所介護		
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般型	予防	
利用者定員	50名	100名	20名	20名	40名		
利用延数	18,472名	36,576名	6,133名	6,122名	8,314名	254名	
一日平均利用者数	50.6名	100.2名	16.8名	16.8名	27.8名	0.9名	
稼働率(%)	101.2%	100.2%	84.0%	83.9%	69.5%		
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	308日		
平均介護度	4.4	3.7	3.0	2.7	1.9		
単価(一人一日)	12,646円	14,172円	11,481円	13,189円	10,220円		
サービス活動収益 (千円)	233,606 千円	518,357 千円	70,410 千円	80,740 千円	87,561 千円		17,217 千円
職員数(常勤換算)	34.2名	64.6名	10.1名	13.3名	16.1名		3.2名

■訪問看護事業(訪問看護ステーション貴布祢)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
165名	837件	10,047件	9,858円	99,048千円	13.8名

■居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,169件	367件	14,748円	3,994円	2件	4,400円	38,606千円	5.1名

■地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

浜松市受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
34,494千円	367件	780件	4,400円	49,627千円	6.0名

■聖隷チャレンジ工房浜北/生活介護事業所きらめき

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
就労移行	15名	2,607名	61.0%	285日	12,858円	33,522千円	10.5名
就労継続	25名	6,848名	90.7%	302日	9,997円	68,462千円	
就労定着		96名			29,031円	2,787千円	
生活介護	20名	2,635名	54.4%	242日	8,196円	21,596千円	5.6名

森町愛光園

2020年度森町愛光園は、新型コロナウイルスの影響により、納涼祭、敬老会、クリスマス会の大きな行事をはじめ、外出企画やクラブ活動、各種のボランティアの受入等、様々な活動が制約された1年であった。特に入所サービスを利用されている利用者や家族においては面会の機会が持てない日々が現在も続いている。また、年末年始より3月にかけて入所者の入院や退所が続いた。新型コロナウイルスの関係で、待機者の事前面談や入院者の退院に向けての調整がスムーズに行えず、稼働率に大きな影響が出た。

障がいサービスにおいては、聖隷放課後クラブはなえみ森町の定員を10名増の20名として運営を2020年4月より開始した。しかし、小学校や袋井特別支援学校の休校措置や不定期登校によって、小学校1年生の利用開始が大幅に遅れ、運営に影響が出た。夏休み以降は、学校が通常に戻り、児童やその保護者のニーズに応じていくことはできた。

次に、開設後28年が経過し、施設内の様々な場所での老朽化が進んでいる。施設内外各所の改修や設備更新を行ったが、雨漏りは防水工事をしてはまた別の場所から雨漏りをし、居室においては利用者の生活や職員の働く環境に影響を与えてしまった。

最後に、職員確保が困難な状況が続いている。特に有資格者の採用は難しく、離職者に対しての中途採用が追いつかない状況が続いてしまった。

【事業・運営計画】

1. 利用者の尊厳を守り、利用者主体の支援の実践

- (ア) 利用者一人ひとりの生活ペースを大切にされた個別ケアを実践した。
- (イ) 老朽化した施設内の改修として、デイサービスルームのLEDライト化と増設、天井パネルの塗り直し、従来型特養およびデイサービス脱衣室の電灯をLEDに変えた。
- (ウ) 利用者・家族にとって、安心して心地よいサービスを提供するため、自己評価を行い接遇の向上に努めた。
- (エ) 給食委託業者との協働のもと、利用者個々へ配慮された、安全で楽しみのある食事の提供を目指し行事食や誕生日食の提供を行った。

2. 地域共生社会の実現に向けた活動

- (ア) 聖隷放課後クラブはなえみ森町の定員を10名から20名に増やした。しかしながら新型コロナウイルスの影響により、4月5月の運営に影響が出た。また、森町愛光園内においてサービスを提供したが、高齢者との交流は感染防止の為に取り組むことができなかった。
- (イ) 隣接する一宮幼稚園との交流事業は全て中止となった。
- (ウ) 高齢者・障がい児者への相談機能を強化するため、ケアプランセンター森町と相談森町、デイサービス相談員の職場を同室とし体制を整えた。

3. 人材育成と働きがいのある職場環境の整備

- (ア) 専門職ラダーと目標参画システムを連動させ、人材育成を図った。
- (イ) 介護支援システム等を活用した業務の効率化にまでは取り組むことができなかった。
- (ウ) シニア世代の雇用に力を入れ、介護業務の効率化を図った。
- (エ) 職員への教育ツールとして、事業団統一の教育資料を活用するまでには至らなかった。
- (オ) IOT の活用について検討を進めたが、導入までには至らなかった。

4. 健全経営の推進と衛生管理・防災管理体制の向上

- (ア) 待機者確保のため、積極的に情報収集・関係作りを行うよう努めたが、訪問による関係作りは出来なかった。また、入院リスク軽減のため、健康・栄養管理に努めたが、冬季に入り入院者が増加してしまった。
- (イ) 修繕・設備更新を計画的に行えた部分もあったが、雨漏り箇所の多発、給湯設備・貯湯設備の不具合、スプリンクラーの高圧力等、様々なトラブルが続出した。
- (ウ) 2021年介護報酬改定に向けての準備と対策の検討を行った。
- (エ) 新規利用者確保のため、訪問介護事業においてサービス提供実施地域の拡大を行った。
- (オ) 集団感染症の発生はなかった。また、感染症蔓延防止の研修会・勉強会を開催した。
- (カ) 災害発生時に備え、地域との連携強化、日常生活に支障が出た場合の対応方法の可視化を図った。また、静岡県社会福祉協議会、静岡県ボランティア協会が設置する、災害ボランティア活動用資機材整備事業に協力した。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 森町役場、森町社会福祉協議会等と連携し、「森町地域福祉計画・地域福祉活動計画」の推進に寄与することができた。また、「森町高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」の策定に参画した。
- (イ) 地域包括ケアシステム構築に向けたネットワーク作りのため、「森町在宅医療・介護連携推進事業」へ参画した。また、森町病院、森町役場と入所系サービスの連絡会に参画した。
- (ウ) 地元小学校・中学校からの福祉体験、職業体験の受入れや、特別支援学校からの実習受入れ、高校や福祉系学校の介護実習について、コロナ禍の中ではあったが、出来る範囲で受入を行った。しかし、ボランティアの受入については出来なかった。
- (エ) 町内会で行われる地域防災訓練は中止となり、参加することは出来なかった。
- (オ) 東京パラリンピック聖火リレーの採火式は中止となった。

【数値指標】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利用者定員	60名	20名	29名	12名	42名		
利用者延べ数	21,523名	6,927名	10,271名	3,029名	7,098名	1,407名	
1日平均利用者数	59.0名	18.9名	28.4名	8.3名	23.0名	4.6名	
稼働率	98.3%	94.9%	97.0%	69.2%	65.8%		
稼働日数(延べ)	365日		365日	365日	308日		
単価(一人一日当り)	13,002円		13,628円	11,573円	9,858円		
サービス活動収益 (千円)	369,903千円		139,976千円	35,054千円	83,839千円		
職員数(常勤換算)	37.4名	12.4名	19.7名	6.9名	13.5名		
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護			介護 合計
		介護	予防	介護	予防	障害	
利用者定員							
利用者延べ数		1,868名	317名	4,533名	967名	434名	
1日平均利用者数				12.6名	2.7名	1.2名	
稼働日数(延べ)					359日		
単価(一人一日当り)		15,799円		3,933円	3,730円		
サービス活動収益 (千円)		34,520千円		21,631千円	1,619千円		686,542 千円
職員数(常勤換算)	0.1名	5.1名		5.9名			101.0名
	放課後等 デイサービス	相談支援事業		障害 合計			
		特定相談	障害児				
利用者定員	20名						
利用者延べ数	3,621名	92人	137人				
1日平均利用者数	15.0名						
稼働率	74.8%						
稼働日数(延べ)	242日						
単価(一人一日当り)	9,726円						
サービス活動収益 (千円)	35,218千円	3,365千円		38,583千円			
職員数(常勤換算)	7.3名	0.6名		7.9名			

聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

磐田市発達支援センターはあと

磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター

磐田市南部障害者相談支援センター

2020年度は、感染対策をはじめとした「安心・安全」な事業の運営を通して、利用者に「日常」を提供することに注力した。新型コロナ感染症拡大によって生じる利用者の想いやニーズの変化に向き合い続け、何を届けることが出来るのか職員が一丸となって知恵を出し合い工夫しコロナ禍における役割（新たな価値）を見出そうと実践を続けた一年であった。また、「発達支援（利用者支援）」「家族支援（企業支援）」「地域支援」を柱とした支援について、地域から何を求められているのか、地域に何を還元できるのか職員一同で考え、事業所の垣根を越えた関わりの大切さを意識することができた。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する

(ア) 聖隷こども発達支援センターかるみあ・聖隷放課後クラブはなえみ磐田

- ① 客観的な指標を導入し、領域別療育プログラム（集団・個別）・目標を作成した
- ② 「褒める」場面・「選択する」場面を意図的に作り、関わりを継続した
- ③ 「ペアレントプログラム」研修にて職員の「行動をみる・意味づける視点」を培った
- ④ 感染対策のため、行事やイベントの意味・目的を再考し、実施について検討した
- ⑤ ライフステージを繋ぐ支援を提供できるよう、職員の交換研修を実施した
- ⑥ 要保護児童の対応等一貫した支援を提供できるよう関係機関と連携会議を実施した
- ⑦ 保護者が、子どもの姿を理解しやすいようにビデオを活用した面談を実施した
- ⑧ 各家庭での不安や疑問の解消につながるよう、先輩ママの体験講話を実施した

- ⑨ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保護者同士が交流できる場が減少した。次年度は感染対策を強化し、保護者同士が交流の機会を安定的に持てるよう努める
- ⑩ 保護者と関係機関が子どもの状態を分かち合えるよう、連携方法を模索した
- (イ) 聖隷チャレンジ工房磐田
 - ① 生活訓練にて訪問支援を実施し、ご利用者の生活場面に即した支援を提供した
 - ② 安定した作業量と作業収益を確保するため新作業の導入を行った
 - ③ 就労グループワークにて、人との関わり方やストレス対処法を学ぶ機会を設けた
 - ④ 移行支援会議を活用し、特別支援学校の個別の教育支援計画を引き継ぎを行った
- (ウ) 磐田市発達支援センターはあと
 - ① 心理的見立てから学校で実行可能な支援を LD 等通級指導教室担当教諭と見出した
 - ② 保護者の“子育て”力を底上げするため磐田市とペアレントプログラムを開催した
 - ③ 相談から見える園学校現場の状況を磐田市関係課と共有し対応を検討した
- (エ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ
 - ① 高齢障害・当センターの情報発信のため、パンフレットの改訂・全戸配布を行った
 - ② フォーラム等の開催が難しく個別ケースを通して、関係機関と関係構築を行った
 - ③ 生活応援クラブの活用範囲について関係機関と協議し、地域課題に対応した
- (オ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび
 - ① 出前子育て支援の子育て相談にて、子育ての孤立感を防ぐよう保健師と連携した
 - ② 複雑化するファミリーサポートのニーズに対する対応を磐田市と協議し決定した
 - ③ 多様な課題を抱える家族の子育て相談は障害者相談支援センターと連携し実施した

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

- (ア) 安全な環境整備のため、警察署による講義に加え、利用者とともに防犯訓練を行った
- (イ) 職場会議にて職員発信の場を設け、課題の共有と対策の検討を行った
- (ウ) マニュアルの見直しや役割の明確化により、事故件数と残業の減少につながった
- (エ) 欠席が予想されるご利用者に、サービス提供の在り方を見直し安定利用につなげた
- (オ) リーダー制を導入し、職員の主体的行動を支える仕組みを作った

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 研修講師 10 件、実習 4 名、ボランティアは定期的な受け入れを行った
- (イ) ホームページの活用、イベントへの出品、チラシの作成を通して、情報を発信した
- (ウ) 私立幼保 9 園に対するコンサルテーションを実施した
- (エ) 福祉なんでも相談窓口として、磐田市や他法人と窓口の役割について確認した
- (オ) 感染対策を踏まえた福祉避難所の在り方・役割について、磐田市と意見交換した
- (カ) 地域の感染状況を踏まえ、発達が気になる親子療育の場は不定期開催となった

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利用者定員	30名	—	—	—	14名	10名	6名
利用者延べ人数	8,919名	644名	—	—	3,915名	3,209名	1,005名
一日平均 利用者数	35.5名	—	—	—	14.4名	11.8名	4.1名
稼働率	118.4%	—	—	—	102.4%	117.5%	67.3%
稼働日数(延べ)	251日	239日	—	—	273日	273日	249日
単価 (一人一日当り)	15,938円	12,868円	—	—	10,445円	8,157円	8,202円
サービス 活動収益	142,153 千円	8,287 千円	3,765 千円	8,006 千円	40,892 千円	26,177 千円	8,243 千円
常勤換算職員数	19.0名	2.2名	2.1名		5.5名	5.2名	1.4名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談
利用者定員	—	20名	—	—	—	—
利用者延べ人数	92名	5,330名	—	—	—	—
一日平均 利用者数	—	21.3名	—	—	—	—
稼働率	—	106.6%	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	—	250日	—	—	—	—
単価 (一人一日当り)	—	12,341円	—	—	—	—
サービス 活動収益	2,144 千円	65,779 千円	32,454 千円	21,236 千円	23,041 千円	10,486 千円
常勤換算職員数	0.2名	10.8名	7.9名	5.4名	3.0名	2.0名

浅田地区在宅複合事業

訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田

1. 仕事もプライベートも、いきいきと、働き続けられる職場になる
 - (ア) 過度の緊張が続かないように、宅直勤務翌日の午後休みや3～4連続休暇を勤務表に取り入れた。
 - (イ) 個々の生活ニーズに合わせた働き方を表明し、休暇を譲り譲られ助け合う風土ができた。
 - (ウ) 直行直帰を積極的に取り入れ、職員各自が週2日は「ノー残業デイ」を実行した。
2. 多機関・多職種連携チームの一員としての役割を果たす
 - (ア) 訪問を通して確認した利用者の意思を多職種連携チームと共有し、サービスに反映させた。
 - (イ) 地域における公益的な取り組みとして、独居あるいは老々家庭の認知症や精神・知的障害の利用者に対し、24時間対応契約の有無にかかわらず状況に合わせ安否確認の電話を入れたことにより、急変や事故への早期対応ができ、利用者ニーズに応じることができた。
3. ケアマネジメントと訪問看護 サービスの質を保証する
 - (ア) ケアプランセンター浅田と訪問看護ステーション浅田とが連携し、医療機関からターミナル期の利用者を速やかに受け入れ、こまやかなサービス調整と看護を実施した。その結果、機能強化型訪問看護療養費Ⅱを継続算定することができた。
 - (イ) 定期的な合同事例検討により、利用者・家族を丸ごと支援していく視点を得た。
 - (ウ) 仕事をする上で大事にしていることを公言したことで、自分磨きを意識するようになった。
4. 業務の効率化を図る
 - (ア) 訪問看護は元よりケアマネジャーも、利用者宅訪問時にタブレット端末を活用し始めた。
 - (イ) 5S活動を行い、係りの呼びかけで個々の職員が無理無駄ムラを意識するようになった。
5. 防災への取り組みを形にする
 - (ア) 発災時に困らない対応方法を利用者・家族に情報提供した。
 - (イ) 利用者別 防災リストを作成した。
6. 磐田南部地域へ訪問をとおして、磐田地域に聖隷の訪問看護の存在を周知することができた。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション浅田）

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価（円）	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
162名	876件	10,512件	医療 11,715 介護 9,068	106,512千円	20.0名 (12.9)

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浅田）

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
1,177件	420件	14,041	3,951	0	0	20,416千円	3.0名 (3.0)

静岡県立浜松学園

入所では多種多様なニーズの利用者の受け入れを行い、2021年4月には21名の新規入園者を迎え、合計45名の利用者でスタートできることとなった。また、2019年10月に開設した通所の聖隷チャレンジ工房浜松学園においても着実に新規利用者が増加し、多くのニーズに応えることができる体制が整いつつある。そして、2022年4月には完全民営化として、当法人がその役割を担うことが決定した。従来の入所に限らず、通所や就職後の定着支援等の総合的な支援の提供に向け、2021年度は建物の増改築が計画されることとなった。今後も、安定した経営、地域ニーズの把握、新たな価値の創造の3つに重点を置き、地域から求められ信頼される施設運営を行いたいと考える。

【事業・運営計画】

1. 多種多様なニーズに応じた体制作り

(ア) 利用者の状態に応じた支援の提供

- ①選択制プログラム（就労準備コース・就労基礎コース）を導入し、利用者個々の能力や障害特性に合わせて訓練を開始できる仕組みを構築することができた。
- ②生活スキルを身に付けるための生活基礎訓練のプログラムを再構築することができ、新規入園者がスムーズに施設生活に定着できるようになった。
- ③新規作業種目として洗車、環境整備を導入し、利用者のできることを引き出すことができた。
- ④セカンドステップの体系化を行い、利用者の対人スキルを向上させる取り組みを行った。

(イ) 家族支援の充実を図る

- ①個別支援計画の振り返りや家族会の開催を行い、利用者の成長と課題を共有し、自立に向け保護者と協同して支援する体制が整った。
- ②週末帰省時等統一した関わりが持てるように、ご家庭に合わせた報告連絡相談を行うことができた。

(ウ) 目指す社会人像を利用者自身が明確にする

- ①ヒヤリハットの仕組みや作業効率性等を学べる環境を整えるため、下半期より作業場単位での会議を実施することができた。
- ②働くうえで必要な社会生活能力や対人技能を身に付けるために、ソーシャルスキルズトレーニングを定期的に行うことができた。
- ③ご利用者自身が強みと課題を理解できるよう、3か月に1度、利用者を交えた作業評価と振り返りを実施することができた。
- ④様々な職場体験ができる機会を作る予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため実行に至らなかった。次年度は感染対策を考慮した職場体験を検討する。
- ⑤職員が社会人としてのモデルとなるよう基準を設け、利用者に示すことができた。

(エ) 働き続ける支援体制作り

- ①就職者の状況把握を定期的に行い、課題を早期発見し対応にあたっていたが、利用者のモチベーションの低下や保護者のサポート体制の課題から離職者が高まっている傾向があり、次年度の課題とした。
- ②卒業する全利用者に対し、関係機関で移行支援会議を行い各機関の役割を明確化した。

2. 働きやすい職場環境づくりと安定した経営

- (ア) 定期的な防災訓練の実施とマニュアルの見直しをおこなった。また利用者と協同して防犯訓練を実施する予定であったが、未実施であるため次年度の取り組みとした。
- (イ) 朝夕の申し送り等で作業担当者、就労支援員、生活支援員同士が利用者情報を共有し、多面的にご利用者の支援を考えることができるようになりつつある。
- (ウ) マニュアルや業務分掌を理解し、業務効率化・事故件数の減少につなげることができた。
- (エ) 教育・行政機関、計画相談支援等と情報交換を行い、新規利用者の獲得に努めた。その結果2021年4月には21名の新入園者を迎えることができた。
- (オ) 職員一人ひとりが主体的に行動できるよう、職場目標管理を徹底することができた。

3. 地域ニーズを把握し、新たな価値を見出す

- (ア) 有識者等による「あり方検討会」で示された方向性と今後の在り方について、静岡県と協議を重ね、2022年4月に当法人への完全民営化が決定した。
- (イ) 特別支援学校卒業後の進路に困難を抱える児童の受け入れを積極的に行うことはできたがプログラムの検討までには至らなかったため、次年度の課題とした。
- (ウ) 施設見学や体験を通して、保護者・学校の声を吸い上げ、県と共有することができた。
- (エ) 聖隷チャレンジ工房浜松学園では、浜松市と協議を重ね、2020年10月より就労継続支援B型を開設することができた。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 利用者・職員ともにボランティア活動を行う計画をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、実施できなかった。
- (イ) 教育・行政機関、利用希望者等を対象とした施設見学や実習を実施することができた。
- (ウ) 施設周辺の木々を伐採することで視覚を減らし、防犯上のリスク軽減に努めた。また福祉避難所の協定における具体的な動きについては、次年度以降も浜松市と協議を継続することとした。

【数値指標】

	施設入所支援 (指定管理)	就労移行 (指定管理)	就労定着支援 (指定管理)	就労移行 (自主事業)	就労継続 (自主事業)
利用者定員	60名	60名	20名	10名	10名
利用者延べ人数	10,299名	8,341名	13名	2,032名	290名
一日平均利用者数	29名	34名	一名	8名	2名
稼働率	48.8%	56.67%	－%	59.9%	22.6%
稼働日数(延べ)	351日	246日	一日	244日	122日
単価 (一人一日当り)	3,676円	5,673円	26,628円	8,842円	2,087円
サービス活動収益	37,419千円	47,661千円	346千円	18,415千円	958千円
常勤換算職員数	7.2名	10.8名	一名	4.1名	1名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市高洲地域包括支援センター

2020年度は新型コロナウイルス感染症への対応が中心となった1年であった。地域共生社会に向けての「集いの場」等の活動や今後の新規計画も、コロナ禍での新しい生活様式を取り入れるために再検討が必要となったが、検討する会議自体が開催できないという足踏み状態が続いた。入居者には年中行事等の自粛、家族との面会を制限する等、感染防止のため以前とは異なる施設内での生活を模索することになった。

そのような中で、対面面会の代替えとしてオンライン面会を開始したことにより、遠方の親族と会話をすることができた。職員の研修については2019年度から準備した映像研修を活用することで集合研修の時より参加率が向上した等、新たな生活様式の中で新しい取り組みができた。これからも受け入れるべき環境の中で新たに出来ることへの挑戦を継続したい。

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する

(ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

- ①個々のニーズを把握し、「その人らしい」個別サービス計画書の作成はできているが、職員間の個人差があるため、今後もサービス担当者会議等でのOJTを継続していく。
- ②入院等で状態に変化があった入居者に対しては、退院前と退院後にカンファレンスを実施し、個別サービス計画書の見直しができた。
- ③コロナ禍であったため、家族を交えてのサービス担当者会議が開催できなかった。電話等で入居者の状態を伝え共有することで安心してもらうケースが多くあった。また、看取りの診断を受けている入居者に関しては、居室での対面面会ができるよう配慮した。
- ④入居者12名を施設で看取ることができた。各フロアでの振り返りも含めて年度末に研修(アンケート形式)を実施した結果を2021年度へ活かしていく。

(イ) ケアハウス

- ①2020年度の入居の公募が停止となったことで入居パスの実施及び検証はできなかったが、入居申し込み時に入居の必要性をスクリーニングする方法を浦安市と協議の上整えた。また、退去要件を浦安市へ提案した。
- ②新型コロナウイルス感染症対策に伴う自粛により閉じこもり状況が多発したことから、健康ウォーキングや上映会を行い、フレイル予防に努めた。
- ③懇談会・掲示を通じ、感染症・事故予防等の周知・啓発を行った。

(ウ) 通所介護

- ① 各利用者の目的や生活課題に合わせた個別機能訓練を実施できたことで、必要な生活習慣や生活行為が継続できた。
 - ② 地域ニーズに応えるため、独居世帯・老々世帯を対象に栄養価の高い朝食の提供や服薬管理サービスを継続した。
- (エ) 地域包括支援センター
- ① 新型コロナウイルス感染症の拡大や緊急事態宣言により公共施設や集会所の使用ができず、サロンが中止となったことで情報収集の機会が減った。関係機関と共催の介護予防サロンにおいては、参加者に Zoom 講座を行いオンラインでの開催は実施できた。また、2021年度より情報発信の手段として市民向けメールマガジンを開始していく。
 - ② 新町地域の特性である、マンション内の高齢化に伴う課題へ対応するためにネットワーク会議を民生委員と開催した。地域との関係構築のため、今後の定期開催への発展を見込んでいる。
2. 職員が専門職としてやりがいを持って仕事に取り組むことができる
- (ア) 正職員はラダーを実施し、自己の能力を客観的に把握し、レベルアップを図ることができた。また、定期的な目標参画面接も実施し、職員個々の強み・弱みを把握することができた。やりがいに繋げるまでには至っていないため、2021年度への継続課題となった。
 - (イ) 介護支援専門員の資格取得については、4名が受験し全員不合格であったため、コロナ禍における資格取得への支援方法を2021年度以降再検討する。
 - (ウ) ラダー実施と、法定研修や目標参画を実施し、職場会での伝達講習及び資料の閲覧により共有した。また、Webを活用した結果、法定研修参加率は2019年度比350%となった。
 - (エ) 新たに3名の介護周辺パート職員を採用し、入居者の居室、共用部等の整理整頓を実施し心地良い生活環境を提供することができた。
 - (オ) フィールドイノベーションプロジェクトの人材育成チームが中心となり、EPA候補生と無資格・未経験者育成システムのマニュアルや教育プログラムが完成した。2021年度の対象者から実践、評価していく。
3. 経営の安定化を図る
- (ア) 特別養護老人ホーム
 - ① 歯科衛生士を常勤で配属、日々の口腔内観察や定期的な嚥下評価の実施ができ、誤嚥性肺炎での入院者数が2019年度7名から4名へ減少した。
 - ② 退所から入所まで平均10.5日かかっている。(2019年度平均8.6日)
 コロナ禍により、事前訪問等に行けず情報収集に時間を要したことが要因であり、今後は、直接面会のみならず、ホームページ等に契約書等の必要書類やQ&Aを掲載し、オンライン化をすすめて、申込から入所までの期間短縮を図っていく。また、待機者情報進捗状況の可視化も行い、相談室内での情報共有を強化して機会損失を回避する。
 - (イ) 短期入所
 緊急のショートステイ利用の相談に対し、多職種で連携できたことで37名の受け入れを行った。そのうち措置受け入れは7名、緊急時の対応で課題もあったが、地域包括支援セン

ターや浦安市と連携しながら対応することができた。

(ウ) ケアハウス

①新型コロナウイルス感染症蔓延に纏わる緊急事態宣言や新しい生活様式により、地域交流は不活発であったが、「うらやす健康・元気コンソーシアム」での Web 体操を通じ、交流のきっかけを掴むことができた。

②空床期間短縮に向け待機者への関わり方を変更したが入居の公募停止により対応できなかった。

(エ) 通所介護

①高洲デイサービスセンター 登録者 64 名、一日平均利用 18.8 名を維持できた。

②猫実デイサービスセンター 登録者 73 名、一日平均利用 20.8 名を維持できた。

(オ) 3 名の介護周辺パート職員を新たに採用、介護周辺業務の可視化・整理を行うことで、介護職員の入居者へ係わる時間は増えた。また介護支援システム等の活用により勤務時間内で記録ができるよう業務見直しを進めた。

(カ) ミスト浴槽を導入、浴槽内での事故防止効果は勿論、ミスト浴槽に入りながら洗髪することができるため、業務時間の短縮にも繋がっている。

4. 防災体制の確立

高洲地区全体での実態に即した訓練実施やマニュアルの見直しを行い、また BCP マニュアル整備に着手した。

5. 地域における公益的な取組

(ア)浦安市新町圏域地域支え合い会議に参画し、コロナ禍での介護予防フェスタを実施した

(イ)うらやす健康・元気コンソーシアムにて、参加事業者と連携して WEB 体操を実施した。

(ウ)介護福祉士・社会福祉士・看護師の実習受け入れを実施した。

(実人数 13 名 延べ日数 72 日)

【数値実績】

	特養	短期	ケアハウス	高洲デイ	猫実デイ	地域包括	地域包括 (予防)	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	—	—	250 名
利用者延数	36,049 名	15,434 名	16,638 名	5,749 名	6,363 名	—	—	80,233 名
一日平均利用者数	98.7 名	42.3 名	45.6 名	18.8 名	20.8 名	—	—	—
稼働率 (%)	99%	85%	91%	75%	83%	—	—	—
稼働日数 (延べ)	365 日	365 日	365 日	306 日	306 日	—	—	—
一日当たり単価	—	—	—	—	—	—	—	—
サービス活動収益 (千円)	519,978 千円	220,798 千円	92,114 千円	44,337 千円	57,217 千円	25,575 千円	5,046 千円	965,065 千円
職員数 (常勤換算)	66.0 名	29.6 名	7.7 名	6.8 名	9.0 名	4.0 名	0.6 名	123.7 名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めた1年となった。施設の壁を越えて、浦安地区、千葉エリアで情報共有し対策を行った。入居の稼働率への影響は、緊急事態宣言の発令や面会制限があることで入居を見送るケース、入院期間の長期化等により、空床期間が増える等あったが、税引前当期活動増減差額の黒字が継続できた。一方で新規申込者数の減少による待機者の要介護4、5の割合が低下していることは、経営面の大きな課題である。

サービスの質の向上と働きやすい職場環境については、無資格・未経験者育成プログラムの完成とリフト浴4台の買替をすることができ、新入職員へのプログラム実践と入浴の仕組みづくりを2021年度に繋げることができた。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 最高かつ安全・安心なサービスを提供する
 - (ア) 介護記録システム内でケアプランを連動することにより個別プランの実施と記録を充実させることができた。
 - (イ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方については、ターミナルケア委員会での共有程度に留まった。
 - (ウ) 事故・感染・災害について委員会を中心にマニュアルの更新を行った。感染対策については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に施設単位、エリア単位で連携することができた。
 - (エ) 介護技術マニュアルの内、入浴・食事（口腔ケア）・配薬の見直しを行い、更新した。
 - (オ) 第三者評価の受審を前向きに検討したが、コロナ禍での状況では厳しく2020年度は見送りとした。
2. 多様な人材の確保・育成・定着に向けた取組みの強化と働きやすい職場づくり
 - (ア) 10月に自己評価を実施。集合する機会が減少したことで、施設長や役職者から直接伝える方法から、回覧方式へ変更したが浸透率は低いと感じている。
 - (イ) 年間を通じてケアサポーターを採用することができた。
 - (ウ) 無資格・未経験者を1名採用し、作成した無資格・未経験者育成マニュアルを導入することができた。2021年度新入職員に無資格者が多く、引き続きプログラムを実施し、

検証していく。

- (エ) ユニットリーダー候補者がいない状況となり、他施設の協力を得て 2021 年 4 月の人事異動で調整することができた。
- (オ) 業務改善の効果として有給休暇取得率と 3 連休以上の連続休暇取得率が向上した。
- (カ) 魅力ある職場づくりについて、下半期に着手予定であったが、新型コロナウイルスへの感染拡大防止に努めることが優先となり未実施である。

3. 地域共生社会の実現

- (ア) 障がい福祉サービスから介護保険サービスへの移行は、聖隷訪問看護ステーション浦安の利用者を中心に連携を図り、支援体制を整えている。
- (イ) 将来的な地域ニーズについては絞り込みが課題である。
- (ウ) 共生型サービスについては、問い合わせのみで利用には至らなかった。

4. 経営の安定と提供するサービスの見直し

- (ア) 空床ショートステイについては一定のリピーターを確保することができたが、入居については、待機者数が大幅に減少する等の課題があり、稼働率は予算未達成であった。
- (イ) リフト浴 4 台の買替えを実施。入浴の仕組みを変え、安全性の向上と業務省力化・生産性の向上への取り組みは、2021 年度重点項目である。
- (ウ) ICT プロジェクトを中心に丁寧な説明を繰り返し、WINCARE タブレットの使い勝手が向上し職員の使用率が上がった。

5. 地域における公益的な取組みと地域貢献

- (ア) 生活困窮者・生活保護受給者職場体験実習の受け入れ、高洲中学校特別支援学級との交流は、コロナ禍での状況では厳しく、前向きな検討に留まった。
- (イ) 上半期で福祉避難所マニュアルを更新し、下半期に訓練実施済。

【数値指標】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74 名	-	-
利用者延べ人数	25,465 名	288 名	-
一日平均利用者数	69.7 名	-	-
稼働率	94.3%	-	-
稼働日数（延べ）	365 日	242 日	-
単価（一人一日当たり）	15,400 円	18,284 円	-
サービス活動収益（千円）	392,165 千円	5,266 千円	397,431 千円
職員数（常勤換算）	48.9 名	1.0 名	49.9 名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2020年度は、地域病院と在宅をつなぐ中間施設としての役割を担う自施設にとって、新型コロナウイルス感染症拡大によって影響を受けた地域病院からの入居が2019年度までと比べて大きく減少し、病院を介さない在宅からの入所者を増やす等の代替策を講ずるも、経営的には非常に厳しい1年となった。

入所においては、年間稼働率が84.6%で対予算-3.4%（対前年-3.6%）で稼働予算は未達成ではあったが、従来型居室、ユニット型居室ともに1年を通じて在宅強化型を算定できた。通所リハビリテーションでは、地域のニーズに応えるべく開始した短時間型サービス利用者が順調に増えたが、コロナ禍における自粛利用者も増えたため、1日平均利用人数が34.7名で、対予算で-3.8名（対前年-2.6名）と稼働予算は未達成であった。このような新しい生活様式の中では、直接対面するのではなく、利用者や地域との非接触での接点づくりとしてオンラインによる面会やホームページ、YouTube等の活用が促進され、また介護現場革新のためのインカム機器の導入・検証も進んだ等、新たな取り組みにもチャレンジできた1年であった。今後も様々な課題をチャンスと捉え、地域における役割を最大化していく。

1. エビデンスに基づいた利用者本位のケアを追及する

- (ア) 2020年度は、排せつにフォーカスを当て多職種チームとして取組み、その結果として排せつ加算取得に繋がった。
- (イ) 認知症ケアの一環として、タブレットを用いて、昔の歌や映像を見てもらう等の回想法を日中ケアに取り入れた。
- (ウ) アクティビティプロジェクトを立ち上げるも、コロナ禍により活動は限られたが、工夫をしながら書道や利用者作品展等開催できた。
- (エ) 利用者個々の状況に応じて高さが変えられる昇降テーブルや超低床ベッド、多機能型車椅子等、利用者にとって必要な福祉機器は整備できた。
- (オ) 障がいの方へのケア能力を高めるため、年間を通じて様々な利用者の受入れを継続した。

2. 職員が専門性と自己実現を追及しながらも、多様な価値観を尊重し合える職場風土の醸成

- (ア) アクティビティプロジェクトを立ち上げ、利用者のしたいこと、職員のやりたいことの聴取は行ったが、その実現には至らず2021年度の継続課題となった。
- (イ) 従来型居室において、新たな勤務時間を導入し、円滑に利用者対応できる体制ができた。
- (ウ) 希望する全職員が4日以上連続休暇（年1回以上）を取得できた。
- (エ) お互いの良いところ見つけ伝え合う「ハピネスボックス」運動は2021年度以降も継続、部署単位での良いところを伝え合う予定。
- (オ) Webによる内外研修等に参加する機会が増え、視聴できる環境整備が課題となった。

3. 地域での役割を担うための戦略的経営 ～分かりやすいベテルの実現～

- (ア) 地域への更なる浸透を図り、入所、短期入所の稼働率年間88%以上を達成する

- ①従来型居室、ユニット型居室ともに年間を通じて在宅強化型を算定
- ②障がい者ショートステイは年間 148 日（12.3 日/月）受入れができ、今後の医療型取得に向けての準備をすすめた。
- ③入所件数は平均 14.6 件/月、年間稼働率は 84.6%と予算未達成。ミドルステイ（入所と在宅サービスの交互利用）の利用者は 20 名/年間（新規 8 名/年）であった。
- (イ) 通所リハビリテーションにおいて、短時間型サービスの利用契約数は 32 名と目標であった 35 名の達成には至らなかった。
- (ウ) 職員のアセスメント能力を高めることにより、感染症や転倒による入院、レベル 3 以上の事故を 2019 年度比 30%削減する目標であったが、結果は 2019 年度比 133.3%となった。
- (エ) 現場にとって必要なインフラ整備として、インカム機器 13 台を導入、特に入浴時の準備・誘導場面において業務時間削減効果があった。
- (オ) 分かりやすいバテルの実現を目指して、入所資料や空室状況等を随時ホームページに掲載、また YouTube にリハビリスタッフによる運動動画を更新する等の情報発信を行った。

4. 防災・防犯体制の強化

- (ア) 施設実態に合った、より実践的な防災訓練の実施を年間通じて行った。
- (イ) 防犯体制マニュアルを作成、その内容に即した防犯訓練を実施した。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 介護福祉士の実習受け入れ (東京福祉専門学校 2 名 34 日間)
- 管理栄養士の実習受け入れ (女子栄養大学 4 名 27 日間)
- 作業療法士の実習受け入れ (千葉県立保健医療大学 1 名 15 日間)
- (イ) コロナ渦による家族の収入減等で無低新規利用者延べ 6 名（875 日/年）及び生活保護利用者延べ 11 名（1,949 日/年）の利用があり、下半期は無料又は低額老人保健施設事業の基準 10%を達成した。

【数値指標】

	入所			通所リハビリ		合計
	従来	ユニット	短期入所	一般(短時間含)	予防	
利用定員	56 名	44 名	空床利用	45 名		145 名
利用者延べ数	17,640 名	11,570 名	1,676 名	9,764 名	946 名	41,596 名
一日平均利用者数	48.3 名	31.7 名	4.6 名	31.6 名	3.1 名	-
一日平均利用者総数	84.6 名			34.7 名		119.3 名
稼働率	84.6%			77.1%		-
稼働日数(延べ)	365 日			309 日		-
単価(1 人 1 日当り)	15,276 円			11,834 円		-
サービス活動収益(千円)	471,840 千円			126,743 千円		598,583 千円
職員数(常勤換算)	-			-		82.2 名

浦安せいれいクリニック

1. 年間外来利用者数は1,584名、一日平均利用者数は6.5名であった。1人当たりの単価は3,414円（対予算+114円）と予算を達成、外来診療のみならず、健康診断、予防接種等の保健予防活動収益は2020年度及び予算を大きく上回った。ただし、3月末で所長が定年退職することとなり、2021年度は休診することとなった。
2. 浦安高洲地区の利用者、入居者の初期診療、日常的な健康管理を行うことができた。
3. 1年を通じて、浦安高洲地区全体の感染症蔓延予防、拡大防止のための役割を担った。

【数値実績】

一日平均利用者数	年間利用者数	稼働日数	単価 (1人1日当り)	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
6.5名	1,584名	242日	3,414円	18,215千円	1.8名

聖隷ケアプランセンター浦安

2020年度は2度の緊急事態宣言が発令され、サービスが中断してしまうこともあった難しい1年であったが、浦安地区の法人内施設と連携を図りながら必要なサービス調整を行うことで、地域包括ケアシステムの役割を担いながら支援できた1年であった。

【事業・運営計画】

1. 地域包括ケアシステムの遂行

- (ア) 浦安ベテルホームと連携を図り在宅復帰ケースを支援することができた。レスパイトを目的にミドルステイの利用を促進することで在宅での生活の選択肢が増え、有料老人ホーム等の施設入所が2019年度より減少した。
- (イ) 近隣の病院や聖隷訪問看護ステーション浦安等と連携を図り、在宅での看取りのケースや医療依存度の高い方の支援をすることができたことで、特定事業所医療介護連携加算の要件を維持できた。

2. ご利用者が安心して相談等を行える質の高いサービスの提供

- (ア) 事例検討会の開催ができず、困難ケースについての知識や技術の習得には至らなかった。
- (イ) 目標参画で個人目標を明確にし、不得意分野へ挑戦することができた。

3. 安定した経営と働きやすい職場づくり

- (ア) 浦安地区の法人内施設と浦安市内の地域包括支援センターとの連携を図ることで、新規利用者の一定数の受け入りができた。
- (イ) 業務の見える化と標準化を1年かけて取り組んだことで、超過勤務時間の削減と有給休暇の取得につながり、働きやすい職場環境づくりが進んだ。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 浦安高洲地区の地域貢献イベントに参加予定であったが、新型コロナウイルス感染防止の為に、地域貢献イベントに参加することが出来なかった。

【数値実績】

一日平均利用者数	年間利用者数	稼働日数	単価（1人1日当り）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
—	1,702名	242日	15,867円	27,006千円	3.5名

聖隷訪問看護ステーション浦安

2020年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言発令により、感染対策のための事務費の増加、職員の休み調整などもあり、利用者と職員の安心と安全を最優先に、対策を続けた1年間であった。

また、職員の退職に伴う人件費の増大も課題となった。仕事の引継ぎのために採用職員と退職職員が重複する期間があり、予算以上の人件費となるも、何とか収支をあわせることができた。距離の離れたサテライトの運営と経営にも多くの課題を抱えながら、新年度に向け取り組んでいく。

1. 聖隷訪問看護ステーション浦安の特徴を生かし、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護ステーションになる

- (ア) ターミナルケア算定は、1～5件/月の在宅看取りを行っており、精神障がいの訪問は市内基幹相談支援センターなどからの新規依頼が増えている。アロマを使った看護ケアについても利用者や医師から高評価を得ている。
- (イ) 東京海上日動ベターライフサービス㈱の居宅介護支援事業所・訪問介護事業所と、情報共有しながら同一の利用者に訪問し、良好な連携が取れている。
- (ウ) 緊急事態宣言で、研修会などの開催は減ったが、市内の訪問看護ステーションとの連絡会は開始することができた。

2. 聖隷訪問看護ステーション浦安サテライト稲毛海岸の経営を安定させ、開設から3年で独立運営できる基盤づくりをしていく。

- (ア) 営業活動も続け1年間で利用者18名(+5名)、訪問件数133件(+70件)増となった。
- (イ) 聖隷訪問看護ステーション浦安本体とサテライトの訪問を兼務でこなす一体的な運営を行うことで、サテライトの経営を安定することができた。
- (ウ) サテライト職員として正職員を2名採用でき、訪問看護の質の向上の為の教育を行った。

3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る

- (ア) 職場目標の共有と目標参画は実施できた。役割分担しながら、職場運営している。
- (イ) オンライン研修による職員研修を行った。
- (ウ) 業務改善に向けて、記録方法などを検討し、業務短縮を目指すことができた。

4. 地域における公益的取組

- (ア) 建物内併設のケアローソンにて、月の一度の健康相談を継続した。

【数値実績】

	介護（有償含む）		医療		合計		
	浦安	サテライト	浦安	サテライト	浦安	サテ	計
利用者	592名	106名	366名	52名	958名	158名	1,116名
訪問件数	3,406件	648件	2,559件	486件	5,965件	1,134件	7,099件
単価（1件当たり）	9,131円		10,566円		9,848円		
サービス活動収益	37,721千円		31,908千円		69,630千円		
職員数（常勤換算）					平均 10.2名		

松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
松戸愛光園ケアプランセンター
聖隷はぐくみ松戸

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により松戸愛光園の各事業で様々な影響があった。コロナ禍で感染対策を行いながら事業を継続する中で、インターネットを活用した家族面会や職員研修、採用活動での施設WEB見学など新たな取り組みを試行錯誤し実施できた。

今後も感染対策を継続し、利用者と職員の健康を守りながら地域共生社会実現に向けて取り組んでいく。

1. 地域共生社会実現に向けた高齢者・障がい者サービスの提供

- (ア) 2021年度当初に新たな障がい者生活介護サービス開設を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり開設を2022年度に延期した。
- (イ) 利用者ニーズに合わせた個別ケアの充実を図りながら、25名の方について看取りケアを実施できた。
- (ウ) 通所介護事業での認知症予防を継続することができたが、機能訓練は専門職の確保が進まずに個別機能訓練を十分に実施することができなかった。
- (エ) 居宅介護支援事業では、地域の医療機関との連携を図りながら医療依存度の高い利用者への支援を積極的に行うことができた。
- (オ) 居宅介護支援事業・相談支援事業での連携を深め利用者支援を実施できた。

2. 多様な人材が集まる魅力ある職場づくりと人材育成

- (ア) 新記録システム導入に伴い記録業務の標準化を進めることができた。
- (イ) 職員の各専門職ラダーを実施し、次年度に向けてWEB学習環境導入をすすめることができた。
- (ウ) 魅力ある職場づくりを進めることで、職員満足度を高め離職率の低下に繋げることができた。
- (エ) コロナ禍の学生実習受入れは、感染対策について各学校と協議を重ね、有効な対策を実施し実習の受入れを行った。2021年4月に3名の新卒者採用に繋げることができた。

3. 安全性や効率化を意識した設備更新

- (ア) 新記録入力システムとモバイル機器の導入により、記録のペーパーレス化を実施できた。また、記録に係る業務の省力化も行えた。
- (イ) コロナ禍で十分な準備が難しく空調設備・送迎車両更新については延期した。

(ウ) 入浴機器についても選定等が進まず更新を延期した。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 新型コロナウイルス感染症の影響で松戸ニッセイエデンの園と共に実施していた、チャリティバザー、祭りの相互協力、地域清掃活動などについては中止となった。

(イ) 地域の福祉避難所として機能の充実を図れるように、松戸市と連携し必要な物品を準備することができた。

【数値実績】

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護	障害	介護	総合事業	障害
利用者定員	103名	21名		34名		
利用延数	35,909名	6,331名	58名	5,442名	1,420名	318名
一日平均利用者数	98.3名	17.3名	0.1名	17.6名	4.6名	1.0名
稼働率(%)	95.4%	84.2%		68.4%		
稼働延日数	365日	365日		309日		
単価(一人一日)	15,116円	15,419円	14,426円	11,493円	4,168円	10,482円
サービス活動収益(千円)	542,804千円	98,460千円		71,799千円		
職員数(常勤換算)	67.6名	12.2名		11.8名		

	ケアプランセンター		障害者(児)相談支援事業
	介護	予防	
利用者定員	—		—
利用延数	1,313名	225名	445名
一日平均利用者数	—		—
稼働率(%)	—		—
稼働延日数	—		—
単価	16,838円	5,425円	14,911円
サービス活動収益(千円)	23,469千円		6,635千円
職員数(常勤換算)	4.4名		1.6名

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園
横須賀愛光園 デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター
聖隷訪問看護ステーション横須賀
聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷ケアプランセンター横須賀

2020年度は、施設の抱える様々な課題を改善しつつ、中長期的な事業展開をすすめるため、大規模修繕とIoT機器も含めた設備投資を行う計画としていた。しかし、新型コロナウイルス感染症への対応などの状況変化と、施設改修における補助金活用の可能性が発生したため、それら計画を2021年度へ持ち越すこととした。

コロナ禍による様々な影響はありつつも、スタッフも交えたプロジェクトの開始や短期入所における障がい者ニーズへの対応の拡大など着実に実施ができ、各事業ともに安定した事業運営が継続できたことは、職員一人一人の努力と地域の利用者の協力の賜物であった。

【施設理念】 『安心して、明るく楽しく生きる』

【経営方針】

1. 地域ニーズに合わせて連携し、切れ目のない障がい者も含めた地域福祉を展開する
2. 互いに補い合って、安全でやりがいのある職場風土の醸成
3. 職員一人一人の資質向上と多様な人材が活躍できる体制の整備
4. 決められた時間で良質なサービス提供

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに合わせた共生型サービスの展開
 - (ア) 1階部分の改修については、新規事業開設を含めて2021年度計画へ変更とした
 - (イ) 感染予防の観点から空床利用指定ベッド数の増加は未実施としたが、障がい短期入所のリピーターの増加を図ることができた
 - (ウ) 通所介護において、個別機能訓練加算の算定を開始することができた
2. 働き方の改革と多様な人材の確保、育成
 - (ア) 事務業務の課題の抽出、在宅事業も含めた一体運営に向けた準備に取り組むことができた
 - (イ) 厨房の改修についても2021年度計画へ変更し、改修後の運用も含めた準備をすすめていく
 - (ウ) IoT機器の活用による働き方変革、魅力作りを目的とした横須賀わくわくプロジェクトを開始することができた
 - (エ) eラーニングの導入と、集合しない方法での研修への活用の試行ができた
 - (オ) 36協定の遵守に係る意識付けや腰痛予防に係る取り組みを継続することができた
3. 各事業が利用者一人一人に合わせて質の高いサービス提供を行い、経営の安定化を図る
 - (ア) 特別養護老人ホーム

- ①eラーニングの活用による研修や勉強会の実施に取り組むことができた
 - ②感染予防に関する取り組みや研修を年間を通じて実施できた
 - ③補助金の活用により Wi-Fi 環境の整備ができ、ケアプランや申し送りのシステム活用を開始できた
 - ④利用者の重度化に伴い、入院の増加等がみられ入所ベッド稼働率は97.5%にとどまった
- (イ) 短期入所
- ①記録システムを活用した在宅事業との情報共有について検討し、運用を開始した
 - ②緊急事態宣言中の利用控えなどの影響もあり、稼働率は予算未達の82.3%となった
- (ウ) デイサービスセンター
- ①改修等未実施ではあるが、個別機能訓練加算の算定について開始することができた
 - ②介護支援システムの活用をすすめ、記録に係る業務の一部取り組みができた
 - ③共生型生活介護における提供活動については、具体的な計画や実施ができなかった
- (エ) 西第二地域包括支援センター
- ①介護予防、権利擁護啓発活動の計画はできたが、感染予防を考慮し、地域での集合による活動の自粛が余儀なくされた
 - ②市施策にあわせて生活支援コーディネーターの配置準備ができた
- (オ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀
- ①岩戸養護学校との連携による生活支援に取り組むことができた
 - ②横須賀愛光園の通所介護や短期入所との看護、機能訓練の情報共有の仕組みを検討し開始できた
 - ③ワークライフバランスを意識し、超過勤務の削減を推進できた
- (カ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀
- ①外部研修の中止や自粛を受け、eラーニングの活用に取り組むことができた
 - ②けあピアノートアプリの導入について参画し、連絡方法、記録事務処理方法の整理、転換を開始することができた
 - ③移動支援については、感染予防の観点から不要不急の調整を行い、実績の減少がみられた
- (キ) 聖隷ケアプランセンター横須賀
- ①相談支援にかかる研修等の中止にともない、人材育成について見直しが必要となった
 - ②地区内連携の仕組みを検討し、システムを活用した情報共有の仕組みを開始できた
 - ③特定事業所加算Ⅱの取得が継続できた
4. 地域における公益的な取り組み
- (ア) 地域行事や地域へ向けた福祉講座などについては中止となり、清掃活動等の取り組みにとどまった
- (イ) 地域ボランティアセンター運営への参加については継続できた

【数値】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括 支援センター
	従来型	ユニット型			
利用者定員	64名	40名	16名	30名	—
利用延数	22,752名	14,244名	4,810名	6,907名	—
一日平均利用者数	62.3名	39.0名	13.1名	22.4名	—
稼働率(%)	97.4%	97.5%	82.4%	74.7%	—
稼働延日数	365日	365日	365日	308日	—
単価(1人1日)	12,471円	15,134円	11,699円	9,631円	—
サービス活動収益	285,294千円	215,569千円	59,552千円	66,548千円	35,845千円
職員数(正・エA)	26.2名	19.3名	6.1名	3.7名	4.0名
職員数(パ・ア)	8.3名	8.8名	1.0名	5.2名	1.1名

	聖隷訪問看護ステーション横須賀		聖隷ヘルパーステーション横須賀			
	介護給付	医療給付	介護給付	総合事業	自立支援	有償等
月平均利用者数	123名	45名	87名	11名	27名	—
月平均訪問件数	607件	292件	1,021件	47件	272件	—
利用延時間数	—	—	9,894時間	455時間	3,829時間	183時間
単価	11,162円/件	12,104円/件	4,122円/時間	4,052円/月	4,504円/時間	—
サービス活動収益	126,179千円		71,233千円			
職員数(正・エA)	8.0名		6.0名			
職員数(パ・ア)	5.6名		2.0名			

聖隷ケアプランセンター横須賀								
年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益	職員数	
介護	予防	介護	予防				正・エA	パ・ア
1,622件	108件	17,157円	5,129円	33件	4,885円	28,738千円	3.0名	2.0名

宝塚せいの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター、聖隷ケアプランセンターすみれ
宝塚すみれ栄光園園内保育所

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の対応に追われた1年であった。3月には、近隣の福祉施設でクラスターが発生し、4月には緊急事態宣言が発出された事により、デイサービスセンター、園内保育所の利用控えが発生し、第1四半期の稼働率は厳しいものとなった。入所に関しては、年間の退居者数は28名と2019年度と同数であったが、入院者数は2019年度より18名減少し、安定した運営を行うことができた。当初は情報の混乱や物資の不足もあり、職員の不安は大きかったが、法人として物資の確保ができ、正しい情報や施設の取り組みを分かりやすく伝えることを継続したことで、職員の不安感の軽減を図り、施設内での感染拡大は出さずに済んだ。

利用者を支える運営体制では、職員間の横の繋がりを意識し、採用年度・勤務年数・役割に応じた研修の実施や、様々な介護機器導入と合わせて、働きやすい環境整備に努めた結果、退職率を下げる事ができた。また、「介護現場における非介護業務」の仕分けは、高齢者就労によるフロア業務だけでなく、障がい者就労による事務業務の仕分けまで進めた。

新型コロナウイルス感染症に伴う接触機会の低減を考えた、家族との面会制限を始めとする外部者の立入り制限は、入居者・家族を繋ぐ職員にとって、これまでと違う手法の試行錯誤が続いた。地域においても、様々な企画や行事が中止となったが、顔の見える関係構築が出来ており、連絡や相談対応は継続して行う事ができている。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者一人ひとりに安心と穏やかな暮らしを提供する
 - (ア) 生活の場として日常生活を大切にするために行っている「設えコンテスト」は、リビングだけでなく浴室やベランダも含めて取り組むことが出来た。
 - (イ) 新型コロナウイルス感染症拡大から受診を控えたいという家族の思いもある中、介護職・看護職共に入居者の体調の変化に気を配り、必要な受診は行う事で体調管理に努めた。
 - (ウ) ボランティアによる企画や外出が出来ない中、季節感を大切に企画を行った。
 - (エ) WINCAREによる、支援計画やアセスメント作成が浸透した。
2. 職員がいきいきと働ける職場環境、職員教育の推進
 - (ア) 新型コロナウイルス感染症拡大を防止するための資材確保、備品の設置から、ケアプランセンターにおいては時差出勤を取り入れた。
 - (イ) 宝塚地区施設を回るオリエンテーションは出来なかったが、春・秋の2回に、聖隷・地区の歴史、ケアの基本といった聖隷スタンダードとなる研修は継続して実施した。

- (ウ) 職員間の横の繋がりを意識した、採用年度・勤務年数・役割に応じた研修を実施した。
- (エ) 課長1名・係長1名の登用を行った。リーダーを含め、多くの職場で経験を積むためにも、施設内異動にも積極的に取り組んだ。
- (オ) 介護ロボット導入では、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業を活用し、就寝時見守りセンサー・移動リフトの導入を行った。
- (カ) 介護非専門職の導入による、介護職の専門性向上の取り組みに加え、障がい者の雇用を活用し、介護現場の事務作業仕分けを進めた。
- (キ) デスクネットを活用し、企画書・依頼書・議事録の決裁期間の短縮と情報の共有化を進めた。

3. 宝塚せいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供

- (ア) 待機者管理ソフトを活用し、宝塚地区聖隷入所6施設の情報を一元管理した。
- (イ) 防災委員が中心となり、火災を想定した総合防災訓練を実施。また、アンピックによる緊急通報訓練も実施した。
- (ウ) 事業所内保育所、長期休み時の自習室解放利用は、他の聖隷事業所からも利用があった。
- (エ) 宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センタープロポーザルに参加し、2021年度より受託運営が決定した。

4. 地域に信頼される施設運営と地域における公益的な取組

- (ア) 地域サロンや運動会は休止が相次いだが、地域コミュニティ会議には定例参加を行った。
- (イ) 宝塚市社会福祉法人連絡協議会に参加し、「ほっとかへんネット宝塚」の第2版を発行した。

5. 環境活動への取組

新しい施設として設備機器の省エネルギー化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の温度・時間設定など、利用者へ影響でない範囲内で実施した。

【数値実績】

	特養入所 (ユニット)	短期 入所	通所介護 (一般)	居宅介護支援		合計
				介護	予防	
利用者定員	100名	20名	30名			
利用者・請求延べ数	34,856名	6,860名	6,520名	2,085件	244件	
一日平均利用者数	95.5名	18.8名	21.3名			
稼働率	95.5%	94%	70.9%			
稼働日数(延べ)	365日	365日	309日			
単価(一人一日・件当り)	円	円	円	16,128円	3,694円	
サービス活動収益(千円)	573,287千円	109,926千円	74,865千円	37,164千円		795,242千円
職員数(常勤換算)	72.7名	13.3名	17.3名	6.7名		110.0名

宝塚せいれいの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

2020年度は新型コロナウイルス対応に追われた1年となった。その中でも、様々な対策の結果、新型コロナウイルス感染症陽性者が発生しなかったことは入居者・家族の協力と、職員の努力が結実したものと考えている。2020年度の取り組みとして、勤務体制の再構築を行った。利用者にとって365日24時間の安心安全の体制を作るとともに、職員のワークライフバランスを促すことができた。具体的には、2019年度より取り組んでいる業務を「介護業務」と「非介護業務」に分類し、非介護業務は資格のない職員に担って貰う仕組みは恒常化できた。また職員の欠員が起こっても、柔軟な勤務の対応が可能になったことと合わせ、超過勤務時間が2019年度に比べて、大幅に削減できた。また新型コロナウイルス感染症対応としての一環で職員のメンタルヘルスのフォローアップとして、宝塚せいれいの里全体で、1年目・2年目・3年目職員と中途採用職員を中心に誰もが相談できる環境づくりを目指した結果、宝塚せいれいの里全体で離職率を2019年度より抑えることができた。業務の効率化を目指して介護ロボットの導入を積極的に行い、睡眠時見守りセンサーを導入し、夜間の見守り業務の一部を効率化し、職員の業務負担を軽減した。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【事業報告】

1. 入居者の状態・多様なニーズに応じたケアサービスを提供できる体制
 - (ア) 職員の観察能力を上げたことと、睡眠時見守りセンサーの機能を最大限活用し、入居者の状態変化に早期に気づき、入院日数を2019年度より15%（110日）削減した。
 - (イ) 入居者の状態に合わせてフロア間の居室移動やユニット間の移動を行った。
 - (ウ) 新型コロナウイルス感染症対応のため、外出企画はできなかったが、室内でも楽しめるレクリエーションを職員が積極的に企画し、実施した。
2. 職員がいきいきと働ける職場環境、職員教育の推進
 - (ア) ユニット形態に拘らずに日中に職員を再配置する勤務体制を構築した。1.5夜勤の導入により、日中時間帯に職員教育を実施できるようになった。
 - (イ) 職員間の関係性の質を高め、新型コロナウイルス感染症対応があってもチーム力の向上が行えた。勤務年数、役割に応じた段階別で研修を実施した結果、宝塚せいれいの里全体として離職率を2019年度14.9%に対し9.1%に抑えることができた。
 - (ウ) 利用者の状態変化をいち早く察知するために睡眠時見守りセンサーの導入を27台行い、看取り介護の入居者急変を素早く発見できた。
3. 宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供
 - (ア) 記録システムのWINCAREを中心として、多職種協同、在宅サービスと施設サービスの連携が一層進んだ。

(イ) 職員自らが新型コロナウイルス感染症対応の研修を実施することで、職員各々にBCPの概念に気付き、「サービスが途切れない福祉」の実現に近づくことができた。

(ウ) 緊急事態宣言が発令され、家庭で子供の面倒を見るために仕事を休む職員を何とかするために、事業所内保育所は閉所せず、小学生自習室を開設した。

4. 地域に信頼される施設運営と地域における公益的な取組

(ア) 新型コロナウイルス感染症の対応のため、企画していた地域活動は中止となったが、地域の方々からの手づくりの感染対策エプロンの支援を受けるなど、地域とのつながりを継続することができた。

(イ) 感染状況に合わせて、利用者との接触を極力減らした中での実習生の受け入れを行った。

5. 環境活動への取組

新しい施設として設備機器の省エネルギー化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の温度・時間設定など、利用者へ影響でない範囲内で実施した。

【数値実績】

	軽費老人ホーム (特定施設入居者生活介護)
利用者定員	70名
利用者延べ数	24,491名
一日平均利用者数	67.1名
稼働率	96.0%
稼働日数(延べ)	365日
単価(一人一日当たり)	14,462円
総収入(千円)	36,026千円
職員数(常勤換算)	46.5名

宝塚せいの里

介護付き有料老人ホーム 結いホーム宝塚

2020年度における入居契約状況は、新型コロナウイルス感染症の影響、近隣の新規施設開設もあり、入居申込者数の減少はあったものの、継続して入居契約数100名を維持することができた。宝塚地区内施設の待機者情報を共有し、入居申込書の書式を共通にしていること、宝塚地区内における聖隷の在宅事業所の認知度と評価が高いことが入居申込者の確保につながっている。

2020年度の退居者数は27名、年間退去者数は年々微増している。また、27名の内、12名の方が施設内で逝去され、過去最多であったが、終の棲家としての役割を担える体制が整ってきている。一方で、新入居者の内訳でも病院や老人保健施設から在宅復帰が難しくなり入居してくる方が半数近くを数える。2020年度の特定施設入居者生活介護の平均稼働率は95.2%で、予算をやや下回る結果となり、入院とならないよう日頃から健康管理に努めること、入退去の調整をスムーズに行うことが必要である。

新型コロナウイルス感染症の影響で、ボランティアを中心に提供していたアクティビティは中止を余儀なくされ、面会制限により家族との外出やコミュニケーションの機会も減ってしまい、入居者の生活には大きな変化が生じた。

そのような中で、「高齢者生きがい就労」にて採用した介護補助者と専門職との業務の仕分けと、介護ロボットの導入を通して、生産性の向上と業務の効率化・省力化に取り組んできた。無線LANエリアの拡大とタブレットの積極活用、就寝時見守り支援システム・床走行式リフトや、オンライン面会予約システムに関しては試行を終え、導入段階に来ている。これらの活用と評価が2021年度の大きな取り組み事項となる。

職員教育・研修においては、専門研修だけでなく、採用年度・勤務年数・役割に応じた段階別で実施し、職員間の繋がりを良くし、働きやすい職場環境の整備に努め、離職率を下げることができた。

地域においても、様々な企画や行事が中止となったが、顔の見える関係構築ができており、連絡や相談対応は継続して行うことができている。

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供

- (ア) 職員全体研修の中で、施設理念・経営方針・行動指針を確認し、共通の価値の下でサービスを提供するよう伝えた。
- (イ) 面会制限を敷く中で、家族に向けた情報提供が不足がちであった。2020年度内にオンライン面会予約システムを試行。写真等を使用し、タイムリーに家族に情報発信ができることから、2021年度に本稼働を行う。
- (ウ) レクリエーション・リハビリテーション機器を導入し、入居者同士の会話や認知症の方の活動が促進された。
- (エ) 外部講師等による専門的なアクティビティを求める入居者の声に対し、提供業者を試行した。2021年度導入し、質の高い余暇活動の充実を図る。
- (オ) 外出が制限される中、季節感を大切に食事提供を行った。

2. 職員がいきいきと働くことができる職場環境、職員教育の推進
 - (ア) 無線 LAN エリアの拡大とタブレットの積極活用で、記録時間の短縮ができた。
 - (イ) 就寝時見守り支援システムを導入した。2021 年度、正式運用を予定している。これにより入居者の睡眠状況を把握し不要な訪室を避け、かつケアが必要な時を把握し対応できることとなり、夜勤者の負担軽減にも繋がる。また、床走行リフトを 3 台導入し、入居者の安全性の向上と職員の身体的負担の軽減が図ることができた。
 - (ウ) マニュアルの見直し、新人チェックリストを活用し、共通理解のもとで職員育成を行った。
 - (エ) 業務の切り出しを行い、介護補助者の業務内容を広げることができた。

3. 宝塚せいらいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供
 - (ア) 定期的なパンフレット郵送・待機状況案内を通じて、入居契約数 100 名を維持できる待機者を確保することはできた。聖隷在宅事業との情報連携とまではいかないが、紹介先としての存在は非常に大きいため、より良い連携は継続する。
 - (イ) 防災委員が中心となり、火災を想定した総合防災訓練を実施した。また、アンピックによる緊急通報訓練も実施した。
 - (ウ) 事業所内保育所、長期休み時の自習室開放利用は、他の聖隷事業所からも利用があった。

4. 地域に信頼される施設運営と地域における公益的な取組
 - (ア) 新型コロナウイルス感染症の影響で、施設の開放や地域住民の受け入れは難しい状況であった。
 - (イ) 地域における住民活動も休止が相次いだ。地域コミュニティ会議には定例参加を行った。

5. 環境活動への取り組み

新しい施設として設備機器の省エネルギー化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の温度・時間設定など、利用者へ影響が出ない範囲内で実施した。居室内エアコンの故障や部品の劣化が増えたため、全居室のエアコンを入れ替えた。省エネ製品の選択により、電気代の低減が期待できる。

【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利用者定員	100 名
利用者延べ人数	34,755 名
一日平均利用者数	95.2 名
稼働率	95.2%
稼働日数（延べ）	365 日
単価（一人一日当たり）	17,228 円
サービス活動収益（千円）	598,375 千円
職員数（常勤換算）	62.1 名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

2020年度は、開設42年目を迎え宝塚市で最も歴史の長い特別養護老人ホームとして利用者の生活環境の整備と職員の労働環境の充実の実践を行った。多床室の利用者の家族が面会の際にゆっくりと過ごすスペースがなかったため、フロアの一角を面会スペースに変更することができた。また、ICT機器やケアパートナーの業務範囲を拡大することで職員の業務効率改善に取り組むことができた。ゆとりのできた時間は利用者へのケアにしっかりと時間を使うことができ、サービスの質の向上に繋がった。宝塚エデンの園附属診療所との連携は引き続き強化できており、医師の往診、作業療法士によるリハビリテーションの評価を実践することができた。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、上半期は短期入所生活介護で稼働率が予算を下回ることもあったが、入院者の減少もあり、年間を通して、経常利益で介護老人福祉施設、短期入所生活介護合計で予算を大きく上回ることができた。

1. 利用者を守る

(ア) そのひとらしく最期を迎えるための環境を充実

①看取りケアで必要とする物品の入替を実施することができた。

(イ) 特定行為（喀痰吸引・経管栄養等）の対応ができる介護職員を8割以上に増加

①7割以上に増加することはできたが、8割を超えることができなかった。

(ウ) 施設内で利用者と家族が過ごせるスペース作り

①各フロアに1か所ずつ利用者と家族が過ごせるスペースを作ることができた。

②面談が中止となっていたため、作ったスペースで過ごして頂くことはできなかった。

(エ) 家族や外部資源を活用しながらの外出

①新型コロナウイルスの影響もあり実施することができなかった。

(オ) 宝塚エデンの園附属診療所との連携継続により入居者の健康が安定することを目指す

①利用者の安心のため、宝塚エデンの園附属診療所との医療協力体制を引き続き継続することができた。

2. 職員を守る

(ア) 全員一律の役割分担から個性を踏まえた役割分担へ変更する

①一部で職員それぞれの強みを活かした活動を実施できたが、全体的には反映できなかった。

(イ) 外部研修・交換研修を積極的に実施する

①新型コロナウイルスの影響もあり、交換研修を実施することはできなかった。

②外部研修はリモートを活用しながら参加できる研修を受講することができた。

(ウ) ケアパートナーの担える業務範囲の整理と拡大を実施する

①ケアパートナーに周辺業務の範囲の拡大を実施する以外に、食事介助は排泄介助を担える職員も一部増加することができた。

(エ) ナースコール連動型インカムの活用を活性化させることで、業務効率化を目指す

①インカムを増台したことにより、正職員のみならず介護パート職員や相談員もインカムを装着することができ、情報の共有を強化することができた。

- ②緊急時にはインカムを使っただけに職員間での役割分担が実施できたため、職員は安心してケアに対応することができた。
- (オ) WINCARE の更なる活用により介護職員の事務作業を削減する
 - ①WINCARE の活用方法を検討することは実施しているが、事務作業を大きく削減できる成果を得ることはできなかった。

3. 地域を守る

- (ア) 自治会への積極的な参加を行い、待つのではなく出向く地域活動を進めていく
 - ①新型コロナウイルスの影響もあり、地域への積極的な活動をすることはできなかった。
- (イ) 開かれた施設となるため、デイルームを開放して地域活動の受け入れを実施する
 - ①新型コロナウイルスの影響もあり、デイルームでの活動を受け入れることはできなかった。
 - ②地域で必要とされる資料作成時に施設の設備を活用する機会を提供できた。
- (ウ) ゆずり葉台自治会と共に防災・防犯訓練の合同実施などを呼び掛ける
 - ①新型コロナウイルスの影響もあり、合同での実施はできなかった。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域に向けて介護技術に関する勉強会資料の配布を実施。
- (イ) 安倉団地で地域住民との清掃活動を実施。

【数値実績】

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 人	15 人	85 人
利用者延べ人数	25,148 人	5,005 人	30,153 人
一日平均利用者数	68.9 人	13.7 人	82.6 人
稼働率	98.4%	91.4%	97.2%
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	365 日
単価(一人一日当り)	12,856 円	12,617 円	
サービス活動収益(千円)	325,107	63,231	388,338
職員数(常勤換算)	45.8 人	6.3 人	52.1 人

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区中洲在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚

聖隷逆瀬川デイサービスセンター

2020年度、宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）の運営は、デイサービスにおいては新型コロナウイルス感染症による利用控えもあったが、安定して推移することができた。ヘルパーステーションにおいては、家事援助から身体介護中心への移行を行い、利用者のニーズにこたえる体制づくりを行ってきた。聖隷ケアセンター宝塚として、各サービスが専門性を生かし、地域住民を支えていく体制が強化された。

1. 利用者のニーズに対応できる事業所作りをする

(ア) 身体介護に特化した職員の育成に重点を置き、医療依存者への受け入れを広げる。

①喀痰吸引資格保持者が2名増え9名となり、医療依存者の受け入れを広げることができた。

(イ) 要支援者への新たなサービスを見出していく。

①新型コロナウイルス感染症の影響もあり、新たなサービスに取り組むことはできなかった。

2021年度はその中でも、どのようにすれば行えるかを検討していく。

(ウ) 認知症ケアに特化したサービスを継続して運営する。

①OJT等実施し、職員間で共有を図るとともに、継続して、受け入れを行うことが出来た。

(エ) 第二地区のデイサービスで移管を含めた連携を強化して、地区全体で利用者を支えていく。

①利用者の状態変化・希望に合わせて移管を行い、支えていくことが出来た。

(オ) 宝塚市東部に訪問介護の拠点を設ける。

①花屋敷せいの里内に拠点を設けることができ、宝塚東エリアの活動が広がった。

2. 業務のICT化を進めていく

(ア) WINCAREを活用して業務のペーパーレス化を図る。

①今まで紙に記載していた利用者の記録は、すべてWINCARE上に移行できた。

(イ) WINCAREを活用して他職種との情報交換や密な連携を図る。

①WINCAREを活用したことで、より密な情報交換や連携が図れた。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 地域住民に向けて、専門職が講座を行う。

①新型コロナウイルス感染症の影響により、講座を実施することが出来なかった。

(イ) 地区内の拠点4か所において、地域住民が集える活動・参加・協働の場を創造する。

①住民が集える場を持つことが出来なかった。2021年度以降も継続して、新型コロナウイルス感染症の影響があると予測されるが、感染予防策を行い、実現していきたいと考える。

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間訪 問件数	年間訪 問件数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (回)	予防 (月)		
96.3人	937件	11,244件	52人	619人	4,202円	18,923円	79,549千円	18.8名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (回)	総合 (月)		
26.8人	691人	8,294人	19人	222人	10,612円	41,154円	97,199千円	16.2名

宝塚第二地区中洲在宅複合事業（公益事業）

訪問看護ステーション宝塚
 聖隷ケアプランセンター宝塚
 逆瀬川地域包括支援センター

2020年度、宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）の運営は、地域住民・医療機関からの相談窓口である地域包括支援センターからケアプラン、医療的ニーズの高い利用者、ターミナル期の利用者を訪問看護でと、それぞれが専門的知識で利用者を支える体制づくりが構築できている。聖隷ケアセンター宝塚として、各サービスが専門性を生かし、地域住民を支えていく体制をさらに強化していく。

1. 在宅で最期まで過ごせる支援の提供

(ア) 施設を含め、地区内の看護・セラピスト・介護・相談が連携し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を支援できる体制を強化する。

- ①医療的ニーズの高い利用者、看取りの利用者の支援を、療養相談・介護保険申請・ケアプラン作成・訪問や通所サービス・医療の提供など各職種が連携して、関わる事ができた。
- ②訪問看護においては、ターミナルケア他の算定要件を満たし「機能強化型訪問看護管理療養費Ⅰ」を算定した。次年度も継続。

(イ) 継続的に特定事業所加算Ⅳを算定できる受け入れ体制を作る。

- ①ケアプランにおいてターミナルケア加算5件・退院時連携加算45件算定により、2021年度特定医療介護連携加算が取得可能となった。

(ウ) 関係機関や地域住民に対して、ACPに関する啓発を行う。

- ①ケアセンター内職員に向け、ACPの概念を学ぶために研修会を実施した。また、ACP啓発のための地域住民向けパンフレットを作成中である。

(エ) 地域ケア会議を活用し、関係機関・地域住民との一体的な支援をマネジメントする。

- ①個別の課題・地域課題における地域ケア会議を開催した。開催数は限られたが、関係機関・地域住民とともに、共同する場を持つ事ができた。

2. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成

(ア) 法人内事業所の連携強化を行い、職員同士がフィードバックし合える関係性を構築する。

①ACP の研修でグループワークやロールプレイを通して、スタッフ個人やそれぞれの職種についてお互いの理解を深めた。

(イ) 他施設も含め、リーダーを担える職員を把握し、育成を目的とした人事交流を行う。

①ケアセンター内の委員会などスタッフがリーダーシップをとり、取り組んだ。

②各事業とも育成を目的として意図的に人事交流を図った。

3. 資源の効率的活用と生産性の向上

(ア) 事務職員の業務内容・配置を見直し、効率的な事務体制を構築する。

①経理と労務をケアセンター内で集約しスタッフを配置した。各事業の事務職員の定数を見直した。

(イ) コスト削減と職場環境改善の観点から、ケアセンター全体のレイアウトを見直す。

①ケアセンター全体として職場環境の改善を目的としたレイアウトの変更を業者に依頼し、専門的な立場よりアドバイスもらった。2021年度はそのアドバイスを具体化していく予定。

4. 地域における公益的な取組

(ア) 地域住民に向けて、専門職が講座を行う。

①コロナ禍において感染予防に努めながら、地域のサロンやいきいき百歳体操の会場にて感染予防の話や、認知症啓発のため講座を実施した。

(イ) 地区内の拠点4か所において、地域住民が集える活動・参加・協働の場を創造する。

②逆瀬川地域包括支援センターと聖隷逆瀬台デイサービスセンター、聖隷デイサービスセンター結いそれぞれと共同し、住民同士のつながりづくりを目的に、助け愛德利（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）・ぷらっとのがみ（聖隷デイサービスセンター結い）を開催した。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
医療	63人	623件	7,479件	10,137円	159,738千円	21.9名
介護	128人	673件	8,081件	8,133円		
予防	23人	79件	945件	7,675円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
3,662件	370件	19,019円	3,732円	2,280件	4,950円	77,584千円	15.1名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
予防	予防(委託)	予防	委託(委託)		
4,877件	2,752件	4,838円	669円	77,291千円	13.2名

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大が続き利用者にも不安が広がったが、感染対策を徹底し、必要な情報を発信することで混乱等はなかった。入院すると家族の面会ができない理由もあり在宅療養を希望する方が増えたように感じる。経営への影響も心配されたが、訪問看護ステーション、ケアプランセンターともほぼ予算通りに運営できた。また今年度は職場環境の改善に取り組み、設備改修やレイアウト変更を実施し環境が整った。

1. 専門性の高い、利用者のニーズに沿ったサービスを提供する

- (ア) ①訪問看護はターミナル看取り 3 件であった。癌末期に限らず、高齢者、非がん利用者への在宅看取りに繋げるべく意思決定支援の取り組みを強化した。在宅看取りや退院後の継続看護、多職種連携で早期に退院しても在宅療養できるよう迅速に対応できた。新たに連携を始めた在宅診療所の一つと連携を密にすることができ、輸血、点滴といった医療処置対応ができる体制を整え依頼が増えている。また職員全員で看護・業務マニュアルの見直しに取り組み職員それぞれのスキルアップ、質の高いケアへの意識向上にもつなげることができた。
- ②神戸市小中学校における医療的ケア児への訪問はケア不要となり終了となる。医療依存度の高い小児の新規依頼は 3 件であった。小児専門病院への研修は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり参加できなかった。
- ③精神科病院からの新規依頼は継続してあり全体の 30%を占めている。神戸市看護大学での精神訪問看護事例検討会に参加し、対応方法の共有や困難事例提供にスーパーバイズを受けることができ対応力や専門的知識が深まった。
- (イ) 聖隷ケアプランセンター北神戸は継続的に新規依頼があり、聖隷訪問看護ステーション北神戸と密な連携を図り、難病や医療依存度の高い方にも迅速に切れ目のない対応をすることができた。
- (ウ) リーダー職員にはスケジュール管理を任せ全体の把握や、職場の課題に対して職員を巻き込んで業務改善をはかることができた。職員への言葉かけやフォローなども介入できるようになってきている。

2. 各機関との連携を強化し、地域ニーズの解決への取り組み達成度

- (ア) 北区地域包括ケア推進協議会は新型コロナウイルス感染症対策のため Web 会議で 2 回しか開催されず、地域課題解決に向けての取り組み活動は中止となり達成できなかった。
- (イ) 認知症初期集中支援チーム員として月に 1~2 ケースは初期対応参加し、北区の認知症困難事例について支援機関へつなげ課題解決へつなげることができた。
- (ウ) 兵庫県立ひょうごこころの医療センターとの看護交換研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

(エ) 神戸市北区ケアマネージャー連絡会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 神戸市看護大学生実習の受け入れ、及び神戸市看護大学臨床教授・臨床講師を務めた。
- (イ) 介護保険認定審査会審査員として2名を派遣した。
- (ウ) 兵庫県看護協会看・看連携実習は新型コロナウイルス感染拡大防止のためで中止となった。
- (エ) 神戸市北区認知症初期集中支援チーム員として1名を派遣した。
- (オ) 神戸市の介護予防事業に参加し、新型コロナウイルス感染症の感染を恐れ自宅に籠りがちな高齢者に対するフレイル予防の介護予防講座の講師を務めた。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

平均利用者数 (人)		月訪問件数 (件)		年訪問件数 (件)		単価 (円)		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算) (人)
介護	医療	介護	医療	介護	医療	介護	医療		
80	64	430	457	5,157	5,487	8,596	10,127	100,412	13.6

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数 (件)		平均単価 (円)		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算) (人)
介護	予防	介護	予防		
1,144	681	17,348	4,336	22,633	5

宝塚第二地区逆瀬台在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

新型コロナウイルス感染症流行のなか、サービス提供をするうえでの安全性担保、感染症予防対策に尽力し、「今、困っている」利用者へのサービスが途切れないよう調整を続けた1年であった。結果として施設内で感染症蔓延等なく、2019年度比利用者数増減101%でサービスを継続することができた。

1. 高齢者・障がい者（児）に対し個別のニーズに応じた選ばれるサービスの提供

(ア) 在宅生活の最期までを支えるデイサービスとして、看取り期の利用者も含めたニーズに応える事が出来る体制と利用率を意識した受け入れの徹底。

① 要介護3以上の利用者受入50%を、年間通じ維持できた。

(イ) (基準該当)生活介護・日中一時支援では、生活スタイル・環境の変化に合わせ関係機関と連携し更なるサービスの充実を図る。

① 新型コロナウイルス感染症による学校休校で、日中一時支援での障がい児の受け入れを実施できた。

② 65歳問題に直面する障がい者が、早期に介護保険制度へ移行する支援として、(基準該当)生活介護事業を実施し、60歳以上利用者の継続的な受け入れができています。

(ウ) 軽度・重度の認知症状に関わらず、役割と社会との繋がり・喜びを感じられる事ができる根拠に基づいた認知症ケアの提供。

① 聖隷訪問看護ステーションの作業療法士と連携し、個々の利用者の認知症状に合わせたケアを実践できた。

② デイサービス内にセミパブリックスペースを新たに設け、認知症状による興奮状態に陥った際でも、個別のケアに加えて環境からもアプローチすることができるようになった。

2. 住み慣れた地域でより長く生活が継続できる支援

(ア) 地区内の事業所と連携し、支援困難や急性期認知症利用者の柔軟な受け入れ。

① 認知症利用者の家族介護負担を聞き取り、デイサービス利用者前後の経過を確認できた。

(イ) 「今、困っている」に応える事が出来るよう地域課題・利用ニーズをタイムリーに把握し提供サービスの質を高める。

① 職場会議にて定期的に勉強会に取り組み、現場でのOJTと勉強会をリンクさせることができた。

3. 職員がやりがいと働きがいを持てる職場環境を作る

(ア) 多種多様な人材が活躍できる環境を作り、介護補助者の雇用を促進するなど、人材の確保に取り組むと共に、目標参画・介護ラダーの運用を確実に実施し、人材育成に取り組む。

① 運転手の採用等、非専門職を増員し、業務の切り分けができた。

(イ) 記録システムや最新福祉機器の活用を図り、業務の効率化並びに業務負担軽減を目指す。

① WINCARE 活用で紙ベースの多重作業を廃止し、専門業務に集中できる環境に整備できた。

4. 地域における公益な取り組み

(ア) 地域に必要とされるデイサービスとして、法人内の他事業所と連携し、介護技術講習、認知症予防講座、ナイトサロンを継続的に実施する。

① 地域住民を集める講習会やナイトサロンは中止したが、コロナ禍における地域活動を関係機関と協議し、地域の見守り活動に協力した。

【数値】

通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
24人	672人	8058人	1.9人	23人	12,036円	39,242円	109,275千円	23.1名

認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
5.8人	163人	1957人	0人	0人	17,543円	0円	34,323千円	5.8名

聖隷デイサービスセンター結い

第1四半期は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者の減少が顕著となる。しかし活動自粛による機能低下を受け、利用者が機能訓練の必要性を再確認したことで、第2四半期以降は順調に利用者数も回復に転じている。今後も自立支援と要介護状態の重度化防止のために、より質の高いサービス提供を目指す。

1. 医療と介護の連携体制を構築し、維持期・生活期まで切れ目ないサービスを提供する

(ア) 他機関と連携・協働し医療から介護へ、シームレスに移行する仕組みをつくる

① コロナ禍において連携体制が一時中断となっていたが、3月より再開し生活機能向上連携加算の算定を行う事ができた。

② 退院後の利用者受け入れは2019年度比の10%upに留まり、目標値の15%には至らなかった

(イ) 日常生活動作(ADL)と手段的日常生活動作(IADL)の維持向上が実感できる機能訓練を提供する

① 運動スペースに上肢トレーニングコーナーを設置し、日常生活で起こりえる腕・指を使った動作に焦点を当てた機能訓練を提供することが出来た。

2. 地域高齢者の社会参加促進と心身の充実を図る「介護予防」サービスを提供する

(ア) 介護保険給付対象外の高齢者への「介護予防」サービスを実施する

① コロナ禍において介護予防教室の開催には至らなかった

② 施設倉庫の整理・PDF化に着手し、聖隷コミュニティケアセンターと協働で福祉用具等の販売・貸与が出来る環境整備を行う事が出来た。

3. 地域における公益的取り組み

(ア) 地域住民が気軽に集える場をつくる

① 周辺自治会や社会福祉協議会との連携で、地域住民向け交流イベント「ぷらっと野上」をデイサービスセンター結いにて開催することが出来た。今後も継続していく。

【数値実績】

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用件数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(日)	予防(月)		
10人	261件	3,132件	93人	1,120人	6,966円	33,046円	58,636千円	9.5名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり6月まで貸与、住宅改修工事の依頼が少なく売上予算未達が続いたが、7月以降増加に転じ2020年度末には予算達成となった。

又、業務量の増減が激しかった為、職員のモチベーションコントロールに苦勞した1年であった。

現在の福祉用具貸与の売上は、全体の30%を占める要支援者への「手すり」が支えている。

2021年4月からの介護報酬改訂で貸与上限価格が下がることや、今後の報酬改訂で要支援者へのサービスが厳しくなることが予想される中、まずは手すりから貸与商品の自社保有を行う。

【事業・運営計画の振り返り】

1. 介護保険外貸与サービスの拡充

(ア) 介護保険外の貸与サービスが標準となった現状で、自費レンタルの取り扱い内容が受注に影響してきた。新規の協力業者と契約し、今まで取り扱いができなかった商品を扱うことができるようになり、既存ベッドの処分などサービスの幅を広げることができた。

(イ) 新型コロナウイルス感染症の影響で浜松の障がい事業の取り組みを学びに赴く事はできなかったが、手すりの貸与は卸業者ではなく自店で行うようにするなど、障がい事業を意識した意見が職員から提案されるなど、次に向けての意思統一ができた。

2. 戦略的な福祉用具の販売

(ア) 介護保険サービスの負担割合2割以上の利用者が全体の12%であり、その中で貸与から販売になった実績が、電動ベッド1台、車椅子6台、歩行器10台あった。

2021年度へ向けて、販売に切り替わっても円滑に相談できるよう営業ツールの導入検討を行った。

(イ) 店舗在庫の見直しを行い、古い商品や値下げをしたが販売に結びつかない商品などの整理を実施した。介護保険購入対象である入浴用品の試用備品についても古い商品の整理を行い、新商品と入替えを行った。

3. 地域における社会福祉法人としての取り組み

(ア) 宝塚安倉あんしんステーションがある安倉団地の清掃活動に参加した。

【数値実績】

	レンタル件数	介護保険収益	販売収益	住宅改修	サービス活動収益
宝塚店	9,265件	101,760千円	58,446千円	20,011千円	180,217千円

花屋敷せいの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園 花屋敷デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション山本 花屋敷地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター花屋敷 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2020年度、新しい生活様式が求められ、これまでの支援方法等についても変容を余儀なくされた。そのような環境下であっても在宅事業所と施設が協働し、介護保険サービスや障害福祉サービスといった制度の枠を超えた支援体制の構築に努め、看取りケアや医療的ケアが必要な利用者の在宅生活の維持支援に取り組んだ。また、業務の切り分けによる専門職以外の雇用や介護支援システム等を積極的に活用し、業務の省力化や効率化に繋げることができた。改めて感染対策の重要性を理解するだけでなく、各事業におけるサービスや事業継続の在り方など、多くのことに影響を受けた年度であった。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしいいきいきとした暮らしの創造のために、互いを尊重し合い、地域全体の福祉の向上に寄与する

【経営方針】

1. 利用者に「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
2. 専門職として実践できる人材育成と働きがいのある職場環境づくり
3. 地域共生社会実現のため支援体制の構築とサービスの充実
4. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者に「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する。
 - (ア) カンファレンス方法等を見直し、情報共有や支援方法の検討に努めた。
 - (イ) 利用者の状態変化等の共有と対処に努めたが、結果として入院や施設において長期間の療養が必要となることもあった。今後も継続して体調変化の早期発見と迅速な対応に努めたい。
 - (ウ) 事業所や施設間の情報共有から利用者の状態や環境変化に応じたケアやサービス調整が図られている。
 - (エ) イベント企画は最小限に開催となったが、調整方法等を工夫した季節感のある食事を提供することができた。
2. 専門職として実践できる人材育成と働きがいのある職場環境づくり
 - (ア) マネジメント強化により、必要とされる知識等の習得や資格取得へ繋げることができた。
 - (イ) eラーニングを活用した知識の向上を図ると共に、係長が中心となり新規採用職員の育成スキームを再構築することができた。
 - (ウ) 介護支援システム（HIMVIT）を導入し、業務の見直しと負担軽減を図った。
 - (エ) 人員数からチーム形成までは至らないが、介護周辺業務等の切り分けや整理ができています。
 - (オ) 車両事故予防を意識した三輪バイクの導入や空調設備の更新、感染予防対策に必要な物品等の整備を行った。

3. 地域共生社会実現のため支援体制の構築とサービスの充実

- (ア) 施設・事業所を問わず、看取りケア等の利用者ニーズに応じた支援調整と協働したケアを行うことができています。
- (イ) 専属の職員を配置した支援体制と訪問看護と訪問介護による同行訪問を実施できた。
- (ウ) 訪問看護が中心となり、在宅支援の継続を意識したリハビリテーションサービスを検討、計画することができた。

4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域コミュニティなども自粛となり継続的な活動は中断することとなったが、地域包括支援センターが中心となり、地域との情報共有に努めた。
- (イ) 感染予防から来訪による実習生やボランティア等の受け入れは行わず、ICTを活用した見学等を行った。

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型		短期入所 ユニット型空床型		通所介護					
					通常規模型	予防型				
利用者定員	108名		12名		47名					
利用延数	38,050名		4,402名		7,810名	857名				
一日平均利用者数	104.2名		12.3名		25.1名	2.8名				
稼働率(%)	96.5%		102.4%		60.2%					
稼働延日数	365日		365日		311日					
平均介護度	4.1		3.1		2.0	0.4				
単価(一人一日)	15,344円		15,447円		9,943円					
サービス活動収益(千円)	587,969千円		68,864千円		88,553千円					
職員数(常勤換算)	76.9名		9.2名		20.2名					
	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐみ花屋敷)		障害児相談支援事業 (聖隷はぐみ花屋敷)		宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐみ花屋敷)			
宝塚市受託収入(千円)	37,786千円		—		—		13,065千円			
年間請求件数	予防プラン 請求件数	3,852件	299件		153件		46件			
	予防プラン 委託件数	720件								
平均単価	予防プラン 単価(円)	4,175円	12,990円		18,400円		—			
サービス活動収益(千円)	56,085千円		3,884千円		2,815千円		13,194千円			
職員数(常勤換算)	10.4名						2.5名			
	聖隷訪問看護ステーション					聖隷ケアプランセンター				
	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
医療	37人	265件	3,078件	10,360円	103,503千円	13.4名	—	—	—	—
介護	94人	614件	7,770件	8,520円			3,654件	17,600円	64,478千円	10.7名
予防	35人	82件	933件	8,500円			202件	4,000円		

ケアハウス花屋敷

2020年度は、新型コロナウイルス感染の第2波・第3波の襲来等があり、皆が危機感を感じる苦しい一年となった。自立型の施設で外出をすべて制限することが難しいことから、ウィルスを持ち込まないことと飲食前の手洗い・消毒の徹底に努め、幸い、感染者はなかった。健康維持の取り組みについても一時中断したが、実施方法を変更し、感染対策に努めながら実施できた。行事の多くは中止せざるを得なかったが、敬老のお祝いやクリスマス、新年のお祝いなどには持ち帰りもできるお弁当の形にして提供し、喜んでいただいた。職員も感染予防対策のための業務が大幅に増え、研修等も中止されるなど計画通りに動けなかった一年であった。

1. アドバンス・ケア・プランニングについての理解を広め、体調変化や急変時等、本人の意思を尊重した対応が出来る

新型コロナ感染対策等に追われ、居室訪問しての情報収集などは開始が遅れる形となったが、一人ひとりの考えなどを知る機会となり、特に急変時の対応については、明確に意思表示される方が多かった。まだまだ試みは始まったところであるが、日常の中から知ることのできることで、情報は記録に残し、共有を引き続き行っていく。

2. 入居者の心身の変化、状況の変化にタイムリーに対応できる体制と対応力の強化

体調不良の職員が複数あり、その上、感染予防対策業務が大幅に増えたことで、職員の負担はおおきく、体制の再編成まではすすめられなかった。食堂での様子や日常の些細な変化から異変を察知し、対応することはできており、早めに対処できた。

3. 健康維持増進のための取り組み

感染予防対策として、密になるラジオ体操は各居室で行ってもらい、健康体操は後期から花屋敷ホールを利用して行った。今年度は、訪問看護ステーションの理学療法士の協力があり、専門的な視点での体操の実施と評価をもらった。実践していることの評価が見えることで参加者の意欲維持につながると感じている。

4. ケアハウスらしい「健康的でおいしい食事」の提供

敬老のお祝い、クリスマス、新年のお祝いなど、全員で集まってのお祝いはできなかったが、自室に持ち帰ることもできるよう、弁当形式で特別な食事を提供したところ、とても喜んでもらった。また、日常の食事にも季節の移ろいや古くからある習慣を大切に献立を立てており、会話がはずみ、楽しんでいる様子を感じることができた。

5. 経営の安定化の推進

新型コロナ感染対策の影響により、見学会等の開催などはできなかった。また、通常の施設見学案内もできない状況があり、高齢者住宅閲覧サイトの活用は見合わせた。即入居待機者は少ない状況であるが、問い合わせや見学希望者はコンスタントにあり、定員100名を維持することができた。

6. 災害時の準備、避難方法等、入居者の協力を得て、更にバージョンアップする

例年行っている、施設全体での防災訓練は実施できなかった。

7. 地域における公益的な取り組み

新型コロナ感染対策等により、地域の方との交流の場や行事の中止など、ほとんど実施できなかつた。

【数値実績】

入居者状況（2021年3月31日現在）

（ア）年齢

	人数（名）	最高年齢（歳）	最低年齢（歳）	平均年齢（歳）
男性	20	98	76	85.9
女性	80	98	71	87.2
合計	100			平均（86.9）

（イ）介護度内訳（名）

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
27	21	15	12	3	2	0	80

（ウ）入居前居住地（名）

宝塚市	40	市外（他府県込）	60
-----	----	----------	----

【数値実績】

定員（名）	100
稼働率（％）	100
単価（一人一日：円）	4,304
総収入計（千円）	157,100
職員数（名）	13.5

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター
聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっこ
聖隷ケアプランセンター淡路、聖隷在宅介護支援センター淡路、
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ

2020年度の聖隷カーネーションホームは、世界的に猛威をふるう感染症への対応に追われつつも、法人及び事業部からの支援を最大限に活かし、利用者の生活や経営への影響を最小化できるよう懸命に取り組んだ。淡路エリアにおける中核施設としては、津名地区・岩屋地区・東浦地区の事業強化とエリア全体での業績の質的・量的向上に注力し、また感染症対応やサービス提供面で聖隷淡路病院との連携をこれまで以上に強化することができた。利用者満足に関しては近年特に需要が高い認知症ケアと機能訓練への対応力強化を、職員満足に関してはHIMVIT入力支援システムの導入による仕事の効率化を、事業継続能力強化に関しては非常用発電設備の更新を、それぞれ実施できた。そして、新年度以降も継続して、利用者「安心と楽しみのある暮らし」を、職員に「働きやすい職場、やりがいのある仕事」を提供することで、利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある総合福祉拠点を目指していく。

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求

- (ア) 利用者に安全で快適な生活を送ってもらうためにインシデント報告の増加に取り組んだ。報告件数は微増であったが、因果関係の考察や分析が徐々にできるようになってきた。
- (イ) 利用者一人ひとりの変化の早期発見に努め、入院日数の抑制に繋げることができた。日常生活の楽しみの面では、コロナ禍なりの行事開催に前向きに取り組み、利用者・職員の楽しみの機会が減少しないよう取り組んだ。
- (ウ) 看護係と相談係が密接に連携することで、行き場のない新規利用者2名を受け入れることができた。その一方、障害者の新規利用を増やすことはできなかつたため、今後も周知と情報収集を行う。

2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進

- (ア) 事業計画と連動した目標管理及び達成支援を推進した(82%)。次世代リーダーの発掘・抜擢・育成は進捗せず、次年度以降も継続して取り組む。
- (イ) ノーリフトケアの浸透による職員の安全性の向上と身体的負荷の軽減のため、在宅部門にて入浴補助機器を導入し、入所部門は次年度での整備計画策定に至った。また、入浴機器の償却期間に合わせてミスト浴に更新できるよう検討・準備を開始した。
- (ウ) 福祉・介護人材の確保難への対応として、EPA介護福祉士候補生2名の業務習熟及び日本語学習が進捗するよう支援を継続した。またシニア人材をパート・ケアサポーターとして2名雇用できた。

3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善

- (ア) 入所介護体制合理化のため再編を検討し、2020年8月から実施できた。また、業務量削

減と仕事の自動化促進のため HIMBIT 入力支援システムを導入し、2021 年度から本格運用が可能になった。

(イ) 施設が地域の社会資源として有効に活用されるために、利用ニーズと稼働率を意識した経営を行った。短期入所の長期利用者を 50～75%の範囲で柔軟に調整し、空床日数を削減することができた。

(ウ) 加算体制と必要な人員体制を維持するとともに、利用者の健康状態の安定に努めた。その結果、2020 年度の後半から入所系サービスの稼働率を大きく回復でき、数値目標を達成できた。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 在宅介護支援センター淡路を中心に「淡路市高齢者住宅安心確保事業」に基づく独居高齢者を対象としたコロナ禍での実態把握調査を実施し、支援に役立てた。

(イ) 淡路市健康福祉部が 2020 年度に設置した介護施設連絡協議会に参加し、行政と事業者による課題の抽出や問題解決、次期保健福祉計画等に関する協議を積極的に行った。

(ウ) 地域全体の福祉の向上のため、淡路エリア聖隷施設との相互支援や、行政機関・他法人施設との連絡・連携を強化し、利用者の移管や受け入れがスムーズに進むよう尽力した。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54 名	16 名	25 名		12 名
利用者延べ人数	19,201 名	5,697 名	5,555 名	606 名	2,452 名
一日平均利用者数	52.6 名	15.6 名	17.9 名	2.0 名	6.7 名
稼働率 (%)	97.4%	97.8%	79.6%		65.5%
稼働日数 (延べ)	365 日	365 日	310 日		312 日
平均介護度	3.82	3.46	2.34	—	2.65
単価 (1 人 1 日当り)	11,888 円	11,694 円	10,144 円	6,026 円	12,445 円
サービス活動収益 (千円)	228,269 千円	66,619 千円	60,145 千円		30,516 千円
職員数 (常勤換算)	33.6 名	7.8 名	10.6 名		4.3 名
	聖隷ケアプラン センター淡路		聖隷在宅介護 支援センター淡路		
年間請求件数	介護	予防			
	1,781 件	363 件			
訪問調査年間件数	24 件				
サービス活動収益 (千円)	29,948 千円		6,541 千円		
職員数 (常勤換算)	6.0 名		1.1 名		

介護老人福祉施設 淡路栄光園

特別養護老人ホーム淡路栄光園
淡路栄光園デイサービスセンター

2020年度、当園はコロナ禍において多くの制限や縮小を求められる1年であった。また実際に新型コロナウイルス感染症の対応が現実となる場面も経験した施設としても、利用者や職員が抱える負担や不安は一方ならぬものがあったといえる。そのような中で、事業計画で目標とした地域密着型通所介護事業の開始やショートステイ増床整備を達成することができ、地域に求められるサービスを整えることができた。またリモートを活用した新たな行事や入浴移乗機器の導入など、利用者の楽しみや職員負担の軽減を図ることもできた。厳しいコロナ禍においても、職員が一丸となって、その影響と被害を最小限にすること、利用者にできることを考え、1つ1つの目標達成にむけて努力できたことが、2020年度の大きな成果であったと考える。

これらの知見を踏まえ、2021年度も新型コロナウイルス感染症対策を中心とした安全な施設づくりに加え、さらなる現場・人づくりに注力したい。増床、介護機器やICTの導入、入浴ケアの向上など利用者・地域に喜ばれ、また職員が求める取組みへの実践とともに、その実践が1人1人の職員の意欲や成長につながるストーリーになること。これらが淡路栄光園全体の向上につながることを念頭に、日々邁進していきたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 利用者や地域の声に応え、利用者の個別ケアや生活環境改善の強化に注力し、新たな事業とサービス体制の整備に努める。
2. 職員の負担軽減と業務省力化を追求するとともに、働きがいや技術の向上に努める。
3. 安定したサービス提供と事業の継続が可能となる新たな事業展開、人員体制を整備する。
4. 淡路栄光園が持つ専門性や聖隷淡路病院その他の淡路エリアの施設と連携し、期待される地域向け活動の実現を図る。

【事業・運営計画】

1. 利用者のケアや生活の質の向上のために、新たなサービス体制と施設環境の整備
 - (ア) デイサービスセンター淡路を地域密着型通所介護として4月より事業変更・開始し、利用者の個別ケアを充実させることができた。
 - (イ) 施設内の空室2室を改修し、ショートステイ2床増床に向けた居室と増床に向けた体制整備ができた。
 - (ウ) コロナ禍において自粛した入居者・利用者行事に代わる行事を実施した。LED化は未達だが、脱衣室のエアコン修繕等、環境改善につながる修繕ができた。
2. 職員の負担軽減と働きがい、技術向上の追求

- (ア) 1 階浴室に入浴移乗機器を導入整備した。利用者の安全な入浴とともに、入浴介助に関わる職員の負担軽減につながった。
- (イ) 学研 eラーニングを先行導入し、コロナ禍における研修機会減少の代替え、危険予知その他の職員研修の機会の確保ができた。
3. 淡路栄光園の事業とサービスを今後も安定、継続させるための取り組みの強化
- (ア) デイサービスの移転は、コロナ禍等の影響による行政機関との折衝が停止し未達であるが、ショートステイ 2 床の増床整備はできた。
- (イ) 遅出専門のケアアシスタントの採用と育成に成功し、遅出業務に関わる職員の固定的な超過勤務の解消につながった。2021 年度の EPA1 名の受入れが決定した。
- (ウ) ショートステイの稼働率は達成したものの、コロナ感染症対応による事業休止及び入院者増加により入居部門とデイサービスは未達となった。
4. 地域における公益的な取り組み
- (ア) コロナ禍の影響により介護・健康セミナーの実施は未達。地域高齢者見守り活動事業による独居高齢者の見守りは継続でき達成できた。
- (イ) 小規模地域密着型通所介護の運営協議会は書面開催にて実施した。聖隷淡路病院と入退院やリハビリテーションの連携に関する会議、打合せを開始し、2021 年度以降も継続予定である。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60 名	17 名	18 名	
利用者延べ数	20,896 名	6,135 名	3,788 名	784 名
一日平均利用者数	57.2 名	16.8 名	12.3 名	2.5 名
稼働率	95.3%	98.8%	81.9%	
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	306 日	
単価（一人一日当り）	11,946.5 円	11,664.5 円	9806.3 円	4810.8 円
サービス活動収益	249,420,799 円	71,527,095 円	40,589,547 円	
職員数（常勤換算）	40.7 名	5.7 名	6.7 名	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路
聖隷ケアプランセンター淡路第二
聖隷ヘルパーステーション淡路
聖隷ライフサポート津名

2020年度は、地域ニーズであるリハビリテーション・フレイル予防・健康づくり・健康寿命延伸に対応できるリハビリ強化型の通所介護事業所を開設したことで利用者が増加したと共に在宅支援体制の強化を図ることができた。これは、淡路エリア内事業所の専門職間連携や連動等による効果である。その為、今後も利用者を通じた事業所間の繋がりを強化し満足度の高いサービス実践を行うことで地域から選ばれ続ける事業を継続していく。又、委員会活動を充実させたことにより効率的な業務改善を継続できたと共に、研修や事例検討会の実施により利用者中心の丁寧なサービスができる人材育成を図ることができた。

1. 経営の安定化

- (ア) 淡路エリア在宅サービス会議を通じて事業所間の連携や事業展開の検討を行った。
- (イ) 訪問介護は身体介護率70%、リハビリテーションを3単位とし訪問単価を増加させた。
- (ウ) 訪問介護の生活支援は共に行う介護（自立支援）に転換させた。
- (エ) 居宅介護支援事業は人員体制を検討し、2021年度特定事業所加算Ⅱの算定が可となった。

2. 利用者の健康管理と疾患の重度化予防

- (ア) 看護師とセラピストの協働体制を構築し、3単位でのリハビリテーションを増加させた。
- (イ) 緊急対応の検証や入院の機会を減少させるために、日々カンファレンスを実施した。
- (ウ) 癌末期だけでなく、慢性疾患の方々の看取りケアの体制を整えた。
- (エ) 訪問看護の可能な身体ケアは介護へ移管し、身体介護率増加に協力した。
- (オ) 介護支援専門員にアドバンス・ケア・プランニングについての勉強会を行い、終末期支援の協働を積極的に行った。

3. 丁寧なサービスが実施できる人材育成を行う

- (ア) ポジティブ事例検討会を4回実施し、サービス内容の検討と展開を確認した。
- (イ) コミュニケーションエラーの事例を用いて、ロールプレイングを実施し認識を深めた。
- (ウ) ケアの統一化を図る為、必要時に同行訪問を行い、ケアの検証をもとに指導を行った。
- (エ) 委員会や年間研修計画を確実に実施し、人材育成に繋げた。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 看取りのカンファレンス・多職種学習会はコロナ感染症にて実施できなかった。
- (イ) まちの保健室は実施できなかったが、フットケアパンフレットを作成し利用者に配布した。
- (ウ) 看護専門学校実習を1クール受け入れた。他の実習はコロナ感染症の影響で中止となった。

【数値実績】

聖隷訪問看護ステーション淡路

	年訪問件数	平均単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
医療	4,036 件	10,470 円	162,562 千円	26 名
介護	11,800 件	10,195 円		

聖隷ケアプランセンター淡路第二

	年請求件数	平均単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	1,208 件	14,117 円	18,301 千円	2.6 名
予防	324 件	3,850 円		

聖隷ヘルパーステーション淡路

	年訪問件数	平均単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
介護給付	11,410 件	3,809 円	43,459 千円	16.1 名
予防給付	2,179 件	2,876 円	6,266 千円	
自立支援	4,493 件	4,529 円	20,347 千円	
移動支援	200 件	2,115 円	423 千円	

通所介護事業(聖隷ライフサポート津名)

利用定員	稼働日数	サービス活動収益	職員数(常勤換算)
25 名	259 日	3,570 千円	6.8 名
延べ利用者数	1 日平均数	単価(1 人 1 日)	平均介護度
2,627 名(介護)	10.2 名(介護)	7,465 円	2.63
1,435 名(予防)	5.5 名(予防)		

聖隷こども園夢舞台

公立から聖隷に変わり4年目を向かえた2020年度は、聖隷らしさと地域のカラーをより意識した年となった。コロナ禍のため、保育の中での様々な工夫や行事のあり方などを、模索しながら職員と共に考えた1年だったが、園として何を大切にするのかも例年以上に意識したように感じる。

また、子どもの言葉や発想を日々の中で大切にしながら保育を行い、それを行事として組み立てる経験をしたことで、子どもも職員も「楽しい」という思いが溢れていたように思う。子どもの姿から職員が実感できた事は、何よりの収穫である。そうした思いや考えを全職員と共有していけるしくみを園内で考えていきたい。

1. 入所状況

4月に新入園児、0歳児2名、1歳児11名、2歳児11名、3歳児10名、4歳児3名、5歳児1名の38名を迎え計152名でスタートをする。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア)保育内容

① 統合保育の実践

障がい児5歳児1名2歳児1名（療育手帳2名）発達が気になる児：5歳児1名、4歳児2名、3歳児5名、2歳児2名、2歳児1名（市の巡回相談にかかっている児）が在籍となった。淡路市の巡回指導、発達心理相談、保健師により発達が気になる子どもの対応について助言・指導を受け、他機関と連携をしながら進めていった。

② 交流

コロナ禍のため、小学校・中学校との交流はなかったが、就学に向けての引継ぎは2校で計、5回行う。また、小学校よりDVDを頂き、学校の様子がわかるようにという配慮も受けた。

(イ)地域ニーズに対応

① 延長保育

地域の特性上、18:00～19:00の延長保育を利用する児童は10人ほどと少ないが、子どもの年齢などを考慮した遊びを提供できるように配慮をした。

② 一時預かり

年間延べ利用者数80名。緊急事態宣言やコロナ禍の影響もあり、一時保育の利用が極端に減少する。2019年度は利用希望者が多く、利用の制限をかけたことも減少のひとつの要因になっているかも知れない。

③ 病後児保育

登録児38名、（在園児22名、他園児16名）受け入れ実績3名。

市内の周辺保育所や子育てセンターに「ほけんだより」の配布、病後児保育事業の案内を置くようにしている。

④ 子育て支援

園庭開放やプログラムを通して、地域の子育て家庭の交流の場とする。在園児の保護者がボランティアとして講師を務めて下さったプログラムもあった。園庭開放な

どの参加から入園に繋がったケースもあった。

(ウ)職員研修

宝塚の3保育園が主催する「あゆみ合同研修会」「宝塚保育学会」は、WEBで参加をする。学会は、職員から積極的に参加の意志表示があり、自分達の学びや取り組みを発表することへの意識が高まった。また、年度末の研修は、浜松・磐田・宝塚・淡路地区が初めてWEBで同じ研修を受けるという経験もできた。

3. 地域における公益的な取組

(ア)トライやるウィークでは、地元中学生の職場体験実習として6名の受け入れを行う。希望する大学生ボランティア1名や教育・保育実習生の受け入れも7名行った。

また、子育て家庭への支援のひとつとして、子育て電話相談の時間を設ける。

【数値実績】

① 歳児別入所児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	2	2	3	4	6	6	7	8	9	10	11	12	80	6.7
1歳児	13	12	12	13	13	13	13	13	13	14	16	16	161	13.4
2歳児	28	29	29	29	29	30	30	30	30	30	30	30	354	29.5
3歳児	32	32	32	32	31	31	31	31	32	32	32	32	380	31.6
4歳児	28	28	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	346	28.3
5歳児	49	49	49	49	49	50	50	50	49	49	49	49	591	49
合計	152	152	154	156	157	159	160	161	162	164	167	168	1,912	159

② 保育日数及び出席状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	3,800	3,496	4,004	3,900	3,925	3,840	4,347	3,726	3,936	3,772	3,674	4,368	45,546
保育日	25	23	26	25	25	24	27	23	24	23	22	26	293
日平均	152	152	154	156	157	160	161	162	164	164	167	168	1,917
一時預り	9	0	5	7	7	9	13	10	6	8	3	3	80
病後時保育	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
延長保育	72	70	162	176	131	161	152	117	165	129	90	158	1,583

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正/ゾ)	21	21	21	21	21	21	20	20	20	19	19	19
保育教諭(パ)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
保育補助	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	34	34	34	34	34	34	33	33	33	32	32	32

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所
訪問入浴事業所・在宅介護支援センター・春日デイサービス
・聖隷チャレンジ工房カナン

2020年度は感染症対策に対する施設機能の強化及び機器等の整備を実施し、感染予防対策に向けた業務改善に職員一丸となって努めた。

このような状況下において、地域の高齢者や障がい者へのサービス提供、地域共生社会の実現に向け事業を継続できたことは、職員一人ひとりの努力の賜物である。

また、聖隷チャレンジ工房カナンの訓練を積んだ障がい者等を雇用することで、介護周辺業務における介護職員の業務負担軽減や衛生環境の整備に努めた。

さらに、在宅介護サービスでは、防護服を着用し、訪問介護や訪問入浴サービスの提供、大型台風接近時には短期入所において定員を10名超過する緊急受け入れなどのサービスを提供した。

2021年度は、福祉サービスが必要な方々への支援が感染症や災害発生時においても継続的に提供することができる「福祉拠点」としての価値を高めていく。

【事業実績】

1. 利用者満足向上のための取り組みとして

- (ア) 医療的ケアが必要な入居者の尊厳を大切にサービス提供のために、アセスメントの徹底、利用者ができることに着目した支援、残存機能を生かした口腔ケア等の実践をした。また、支援強化のために認定特定行為業務従事者2名、介護職員等による痰の吸引等のための研修事業指導者認定の看護師1名を配置した。
- (イ) 感染症の渦中において事業継続に向け、簡易陰圧装置や面会用タブレットの整備、リモート交流等実施による利用者のアクティビティ活動の実現に努めた。
- (ウ) 温冷配膳車の導入により、適切な温度管理の食事提供や速やかな配膳に取り組んだ。
- (エ) 聖隷チャレンジ工房カナンにおいて、ソーシャルスキルトレーニングを実施し、利用者の精神面が安定するよう支援をすることにより、利用定着・就職活動に結び付き、3名の就職に繋がった。

2. 職員満足向上のための取り組みとして

- (ア) 聖隷チャレンジ工房カナンの訓練を積んだ障がい者等を雇用し、衛生環境の整備を含む介護周辺業務を担うことにより、介護職業業務の省力化・効率化を推進した。
- (イ) 床走行式介護リフトを3台導入し、介護職員の腰痛軽減や離職防止に努めた。
- (ウ) 聖隷チャレンジ工房カナンへ、感染症対策に対するパーテーションの作成や消毒の委託業務の追加により、安定した業務継続に結び付いた。

3. 事業の成長と安定した運営基盤の構築として

- (ア) コロナ渦においての長期入院の削減や、入院中の空きベッドを高齢者や障がい者に短期入所としての利用を促進し、効率的なサービス提供に取り組むことができた。
- (イ) 感染症等の影響により、不安を持つ通所事業利用者に対し、安心してサービスを利用できるよう電話連絡や訪問等を行うことで、利用継続に努めることができた。

4. 地域における公益的な取り組みとして

(ア) 地域の高齢者とともに、コロナ渦においても地域が活気づくように飾り付けを作成し、展示・披露を実施、地域住民の生き甲斐づくりに努めた。

【数値指標】

	特養入所		短期入所		訪問給食	生活困窮
	従来型	ユニット型	従来型	障害		一時生活支援
利用者定員	50名	30名	10名			
利用者延べ人数	17,780名	10,807名	3,415名	80名	15,127名	47名
一日平均利用者数	48.71名	29.61名	9.36名	0.22名	41.56名	0.13名
稼働率	97.42%	98.69%	93.56%	2.19%		
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	365日	364日	365日
単価 (一人一日当り)	12,475円	14,272円	11,207円	13,000円	800円	6,000円
サービス活動収益	221,797千円	154,240千円	38,273千円	1,040千円	12,102千円	282,000千円
職員数(常勤換算)	33.0名	20.6名	5.9名		2.9名	
	奄美佳南園デイサービス			春日デイサービス		
	地域密着	総合事業	生活介護	地域密着	総合事業	
利用者定員	18名			15名		
利用者延べ人数	3,556名	406名	302名	2,402名	1,464名	
一日平均利用者数	11.40名	1.30名	0.97名	7.70名	4.69名	
稼働率	63.32%	7.23%	5.38%	51.32%	31.28%	
稼働日数(延べ)	312日	312日	312日	312日	312日	
単価 (一人一日当り)	11,298円	6,212円	7,033円	10,357円	5,020円	
サービス活動収益	40,175千円	1,923千円	2,124千円	23,310千円	9,053千円	
職員数(常勤換算)	8.5名			6.3名		
	訪問入浴介護		ホームヘルプ		聖隷チャレンジ工房カナン	
	介護	障害	介護	障害	移行支援	継続B
利用者定員					6名	14名
利用者延べ人数	594名	121名	4,404名	789名	1,504名	3,257名
一日平均利用者数	1.91名	0.39名	12.10名	2.17名	5.83名	12.62名
稼働率					97.16%	90.17%
稼働日数(延べ)	311日	311日	364日	364日	258日	258日
単価 (一人一日当り)	15,919円	13,936円	5,318円	4,148円	9,134円	10,110円
サービス活動収益	9,536千円	1,532千円	19,125千円	3,273千円	13,738千円	32,929千円
職員数(常勤換算)	3.2名		6.2名		7.7名	
		年間利用数	稼働日数	単価	サービス活動収益	職員数(常勤換算)
在宅介護支援センター		1,254名	259日		6,055千円	1.3名
居宅介護支援	介護	808名	259日	13,271円	10,723千円	2.5名
	予防	229名	259日	3,066円	702千円	

春日保育園

2020年度は入所の人数が定員に満たない月が多かったが乳児の入所希望が多く安定して運営はできた。春日保育園設立60周年で記念式を行う予定が、新型コロナウイルスの影響を受け、開催することが出来なかった。歴史を振り返り子育てへの情熱を繋いでいくことの大切さを痛感し原点を振り返ることが出来た。また、感染拡大を防ぐために登園を自粛したり、新しい様式の生活を行うことで、感染リスクを回避することに努めた。これまで通りの行事の有り方を見直し、多くの行事の工夫を凝らすことで楽しめた。また、職員研修は島外に出ることが出来ない状況から、リモートでの開催が増え職員の全体意識を統括することが出来た。特に環境に目を向ける研修での、意識改革は著しかった。そして、育ちにくいお子さんの対応として保護者支援を含め「親子教室」や「ペアレントプログラム」の内容を充実させ開催したことで、子どもの成長をしっかりと受け止め、次のステップに進めるきっかけになった。のぞみ園や他の発達支援事業所から併行通園する子どもも増え、関わり方に共通認識が必要となることから、連携を取りながら関わる事が出来た。発達段階に合わせた保育の取り組みがなされており、今後も1人ひとりの個性に合わせた保育が展開できることや、職員其々が取り組みたいことを発見し取り組んでいけるようにしていく。

【入所状況】

年間入所率は97.5%であった。4月当初113名（うち新入児19名受け入れ）で開始し、年度途中入園14名、退園9名であった。

【事業・重点施策への取り組み】

1. 保育の専門性の向上

- (ア) オンラインの研修会を開催することで多くの職員が専門性の向上に努めた。
- (イ) 園内研修会、子どもエリア合同研修会、聖隷保育園合同オンライン研修会、保育職ラダーの活用を実施した。

2. 統合保育の実施と専門機関との連携

- (ア) のぞみ園利用児童（15名在籍）他の通園施設利用児童（1名）を積極的に併行通園として受け入れ、情報交換を密に行い、個別支援計画をたて保育の実践をした。加算による職員の配置をすることで、個別のニーズに合わせた保育が行えた。
- (イ) 保育所等訪問支援の利用により、個別課題の確認と保育の方向性の擦り合せが出来た。
- (ウ) のぞみ園等児童発達支援事業所開催の発達相談会への参加を促すことで次のステップへ繋がった。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 中学校、高校の職場体験の受け入れ及び看護福祉専門学校、養成校の実習受け入れを感染予防対策を行いながら積極的に実施した。
- (イ) 園庭開放（随時）地域に在住する親子への利用は提供出来なかった。
- (ウ) 近隣施設の奄美佳南園とのビデオ交流により、世代を超えた関わりを積極的に作った。

4. 食育と環境教育

(ア) 畑の野菜を収穫をする活動を通し、野菜に興味関心を示し給食で提供することで食べられるようになった。

(イ) 1人ひとりが好きな遊びを選び、自分が選択することを重要視する環境を整えることで、自己肯定感を高めることができた。

5. 身体発達の向上

体操教室の実践で身体能力を高め、達成感の増進から様々なことに自信を持って活動する意欲の向上へとつながる取り組みができた。

【経営実積】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳	7	8	9	9	9	11	11	11	12	14	15	15	131	10.9
1歳	17	18	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	226	18.8
2歳	25	25	25	25	24	24	25	25	25	25	24	24	298	24.8
3歳	25	25	25	25	26	25	25	25	25	25	25	25	304	25.3
4歳	16	16	16	16	15	15	15	14	14	14	14	13	182	15.2
5歳	23	23	23	23	23	23	22	23	23	23	23	23	280	23.3
計	113	115	117	117	116	117	117	117	118	120	120	119	1406	117.2

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ数（名）	1784	2045	2514	2347	2289	2160	2751	2315	2346	2294	2261	2703
保育日数（日）	23	23	25	25	25	23	27	23	24	23	22	26
一日平均（名）	77	88	100	93	91	93	101	100	97	99	102	103

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正, パ)	20	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
保育補助(パ)	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計(換算数)	27.5	27.5	27.5	27.5	27.5	27.5	27.5	28.5	28.5	28.5	28.5	28.5

のぞみ園

児童発達支援センター

放課後等デイサービス

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な変更を余儀なくされた年であったが、通所支援事業が高稼働を維持し安定した経営を行うことができた。また、リモート研修の活用や感染症対策の取り組み、近隣企業との災害や不審者対応時の協定締結といった新たな取り組みにくわえ、職員の職場定着を背景とした資格取得推進、地域支援や施設研修の企画・実施に様々な職員が主体的に参画できる仕組み作りも進めることができた。

しかし、その一方で訪問支援や相談支援における面談や訪問調整、行事、学生の施設実習受入れなどについては感染症の影響を受け、目標の未達成や変更、中止を余儀なくされた。

そのため2021年度は感染症や災害時における対応力の更なる強化に取り組みつつ、新たな報酬改定にも対応した施設運営、ライフステージを踏まえた専門的な支援体制作りを引き続き取り組んでいく。

1. ライフステージを踏まえた専門的な支援体制の構築と経営の安定化

- (ア) 年間を通して通所支援事業は、高い稼働を維持し安定した経営を行うことができたと同時に、個別支援計画の記録や帳票をデータ化し、業務効率化に取り組むことができた。
- (イ) 保護者向けペアレントプログラムの開催や保護者会活動を通して保護者支援や保護者交流に取り組むことができた。
- (ウ) 施設開放や実習受入は感染症の流行により中止になるケースが多かったが、高校生を対象とした職業人座談会への参加や中学生の職場取材受入れなどを通して、福祉や療育支援を知ってもらう取り組みを行うことができた。

2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み

- (ア) 児童発達支援管理責任者、相談支援専門員、医療的ケア児コーディネーター養成研修等専門職のキャリアアップにつながる資格取得研修受講を計画的に進めることができた。
- (イ) 感染症対策や環境整備業務を主とした非専門職人材を雇用し、業務切り分けを実施したほか、毎週水曜日をノー残業デイと定め働き方の見直しや超過勤務削減への意識啓発を行うことができた。
- (ウ) 研修委員会を中心に園内研修の企画、実施を計画的に行うことができた。

3. 地域共生社会の実現に向けた取組みと公益的な取組み

- (ア) 第6期奄美市障害福祉計画策定会議や奄美市親子教室への参画、自立支援協議会主催「育ちサポートプロジェクト」に参加し、地域の支援力向上に向け鹿児島大学と連携したリモート研修やコグトレ勉強会の実施に協力することができた。
- (イ) 近隣企業と災害時や不審者対応時における協定を締結し、有事に備えた体制を強化することができた。

(ウ) 公益的取組みとして、のぞみ園の地域向け親子教室「はっぴい」を開催し、地域の子育て支援と保護者交流の促進、早期療育支援につなげる取り組みを年間通して実施することができた。

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援
利用者定員	25名		20名	
利用者延べ人数	6,868名	23名	5,105名	498名
一日平均利用者	28.7名	0.1名	21.2名	2.1名
稼働率	114.8%		106%	
稼働日数(延べ)	239日	239日	241日	239日
単価(一人1日当り)	13,258円	20,304円	8235円	20,833円
サービス活動収益	91,055千円	467千円	42,041千円	10,375千円
職員数	18.0名	0.6名	7.1名	3.2名

聖隷かがやき

児童発達支援センター

放課後等デイサービス

2020年度は「地域に開かれた施設」として地域への理解浸透の為に園の開放や行事を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、計画の中止、変更となった。しかしこれまでの「親子教室」「親子遊び」「子育て相談」による地域への支援を積み重ねてきたことにより、「療育」への理解へとつながり、早期療育を求め、支援の必要性の高まりから利用増へと結びついた。また、検診後におけるフォローの必要性を持つ子ども達の支援施設としての理解も地域に広がってきた。

そして、併設する放課後等デイサービスでは、児童発達支援から学校生活を送るにあたって、地域で過ごす子どもと保護者の安心できる場所として、また、地域活動を充実することで社会へ結びつく体験の場所として定着してきた。

今後は更に支援体制の充実を図り、安定した質の高い支援を提供していくことで療育施設としての役割を果たせるようにしていく。

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化

(ア) 子ども支援

- ①検診後のフォロー体制として年齢、特性別に分けてクラス運営することで一人ひとりに合った支援ができた。
- ②年間目標を柱として季節や月間でプログラム作成を行い、就学前クラスは修了式と発表を兼ねた子どもの成長を見て、実感する機会を設けた。また、年齢別では親子の愛着形成を深めるプログラム活動を実施した。
- ③子どもの発達課題にご家族と共有して取り組むことで、子どもの現状に対して理解を深め、関わり方など一緒に取り組み、安心して見通しを持った子育てにつながっている。

(イ) 家族支援

- ①父親との親子通園の増加により子どもに対する関わりへの理解が深まり、声かけや対応を共に学ぼうと親子通園の大切さが伝わり、家族支援が促進された。
- ②就学前の保護者への仲間作りとして先輩保護者の体験談の発表や地域別に小集団で顔を合わせて悩みや成長を話す機会を設け、就学への不安軽減となった。
- ③ペアレントプログラムの実施にて子どもを見る視点、とらえ方の理解により、保護者が安心して子育てに向き合う事に結びついた。

(ウ) 地域支援

- ①保育所との情報共有、学校への保育所等訪問の実施にて顔の見える関係性作りから子どもの理解へと結びつき、連携体制を持たせた。
- ②感染症対策の為に、行政主催の親子教室は中止となり、保育所に入所していない乳幼児期の子育て相談、交流は未実施となった。

(エ) 経営の安定化

①児童発達支援では保健師との情報共有にてフォローの必要な子どもへの見学が増加し、利用延べ人数 前年比対 131.4%を達成した。

②保健師との連携による早期療育のつながりで児童発達支援の登録人数 前年比対 127%増となった。

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

(ア) 県療育等支援事業でのムーブメント遊びの研修、奄美エリア保育部門での研修、自立支援協議会によるリモート勉強会実施で職員の子ども支援の質の向上へとつながった。

(イ) 職員のキャリアアップとして相談支援専門員の資格取得。保育士ラダーの目標に向けての取り組み、役割の明確化で業務の効率化を図った

(ウ) 奄美エリア福祉学会にてチームとして取り組んだ発表内容で優秀賞と評価された。

3. 地域における公益的な取り組み

(ア) 龍郷町第6期福祉計画第2期子ども療育計画会議への参画、地元法人施設との行政主催中学生対象の龍進塾送迎。不登校児への相談による見学受け入れ、地元専門学校実習生受け入れの実施により施設理解が広まっている。

(イ) 地域行事（豊年祭）への参画。

(ウ) 発達に困り感のある親子、地域でのつながりを求める親子への支援として遊びの場、相談の場として、のぞみ園合同開催での親子教室支援を実施。

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援 (児・者)
利用者定員	20名		10名	
利用者延べ人数	3,485名	53名	2,233名	239名
一日平均利用者数	14.3名	0.22名	9.2名	
稼働率	71.5%		92%	
稼働日数（延べ）	244日	244日	243日	
単価(一人一日当り)	12,890円	14,717円	10,051円	15,929円
サービス活動収益(千円)	44,922千円	780千円	22,444千円	3,807千円
職員数(常勤換算)	6.5名	0.5名	4.1名	0.4名

聖隷ケアセンター沖縄

聖隷訪問看護ステーションゆい

聖隷居宅介護支援センターゆい

聖隷デイサービスセンターゆい

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、デイサービスでは縮小営業を行ったが、早期の感染予防対策等で2019年度並みの収益を維持することができた。また各事業が業務の見直しや加算取得に向け取り組み、利用者数は増加している。外部事業所との顔の見える関係づくりや利用者向けアンケートなどが未実施になっているため、2021年度はコロナ禍においても外部事業所や近隣病院等と連携を強化できる方法を考え運営していきたい。

1. 職員個々の専門性を高め、地域で信頼される事業所となる

(ア) 目標参画システム、ラダーを活用し、職員個々の目標と行動化を明確にした。

(イ) コロナ禍ではあったがWeb開催研修など新しい方式での研修参加をすることができた。

(ウ) 各事業内での事例検討は実施できたが、センター全体では実施できなかった。

(エ) 会議開催が難しくセンター内の情報共有についてのツール作成・運用にまでは至っていない。

(オ) 利用者向けアンケートは未実施である。

2. 職員1人ひとりが心身ともに健康でやりがいを持ち働ける

(ア) 各事業において業務改善や記録システムの活用により、超過勤務の削減(2019年度比76%)、有給休暇取得日数を増加(2019年度比163%)することができた。

(イ) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から集合しての勉強会や会議開催はできなかった。必要時に事業所内での勉強会は開催できた。

3. それぞれの事業が、経営的に自立した上でセンターとして安定した経営基盤を築く

(ア) デイサービスセンターゆいは新たな加算の算定要件を満たせなかった。新型コロナウイルス感染拡大防止対策で縮小営業を行ったが、「新型コロナウイルス感染症に係る介護サービス事業所の人員基準等の臨時的な取り扱い」により報酬は増加し、サービス活動収益は2019年度比102%であった。

(イ) 居宅介護支援センターゆいは特定事業所加算Ⅲ取得の継続ができた。利用者も2019年度比124%と増加した。

(ウ) 訪問看護ステーションゆいは30分訪問が減少し、1時間訪問が増加した。理学療法士配置は周知され、依頼件数が増えた。(2019年度比113%)

(エ) コロナ禍で病院や相談支援事業所への営業活動は積極的に行うことができなかったが、退院前カンファレンス等で近隣病院相談員と連携することができた。訪問看護、居宅介護支援ともに病院相談員からの新規依頼があった。

4. 地域における広域的な取り組み

(ア) 地域で実施する事業への参加 講師派遣

認知症施策に向けての会議にリモート等で参加できた。コロナ禍で行政主催の事業の開催がなかった。

(イ) 地域の防災訓練への参加はできなかった。

(ウ) 各専門職の実習の依頼、調整は実施したが新型コロナウイルス感染拡大の観点から実際の受け入れはなかった。

【数字実績】

1. 訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーションゆい）

月訪問件数		年間訪問件数		平均単価		サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
医療	介護	医療	介護	医療	介護		
66件	177件	787件	2,123件	11,314円	8,517円	28,650千円	4.2名

2. 居宅介護支援事業（聖隷居宅介護支援センターゆい）

年間請求件数		平均単価		サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
885件	254件	14,880円	4,416円	14,696千円	3.0名

3. 通所介護事業（聖隷デイサービスセンターゆい）

月平均件数		年間件数		平均単価		サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	介護	予防		
325.4件	45.1件	3,905件	541件	9,326円	5,159円	39,200千円	6.6名

聖隷こども園わかば

2020年度は乳児、幼児ともに安定して187名の園児を受け入れることができた。その中でも乳児の受け入れが多かったことで安定した運営につながった。但し、在園児下の子の途中入園が多く、職員の確保が難しかったことも重なり、一般の入園を受けることが不十分であった。しかし、年度途中で県外から転入してくる幼児を1号認定として受け入れができたことで、1号認定の在り方等が職員の中でも周知できたと感じた。今後も職員にとって働きやすい環境を整えながらも入園を希望される園児の受け入れを積極的に行っていきたい。

2020年度は、感染症対策の観点から、園児の生活、行事の有り方等すべての見直しを行ったことにより改めて保育の本質についてより深く考えることができた。表面的な見直しではなく、一つひとつの事柄についての意味を考え直し、子どもたちの成長にとって何が必要なかを職員で見直せたことは「保育の質の向上」につながったのではないかと思う。外部研修の機会は大幅に減ったが、その代わりに園内での学びを深めることができ、2019年度に引き続き保育環境の見直しを行った。また、主幹保育教諭と副主任が中心となって「業務改善」について考え、園の課題に取り組んだ。今後も子どもたちの最善の利益を考え、子どもたちに対してより質の高い教育・保育の提供ができるよう保育内容の充実を図るとともに、職員にとって働きやすい職場環境の構築のために尽力していく。

【入所状況】

年間平均入所率は88.4%

途中入所は0歳児9名 1歳児2名 5歳児1名 ・転居により1名途中退園

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. より質の高い教育・保育を実践する

(ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していくことを目標として取り組みを進める中で「全体的な計画」の見直しを行った。園の基本となる柱として保育に活かすことができるよう職員と確認し、周知した。

(イ) 乳幼児が自ら色々な発見をすることのできる環境設定や、継続して遊びを繰り返すことのできる環境づくりを目指し、子どもの姿をより丁寧に見ていながら職員だけでなく、保護者へも発信して園内で共有することができた。なお、2019年度からの継続した取り組みについては、保育学会の中間報告を行い、他園からの質問等から振り返りを行うことで内容を深めていくことができた。

2. 保育職としての専門性を高める

(ア) 職員一人ひとりが園の理念・目標を理解する中で、改めて子どもを丁寧に観る姿勢を、フォトラーニング等を通して学ぶことができた。

(イ) 保育職ラダーと自己評価の取り組みを通して、職員が自己の課題を明確にし、業務に取り組むことで資質向上につながった。

3. 独自の取り組み

(ア) 食育では、日々の食事体験を大切にするとともに、管理栄養士を軸に子ども・保護者に向けた食への意欲・関心を育てていく取り組みを継続的に行った。また、厨房職員と保育者が一緒に「絵本献立」の紹介を進め、保護者も一緒に給食（食事）への興味を深める機会となった。

(イ) 子育て支援ひろばでは、年間を通して多くの子育て親子が参加した。感染症対策を徹底しながら、常設のひろば・妊婦支援・孫支援・発達に不安のある子どもへの支援を行い、週1日は地域に向いた出張ひろば等を開催した。特に相談事業に力を注いだ。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 感染症の感染拡大防止の観点から、近隣施設との交流は思うように進まなかったが、学生の受け入れ等は双方で連絡を取り合いながら安全に留意した上で行ってきた。また、園庭の開放や、電話による地域の子育て家庭に対する育児相談を行った。

【数値実績】

① 歳児別入所児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	12	12	14	15	15	16	16	18	18	19	19	21	195	16.2
1歳児	28	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	358	29.8
2歳児	35	35	35	35	34	34	34	34	34	34	34	34	412	34.3
3歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35
4歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35
5歳児	31	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	383	31.9
合計	176	179	181	182	181	182	182	184	184	185	185	187	2188	182.3

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数（名）	2931	2366	3781	3615	2854	3458	3810	3370	3583	3200	3202	3934	40104	3342
保育日数（日）	25	23	26	25	24	27	23	24	24	24	22	26	293	24.4
1日平均（名）	117	102	145	144	118	128	165	140	149	133	145	151	1637	136.9
一時預かり（名）	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	4	0.3
病後児保育（名）	0	1	0	1	2	2	15	4	11	14	7	4	61	5
延長保育（名）	15	5	27	29	15	30	30	24	29	37	45	45	331	27.5

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11月	12	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭（正）	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
保育教諭（パ）	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
看護師（正・パ）	1	1	1	1	1・1	1・1	1・2	1・2	1・2	1・1	1・1	1・1
調理師（パ）	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
管理栄養士（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員（パ）	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1
保育士助手（パ）	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3
計	45	45	45	45	47	47	47	47	47	46	46	47

聖隷こども園桜ヶ丘

2020年度は、4月上旬に新型コロナウイルス感染拡大の影響による緊急事態宣言が発令され、保育の自粛を2ヶ月間保護者に協力をお願いすることから始まり、さらに「新しい生活様式」が日常生活に取り入れられていく中で、感染予防を考慮した保育の在り方を見直す機会となった。行事等についてもやむを得ず中止することもあったが、職員間で話し合いを重ね、開催方法や内容の見直しを行うことで新たに見えてきたこともあった。いまだ終息の先行きが見えず、感染拡大は私たちに不安を与え続けていくが、引き続き感染対策を徹底しながら「子どもの最善の利益」を考え、ひとりひとりが安心して過ごせるこども園作りをしていきたい。

【入所状況】

4月新入園児18名、途中入園は、0歳児16名、1歳児1名、2歳児1名、計18名であった。転居等家庭の都合で2名が退園した。最終的には定員190名のところ178名の園児を受け入れることができた。年間平均入所率は93.6%であった。

【事業目標及び重点施策への取り組み】

1. 質の高いサービスを提供する。

- (ア) 保育の資質向上を目指して、運動遊び・救急法等の講師を園に招いて勉強会を実施した。また、積極的にWEB研修やキャリアアップ研修を受講することで教育・保育の専門性を身につけることに繋がった。
- (イ) 園内研修では、「正しい姿勢を保つためにすべきこと」をテーマに、椅子の高さや机の高さを見直し、一人ひとりの体格等配慮した環境作りを実践し、保育の中で様々な運動を取り入れ、体幹や身体機能の発達に繋がるような取り組みをした。
- (ウ) 聖隷保育の勉強会では「構成論」を学び、子どもの動画から、子どもを観る視点や子どもが考えていること想像し、保育の質の向上の機会となった。
- (エ) 障害のある園児の医療機関や並行通園施設と連携を図り、きめ細やかな保育を行った。浜松市の「子どもの発達支援事業」を利用して専門知識や個別配慮の必要な子の関わり方を共有して保護者へのアプローチをしていった。

2. 安定した運営の意識を持つ。

- (ア) 職員一人ひとりが施設設備を丁寧に扱い、省エネルギーやエコロジーを心がけた。
- (イ) 一時預かり事業と親子ひろばの利用の休止期間（4月～8月）があったが、秋から再開となり、感染予防を配慮しながら行った。
- (ウ) 主任と副主任が中心となって、職員の心身の健康維持のための働きやすい職場について考え、環境整備を行った。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 中学生の職場体験の受け入れを行った。近隣小学校の1年生による学習発表を通じて年長児との交流を行い、就学に対する不安を軽減し、期待感に繋がった。
- (イ) 地域の子育て家庭への相談機会を提供した。（都田図書館にて年間2回）

4. 環境を通して教育・保育の充実を図る

(ア) 隣家で借りている畑で季節の野菜を栽培し、子どもが中心となって世話をを行った。また収穫やクッキングを通して食への興味を深めることができた。栄養士が、献立のメニューに関する絵本の読み聞かせを通して食育活動を定期的に行った。

(イ) 新型コロナウイルス感染症による3密対策として、1階ホールの一部にパーテーションと家具を取り付け、3歳児保育室を拡張した。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
0歳児	4	4	4	6	7	11	12	13	14	16	17	20	128	10.6
1歳児	30	30	30	30	30	30	29	30	30	30	30	30	359	29.9
2歳児	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	31	31	366	30.5
3歳児	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	384	32.0
4歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33.0
5歳児	33	33	33	33	32	32	32	32	32	32	32	32	388	32.3
合計	162	162	162	164	164	168	169	171	172	174	175	178	2021	168.4

② 保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
延べ人数（名）	2664	1905	3404	3355	2539	3250	3364	3133	3321	3015	3012	3752	36714	3059
保育日数（日）	25	23	26	23	25	24	27	23	24	23	22	26	291	24.2
1日平均（名）	106	82	130	145	101	135	124	136	138	131	136	144	1508	126.2
一時預かり（名）	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	3	0.25
延長保育（名）	53	33	52	59	52	48	63	60	55	70	102	131	778	64.8

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭（正）	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
保育教諭（パ）	13	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14
看護師（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員（パ）	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育助手（パ）	4	4	4	4	4	3	3	2	2	2	2	2
合計	44	44	44	44	44	43	43	43	43	43	43	43

聖隷こども園ひかりの子

コロナ禍における感染予防の対応と園児の心身の育ちの保障を最優先に事業全体を見直した1年であった。具体的には日常保育で学年間の接触ができるだけ少なくなるよう保育の形態を見直したり、保護者の協力を得ながらより細かく園児の健康観察を行った。また、密を避けるため保護者の保育室への入室制限を行ったり、行事も中止や規模を縮小せざるを得なかった。保護者参加の機会が少なくなり、今までよりも家庭との連携が取りづらくなった。そのため園に対して誤解や不信を招くケースも見られた。担任からこれまで以上に園児の様子を丁寧に伝え、必要に応じて個別面接を行い信頼関係の構築に努めた。また、学童保育や親子ひろば、エンジェルリトミック等の事業も地域の感染状況を踏まえ、感染対策を十分に行ったうえで開催した。一方、園内に於いては主幹保育教諭や副主任を中心となり、委員会や係担当の体制を見直すことで若手職員の育成と同時にベテラン職員の意識化に繋がった。また、組織体制や役割を明確にし、記録業務に関するICT化の有効活用や職員がより働きやすい環境を目指して、取り組んだ1年であった。

【入所状況】

4月の新入园児32名、年度途中入所は12名あり内8名が在园児下の子の入园であった。また、転居等家庭の都合で11名の転園、退園があった。年間平均入所率は84.2%であった。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 教育・保育の質の向上

- (ア) 構成論に基づく子どもの育ちを職員間で共有し、想いを伝え合うことで保育の軸となる考え方や互いの保育観を理解し合うことができた。また、キリスト教保育について、月刊冊子を基に自身の保育を振り返り、PDCAサイクルを意識して次への展開や見通しを持った保育に繋がるよう努めた。
- (イ) コロナ禍における日常の保育や行事の在り方を見直した。保育理念に基づき、一人ひとりの子どもが大切にされ、年齢発達に応じた充実した主体的な楽しい活動が保障されるよう、職員間でその都度確認し合うことができた。

2. 職員の資質向上

- (ア) 保育職ラダーや自己評価を基に自己の目標や役割を見出し、必要な研修に参加することで保育力の向上を図った。2020年度はオンラインを活用した外部の専門研修にも積極的に参加することができた。
- (イ) 聖隷保育の勉強会で構成論についての学びを深め、職員間で共有することで理念に基づく保育実践に繋げるよう努めた。

3. 教育・保育関係機関との連携

- (ア) 主幹保育教諭が近隣小学校での職業紹介の授業に出向き、小学生との交流を図った。また、年長児保護者を対象に元小学校長による講演会を開催し、就学に対する不安を軽減、解消することができた。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 親子ひろばについては、コロナ禍における開催の仕方に十分に配慮しつつ、温かな雰囲気と対応を心がけ、職員や親同士が顔見知りとなり継続的に子育ての悩みや楽しさを共

有できる場となった。

(イ) 地域の図書館にて、隔月行われるブックスタート事業に合わせて育児相談会は、浜松市からの要請により実施を見合わせた。

5. 保育環境の改善、施設整備

(ア) 0歳児保育室をパーティションで仕切ることで個々の発達要求に即した関わりができた。

(イ) 2階テラスの床面の全面張替えを行い、0.1歳児が衛生面でも安心して屋外での遊びを楽しむことができた。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数(名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	10	9	9	9	10	11	14	14	15	15	16	17	149	12.4
1歳児	28	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	347	28.9
2歳児	36	35	35	36	36	36	36	36	36	36	35	35	428	35.7
3歳児	43	43	43	43	43	42	43	43	43	43	43	43	515	42.9
4歳児	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	468	39
5歳児	40	40	40	40	40	40	40	40	40	39	39	39	477	39.8
合計	196	195	195	196	197	197	201	201	202	201	201	202	2384	198.7

② 保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2951	2422	3974	3769	2969	3605	4073	3513	3850	3293	3508	4095	42022	3501.8
保育日数(日)	25	22	26	25	25	24	27	23	24	23	22	26	292	24.3
1日平均(名)	118	110	153	151	119	150	151	153	160	143	159	158	1725	143.8
一時預かり(名)	0	0	0	0	0	1	1	10	13	5	0	7	37	3.1
延長保育(名)	40	35	47	56	43	45	66	79	85	57	74	94	721	60.1
学童保育(名)	202	64	179	173	254	185	205	172	183	146	164	188	2115	176.3
親子ひろば(名)	0	0	2	0	0	12	20	28	20	22	28	8	140	11.7

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正・パ)	19・17	19・17	19・18	18・18	18・20	18・20	17・20	17・20	17・21	17・22	17・22	17・22
調理師(正・パ)	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員(パ)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育補助・アルバイト	1	1	1	1	1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1
計	49	49	50	49	51	52	51	51	52	53	53	53

聖隷こども園めぐみ

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大という予想だにしていなかった状況が続く中、社会福祉施設として常に園を開き、働く保護者のサポートを行ってきた。一方で園児・保護者・職員等の安全を守りながら園として出来ることは何かを模索しながら、他園と情報を共有し、衛生面の徹底、利用者、職員の健康管理に力を注ぐと共に、子どもたちにとって必要な経験を保証していくために保育の内容・行事の開催等、考え工夫して取り組んでいくことが出来た。

また、大きな課題であった保育士の確保については、新卒者及び中途採用者の雇用が進んだことによって改善され、園児の受け入れのニーズに応じていくことが出来た。結果的に開園4年目にして入所率も順調に向上した。もう一つの課題であった連携園である事業所内保育所の従業員枠の園児の受け入れが出来ないといった問題に対しては、2021年4月に聖隷めぐみ保育園を統合することと合わせて定員を増員することが決定し、受け入れの為の準備を進めることができた。

職員が働きやすい環境をつくるために、主任・副主任を中心に業務改善にも取り組んだ。職員の業務内容を可視化し記録時間・休憩時間の確保につなげた。今後さらにモチベーションを高く持って仕事に取り組めるよう、専門職として知識や技術を身に付けていくことが出来る環境を今以上に整えていきたいと思う。

今後も子どもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い教育・保育の提供が出来るよう保育内容の充実を図っていきたい。

【入所状況】

年間入所率は94.9%、途中入園は0歳児が8名（すべて兄弟枠）

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上

- (ア) 聖隷保育の勉強会では構成論について実践を交えた学びの場をエリアごとに行なった。
- (イ) WEBを活用した研修に積極的に参加し、学びを職員間で共有する時間を作った。
- (ウ) 聖隷保育学会への取り組みを継続した。

2. 和合せいれの里の施設利用者との交流・聖隷めぐみ保育園との連携

- (ア) コロナ禍の中、和合せいれの里の利用者との交流は合同開催の行事の中止などもあり減少した。しかし、職員が知恵を出し合い日常の中で可能な交流を行なっていった。こうした交流の継続が聖隷の理念（ノーマライゼーション）の理解につながると実感した。
- (イ) 聖隷めぐみ保育園とは、統合に向けた準備や情報交換など連携を図った。

3. 子育て支援

- (ア) 夕食提供という園独自の支援を、子どもの生活リズムを整えるために提供時間を変更しながらも継続した。この支援が必要な家庭が継続利用しており保護者支援につながった。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 親子ひろば・病後児保育室もコロナ禍において利用者の制限が必要になり、参加者数は減ったが、地域の子育て家庭を支援する場所として開催を続けた。登録希望、育児相談など、地域の中で少しずつ認知度が上がってきていることを感じる。

(イ) コロナ対策を講じながら次世代育成の為、中高生の職場体験の受け入れを行った。

5. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 記録業務を行う上で保育システムが十分に活用できなかった課題に対して、浜松エリアで代表者が集まり改善に向けた会議を重ね、具体的な見直しをすることで職員が保育システムを活用して記録業務をすることで業務省力に繋がった。今後も継続して業務省力に向けた保育システムの有効活用について取り組んでいきたい。

【数値指標】

(ア) 歳児別入所保育児童数(名) 入所率 94.9%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	4	4	6	6	7	9	9	10	10	10	12	12	99	8.3
1歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
2歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	287	23.9
3歳児1・2号	33	33	33	34	34	33	33	33	33	33	33	33	398	33.1
4歳児1・2号	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35.0
5歳児1・2号	33	33	33	34	34	33	33	33	33	33	33	33	398	33.1
計	153	153	155	157	158	158	158	159	159	159	161	160	1890	157.5

(イ) 保育日数及び延べ出席・利用状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2645	2151	3146	3097	2462	3025	3365	2849	2966	2698	2780	3294	34478	2873.1
保育日数(日)	25	23	26	25	25	24	27	23	24	23	22	26	293	24.4
一日平均(名)	106	94	121	124	98	126	125	124	124	117	126	127	1412	117.6
一時預かり(名)	0	0	13	2	0	0	1	7	2	7	3	0	35	2.9
病後児保育(名)	0	0	0	0	0	5	0	0	1	0	2	0	8	0.7
親子ひろば(名)	0	0	7	8	5	3	12	5	5	4	9	9	67	5.6
延長保育(名)	67	47	87	76	68	67	91	103	102	76	86	112	982	81.8

(ウ) 職員の状況(名) 正規職1名、パート職1名育児休暇中

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	18	16	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18
保育士(パ)	3	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	9
保育補助(パ)	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
管理栄養士(委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	29	31	32	32	33	34	34	34	34	34	34	35

聖隷浜松病院ひばり保育園

2020年度より利用定員200名となったが、0、1歳児においてコロナ禍の影響から年間を通じて早期復職、育休延長、入園取りやめと変動が多かった。その為、予定通り入所ができず定員未達となった。2歳児クラスでは、年度途中で園児の退園はあったが一定数の園児を幼児クラス継続利用へとつなげられた。幼児クラスでは、保育理論を根拠としたコーナー遊び中心の保育を取り入れ、子ども主体の保育の実践へと動き出せた。児童クラブ“アイビー”は定員40名となり利用児童が着実に増えている。放課後児童クラブ“はなえみ和合”と定期的に連絡会をもち、利用児童増加に対しての送迎調整、感染対策の共有等を実施して安全な運営に努めることができた。

年間を通じて保育理論の構成論を基にした保育の省察、園内勉強会を定期実施し、保育者の専門性の向上を図りつつ、保育実践に活かすことができた。

1. 入所状況

年間平均入所率は57.4%。4月は新入園児14名を迎え101名でスタートし、3月末には126名の在籍となった。途中の入退園はあったが同程度で推移。4月から25名の増となった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 質の高い保育サービスの提供

- ①毎月、園内勉強会を実施し、保育理論を根拠とした保育者の視点を学び、子ども主体の保育実践へとつなげることができた。
- ②自己評価より見えてきた園の強み弱み等の共有を図り、育児講演会の開催、掲示等により園の保育発信を意識した取り組みが実施できた。
- ③聖隷のこども園・保育園と連携を図り、聖隷保育勉強会の定期実施や年度末研修の実施により、各職員同士が学び合いを持ち保育の省察と実践へとつなげられた。

(イ) 専門性の向上を図る。

- ①研修計画に沿って参加を促進したが、コロナ禍により計画通りの参加はできなかった。リモート研修を積極的に取り入れたことで職員に学ぶ機会を設けることができた。
- ②保育職ラダーや目標参画システムを活用し個々の目標・課題を明確化し意識づけができた。
- ③保育理論の構成論を基に保育者の子どもを見る視点を学び、子ども理解をすすめると同時に各年齢に応じた子どもの主体的な活動を生み出す保育を実践継続できた。

(ウ) 職員の働きやすい環境づくり

- ①業務省力化に向け浜松エリア会にて取り組みを進め、休憩時間を確保し心身の健康維持に努めた。記録時間の確保が課題となっているため、時間確保のシステム作りを継続する。
- ②会議内で職員同士の意見交換の場を持つことができたが、定期的には実施できなかった。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 育児講演会や人形劇等を企画したが、コロナ禍により地域からの参加は得られなかった。
- (イ) 住吉文化展に参加、出品し、地域との交流の機会をもつことができた。

【数値実績】

① 児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	7	8	11	13	16	19	21	25	27	29	29	30	235	19.5
1歳児	23	22	22	24	24	26	26	26	27	27	27	27	301	25.0
2歳児	35	35	35	35	36	35	35	33	32	32	32	32	407	33.9
3歳児	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	90	7.5
4歳児	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132	11.0
5歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	18.0
計	101	101	104	108	112	116	119	121	123	125	125	126	1,381	114.9

②保育日数および延べ出席（利用）状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数（名）	1748	1500	2127	2172	1859	2162	2464	2176	2383	2220	2040	2556
保育日数（日）	25	23	26	25	24	24	27	23	24	23	22	26
一日平均（名）	69	65	81	86	77	90	90	94	99	96	92	98
延長保育（名）	68	77	92	79	75	96	89	74	99	91	96	111

③職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士（正）	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
保育士（パ）	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9
看護師（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員/用務員	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/2	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1
計	38	38	38	38	38	38	38	37	37	38	38	38

聖隷のあ保育園

2020年度は開園2年目となり、児童数が安定した。職員間の連携も深まり、少人数の園の特性を活かした質の良い保育の提供とニーズに合わせた援助について学ぶため自園研究を深め、保護者支援に活かすことができた。コロナ禍における行事のあり方や対応については、法人内の聖隷こども園・保育園と情報共有し、自園でできることを考えることができた。また、連携施設とは食事提供や土曜共同保育のスムーズな連携ができています。中でも「聖隷こども園ひかりの子」とは土曜共同保育だけでなく夏季等の特別保育期間の共同保育も進めている。2021年度は3歳児以降の受け入れ先が「聖隷こども園ひかりの子」のみとなるため、入園の際から保護者の意向を確認し、スムーズな移行や転園を援助していきたい。

今後も子どもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い教育・保育の提供ができるよう人材育成に努め保育内容の充実を図ると共に、働きやすい職場環境を整えていくことを継続していく。

【入所状況】

4月は16名でスタートし、3月末には19名の在籍となり、年間入所率は90.5%となった。年度途中に入退園はあったものの大きな変動なく推移し、3月末に定員を満たすことができた。

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 保育の質の向上。利用者に質の高い保育・保護者支援を行う

- (ア) キリスト教保育を基盤に聖隷の保育を形づけていけるよう丁寧に伝えることを重視した。
- (イ) コロナ禍で外部研修への参加はできなかったが、園内勉強会で自園の研究を深め、懇談会、送迎時の保護者との交流を密にし、保護者支援に活かすことができた。
- (ウ) 子どもをよくみて丁寧な関りを大切にし、子どもの成長発達に関連付けて養護と教育が一体になった保育を意識することができた。また、保育環境を子どもの発達と併せて考え、常に見直し改善することができ、少人数の乳児保育の利点を活かした保育を行うことができた。

2. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくりを目指す。

- (ア) 保育システムを活用する中で、必要なものを精査し業務省力につなげた。
- (イ) 職員間でお互いにコミュニケーションをはかり、報告、連絡、相談の徹底に努めた。
- (ウ) レイバー表を用いて職員が働きやすい環境を整え、心身の健康維持に努めた。
- (エ) 連携園である「聖隷こども園ひかりの子」と土曜保育等の共同保育にあたり協力体制を維持した。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) コロナ禍において地域の子育て家庭のニーズ把握が難しく、支援ができなかった。また、予定していた自治会との交流は2021年度以降に延期となった。
- (イ) 実習生の受け入れは、リモートでの見学等も行い、保育士育成の支援ができた。

【数値実績】

(ア) 歳児別入所保育児童数 (名) 入所率 90.5%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	4	4	4	4	5	5	5	5	5	6	6	6	59	4.9
1歳児	6	6	6	6	6	6	7	7	6	6	6	7	75	6.3
2歳児	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0
計	16	16	16	16	17	17	18	18	17	18	18	19	206	17.2

(イ) 保育日数および延べ出席 (利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数 (名)	269	199	317	321	245	327	340	306	289	298	288	374	3573	297.7
保育日数 (日)	25	23	26	25	21	24	27	23	24	24	22	26	290	24.2
一日平均 (名)	11	9	12	13	12	14	13	13	12	12	13	14	148	12.3
延長保育 (名)	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3	0.3

(ウ) 職員の状況 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職場長 (非)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士 (正)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
(パ)	1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
管理栄養士 (委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員 (兼務)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	9	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11

こうのとりの保育園

新型コロナウイルス感染症対策をしながら「新しい日常」の中でのよりよい保育の在り方を職員、保護者と共に考え、模索してきた1年であった。「子ども主体」という観点で日常の教育・保育を見直し、行事についても本来の意図をみんなで改めて考えながら、一つ一つ子ども達と創り上げることができた。今後も、今まで以上に衛生管理を徹底し、園児の心身の健康にも気を配り、保護者や公的機関との連携を取りながら保育をしていく。そして、多職種が連携し、職員同士のコミュニケーションを図ることが保育の質の維持、向上には欠かせない。引き続き、参考文献等を基にチーム力を高めるためのスキルを学び、チーム保育を振り返り、実践することを繰り返し、今後も進みたい。

【入所状況】

4月新入園児15名、年度途中新入園児13名のうち、育休明け0歳児が10名で、年間入園率は117%であった。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上

(ア) 統合保育の実践

脳性麻痺で入園希望のあった児童についてはコロナウイルス感染対策を徹底した上で、無理の無いように障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」で受け入れをし、保護者や就学先とも繰り返し面談の機会を持ちながら、無事に卒園を迎え、園全体であたたかく送り出すことが出来た。「磐田市発達支援センターはあと」の巡回相談後も、積極的に園から相談し、働きかけることで、専門的な観点での理解を深め、個別・集団における保育（療育）の実践に繋がった。

(イ) 歳児別・異年齢別クラスを更に小人数に分けた細やかな保育の実践

一斉保育で子ども達を待たせている時間に着目し、一人ひとりの子どもと丁寧に関わる為にはどうしたらよいのか話し合い、0、1歳児では流れる日課を取り入れた。育児の場面で子どもを丁寧に見ていくことで、その他の場面での子どもの発達や関心にも気付きやすくなり、知的発達や運動発達、言語コミュニケーション能力、仲間関係にも働きかけやすくなってきている。実践を積み重ねていくことで更なる効果を生み出していきたい。

2. 利用者（保護者と子ども）を中心に置いた子育て支援

(ア) 保育参加、その後の面談を通して、ひとり一人の子どもの育ちを映像や写真だけでなく、直接見てもらうことで、子どもの育ちにはそれぞれに違いがあり、子ども同士が影響し合いながら生活していることを伝え、共有することができた。クラス懇談会や連絡ノート等を通して、家庭では見られない園での姿に、子どもの成長を喜ぶ声が聞かれた。

3. 職員の専門性を高め、働きやすい職場環境の整備

(ア) 業務省力化（時間の使い方）への各園の取り組みをエリア内で共有し、会議の質の向上に繋がった。保育者間での語り合いの時間を意図的に持ち、様々な演習やグループワークを通して、自分の役割を理解し、仲間に貢献し、個の力を発揮することでチーム力の向上を目

指してきた。果たすべき役割を相互に理解し、実行力を高めている。更に、キャリアアップ研修を受講し、教育・保育の専門性を身に付けることに繋がったが、今後職員全体の学びとして広げていくことが課題である。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 新型コロナウイルス感染症対策により地域住民や小中高校生との交流は難しかったが、方法を変え、環境整備の協力や手作り玩具の提供をしていただき、直接ではないが子ども達と心が通い合う交流となった。引き続き子どもは社会全体で育てることを大切にしていく。

5. 保育環境の改善、施設整備

(ア) 修繕…園庭と園庭遊具の整備、床、壁紙交換、防水工事

(イ) 購入…防災倉庫の購入と設置、照明 LED 変更、アクセスポイント設置工事

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	11	12	13	14	15	17	17	17	17	18	18	178	14.8
1歳児	23	22	22	22	22	24	24	24	24	24	24	24	279	23.2
2歳児	26	26	26	26	26	25	25	25	26	26	26	26	309	25.7
3歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
4歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
5歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
計	135	136	137	138	139	141	143	143	144	144	145	145	1,690	140.8

② 保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2,209	1,741	2,788	2,736	2,180	2,707	2,978	2,721	2,783	2,403	2,475	2,875	30,596	2549.6
保育日数(日)	25	23	26	25	25	24	27	23	24	23	22	26	293	24.4
一日平均(名)	88	76	107	109	87	113	110	118	116	104	113	111	1252	104.3
一時預り(名)	19	3	67	89	95	122	117	97	94	69	89	104	965	80.4
延長保育(名)	64	37	83	59	52	71	75	59	49	49	53	63	714	59.5
学童保育(名)	63	13	16	13	81	1	2	2	7	9	2	37	246	20.5
休日保育(名)	10	4	0	25	6	21	0	26	3	10	24	1	130	10.8
病後児(名)	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0.2
支援センター(名)	120	95	315	426	379	448	453	427	406	347	387	581	4,384	365.3

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	13・24	13・24	13・24	13・24	13・24	13・24	13・24	13・24	13・24	13・24	13・24	13・24
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	1・3	1・3	1・3	1・3	1・3	1・3	1・3	1・4	1・4	1・4	1・3	1・3
事務員(正・パ)	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2
補助他・アルバイト	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
計	51	51	51	51	51	51	51	52	52	52	51	51

聖隷こども園こうのとり東

放課後児童クラブ“オリーブ”

2019年度に拡張した園庭で、ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）を充実させながら発達の連続性を意識した体力づくりに活かすように取り組んできた。しかし、体力測定をする中で県の平均より下回る結果が出た。その事を踏まえて子どもの姿を捉えながら、再度環境を効果的に使用するにはどうしたらよいか、保育者のアプローチはどのようなものが必要かということ職員間で検討し、2021年度へと繋げていくこととした。

人材育成については、事業団主催の階層別研修が予定通り実施できない中、こども園・保育園の園長や主任が主催した新人研修を行った。研修を行うことで自分の気持ちを素直に表現したり、保育の専門的な知識を学ぶことができた。園全体としては学びの場が少なくなった現状があるので、今後、主幹保育教諭や副主任と相談をして学びの機会を増やし、保育の質の向上につなげる。

【入所状況】

1号認定の子どもは、定員15名のところ7名、2・3号認定の子どもは、定員200名に対して197名の利用となった。全体の年間入所率は91.9%であった。

【年度事業目標・年度重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育者が保育理念と保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育」を実践する
感染症の影響で園外研修の機会が減り、園内でもまとまった人数での勉強会の数が減少した。そのような中でも園で大切にしている“キリスト教保育”を学ぶ機会を月に2回実施することができた。経験年数が少ない職員にとっても有意義な時間となった。又、会議の持ち方についても短時間の中で必要な議題のみを取り上げて効率よく話し合いがなされるように変えることができた。

(イ) 保護者支援を実践する

感染症防止のため、保護者の入室制限をかけたたり、行事を取りやめたりすることで、職員と保護者とのコミュニケーションが不足した。2021年度は子育てに関すること、保護者の置かれている状況等を短時間でもこまめに伝えあう時間をつくっていく。

2. 統合保育・他機関との連携

(ア) 発達が心配な子どもに関しては、保護者とよく話をして療育相談や専門機関につなげていった。又、保護者が障害をもった家庭もあり、市に相談をかけて6機関と定期的に話し合いの場を設け、母親の就労支援や生活支援・子の成長発達に関わる支援をそれぞれの立場から取り組むことができた。

3. 食育の推進と環境

(ア) 田んぼ活動は田植え、草取り、稲刈り、脱穀、精米とお米になるまでの一連の流れを経験し、取れたてのお米を炊き味わった。

栄養士・調理師・保育教諭が連携を取りながら、絵本を活用した給食の取り組みも実践し、保育者と給食担当者が共に食育を行うことができた。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) コロナウイルス感染症の影響で、例年通りの地域の高齢者を招いての行事や活動は行うことができなかった。しかし、そのような中でも地域の方数名と田植えや稲刈り等を経験したり、畑作業を共に行うことができた。

5. 放課後児童クラブ“オリーブ”

(ア) 希望者が年々増加している。2020年度も定員を超えての利用となった。

子どもたちが主体的に学習に取り組んだり、遊びを発展させられるようにと、環境を整えてきた。室内は学習するスペースと遊ぶスペースにわけ、学習テーブルを整備し、図書や玩具も子どもたちの興味関心に合わせて整えることで安心して過ごせる場となった。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	11	10	11	12	12	15	16	19	19	21	21	176	14.6
1歳児	33	33	33	32	33	33	33	33	33	33	33	33	395	32.9
2歳児	30	30	29	29	29	30	30	30	30	30	30	30	357	29.7
3歳児	40	40	40	40	41	41	41	41	41	41	41	41	488	40.6
4歳児	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480	40.0
5歳児	40	40	40	40	40	40	40	40	39	39	39	39	476	39.6
計	192	194	192	192	195	196	199	200	202	202	204	204	2,372	197.6

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2,756	2,203	3,875	3,811	2,706	3,636	4,068	3,590	3,805	3,226	3,512	3,813	41,001	3,416.7
保育日数(日)	25	23	26	25	25	24	27	23	24	23	22	26	293	24.4
一日平均(名)	110	96	149	152	108	152	151	156	159	140	160	147	1680	139.9
延長保育(名)	87	47	104	73	72	95	117	87	111	91	68	87	1,039	86.5
学童保育(名)	460	295	610	592	530	554	587	494	539	526	333	438	5,958	496.5
病後児(名)	1	0	0	3	3	7	0	0	0	0	0	1	15	1.2
外国人保育(名)	16	16	15	15	17	17	17	17	17	17	18	18	200	16.6

② 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・バ)	18・18	18・18	18・18	18・18	18・18	18・18	18・18	18・16	18・17	18・17	18・17	18・17
看護師(バ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(バ)	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4
事務員(バ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補助他・アルバイト	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
計	47	49	49	49	49	49	49	47	48	48	48	47

聖隷こども園こうのとり豊田

2020年度は磐田エリアの4園の主任・副主任が各園の課題等について情報共有したことを、園内で副主任が中心となって保育の専門性の向上と働きやすい職場環境の構築に向けて取り組むことが出来た。乳児は、ゆるやかな育児担当制保育、幼児は、コーナー遊びやテーマ保育に取り組み、園児一人ひとりの興味や関心、成長や発達等を子どもの姿より多角的に捉え、子ども理解を深めることが出来た。園内研修を通して定期的に職員同士が教育・保育について語り合う場を設けたことにより、互いの保育観や部門の現状を知る機会となり、自分の役割だけに留まらず、職員一人ひとりが自らコミュニケーションを図り連携をとることが出来た。

1. 入所状況

4月に新入園児25名を迎えて164名でスタートした。年度途中は、0～1歳児クラスへの入所が8名であった。また、5歳児1名が年度途中より広域での受入れとなった。最終的には2、3号認定が定員140名に対して100.5%、1号認定が定員15名に対して5.2%の入所率であった。

2. 年度事業目標・年度重点施策への取り組み

(ア) 保育の質の向上

一人ひとりの発達・興味・行為や活動のスピードに応じた適切な援助を行う為に『ゆるやかな育児担当制保育』を取り入れてから3年目の年となり、2020年度は副主任が1週間各クラスに入り保育の様子を把握し、共に保育について考え合う方法を取り入れた。そのことにより協働性を高めることに繋がった。入園から卒園までの長期的な視野で育ちを捉え、保育の連続性に考慮した話し合いや共有を行い、実践することで生活習慣の確立に繋がっている。

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

新型コロナウイルス感染防止対策による登園自粛期間があり、長期欠席の子どももいた為、定期的な確認連絡や家庭でも楽しめる遊びの提供等の支援を行った。保育参加や行事等が例年通りに行えなかったものの、衛生管理を徹底した上で可能な範囲で実施できる方法を検討し保護者の方と共に子どもの成長を見守っていくことが出来た。

(ウ) 職員間で連携し保育の専門性を高め、働きやすい職場環境を作る

外部研修として、キャリアアップ研修・階層別研修・専門分野の研修（給食・看護・磐田保育士会部会等）等を計画していたが、コロナ禍により中止もしくはリモート研修となったものもあった。キャリアアップ研修に参加した副主任が園内で講師となり伝達研修を行い学ぶ機会とした。2019年度に引き続き、クリストファー大学の細田直哉氏により、園の教育・保育の観察、指導、アドバイスを頂き、現状の課題を明確化し、課題に対する取組みを実践する事が出来た。

(エ) 地域における公益的な取り組み

地域の子育て家庭に園庭を開放、ベビープログラムや育児講座（離乳食講座・幼児食相談）の場を設け、子育て相談を実施した。

(オ) 環境整備・修繕

購入：2歳児配膳台、知育玩具、運動器具、机上遊び用テーブル他

: ICT コドモン導入費用及び機器

修繕: ウッドデッキ、総合遊具、築山の芝、ドアフォン他

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	11	13	13	13	13	14	14	14	15	16	16	161	13.4
1歳児	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	287	23.9
2歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28.0
3歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35.0
4歳児	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408	34.0
5歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35.0
計	164	167	169	169	169	169	170	170	170	171	172	172	2032	169.3

②保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数 (名)	2536	2105	3524	3340	2516	3242	3636	3067	3257	2889	2998	3361	36471	3039.2
保育日数 (日)	25	23	26	25	25	24	27	23	23	23	22	26	292	24.3
一日平均 (名)	101	92	136	134	101	135	135	133	142	126	136	129	1500	125.0
一時預り (名) <small>(内こひつじ)</small>	1 (0)	11 (0)	10 (0)	37 (19)	1 (0)	10 (3)	18 (3)	14 (7)	12 (6)	14 (10)	20 (14)	8 (8)	156 (70)	13.0 (5.8)
一時預かり (幼稚園型) (名)	1	0	16	15	0	13	12	10	10	10	7	10	104	8.6
延長保育 (名)	78	39	85	99	69	72	102	89	78	72	85	79	947	78.9
学童保育 (名)	203	160	201	167	231	154	183	43	90	77	79	136	1724	143.6

③職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
保育教諭(パ)	17	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
管理栄養士(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	1・4	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・4	1・4	1・5	1・5	1・5
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員・保育補助(パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	45	45	45	45	45	45	45	44	44	45	45	45

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘

聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘・聖隷訪問看護ステーション富丘

開設初年度ではあったが、3事業がそれぞれの役割を考え、目標達成に向けて努力を重ね、目標数値達成につながった。そして、安全で安心な環境を目指し、新園舎内外でのリスク管理や衛生管理も徹底して行った。1年間を振り返る保護者アンケートからは、子どもたちの成長を喜び、職員への信頼そして園への信頼を寄せてくれていることが伺え、何より組織運営を行う上で力となった。また、2021年度より新たにICT化に伴う保育システム（コドモン）を導入するための準備を行った。業務の省力化と効率化を図り、保育の質の向上、保護者支援につなげていきたい。

2016年から2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標(SDGs)として、17の大きな目標が掲げられている。2020年度に続いて2021年度もこの目標に着目して運営にあたりたい。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 施設運営

新入職員と中堅職員、看護師と調理担当者が話す機会を作ったり、個別にあるいはグループで、また代表者が集まって、それぞれの思いや考えを聞いたり、意見交換したりする場を設けることによって、その一つ一つを組織運営に反映させられるようにしてきた。それぞれが専門職として自己発揮できるような体制を整えることができた。園内外の安全安心な環境を整えるために3事業が一体となって、リスク管理に時間とエネルギーを費やした。

法人内外の研修参加、職種別ラダーを活用し、職員のスキルアップを行った。キャリアアップ研修には、できるだけ参加できるように調整し研修発表の場も作ることができた。今後も3事業プロジェクトを継続し、一つのチームとして多面的に利用者に関わっていきたいと考える。訪問看護と児童発達支援の2事業での勉強会では、作業療法士と理学療法士とが企画と準備を合同で行い、生活の中でこそ実践できる支援を、専門職として他職種へ伝え、チームで力を発揮することができた。

利用希望者も多く、安定した運営ができるよう、適切な職員配置とコスト管理を行った。

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

[入所状況]

4月新入園児82名を迎え、年度途中入園児18名のうち、育児休暇あけの0歳児が11名。年間入園率は70.3%であった。

(ア) 保育の質の向上(異年齢保育、統合保育の実践)

2020年度は、年中児と年長児クラスに障がいのある児童と要支援児童を合わせると8名であったが、関係機関との連携を取りながら、柔軟に丁寧に関わり一人一人と向き合ったことで、異年齢クラスとして、お互いの個性を發揮し合い、育ち合うクラスとなった。

(イ)「親育て」の観点から乳幼児期の発育を促すための家族関係に着目し、精神保健福祉士と心理士の資格を持つ井上佳子先生に講師をお願いし「子育てあるある」をテーマにクラス別

ミニ講演会を行った。質疑応答も交え、保護者からは「夫婦で話し合った」「子どもへの言葉のかけ方が変わった」等、その効果が感じられる感想をいただいた。

(ウ) 3事業で行う事例検討会は、お互いの専門性を高め合い磨き合うことにつながった。

3. 聖隷こども発達支援事業所かみあ富丘

(ア) 客観的な指標を基に、領域を意識し療育プログラムを作成する

児童発達支援ガイドラインに即した領域別の年間計画に基づき、利用児の発達状況に合わせた事業所アセスメントツールを使用した実態把握により、月次、日次療育プログラムを作成し、運用した。

(イ) 保護者が、子どもを愛しその育ちを喜びあうとともに課題に向き合う姿勢を支える子どもの姿を知り、育ちを実感できる活動として行事（座談会、わくわく広場、療育参加）や個別面談（きらきらタイム）を実施した。

(ウ) 他機関への広報やケース連携にて、安定した利用につなげ、目標利用率を達成する並行通園児の園連携や感染症対策などが保護者の前向きな利用につながり、予算を達成することができた。

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

(ア) 利用者・家族のニーズに沿ったケアを実施する

利用者の増加に伴い、カンファレンスの開催ができない時には、声をかけあい、ケア内容や連携について相談し対応した。利用者の情報、意向の共有も適宜行った。

(イ) 施設内、事業所内での役割が明確になり、自ら行動し、やりがいを創造する

このとり富丘としての合同の委員会活動の積極的な参加を心掛けたが、訪問件数が増えたことで、参加が困難なことが多かった。事業所内では、それぞれの係としての活動を実施した。

(ウ) 他機関と連携し、聖隷訪問看護ステーション富丘を認知して頂き、安定した経営を目指す

訪問看護ステーション貴布祢からの移行以外で104件/年の新規依頼があった。磐田市南部地域包括支援センターの協力も頂き、地域の居宅支援事業所と繋がっていくことができた。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 豊田地区民生委員等の方々との懇談を行った。地域の実情を知る機会となり、地域に根ざすことを目的とし、多世代の方たちが子育てに関わり(畑・田植え・味噌作り等)、地域の中に、子育ての場を作っていけるように、今後も進めていきたい。

6. 保育環境の改善の改善、施設整備

(ア) 修繕…築山補修・電磁調理器・園庭整備

(イ) 購入…5歳児用のロッカー・机・椅子・コット収納庫・テント・靴箱・耐火金庫
案内看板とカーブミラー・0歳児パーティション・ジアイーノ5台・大型積み木他

【数値実績】

■聖隷こども園こうのとり富丘

① 歳児別入所保育児童数（名） 定員 129名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	9	9	10	12	12	14	16	17	17	19	19	162	13.5
1歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	20.0
2歳児	16	16	16	16	15	16	16	16	16	16	16	16	191	15.9
3歳児	23	23	23	23	24	24	24	24	24	24	24	24	284	23.7
4歳児	13	13	13	14	14	15	16	16	16	17	17	17	181	15.1
5歳児	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	31	2.6
計	82	83	83	85	87	90	93	95	96	97	99	99	1089	90.8

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	1,183	940	1,635	1,669	1,273	1,789	1,908	1,709	1,792	1,602	1,700	1,904	19,104	1,592
保育日数(日)	25	23	27	25	26	24	27	23	24	23	20	25	292	24.3
一日平均(名)	47	41	61	67	49	75	71	74	75	70	85	76	791	65.4
一時預り(名)	0	0	0	17	16	10	23	26	22	26	28	7	175	14.6
延長保育(名)	4	9	19	24	18	34	48	63	46	45	46	48	404	33.7
病後児(名)	0	3	1	0	4	1	15	0	0	0	0	0	24	2.0

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	17・6	17・6	17・6	17・7	17・7	17・7	17・7	17・7	17・7	17・7	17・7	17・7
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	0・7	0・8	0・8	0・8	0・7	0・7	0・7	0・7	0・7	0・7	0・7	0・7
事務員(正・パ)	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
補助他・アルバイト	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
計	33	34	34	35	34	34	34	34	35	35	35	35

■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

利用者定員	10名
利用者延べ人数	2,859名
一日平均利用者数	11.8名
稼働率	117.17%
稼働日数(延べ)	244日
単価	18,640円
常勤換算職員数	7.6名

■聖隷訪問看護ステーション富丘

平均利用者数	42名
月間訪問件数	213件
年訪問件数	2,560件
単価	9,630円
常勤換算職員数	4.7名

野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ にじっこくらぶ（放課後児童クラブ）

新たな体制の中、コロナ禍をきっかけに、行事や日常の保育について職員の意見を取り入れながら恒常化を一つ一つ見直し、保護者の協力の下、特別保育や行事を行うことができた。

また、子どもが主体的に活動できるよう、自ら考えて行動するための保育者の配慮を常に意識したことで、年長児クラスでは意見を出し合い行事を進めていく姿勢が見られた。保育者の配慮が大きく影響することを職員と共有し、考えていきたい。

1. 入所状況

4月に0歳児9名、1歳児5名、2歳児1名、逆瀬川あゆみ保育園より4歳児14名、計29名の新入園を迎え、108名でスタートした。定員90名に対して120.0%の入所率であった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容

- ①統合保育…障がい児（4歳児2名）が加配対象であった。市の精神科医や臨床心理士による年間4回の巡回指導と職員知識向上のための研修に協力を得た。クラスの一員としての視点を持ちつつ、場面に応じた個別の声かけや配慮を行った。
- ②交流…新型コロナウイルス感染症の為、他施設との交流は例年の形では行えず、結いデイサービスへの収穫感謝祭訪問やのがみっこくらぶと園庭での自然な関わりが中心となった。
- ③保護者に向けて…2019年度から始めた面談フェアを継続予定であったが、新型コロナウイルス感染症流行のため開催は見送り、幼児クラスの保育参加会での面談と年度末に全クラス懇談会を行った。行事は幼児クラスを対象にやり方を検討し、人数制限等協力を仰ぎながら開催することができた。
- ④動植物…夏野菜の栽培では水やりをしながら大きさや色の変化に気付き、友だちや保育者とのやり取りを楽しんでいた。カブトムシの幼虫の家庭への配布やビオトープで飼育しているメダカの水面が凍る様子から気温や生命に対する興味を持つきっかけになっていた。
- ⑤防災…園内研修グループの発信から、災害時の対応方法や防災リュック等の確認を職員全体で取り組むことができ、意識が高まった。

(イ) 地域のニーズに対応

- ①一時保育…ニーズは多く問い合わせも多数あり、登録の面接を随時行った。特別保育中の4月5月も利用があり、また入園できなかった支援児数名の定期的な利用があった。
- ②延長保育…18時16分～19時が平均21名、19時以降は2名の申請があった。特別保育期間中は延長保育はなく18時15分が最終であった。
- ③行政との連携…家庭児童相談室の動きがスムーズなこともあり、やけどでの通報や兄弟児の保護者や学校との関係等での園の様子の聞き取りが増えている。

(ウ) 職員研修

- ①年1回（9月）あゆみ合同研修（主体的な遊びが広がる保育環境）web開催
- ②第七回宝塚保育学会は、特別保育を考慮し時期をずらすことで、取り組む期間を十分に取
り、またwebでの開催として行った。他園の取り組みからそれぞれの学びとなった。

③園内研修…「防災」「けが対応」「素材遊び」をグループ別で取り組み宝塚保育学会、宝塚地区学会に参加した。また、今後も発信できるよう係りを設けることになった。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 園庭開放、季節の製作、保護者向けの体験、積み木、かけっこ教室などを行った。在宅で子育てをする親子の現状に対して、発達への支援につなげる等、幅広い支援を目指した。

(イ) コロナ禍で外出できないことから我が子へ手をあげてしまった保護者へ一時保育利用で対応する等、行政と連携を取りながら子育て支援につなげることができた。

4. 学童保育

4月よりのがみっこくらは定員19名、にじっこくらは定員25名で待機児童がいる状態で始まる。子どものやりたい思いを聞きながら、活動を組み立てた。2か所を兼任する職員配置にすることで、それぞれの取り組みを見直し、より良い活動につなげている。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	9.0
1歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
2歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
3歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
4歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28.0
5歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	26	26	26	321	26.75
合計	108	108	108	108	108	108	108	108	108	107	107	107	1,293	107.75

②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数(名)	902	269	2,039	2,061	1,783	1,963	2,336	1,973	2,040	1,859	1,838	2,277
保育日数(日)	25	23	26	25	25	24	27	23	24	23	22	26
一日平均(名)	36.1	11.7	78.4	82.4	71.3	81.8	86.5	85.8	85.0	80.8	83.5	87.6
一時保育(名)	41	20	64	80	75	111	136	101	115	101	117	124

③職員数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	13	12	12	13	14	15	15	15	15	15	15	15
計	32	31	31	32	33	34	34	34	34	34	34	34
調理（委託）	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5

野上児童館

新型コロナウイルス感染症のため閉館が続いたが、支援が必要な保護者へのアプローチを行政と連携を取りながら進めていった。緊急性を要するケースについては専門家からのアドバイスを受けながら「児童館の役割とは」について職員一人一人が考えていき、チームとしての支援を共有する機会となった。職員集団が新しくなったこともあり、個々の思いを大切にしながら同じ方向に進めるようチームワークを作っていききたい。

1. 利用状況

乳幼児並びに小学生の利用は定着し、安定した来館者数はある。中高生の利用につながる方法として引き続き全児童へチラシの配布で児童館の存在を知らせ、利用定着を目指したい。

2. 職員の資質向上

新採用の職員が多く、他館に見学させてもらうなどして個々のスキルを身につける機会を持った。また、職員会議で共有する方法を見直し事前に目を通せるよう一人一人が意識を高めていった。小学生スタッフを各館で対応するなど、職員のスキルアップにつながった。

3. 地域における公益的な取組を含む

(ア) 乳幼児子育て支援活動

「こあら」「うさぎ」「パンダ」と3つのグループでそれぞれのねらいを持ち、未就学児の親子を対象にプログラムを行った。人数制限や内容等の対策を検討することで、保護者が安心して参加できる活動になるよう心がけた。例年のミニ運動会は、コロナ禍ということで開催を見合わせた。

(イ) 小学生集団あそび支援活動

例年行う「児童館まつり」は、開催できなかったが、大型児童館が行う市内の子どもたち対象で市内の各児童館が連携して行う事業（ミニたからづか）を各館に分けて行うことで開催でき、地域の小学生6名がスタッフとなり準備から参加した。通常の利用でも人数や活動に制限はあったができることを職員間で考え、工作や遊びを提供した。

(ウ) 中高生の居場所づくり推進事業

新型コロナウイルス感染症のため、近隣の中学校と連携して行う「赤ちゃん学校へ行こう」の開催はなかった。中高生タイムの利用が徐々に増え、また各学校への周知を十分に行うことで友だちを誘って利用する姿が見られた。卓球は人気で楽しむ姿が見られ、また職員との会話を楽しむ姿もある。

(エ) 実習生やボランティアの受け入れ

中学生の職業体験活動は中止し、実習生1名を受け入れた。

(オ) 運営委員会の充実

運営委員会は、年間3回行った。3回目は緊急事態宣言中の期間の為、書面開催とした。

【数値実績】

① 利用状況 本館 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4、5月休館

	就学前 (名)	小学生 (名)	中学生 (名)	高校生 (名)	こども計 (名)	大人 (名)	合計 (名)	開館日数 (日)	一日平均 (名)
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	288	94	0	0	382	254	636	26	24.46
7月	313	180	8	0	501	282	783	23	34.04
8月	414	304	28	0	746	328	1,074	26	41.31
9月	335	217	8	0	560	347	907	24	37.79
10月	462	209	13	0	684	403	1,087	27	40.26
11月	457	84	13	0	554	322	876	23	38.09
12月	648	154	25	0	827	333	1,160	24	48.33
1月	336	93	26	0	455	262	717	23	31.17
2月	465	74	14	0	553	362	915	22	41.59
3月	507	202	43	0	752	380	1,132	26	43.54
計	4,225	1,611	178	0	6,014	3,273	9,287	244	38.06

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4、5月休館。

② 利用状況 出前児童館

	常設型				派遣型				イベント型
	回数 (回)	就学前 (名)	小学生以上 (名)	大人 (名)	回数 (名)	就学前 (名)	小学生以上 (名)	大人 (名)	回数 (回)
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	6	87	0	80	0	0	0	0	0
8月	8	52	0	48	0	0	0	0	0
9月	8	72	0	65	0	0	0	0	0
10月	9	77	0	66	0	0	0	0	0
11月	7	72	0	67	0	0	0	0	0
12月	8	54	0	48	0	0	0	0	0
1月	6	52	0	46	0	0	0	0	0
2月	7	69	0	61	0	0	0	0	0
3月	8	100	0	87	0	0	0	0	0
計	67	635	0	568	0	0	0	0	0

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、常設型は4.5.6月、派遣型は、休館。

逆瀬川あゆみ保育園

昨年度末より、コロナウイルスの感染拡大により、宝塚市からの指示で4月中旬より5月末まで特別保育となり、殆どの子どもが家庭保育となった。その間、保護者からの苦情はほぼ無く、仕事をしながらも子どもたちと楽しく過ごす工夫をしている様子が、後日にとったアンケートから伺え、私共の励みとなった。6月より通常保育にもどったが依然、感染状況は悪化するばかりで行事の縮小を余儀なくされ、消毒の徹底など感染症対策に取り組んだ。行事等、縮小するだけでなく行事を行う意味を考えながら取り組んでいきたい。

1. 入所状況

4月に新入園児0歳児9名を迎え、計49名でスタートした。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容

①統合保育

3歳児は、加配担当者が付くことで本児が情緒的に落ち着き、そこを土台に様々な成長が見られた。また、他児とのコミュニケーションも豊かになり、クラスの中で自然とお互いを認め合い共に助け合う姿があった。また、1歳児クラスでは、保護者自らが子どもの発達に不安を感じ医療機関等に相談し療育に繋がったケースが2件ある。

②世代間交流

コロナウイルスの影響でほとんどの世代間交流が出来なかった。花の日や収穫感謝祭で給食委託業者レオックへの訪問、後半には3歳児による教会と野上あゆみ保育園の訪問にとどまった。

③食育

3歳児は、コロナウイルスによるクッキングの自粛を行った。また感染予防に努めながら野菜や果物の形や色、香りや感触を確かめる体験（りんごの食べ比べ等）をし、季節を感じることはできた。3歳児を中心にレオックによる食材体験は何度か行い、食材のにおいや手触りなどを感じ、親しんだ。

(イ) 保育ニーズに対応

①延長保育

18時15分～19時の延長保育を行った。コロナ禍でリモートワークが増え、一日約3～4名の利用のみであった。

②一時保育

年度初めからコロナ禍の影響で利用人数が低迷していたのに加え、他クラスの職員の体調不良等による職員不足が重なり、途中から非定型的保育サービスのみの受け入れに絞って保育をした。それによりいつも同じメンバーの保育となり子どもたちは落ち着いて過ごし、家族のような雰囲気の中で過ごしていた。

(ウ) 地域における公益的な取組

①毎年、中学生体験活動「トライやるウィーク」として市内 2 校の中学 2 年生を、受け入れていたがコロナ対策のため中止となった。保育実習生は 3 名を受け入れた。

②コロナ感染防止対策のために、園庭開放は週 1 回、室内開放は人数制限をし、予約制にしながら月 6 回実施した。室内開放はニーズが多いため予約の電話が一時殺到したがだんだんと落ちつきをみせるようになった。保育士がプログラムを作成し、地域の保護者と交流する中で情報発信や収集も行った。

(エ) 保育室環境の改善、施設整備

給食室 IH コンロ、食器乾燥機の基盤の取り換え、玄関ホール、廊下の照明を老朽化で壊れたもののみ LED に換えた。玄関はみちがえるほど明るくなった。コロナ禍で気持ちが萎える中、少しでも明るい気持ちになれるよう園庭に花をたくさん植えた。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	140	11.66
1歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14
2歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13
3歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13
合計	49	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	620	51.66

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数 (名)	378	105	847	902	890	946	1051	895	918	838	843	1070
保育日数 (日)	25	23	26	24	24	27	27	23	24	23	22	26
1日平均 (名)	15.12	4.56	32.57	37.58	37.08	35.03	28.92	38.91	38.25	36.43	38.31	41.15
一時保育 (名)	45	0	75	95	71	97	118	102	93	87	98	93

③ 職員の状況 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	16	16	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
計	30	30	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
調理 (委託)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

御殿山あゆみ保育園

2020年度は「子ども一人ひとりの興味関心に目を向ける」を園目標に掲げ取り組んだ。しかし緊急事態宣言により、4月17日から5月末まで特別保育を行った。コロナ禍で一年を過ごし、園内の消毒や検温、手洗い等を丁寧に行い感染予防に努めた。中止を余儀なくされた行事もあったが内容を見直すことで実施できた行事も多くあり「子どもにとって大切なこと」を再確認する良い機会となった。保護者の理解と協力も大きく、職員の頑張りを後押ししてくれた。リモート研修を利用し、多くの職員が同じ研修を受ける機会が増え、保育に関する共通理解も深まった。

1. 入所状況

4月に19名の新入園児を迎え、計123名（緊急枠含む）でスタート。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容

①統合保育

特別支援児は、5歳児クラスに2名（1名引越しにより途中退園）、4歳児クラスに3名、3歳児クラスに1名が在籍した。年2回の専門医による巡回指導を受け、専門機関と連携を取ることができた。また、保護者との面談も定期的に行い、コミュニケーションを図った。発達心理相談員による年2回の巡回指導により、困惑する事が多い子どもの対応について助言を受けた。講義にも参加し、内容は全職員に周知した。月に1度ケース会議を実施し、状況の共有を行った。

②危機管理

危機管理委員会を月に1回行い、ヒヤリハットや危険個所の検証、職員への周知、など様々な取り組みを行い職員の意識向上に努めた。

③食育

管理栄養士から次月メニューの食材説明（旬の物など）や、自分たちで収穫した野菜のクッキング等を通して食べ物への関心が高まった。コロナ禍で制限もあったが、旬の果物の品種ごとに食べ比べを実施し、とうもろこしの皮むき等を体験することができた。

(イ) 地域のニーズに対応

①延長保育

18時15分～19時の延長保育を行い、登録者は5名。4、5月は、緊急事態宣言の影響で利用が無く、その後はリモート勤務の影響で保育時間が短くなった家庭もあり、年間を通して利用人数は前年を下回った。慣らし保育や人見知りの強い児童には、特定の職員が関わるようにし、信頼関係を築き親子共に安心して利用できるよう努めた。

③子育て支援

室内開放、園庭開放、子育て講演会、親子ふれあいあそび、給食試食会、離乳食相談会年6回、看護師によるミニミニ講座14回や子育て相談を行った。開放に参加し、在宅保護者の悩みやニーズを聴く機会を設けた。子育て支援は、延べ809名の参加があった。

(ウ) 保育環境の改善、施設整備

園庭日よけネット設置工事、プール底の補修、2階テラスの防水工事、コロナ対策に必要な環境整備と保育環境の定期的な見直しを行った。

(エ) 職員研修

園内研修は、わらべうたを行った。資料を配布し、自主学習を促した。「第7回宝塚保育学会」を初めてリモート開催し、グループごとに研究を行い学会や園内で発表した。感染予防対策をしながら外部研修へ参加し、外部講師を招いて保育環境についても学んだ。

3. 地域における公益的な取り組み

「中学生仕事体験活動」は近隣中学生 10 名（見学のみ）、大学、専門学校保育科の保育実習は 3 名、インターンシップは大学生 1 名を受け入れた。コロナウイルスの影響で、近隣の高齢者施設への訪問は、実現できなかった。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	6	7	8	8	9	11	14	15	15	15	15	15	138	11.5
1歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
2歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
3歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
4歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
5歳児	19	19	19	19	19	19	18	18	18	18	18	18	222	18.5
合計	123	124	125	125	125	128	130	131	131	131	131	131	1,535	127.9

②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数（名）	1051	417	2271	2366	2060	2310	2641	2330	2369	2175	2198	2668
保育日数（日）	25	23	26	25	25	24	27	23	24	23	22	26
一日平均（名）	42.0	18.1	87.3	94.6	82.4	96.3	97.8	101.3	98.7	94.6	99.9	102.6
一時保育（名）	5	0	21	52	42	74	92	67	67	57	70	85

③職員数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
パート	19	18	18	19	19	19	19	19	19	19	19	19
計	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
調理(委託)	8	8	8	8	9	8	8	8	8	8	8	8

御殿山児童館

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で3月3日から5月31日まで休館をした。6月1日より乳幼児親子を対象に一部開館したが、地域の保護者からはどこにも出かけることができない辛さや、孤独感など様々な不安や、育児に対する疲労を伺うことができた。特に第1子の親の不安が大きかったため、すぐに乳児プログラムに力を入れて取り組み、すべてのプログラムを感染防止対策がとれるように一から考え直した。親子が日常的に集える場として職員も感染防止対策の徹底に努めた。ベビーきらりん ZERO、リトルきらりん ONE を筆頭に保護者の不安や悩み、子育ての大変さを意識して、仲間づくりもできるよう、事業に取り組むことができた。

児童健全育成プログラムでは、三密を避けるためほとんどのプログラムが中止となったが、募集人数を少なくするなど利用制限を設け、感染防止対策がとれるプログラムを少しずつ計画した。児童館に来館する小学生も少なく、思うようにプログラムが実施できないこともあったが、毎日来てくれる小学生を励みに安心して過ごせる居場所を作ることができた。

年長児童健全育成プログラムでは、子どもたちが自分たちで考え行動することを目標に「中高生タイム」を行った。月1回のクッキングやカラオケも中止となり、肩を落としている中高生が多くいたが、児童館で何が出来るかなど、中高生と職員で考え様々な意見交換をした。より「中高生タイム」が楽しいものになるよう、自分たちの居場所は自分たちで守るという中高生たちの気持ちをうかがうことができた。

【事業・運営状況】

1. 地域との連帯の強化

(ア) 地域との関わりを深め、協力体制をとれるよう地域の会議にリモートで参加し、児童館での利用者の様子や気になる親子・児童についての情報の共有と連携に努めた。

2. サービスの質の向上

(ア) 来館者が安心して遊ぶことができるよう、感染防止対策を講じ、環境作りを考えた。

また安全管理や事故等、有事の際に備え新規利用者の緊急連絡先を登録し管理した。

(イ) 乳幼児親子を対象とした子育て支援プログラムは、より成長に合わせた内容とし、発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育ち」・「親育ち」を支援した。

(ウ) 小学生を対象にした集団あそび支援プログラムについては、距離がとれる遊び、屋外での遊びなど、感染防止対策を意識した内容の充実を図り、仲間作りを行った。

(エ) 中高生を対象にした居場所づくり推進事業では、毎週1回開館時間を延長して行った。

(オ) 出前児童館事業として、児童館が近隣にない地域に出向き、地域住民のより身近な居場所作りと、地域の子育て力の向上に繋がる、遊びのノウハウの提供や安全管理の指導を行った。

(カ) 図書推進活動では図書委員を設置し3年が経過し、より専門的な知識を深めるため、定期購読をとり、新しい視点で絵本選びを行った。職員だけでは偏りがあったことにも気づき、新しい発見をすることもできた。

(キ) 利用者の声をより集められるように意見箱を設置した。寄せられた意見は職員会議等で共有し、検討が必要な案件は話し合いをして対応をした。

3. 職員の資質向上

- (ア) 宝塚市児童館交流研修に参加し、技術や実施プログラムの内容の向上に努めた。
- (イ) 児童館事業に携わる職員全員が同じ方向性で取り組んでいけるように、月1回の職員会議や担当（乳幼児・小学生・中高生・出前）ごとの部会を行い、話し合いの機会を持った。

4. 公益目的事業

- (ア) 「トライやるウィーク」（中学生社会体験活動）では中学校の生徒4名、聖和短期大学の保育実習では2名を受け入れた。

【延利用者数】

	就学前 (名)	小学生 (名)	中学生 (名)	高校生 (名)	こども計 (名)	大人 (名)	合 計 (名)	開館日数 (日)	一日平均 (名)
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	629	217	34	14	894	341	1,235	26	47.50
7月	493	331	29	13	866	347	1,213	22	55.14
8月	525	615	86	29	1,255	441	1,696	25	67.84
9月	805	404	54	8	1,271	480	1,751	23	76.13
10月	983	519	30	19	1,551	528	2,079	27	77.00
11月	746	305	37	10	1,098	440	1,538	23	66.87
12月	826	326	14	10	1,176	450	1,626	24	67.75
1月	745	259	15	10	1,029	447	1,476	22	67.09
2月	782	274	10	8	1,074	480	1,554	22	70.64
3月	1,046	512	51	31	1,640	596	2,236	26	86.00
計	7,580	3,762	360	152	11,854	4,550	16,404	240	68.35

【出前児童館回数・利用者数】

	常 設 型				派 遣 型				バウ型
	回数 (回)	就学前 (名)	小学生 (名)	大人 (名)	回数 (回)	就学前 (名)	小学生 (名)	大人 (名)	回数 (回)
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	5	44	0	41	4	3	0	3	0
7月	8	49	0	47	4	7	0	7	0
8月	8	44	0	39	4	21	0	20	0
9月	6	49	0	43	4	10	0	10	0
10月	8	107	0	95	5	11	73	12	0
11月	7	85	0	77	8	10	265	9	0
12月	7	82	0	73	7	4	214	4	0
1月	6	60	0	57	1	0	0	0	0
2月	8	96	0	90	2	3	0	3	0
3月	8	63	0	62	6	10	115	10	0
計	71	679	0	624	45	79	667	78	0

高齢者公益事業部

2019年3月から建設を開始した浜名湖エデンの園新1・2号館は2020年5月にグランドオープンし、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、新たな入居者を迎えることができた。エデンの園の永続性を確保するため、引き続き各施設の改築を検討していく。

新型コロナウイルス感染症は当事業部の事業運営に甚大な影響を与えている。各施設でさまざまな行事の中止や変更を余儀なくされ、開園40周年を迎えた松山エデンの園でも予定していた多くの記念行事を自粛せざるを得なかった。建物・設備の修繕・更新も必要最小限な対応となり、2021年度以降に持ち越しとなったものも少なくない。

長期間にわたる感染症対策は、一人ひとりの協力なくして継続できるものではなく、入居者、利用者、関係者、職員、家族に対して改めて深く感謝する。

入居者募集もこれまでの募集活動ができず、苦戦を強いられた。WEBを活用したセミナーや感染症対策に留意した個別募集活動の強化によりダメージを抑えたが、2021年度以降の見込顧客の減少は避けられなかった。

標準サービス(当事業部の運営する有料老人ホームが入居者に提供するサービスの基準)では、サービスの「質」について各責任者会等を通じて議論を継続した。2021年度には事業部内で評価基準として確立したい。

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化

浜名湖エデンの園の新1・2号館が2020年5月にグランドオープンした。コロナ禍のなかで短期間に多くの入居者を迎えた継続的な取り組みは、今後の宝塚エデンの園、松山エデンの園、油壺エデンの園の改築時にも継承できる重要なノウハウになった。

2. 経営の安定と永続性の確保

2020年度の入居契約は、契約件数164件、契約金額63億7千万円でいずれも予算未達となった。大規模セミナーを開催できなかったため、WEBセミナーの開催や感染症対策を行ったうえでの個別見学の強化等を試行し、新しい募集活動を模索した。また、YouTubeの積極的活用、ホームページの定期更新により、エデンの園の認知度向上と理解促進の活動に努めた。各施設の相談員のコロナ禍での創意工夫は、従来の募集活動の枠を超え今後につながるものとなった。

災害対策の強化として各施設で防災対策・備蓄の見直しを行い、食料・飲料水の備蓄品を3日分から5日分に増加することができた。また、自然災害に伴い発生する長時間停電に備えるため、非常用発電機の燃料備蓄庫を整備し、燃料を増強することで1~3日程度の非常電源確保が可能となった。

3. 人材の採用・育成・定着の強化

コロナ禍により在宅・福祉サービス事業部と共同で実施してきたノルウェー研修、日本老人福祉財団との交流研修はいずれも中止となった。介護職を対象としたeラーニング(インターネットを活用した学習形態)は2021年度に導入する予定である。新たに入職した職員や他事業

部からの異動者を対象とする基礎研修の体系を見直し、整備した。

人材の採用が著しく困難な地域については、採用を支援する制度を時限的に措置し、人事企画部関東採用センターの支援により、介護職員の採用に結びつけることができた。2021年度以降も地元人材の採用を強化するための施策を検討するとともに、地元人材の管理職登用を推進する。

4. サービスの質・安全・効率の向上

新型コロナウイルス感染症対策を中心に据え、入居者の安全確保を最優先したサービスを提供した。感染症対策により行事等を自粛せざるを得ない状況が続いているため、園内自主放送設備を整備した。入居者はテレビで行事、体操、施設からのお知らせなどを視聴し、自室においても、コミュニケーションを維持し、健康活動に取り組むことができるようになった。

標準サービスは事業部の各サービス責任者会を通じてサービスの「質」を洗い出し、可視化に取り組んでいる。この「質」と「量」の評価基準を作成し、事業部として各施設のサービスを定期的に評価できる仕組みを2021年度に構築する予定である。

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

団塊世代が後期高齢者となる2025年を目途に新規事業計画をまとめることができるよう、専門家を交えた勉強会を定期開催した。多様化する高齢者のニーズを把握し、施設設備・サービスいずれの質においても競争優位が確保できる新規事業を丁寧に準備したい。

2020年度はエデンの園の介護居室、藤沢愛光園の居室、計5施設で見守りシステム（居室内に設置した各種センサーにより入居者の状態をリアルタイムに把握できるシステム）を導入し、入居者の安心安全を高めるとともに、職員の負担軽減にも繋げることができた。ETS2020（業務基幹システム）は、これまで別システムだったケアプランシステム、入居者募集システム、IAレポート（事故が発生しそうになった事例、実際の事故について背景や課題を共有し、再発防止に繋げる仕組み）を統合するとともに、非接触で体温等の記録ができる仕組みを導入した。入園金管理システムはシステム開発が完了し、2021年度から稼働予定である。

6. 地域における公益的な取り組み

他法人の施設で新型コロナウイルス感染症が発生し、関係機関から職員の派遣依頼があった場合に備え、9施設で応援職員を登録し、感染予防研修会を受講した。有事の際、地域の安全確保に貢献できるための体制を整えた。

【数値実績】

（直営施設）	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢1	藤沢2	計	
目標件数	100件	32件	11件	30件	20件	10件	11件	4件	218件	
募集実績	98件 125名	13件 15名	5件 5名	22件 28名	10件 13名	8件 8名	8件 11名	0件 0名	164件 205名	
入居率	期首	92.5%	92.2%	85.6%	94.8%	94.6%	90.0%	97.6%	82.0%	92.9%
	期末	88.6%	88.2%	80.1%	94.3%	92.9%	78.0%	97.1%	72.0%	89.8%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2020年度は、新型コロナウイルス感染が全国的に広がる中、浜名湖エデンの園は5月に新1・2号館が完成し、入居者の再引っ越しや、新入居者の受け入れが本格的に始まった。感染リスクを最小限に抑えウイルスの園内侵入を防ぐために、入居者にはいろいろな制限や自粛をお願いした。また、新入居者の入居時には2週間の健康チェックやホテル待機、PCR検査等をお願いし面倒をお掛けしたが、入居者・職員ともに一人もウイルス感染者を出さずに98件125名の新入居者を迎えることができた。

サービス面においても、感染対策のためほとんどの行事やイベントは中止を余儀なくされ、介護居室の6号館は外部からの入館を禁止せざるを得なかった。そのような環境の中、8月より徐々にイベントを再開し、サンホールの入場者は40名と制限しつつ、同時に園内放送で中継し、少しでも楽しみを共有できるよう工夫した。介護居室での楽器演奏は、入居者のたくさんの笑顔が見られた。

その他のサービスにおいては、基本的考え方であるパーソン・センタード・ケアを中心に、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に全課で取り組み、「入居時から看取りまでその人らしく」という意識の向上を図った。また、園内に新たに完成したトレーニングルームでは、今までの介護予防に加えて、自立者の健康増進を目指したマシントレーニングが開始され、好評を得た。

経営面では、収入は3本柱の管理費・食費・介護保険の増収で予算を達成したが、業務改革するための人員増による人件費が予想以上に増大し、最終的に診療所を含めると予算達成ができなかった。

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践

(ア) パーソン・センタード・ケアの考え方に基づくサービスの実践に継続して取り組んだ。

(イ) 全課職員参加のACPカンファレンス、デスクカンファレンス等を通じて、その人らしい生活を支える取り組みを推進できた。

(ウ) ACPの取り組みを全課で開始した。

(エ) 事業部で設定した「標準サービス」との比較により、現行の当園のサービスを検証した。

(オ) コロナ禍のため地域とつながる取り組みはできなかった。

2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり

(ア) 園内研修等を通じて「聖隷理念」「施設理念」の継承・発展させる人材育成に取り組んだ。

(イ) 研修等ができず、主にOJTにて人材育成を行った。

(ウ) 「働き方改革」は新1・2号館完成・新システムの稼働・コロナ対策等で推進は困難だった。

(エ) 園長が職員全員との面談を行い、職場の問題点を把握し各管理者と情報を共有した。

(オ) 1名の障がい者を雇用し、安心して働けるよう職場風土を向上させた。

3. 安定した経営基盤の確立と事業の持続性の確保

(ア) 新型コロナウイルス感染対策をしながら98件125名の契約ができ、88.6%の入居率となった。

(イ) 新システムの段階的導入を進めた一年であり、2021年度は更なる業務効率化を進めて行く。

(ウ) 管理会議で毎月の経営報告と介護収支を追加して経営理解を深めた結果、有料老人ホームの会計は予算を達成したが、診療所は予算未達で終了した。

4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供

(ア) 2019年からコンプライアンス体制を強化し、2020年度は紙面研修等で更なる強化ができた。

- (イ) 新型コロナウイルス感染対策のため、入居者を含めず職員のみの実践的な訓練を実施した。
- (ウ) コロナ禍という特殊な状況下が、情報共有やコミュニケーションの強化につながった。
- (エ) 過去の経験を活かし災害時の備蓄品を増やした。また、防犯体制も強化し入居者以外は正面玄関以外からの入館ができないような対応を行った。

5. 入居者と共に取り組む新しい浜名湖エデンの園づくり

- (ア) サービスに関わる職員を増員し、サービス提供体制づくりを本格的に開始した。
- (イ) 園内にトレーニングルームが完成し、新たなマシンの導入とプログラムを開始した。
- (ウ) 新1・2号館が完成し、次いで3号館も外観のリニューアル工事を開始した。

6. 地域における公益的な取組

2018年度に登録をした「浜松ささえあいポイント事業ボランティア受入施設」を継続した。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	380戸（73戸）	144名	309名	453名

表2：地域別契約状況

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
人数	1名	1名	71名	357名	18名	3名	0名	2名	453名
構成比	0.2%	0.2%	15.7%	78.8%	4.0%	0.7%	0%	0.4%	100.0%

表3：年齢構成

（単位：名・％）

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	24名	79名	91名	95名	68名	55名	23名	17名	1名	453名
構成比	5.3%	17.4%	20.1%	21.0%	15.0%	12.1%	5.1%	3.8%	0.2%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
82.0歳	80.1歳	82.9歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男性	50名	15名	（11名）
女性	75名	22名	（16名）
計	125名	37名	（27名）

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	120名	20名	7名	45名	16名	19名	8名	5名
期末人数	139名	19名	10名	60名	20名	18名	8名	4名
月平均人数	127.7名	25.2名	8.8名	46.4名	14.3名	20.4名	7.7名	4.9名

表7：職員数・サービス活動収益

職員数（常勤換算）	134.8名
サービス活動収益	806,530千円

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止に終始した一年だった。

2019年度より取り組んだ入居者情報を園全体で共有する仕組み「私の軌跡」を本格稼働させ、より質の高いトータルケアサービスを提供できた。また、エデンの特徴でもある介護予防の取り組みでは、各種介護予防体操の差別化を図り、より効果的な方法に改善できた。

情報通信技術（ICT）による学習支援システムと ETS2020（業務基幹システム）の稼働により、職員の専門性の向上に組織的に関与する形を構築できた。

サービスの標準化に加えて居宅療養薬剤管理指導や汚物除去機の導入などにより、介護サービスの質向上と職員の作業環境の改善ができた年度でもあった。

募集活動は、感染対策に配慮しつつ、リモートによる園外セミナーや個別見学に変更することで入居検討者に合わせた対応が可能となった。また、地域に根差した公益的活動は、自治体および近隣自治会と新たな健康診断の提供について、準備を進めることができた。

1. 入居者満足度の向上

- (ア) コロナ禍の生活における困り事や園に対するニーズを把握し、園内商店や屋外体操などの新たなサービスの実施と相談窓口の明確化に努めた。
- (イ) 食事サービス課内の苦情対応の仕組みを見直し、速やかな対応を実施した。塩分量や汁物の温度が気になる等のご意見に対して、だしポットの設置や温度の適正化を行った。
- (ウ) 「私の軌跡」を活用し入居者情報を園全体で共有するとともに、新介護予防体操の導入、看取り介護の事例検討、認知症介護・看護に関する指導者研修の企画に取り組んだ。
- (エ) 行事・イベントができない中、入居者との協同による園内の飾りつけなどを実施した。感染症対策や居室環境の整備方法などを園内報で発信し、園運営を可視化した。

2. 職員満足度の向上

- (ア) 園長が各職場に赴き、事業計画を説明することにより、職員への周知に努めた。評価においては、全役職者参加のマネジメント・レビューや拡大管理会議にて実施した。
- (イ) 生活支援担当業務を確立することで、介護職員の業務負担軽減を行った。また、伝票類の書式や運用を見直すことにより業務改善を図った。
- (ウ) 職員育成のため、看護ラダーに対応した e-ラーニングを開始した。また、目標参画システムを通して、個別の専門性取得における意向を研修参加計画に反映させた。
- (エ) 有給休暇は計画的に取得し、ストレスチェックのアクションプランも継続的に実施した。
- (オ) 見守りシステムと汚物除去機の導入により、業務負担の軽減と感染拡大防止ができた。

3. 健全経営体制の維持

- (ア) コロナ禍により募集活動の変更を余儀なくされ、入居率は未達となったが、入居検討者の情報を園全体で共有し、支援する仕組みを導入できた。
- (イ) 診療所の患者は減少したが、外部健診を園内で実施し健診者数は増加した。
- (ウ) 内部監査での指摘事項は改善され、標準サービスに基づいたサービスを提供した。
- (エ) 各職場で経費削減の取り組みを行い、省エネについては、監視システムを活用できた。

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 事業継続計画の策定に取り組み、5日分の災害用備蓄品を整備できた。また、感染予防対策の徹底により、コロナ感染者を一人も発生させることはなかった。
- (イ) コロナ禍での防災訓練のため、入居者には避難完了報告の実施訓練と防災物品の販売会を実施した。感染予防行動については、日々、啓発活動を行った。
- (ウ) 新リスクマネジメントシステムを導入し、情報共有とフィードバックが適時できるようになった。また、日報や苦情の情報共有と対策についても迅速に行えるようになった。

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 災害時に自治体と結んでいる協定内容について職員間で共有できた。
- (イ) 障害者の労働時間が増えたことにより雇用率は向上した。
- (ウ) 自治体および近隣自治会と新たな健康診断の提供について準備を行った。

表1：契約状況

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	360戸(50戸)	93名	317名	410名

表2：地域別契約状況

	近畿	関東	東海	甲信越	中国	北海道	北陸	四国	九州	計
人数	355名	19名	18名	2名	8名	1名	2名	5名	0名	410名
構成比	86.6%	4.6%	4.4%	0.5%	2.0%	0.2%	0.5%	1.2%	0%	100.0%

表3：年齢構成

(単位：名・%)

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	25名	77名	105名	91名	57名	39名	12名	4名	0名	410名
構成比	6.1%	18.8%	25.6%	22.2%	13.9%	9.5%	2.9%	1.0%	0%	100.0%

表4：平均年齢

表5：入・退去状況

平均	男性	女性
83.8歳	82.9歳	84.0歳

	入居	退去	(死亡退去)
男性	3名	9名	(7名)
女性	12名	27名	(24名)
計	15名	36名	(31名)

表6：介護保険利用者(介護保険請求者数)

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	105名	9名	6名	30名	25名	21名	11名	3名
期末人数	106名	13名	11名	30名	20名	16名	8名	8名
月平均人数	104.2名	13.2名	6.7名	29.3名	20.4名	18.4名	10.4名	5.8名

表7：職員数・サービス活動収益

職員数(常勤換算)	138.4名
サービス活動収益	875,875千円

介護付有料老人ホーム 松山エデンの園

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、入居者や職員の生活においても不要不急の外出や自粛対応を継続するなど、これまでに経験したことがない対応が必要であったが、入居者に協力を得ながら、職員一丸となり、安心安全を第一に考えた園内の感染拡大防止対応を徹底する運営に努めた。

募集業務においては、セミナーや見学会など大きなイベントはできなかったが、個別見学会や個別相談会を実施し、見学者の声を直接聞きながら松山エデンの園が魅力的な終の棲家である事を知ってもらうよう取り組んだ。

2021年度は、施設会計の改善につながる見直しと入居者と職員の安全を守ることを第一に考えた施設運営に取り組んでいく。地域住民の方々には、松山ベテル病院と一緒に当園の存在価値を高めていくとともに、連携をさらに深めてより一層入居者の要望に応えていきたい。

1. 安定した園運営を永続するための入居率の向上

- (ア) 新規契約戸数 10戸13名を目標としたが、5戸5名であった。
- (イ) 新型コロナウイルス感染予防の為、上半期は活動できなかった。下半期より個別対応を重視した募集活動を行うことができた為、2021年度も継続した募集活動を行う。
- (ウ) 介護棟への直接入居検討者の見学から、1名入居契約を行った。
- (エ) 施設会計改善に向けた見直しを2021年度実行していく。

2. 人材の育成

- (ア) インカムを活用した職員の連携体制の構築に取り組んだ。
- (イ) 本部採用担当者と連携し、職員採用に努めた。
- (ウ) 各種ラダーを活かした職員評価に努め、2021年度の職員教育につなげる各職員の振り返りを行った。
- (エ) 感染予防対策として、コロナ過でも対応できるWEB研修等を取り入れた。

3. よりよいサービスの提供

- (ア) 入居者と家族の面会が自由にできない中、タブレット端末を使用したりリモート面会の実施や園内報の作成など入居者と家族へ寄り添う支援の実施に取り組んだ。
- (イ) 体力測定や体操教室等園内で取り組む事ができる介護予防活動を継続した。
- (ウ) 様々な自粛生活となる中で、季節を感じていただける献立の工夫や自宅でも食べていただけるお弁当の提供等新たな取組を実施し、楽しみのある食事提供を目指した。
- (エ) ターミナルケアは、プランの作成・実施・評価から介護居室における看取りの意向に自立時からの意思確認を各職員が共有し、取り組むことができた。

4. 安心・安全な施設環境づくり

- (ア) 防災備品の整備、防災食の追加を行い備えある防災体制に取り組んだ。

- (イ) インカムを導入し、タイムリーな情報共有を図り、発生したリスクに迅速に対応できるよう取り組んだ。
- (ウ) 松山ベテル病院と連携して防災体制の強化を継続して対応していく。
- (エ) 松山ベテル病院と情報共有を図り新型コロナウイルス感染予防対策に努めた。

5. 地域貢献・交流の推進

- (ア) 毎年行っていた市民清掃、地方祭等、地域との交流活動は新型コロナウイルス感染防止の為、中止となったが、2021年度は地域貢献できる施設を目指し交流を行っていく。
- (イ) 松山ベテル病院とWEBでの合同研修を行い、専門性を高めあう交流を行った。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	117戸（14戸）	40名	91名	131名

表2：地域別契約状況

	四国	近畿	関東	東海	九州	中国	計
人数	105名	11名	6名	5名	1名	3名	131名
構成比	80.1%	8.4%	4.6%	3.8%	0.8%	2.3%	100.0%

表3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	8名	34名	36名	21名	15名	9名	4名	4名	0名	131名
構成比	6.1%	26.0%	27.5%	16.0%	11.5%	6.9%	3.0%	3.0%	0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
84.2歳	83.7歳	84.7歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	1名	3名	(3名)
女	4名	10名	(9名)
計	5名	13名	(12名)

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	55名	17名	3名	10名	4名	11名	4名	6名
期末人数	51名	15名	5名	6名	7名	10名	5名	3名
月平均人数	54.3名	16.4名	3.8名	7.9名	6.2名	10.2名	5.6名	4.2名

表7：職員数・サービス活動収益

職員数（常勤換算）	53.8名
サービス活動収益	270,600千円

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2020年度は、未知なる新型コロナウイルスの感染防止対策に終始した年度であり、コロナ禍の自粛生活が長期化する中で、あらためて感染防止に協力いただいた入居者、職員に感謝したい。募集活動は長期に渡る見学自粛などが影響し予算未達となったが、年度後半に見学運用を強化したことにより、22件の新規入居契約を得ることができた。

運営面では感染防止対策の徹底が最優先事項で、会議体は書面開催やリモート（WEB会議）が主流となり、業務効率が向上した。さらにETS2020（業務基幹システム）の安定稼働により、サービス内容の可視化や適正化が図れた。設備整備については、大規模な計画修繕は自粛も影響して未実施となり計画の見直しがされた。また、経営面では目標とする入居率には達しなかったが、年度末には94%台の入居率となった。しかしながら慢性的に診療所会計は非常に厳しい状況が続いているため、附属診療所の経営改善が必須で、コロナ禍が長期化する中では、感染防止対策を最優先にしながらも、次につながる募集活動や診療所体制の立て直しを図りたい。

1. 安心、安全を基盤としたサービスの質向上

- (ア) コロナ対策の運用ルールが徹底されず部署間の連携が不十分な場面があった。
- (イ) ETS2020の稼働によりサービスの可視化が図れた。
- (ウ) コロナ禍で未実施行事が多く、コロナ禍やフレイル者向け行事の創出が望まれる。
- (エ) 喫食率向上の検証やアイデア創出、質維持のうえ食材比率の切り詰めが必要である。
- (オ) 接遇に起因するサービス提供の苦情を減らす方策が必要である。
- (カ) 新たなリスク報告システムが稼働した。入居者向けの転倒リスク講演会が実施できた。

2. 自ら考え行動できる職員の育成

- (ア) コロナ禍での部署内協力体制、専門職意識が向上した。
- (イ) コロナ自粛による会議体制の変化、業務効率の向上により超過勤務削減が図れた。
- (ウ) 採用センターとの連携強化により、介護、看護、調理補助の中途採用が促進された。
- (エ) コロナ禍の対策徹底に終始し、積極的な研修に取り組みなかった。
- (オ) コロナ禍と人員欠が続いたため、計画した部署間の交流研修は未実施となった。

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 大規模な設備改修は未実施となった。老朽化による改修箇所が多いことが課題である。
- (イ) 新入居者件数は実績22件28名（予算30件38名）で入居率は94.3%と未達となった。
- (ウ) 入居者状況に合わせ適正に介護サービスへの移行ができ、介護報酬確保に貢献した。
- (エ) 介護予防活動はコロナ禍で最低限の活動となり、見直しはできなかった。
- (オ) 診療所入院ベッド適正利用については、各部署連携がとれ迅速利用につながったが、体制の見直しが必須である。
- (カ) コロナ禍でEQC（EDEN QUALITY CONTROL）の部署マニュアル整備が十分にできなかった。

4. 環境・省エネルギーへの取組みと地域との関わり

- (ア) 継続的に電気デマンド管理（最大需要電力管理）は実施し、省エネルギーを図った。
- (イ) コロナ自粛が続き、十分な地域貢献活動の取り組みはできなかった。

(ウ) 職員ロッカー整備、感染対策で空気清浄機の各部署配置により環境改善を図った。

(エ) 調理補助者1名の障がい者雇用ができた。

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

(ア) コロナ禍により縮小訓練となったが、防災マニュアルの見直しができた。

(イ) 土砂災害警戒区域の指定状況を入居者・職員に報告し、防災意識向上に努めた。

(ウ) 三浦市との地域防災協定継続と土砂災害避難確保計画を提出した。

6. その他の公益的事業について

(ア) 三浦市社会福祉協議会の協力のもと介護フェスタを開催した。

(イ) 三浦市のフレイルチェック事業に職員（フレイルサポーター）を派遣した。

実績：4回開催、48人の地域住民対象に延べ8人の職員が参加

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	400戸（89戸）	160名	329名	489名

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	信越	北海道	東北	外国	計
人数	451名	12名	15名	2名	4名	1名	2名	2名	489名
構成比	92.2%	2.5%	3.1%	0.4%	0.8%	0.2%	0.4%	0.4%	100.0%

表3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	38名	88名	118名	102名	69名	48名	20名	6名	0名	489名
構成比	7.8%	18.0%	24.1%	20.9%	14.1%	9.8%	4.1%	1.2%	0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
83.7歳	82.2歳	84.5歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男性	16名	14名	（13名）
女性	12名	22名	（19名）
計	28名	36名	（32名）

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	135名	19名	25名	26名	18名	17名	17名	13名
期末人数	127名	14名	23名	32名	14名	18名	14名	12名
月平均人数	135.2名	17.6名	24.7名	30.1名	16.2名	18.5名	16.2名	11.9名

表7：職員数・サービス活動収益

職員数（常勤換算）	139.0名
サービス活動収益	1,002,708千円

介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2020年度は新型コロナウイルス感染症予防対策を重点課題として取り組んだ。レストランをはじめ、各窓口の飛沫防止の亚克力板や自動検温装置の設置、空気清浄機の導入、職員全員のPCR検査の実施などを行い、園内が安全な場所であることを意識した対策を講じた。入居者の協力を頂戴し、感染者の発生がなく経過することが出来た。しかし、感染予防対策のために家族を含めた外部者の入館制限や行事やサークル活動の中止、外出自粛など制限のある生活をお願いすることとなりご不便をかけた1年となった。そのような生活の中で、少しでも季節感を感じる機会や楽しみの提供について、生活サービス係が中心となり廊下の季節の飾りつけを入居者参画型で毎月行う取り組みやDVDを活用した体操などを実施した。食事サービス課の手作りデザートや振る舞いも多くの入居者に届けることができた。新しい生活様式を取り入れた行事の企画ができるよう園内自主放送設備を導入し入居者全体に活用した。感染予防策により運営懇談会等が実施できず、直接意見を聴けない状況下では、特に各相談窓口の機能向上が重要と考え、職員の意識向上、接遇力向上のための行動指針を定め、日々の朝礼で意識付けを行うことや研修の実施などに努めた。また、意見を受け取りやすくする試みとしてご意見箱の設置を3か所に増やした。今後も入居者の意見に耳を傾け、施設運営に反映できるよう取り組んでいく。

1. 良質なサービスの追求

安心した生活を支えるサービスの質向上に向けて、全課で協力する体制強化に取り組んだ。特に看取り介護の際は日々情報共有し、その方のよりよい生活を支えるために全課で連携しケア提供を行った。また、介護居室にはIT化促進のため見守りを強化するためのシステムを導入した。レストラン運営では、満足度調査や日々のご意見をいただいた中から改善に取り組み、季節感や楽しさを意識した提供に努めた。食材の質向上のため発注業者の変更やリクエストメニュー・人気メニューを献立に取り入れるなどの工夫を実施した。

2. 働きがいのある職場風土の醸成

職員の学習面の支援強化のため、看護師オンライン研修システムeラーニングを導入した。各専門職としてのスキルアップに向けて、研修参加や目標参画システムと各職種ラダーの活用、職場長による面談を通して働きかけを継続した。メンタルヘルス向上の取り組みについては、ストレスチェックの受検率100%を継続できた。職場風土の醸成のため、各職場で課題を抽出し職場の環境改善や業務改善の取り組みを行っている。

3. 安心・安全な施設づくり

災害対策強化については、非常用燃料の保管が増やせるよう危険物倉庫を新設した。水害も想定し機械棟の屋上に設置した。防犯・防災訓練についても継続実施し、入居者の安全・安心につながるよう取り組んだ。施設関連では2019年度に引き続き老朽化に伴う設備更新を行い環境改善に努めた。17年間使用してきた園バスの更新も実施した。また、敷地内の車との接触などの危険箇所の安全対策、中庭への出口の自動ドア化や段差解消、通路の新設など生活の中で安全に使用するための改修工事を実施した。

4. 安定した施設経営の実現

経営面では感染予防対策のために募集活動を停止した期間が長く、新規入居数が減少し入居率は92.9%となった。経営の安定のため入居率95%以上の維持を目指していく。給食料収益では外出を控えた方が多かったためレストラン利用率が向上した。環境・省エネルギーへの取り組みについては、SDGs（持続可能な開発目標）を意識し、ゴミ削減や食材廃棄率減少等の取り組みを行った。設備更新にあたっては省エネルギーを意識し選定を行った。

5. 地域における公益的な取り組み

近隣保育園との津波・高潮時の避難訓練については、時間や場所をずらして接触を避ける形で合同開催を継続した。また、保育園や学童育成クラブの子供たちから入居者に向けた手作りのメッセージが届き、今までの交流とは形を変え実施することができた。今後も地域に根ざした施設を目指し交流を継続する。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	208戸（37戸）	76名	169名	245名

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	227名	8名	2名	2名	0名	5名	1名	245名
構成比	92.7%	3.3%	0.8%	0.8%	0%	2.0%	0.4%	100.0%

表3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	22名	34名	62名	55名	37名	27名	6名	2名	0名	245名
構成比	9.0%	13.9%	25.3%	22.5%	15.1%	11.0%	2.4%	0.8%	0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
83.5歳	81.0歳	84.6歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男性	7名	3名	（2名）
女性	6名	11名	（9名）
計	13名	14名	（11名）

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	70名	16名	6名	15名	9名	10名	9名	5名
期末人数	70名	15名	12名	15名	6名	9名	9名	4名
月平均人数	67.8名	14.2名	9.8名	15.8名	6.8名	8.6名	7.8名	4.8名

表7：職員数・サービス活動収益

職員数（常勤換算）	66.1名
サービス活動収益	428,218千円

介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2020年度は、世界中に拡散し続けている新型コロナウイルスの感染拡大防止対策に追われる1年であった。入居者、家族の多大な理解・協力と全職員による感染防止対策の継続により新型コロナウイルスの発生事例はなく、無事に1年を終えることができた。しかし、感染拡大防止対策のため、行事・外出・外泊・面会等の自粛・活動制限の長期化により、入居率は著しく低下し経営的には厳しい年となった。

入居者の笑顔や食欲を取り戻すため、「コロナ禍でも、できる行事・イベント」を通じて四季を感じ笑顔と食欲を取り戻したいと考え、各階単位のゾーニングケアを実施中であることから、定番の「エデン寿司」と「天ぷら」をライブキッチン方式で各階のデイルームで開催した。毎月、新しい企画を開催し、入居者に新たな楽しみを提供することに努めた。

1. 安全・安心・良質なサービスの提供

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の継続として、入居者・家族の方々に面会制限や各種懇談会・サービス担当者会議の自粛へのご協力と、全職員による感染防止対策の実践により、入居者・職員共に無事に1年が経過した。納涼祭や季節毎の行事や認知症予防活動も3密を回避し規模を縮小しての開催とはなったが継続した。認知症ケアとしての認知症ケアマッピングはショートマッピングに変更継続した。

感染防止対策を行う中で、「安全・安心・良質なサービス」の継続について、改めて実感した年でもあった。

2. 人財の育成

メンタル不全者での休職者は0名であったが、長期化するコロナ禍で職員のストレスや疲労感は計り知れない状況が続いている。外部研修は自粛・中止が続き、施設内研修も3密を回避しDVD研修や紙面での研修に変更した。

3. 経営基盤の安定と持続性の確保

介護保険収益については、入居率98%・平均要介護度3.0以上を目指したが、新型コロナウイルス感染防止対策として新規入居者・施設見学者の受け入れを見合わせた期間があり、入居率は平均78.0%、平均介護度は2.5と著しく低下した。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染経路や防止対策が徐々に明確化されたためか、下半期に入り緊急事態宣言下であるにも関わらず、新規入居者は10月～3月で、4件であった。

コロナウイルスの流行状況は、1年以上収束していないが、今後は「コロナ禍」での、募集活動・施設見学・新規入居者の受け入れ体制を整え、入居率の早期回復を目指す。

4. 地域社会との連携と協働

2020年3月より「ふれあい食堂」の開設を予定し、社会福祉協議会と事前打ち合わせを行い、開設準備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染対策の為、開催を延期した。現在も新型コロナウイルス感染防止対策の継続により開催時期も未定である。

コロナ収束時には、「ふれあい食堂」や「納涼祭」の地域活動等を通じて、新たな連携に繋げたい。

4. 環境・省エネ活動への取り組みの強化

活動は継続したが、コロナ感染防止対策に使用した衛生消耗材料等の処分もあり、削減できなかった。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	39戸（戸）	5名	34名	39名

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	37名	1名	1名	0名	0名	0名	0名	39名
構成比	94.8%	2.6%	2.6%	0%	0%	0%	0%	100.0%

表3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	12名	11名	11名	3名	1名	1名	0名	0名	0名	39名
構成比	30.7%	28.2%	28.2%	7.7%	2.6%	2.6%	0%	0%	0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
90.7歳	90.2歳	90.8歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男性	2名	5名	(5名)
女性	5名	9名	(8名)
計	7名	14名	(13名)

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	46名	0名	5名	7名	10名	6名	12名	6名
期末人数	39名	0名	6名	6名	10名	4名	6名	7名
月平均人数	42.0名	0名	5.3名	6.2名	10.4名	5.8名	8.2名	6.1名

表7：職員数・サービス活動収益

職員数（常勤換算）	49.1名
サービス活動収益	225,038千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策に終始した一年であった。結果としては、2021年1月に藤沢愛光園で職員1名の陽性者が発生したものの、その職員から感染が広がることもなく一年を終えることができた。コロナ過で、面会や行事、サークル活動が自粛となり様々な制約が発生したが、その中でも職員が創意工夫をして入居者・利用者にできるだけストレスを感じさせない方法でサービスの提供を行った。2021年度は、開設10周年となるため、感染症対策の継続とともに必要とされるサービスの見直しにも取り組んでいく。その他、2020年度にウェルフェアタウンの各事業所が取り組んできた活動について、以下の通り報告する。

【藤沢エデンの園一番館】

一番館では97%を超える入居率を維持することができた。さらには外出自粛の影響により入居者のレストラン喫食率が前年比2%向上した。喫食率の向上は一番館の目標でもあったため、継続してレストランを利用してもらうための取り組みを行っていく。一方、二番館への住み替えや一番館で終末期を迎える入居者が増加したため、入居者や家族の希望に沿った住み替え時期や終末期ケア、生活支援サービスの在り方について深く検討がされた一年であった。

【藤沢エデンの園二番館】

2020年度は在宅部門や生活サービス課と連携して、一番館からの住み替え者7名を受け入れた。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、直接入居は0件であった。しかし退去者は12件と住み替え者数を上回り入居率が72%と低迷した。感染予防を継続したうえでの入居率アップが喫緊の課題である。2021年4月の介護報酬改定に伴い、サービスの見直しを行い、より良いサービスの提供に努めていく。

【藤沢愛光園】

藤沢愛光園では、8月より入居者と家族のコミュニケーションが継続できるようオンライン面会を導入した。またケアスタッフの業務上の身体的負担軽減のために、介護ロボット『リショーンネ』と見守りシステムの導入を行った。次年度は感染症対策を継続しながら、入居者・利用者の生活やサービスの質の向上、そして職員満足度の向上を目指していく。

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

利用者・家族が安心して自分らしく暮らせることを目標として取り組みを行った。看護師が不安なくサービスを提供できるように、職場内外の情報共有や連携に力をいれた。緊急事態宣言時は訪問控えもあり、一時的に件数は減少したが、通年では新規利用者が月平均7名と訪問件数も昨年より増加傾向であった。今後はタブレットなどのICTを導入していき、効率的に多職種連携を図るためにも、環境整備や職員教育も行っていく。

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

2020年度は、感染症対策を実施したうえで訪問を行い、利用者、職員ともに大きな混乱はなく終えることができた。訪問件数も利用控えはなく介護保険は予算達成したが、総合事業は区分変更により介護給付に移行する利用者があり件数は伸びなかった。その他、外部オンラインによる認知症研修に参加し職員の質の向上をはかった。引き続き認知症の研修に参加し、職員個々の質、

技術向上に取り組んでいく。

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

2020年10月に職員の退職があり、それまで取得していた特定事業所加算を取り下げることとなった。その中でも利用者へのサービスが滞ることのないよう業務継続に注力した。2021年3月には職員を採用することができたため、再度特定事業所加算の取得を行っていく。

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

2020年度も「利用者個々に合わせた機能訓練の提供」を目標に、感染対策を行いながら、個々の生活や心身の状況・本人や家族のニーズを確認しリハビリ専門職を中心にそれぞれの職員が専門性を発揮するとともに多職種で連携し個別機能訓練の支援を継続して行った。新型コロナウイルスによる利用控えにより、経営的にも打撃を受けた一年であったが、自粛生活による筋力低下を不安視していた方々が徐々に利用を再開し、年度後半には利用控えは3名程度になっている。2021年度もより個々に応じたリハビリやケアの支援を継続し、利用者が長く在宅で生活できるよう支援を継続していく。

1. 最善を追求したサービスの提供

コロナ過であっても何ができるかということ職員が自ら考えて、サービスの提供を心掛けた。その中でも入居者と共に5千羽の折り鶴で江ノ島と富士山を模した貼り絵は、入居者から自粛生活でも心がつながったと評価をいただいた。

2. 多様・多職種の人材確保と育成の強化

2020年度もEPA介護福祉士候補生の入職を予定していたが、コロナ過で入国が遅れ2021年度以降の入職となった。育成の強化については、集合研修ではなく、eラーニングやデスクネットを使った研修スタイルとなった。今後も多様な人材確保と育成の強化に注力していく。

3. 更なる安心・安全を目指した災害対策・対応

災害対策においては、これまで3日分としていた保存食を7日分にする計画を立て、2020年度は5日分の貯蓄をすることができた。また台風などによる停電時にもレストランで食事が提供できるよう厨房内に非常電源の設置を行った。

4. 地域共生社会における社会福祉法人としての役割の実践（地域における公益的な取組）

企業と連携して、2019年度から始まった「高齢者見守り施策および健康寿命延伸施策」が2020年度末に終了した。今後、データの検証と実証報告を行っていく。また職員が毎月行っている事業所前にある『二番構公園』の清掃も継続して行った。

【藤沢エデンの園一番館—数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	203戸（54戸）	85名	172名	257名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	四国	計
人数	228名	8名	15名	1名	2名	2名	1名	257名
構成比	88.7%	3.1%	5.8%	0.4%	0.8%	0.8%	0.4%	100.0%

表 3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	2名	23名	66名	64名	60名	27名	14名	1名	0名	257名
構成比	0.8%	9.0%	25.7%	24.9%	23.3%	10.5%	5.4%	0.4%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
80.4歳	80.3歳	80.5歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男性	6名	5名	(3)名
女性	6名	9名	(1)名
計	12名	14名	(4)名

*退去数には二番館への住み替え数を含む

表 6：職員数・サービス活動収益

職員数（常勤換算）	49.7名
サービス活動収益	379,799千円

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【藤沢エデンの園二番館－数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	36戸（0戸）	6名	30名	36名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
人数	32名	0名	3名	0名	1名	0名	36名
構成比	88.9%	0.0%	8.3%	0.0%	2.8%	0.4%	100.0%

表 3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	2名	11名	13名	7名	3名	0名	0名	0名	0名	36名
構成比	5.6%	30.6%	36.1%	19.4%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
85.2歳	83.5歳	86.9歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男性	1名	6名	(5名)
女性	6名	6名	(5名)
計	7名	12名	(10名)

*入居数には一番館の退去数を含む

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	42 名	1 名	3 名	5 名	9 名	13 名	6 名	5 名
期末人数	35 名	1 名	3 名	1 名	8 名	13 名	5 名	4 名
月平均人数	41.4 名	1.0 名	3.0 名	2.8 名	8.9 名	13.3 名	6.9 名	5.4 名

表 7：職員数・サービス活動収益

職員数（常勤換算）	36.2 名
サービス活動収益	176,026 千円

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【藤沢愛光園－数値実績】

	特養入所		短期入所		合 計
	既存	ユニット	既存	ユニット	
利用者定員	名	100 名	名	20 名	—
利用者延べ数	名	34,691 名	名	5,552 名	—
稼働延日数	365 日		365 日		—
一日平均利用者数	名	95.0 名	名	15.2 名	—
稼働率	%	95.0%	%	76.0%	—
単価（1人1日当り）	14,764 円		14,285 円		—
職員数（常勤換算）	65.7 名		13.1 名		78.8 名
サービス活動収益	519,392 千円		82,682 千円		602,074 千円

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

	月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	単 価	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
実 績	104.2 名	598.9 件	7,187 件	10,899 円	71,989 千円	9.8 名

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

	介護給付			予防・総合事業		自立支援		単 価			サービス 活動収益	職員数 （常勤 換算）
	月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数	介護給付 （回）	予防総 合事業 （回）	自立支援 （回）		
実 績	38.9 名	448.8 件	5,385 件	157.3 件	1,888 件	180.1 件	2,161 件	4,264 円	18,834 円	4,619 円	42,422 千円	5.3 名

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

	年間請求件数		単 価		訪問調査		サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
	介護	予防	介護	予防	件数	単価		
実績	1,135 件	610 件	13,084 円	4,115 円	70 件	5,000 円	17,624 円	2.9 名

*サービス活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

	介護給付			予防・総合事業		単 価		サービス 活動収益	職員数 (常勤 換算)
	一日 利用者 数	月間 利用者 数	年間 利用者 数	月間 利用者 数	年間 利用者 数	介護給付 (回)	予防総合 事業(回)		
一 日	20.8 件	536 件	6,426 件	15.0 件	182 件	10,838 円	35,467 円	81,242 千円	11.3 名
半 日	2.06 件	53.0 件	636 件			7,071 円			

*サービス活動収益は内部取引前の数値

ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2020年度は、新型コロナウイルス感染症が世界中、日本中に広がりを見せた。奈良ニッセイエデンの園全体でもウイルスを持ち込まない対策を継続して実施した年度となった。全国的にマスク不足が起り供給が滞った中で、入居者のボランティアと職員で布マスク作りを行い、全入居者、全職員にマスク（各2枚）の配布を行った。災害、防災対策においては、防災訓練が職員のみの実施となるなど感染対策の影響は否めなかったが、より実践的な内容に更新するなど、対応力向上のきっかけにしていきたい。有料老人ホームにおいては、新規契約者獲得の募集見学会等も中止になった中で、新規契約戸数の予算を達成することができ、一般居室は高い入居率が継続できている。また、様々なイベントや活動の縮小を余儀なくされたが、介護予防活動等は感染予防を行いながら実施している。クリニックにおいては、外部の物忘れ外来患者の情報共有を地域包括支援センターと密に行い介護保険申請へのスムーズな対応ができた。また、4月に診療報酬改定があり、制度改定に伴う対応を迅速に行った結果、必要な加算が確保できた。奈良ベテルホームにおいては、特に新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響があった事業であり、近隣の病院や、居宅支援事業所からの相談減少などで入所、通所リハビリテーションの稼働率が低下し、収益の確保が厳しい状況になった。在宅事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で新規利用者が減少したが、医療・介護・地域との連携を引き続き強化したことで、最終利益は3事業所共、黒字決算で終了することができた。

各施設別の取り組みについては、以下の通り報告する。

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

(ア) マイメモリーシートの活用方法を見直し、その人らしさを終末期まで支えるケアの推進

(イ) 施設内連携の実践によるエデン版地域包括ケアシステムの浸透

(ウ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり

- ① マイメモリーシートを全部署から入力・閲覧ができるように整備し、部署間のサマリーのやり取りは効率的になった。また、既存の入居者情報も約50%まで入力が完了した。
- ② いいきき生活室の運営が3年目に入り、2020年度予定していた「エデン大学の講座（年4回）」や、精神対話士の相談が中止となった。その中で、感染予防を行いながら、音羽山観音寺の佐々木慈瞳副住職によるグリーンケアや終末期のメンタルサポートの個別相談を年2回ではあったが実施することができた。
- ③ 居室サービス課のデイサロン万葉では、感染予防を行いながら「暮らしの脳トレ機器」「コグニーバイク」等を個別で実施、入居者が介護予防に対して主体的に取り組める環境を継続した。
- ④ 介護居室の看取り介護は、多職種による定期的なカンファレンス実施や関わりを行い、9名（うち1名一時介護室利用）の看取りを行うことができた。看取りグループメンバーを中心に死生観の醸成と寄り添う心を持ち、入居者や家族の立場に立った看取りケアに取り組んだ。

- ⑤認知症ケアは、介護居室で認知症ケアマッピングを年1回行った。フィードバックは入居者担当とケアマネジャーを中心に施設サービス計画書に組み込み、計画の見直しを行った。
- (エ) “エデン食堂”として身近に感じてもらうための企画・運営と満足度向上
食数アップに繋がる実演（人気）メニュー（丼物・サンドウィッチなど）がコロナの影響で実施出来なかった。また、シリーズメニュー（店長おすすめメニュー・ほっこり和食・ご当地メニューなど）の考案などを継続して行ったが、喫食数は伸びず予算未達の状況であった。その中で、環境面では食堂内のお花を定期的に更新したり、食事内容にあった食器を購入するなどを行った。
- (オ) 開園30周年記念に向けた企画立案
開園30周年記念に向けた企画は、コロナの感染拡大により、1年間遅らせることとした。

2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 身体状況に応じた適切な住み替えとサービスの提供
- (イ) 入居募集活動への協力と連携
一般居室から介護居室への住み替えが必要な方へ適切に進めることにより、一般居室の新入居20件26名の入居契約につなげ、年間新規販売戸数の目標値を達成できた。また、生活支援サービスを定期的に評価し、介護保険新規契約数は15件、住み替え11件、必要に応じて区分変更手続きを推進したことで、予算より大幅に収益を確保することができた。
- (ウ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
- (エ) 省エネルギー資源活動への継続的な取り組み
設備整備では、30周年に向けた植栽整備を2期にて完了となった。また、新たに駐輪場を増設し、バイク、自転車の駐輪スペース確保による園内の交通事故予防、違反駐輪対策に寄与している。省エネルギー活動は、共用部LED化計画継続。大ホール天井照明の更新が完了した。

3. 人材の育成・活用・定着の強化

- (ア) 働き方改革への取り組み
働き方改革、IT化を引き続き推進。出張申請・報告・清算にwebシステムを導入した。今後も職員のITリテラシーと生産性の向上に取り組む。
- (イ) 多様な働き方への対応した採用力強化への取り組み
職員採用は施設全体で年間20名（正職員7名、パート13名）と離職者を上回る実績を残したが、予算人員を充足するまでには至らなかった。有資格者をはじめとし、介護職等の採用困難は深刻となり、紹介業者の利用が増加した。
- (ウ) 障がい者雇用に向けた各職場間の連携
就労困難者の支援として、訪問看護利用者の当園就業まで繋げることができたが、就労を継続できず課題を残した。障がい者雇用におけるトライアルから継続雇用となった職員は、定期的なサポート等により業務時間の延長につながった。（障がい者雇用率2.6%）
- (エ) 目標参画・各職種のラダーを活用し自ら考え行動できる職員の育成
- (オ) 他施設・他部署との計画的な交換研修の推進と職場の活性化

(カ) 活気とやりがいを感じる職場環境整備と風土づくり

目標参画や各種ラダーを実施、活用し、専門職としての知識と技術の向上に取り組んでいる。
また、計画的な交換研修はコロナ禍で職場間の横断を控えたため、実施できなかった。

4. サービスの質・安全・効率の向上

(ア) 身体拘束、虐待防止への取り組み

コンプライアンス委員会で有料老人ホーム及び介護老人保健施設の事例の共有を行い、常に不適切ケアへの議論、検討を繰り返していく仕組み作りを継続している。また、2020年度は研修会ではなく書面開催として自己チェックを行い、個々の知識向上に向けての勉強会を実施した。

(イ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止

感染予防対策感染拡大防止のため、引き続き職員教育の徹底、園全体での感染の情報連携を図っている。また、新型コロナウイルス関連補助金を活用し、複合施設では不可欠なゾーニングのための職員更衣室の改修・移設、空気清浄機など大規模な整備を実施することができた。

(ウ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止

(エ) EQC (EDEN QUALITY CONTROL) の定着と実践の継続と ETS2020 (業務基幹システム) の活用
ETS2020 の運用が開始となり、業務効率化をサービスの質の向上へつなげるための仕組み作りを継続している。また、リスクにおいては、効果測定や PM-SHELL 分析を活用し同じ事故を起こさない対策や分析力アップに向けた対策を継続していく。

(オ) 接遇向上を目指し職員間で指摘しあえる風土づくり

接遇においては人材育成委員会が主導し、各職場で接遇チェックリスト (自己・他者評価) を継続して実施し、個々の意識や行動の変化があるように年2回実施、評価を行った。

(カ) 防災・防犯対策教育と訓練の実施・強化

防災訓練は年2回開催し、1回は机上訓練、もう1回は職員のみで訓練を実施した。防犯訓練は、コロナの影響で実施できなかった。

(キ) 満足度調査の結果をふまえたサービスの質の向上

食事満足度調査結果については、入居者の連絡会に報告、食堂に結果を閲覧できるようにした。今後、結果に基づき、入居者満足度・サービスの質向上に向けての対策を実施していく。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) WAC 施設としての地域貢献・交流

(イ) 地域との災害時の協力協定の締結と防災の協力

(ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

①毎年継続の河合町から委託、参加していた地域行事等 (しゃきっと教室、家族介護教室、地域総合防災訓練、大和川一斉清掃、RUN 伴等) については、新型コロナウイルス感染症拡大で全て中止となった。また、園で企画していた「介護の日ふれあいフェスタ」「認知症 Café」「河合町立幼稚園へ入居者と訪問」等も中止した。その中で、近隣の河合第3小学校が第2小学校へ統合となり、エデン前歩道が児童の通学路になったため、入居者と職員 (園全体職場) で下校時の安全の確保のための見守りを開始、継続している。

②高塚台自治会との災害時の協力協定については、2021年4月の運営連絡会、入居者連絡会に報告し、2021年5月から開始に向けて動いている。

■入居者募集活動状況

新規契約戸数は20戸で、(対前年±0戸) その内、6戸が2人入居であった。また、退去が23人(一般15人、介護居室8人)、介護居室への住替えが11戸(対前年比+2戸)あった。その結果、年度末の入居状況は一般居室357戸(対前年比-1戸)、介護居室49戸(対前年比+3戸)となり、入居率は一般居室98.6%、介護居室98.0%、全体で98.5%であった。

■介護保険状況

介護保険認定者は2021年3月31日現在で要支援1:19名(含介護居室0名)、要支援2:23名(同0名)、要介護1:32名(同9名)、要介護2:26名(同13名)、要介護3:18名(同12名)、要介護4:13名(同11名)、要介護5:8名(同6名)、合計:139名(同51名)となった。

【数値実績】

表1:契約状況

(3月末現在)

	居室数	契約数(内複数入居)	入居率	男 性	女 性	全 体
				一般居室	362	357(112)
介護居室	50	49(2)	98.0%	30.8%	69.2%	100.0%
合 計	412	406(114)	98.5%			

表2:地域別契約状況

(3月末現在)

	近畿	関東	中国	東海	北陸	四国	九州	北海道	合計
件 数	361	18	1	19	2	4	1	0	406
構成比	88.9%	4.4%	0.2%	4.8%	0.5%	1.0%	0.2%	0.0%	100.0%

表3:年齢構成

(3月末現在)

	~60	~64	~69	~74	~79	~84	~89	~94	95~	合計
人 数	1	4	23	66	96	108	119	72	31	520
構成比	0.2%	0.8%	4.4%	12.7%	18.5%	20.8%	22.8%	13.8%	6.0%	100.0%

表4:平均年齢

(3月末現在)

男 性	女 性	全 体
81.4歳	82.9歳	82.5歳

表5:入・退居状況

	入 居	退 去(内死亡退去)
男 性	9	4(4)
女 性	17	19(17)
合 計	26	23(21)

表 6:介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	128 人	20 人	25 人	31 人	15 人	18 人	12 人	7 人
期末人数	124 人	16 人	20 人	29 人	22 人	17 人	12 人	8 人
月平均人数	126 人	18 人	23 人	30 人	18 人	18 人	12 人	7 人

◆高齢者総合福祉センター「ふれあいプラザ」

2020 年度は、新型コロナウイルスの影響による講座・催しの中止が重なり、開催出来たのは文化教養講座「写真講座」1 回のみであり、事業計画がほぼ遂行できず、講座開催数及び参加者数が減少した。今後は感染予防に十分に配慮し、安全に開催できる方法を模索する。情報紙「ふれあい西大和」については、第 92 号(2020 年 6 月発行)～第 95 号(2021 年 3 月発行)の計 4 号を各 5,000 部発行した。毎号「入居者募集」に関するお知らせを掲載していたが、新型コロナウイルスの影響で見学会等の中止に伴い、掲載は第 95 号のみとなった。その中で、ベテルホームの利用案内スペースを拡大し、より詳しい情報を記載した。また、第 93 号から新たにニッセイ・アーク西大和の会員募集を掲載した。今後も WAC 施設としての広報活動を継続していく。

◆ニッセイ聖隷クリニック

2020 年度、外来はもの忘れ外来を通じて町の地域包括支援センターと密な連携を取ることで、認知症の方への福祉サービス介入が速やかに行えるようになった。また、町からも気になる方の紹介や相談も増えるようになった。2 月には 2 階の改修工事を行い、受付カウンターから職員がすぐに待合に出られるようにしたことで、患者対応が速やかにできるようになった。入院では、レスパイト入院により初めて看取りを行うことができた。診療報酬の改定により、加算が大幅増となり収益増にもつながった。健診は、新型コロナウイルス感染症により人数を制限して実施したため、受診者側も健診は不要という方も多かったのか、例年よりも受診者数が減少した。

◆奈良ベテルホーム

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、入所、通所リハビリテーションとも経営状況が厳しい年度となった。入所に関しては、近隣病院の入院患者の退院支援制限、居宅事業所からの相談減少などがあり稼働率が著しく低下した。11 月より徐々に相談件数は増加してきたが安定はしなかった。通所リハビリテーションに関しては、10 月から予算数値に至ったが 12 月頃より、例年より寒くなったこと、感染の第 2 波による感染不安から利用控えがあり収入減少となった。予算未達、収入減少となったが、人件費は超過勤務減少等により費用を抑えることができた。新型コロナウイルス感染症の年度であったが、新型コロナウイルス感染であっても感染対策を講じながら企画、運営を行うことができた。

◆ニッセイせいい在宅介護サービスセンター・ベル西大和店

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症などの疑いからヘルパーの勤務停止や利用者のケア内

容の変更等の対応に追われた。利用者や家族からのケアのお断りも無く、感染症対策を行いながらサービス提供はできたが、利用者の入院や施設入所により収支は減少となった。

◆訪問看護ステーション西大和

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、前半は特にリハビリ件数の減少が目立ち、利用者数、訪問件数の減少がみられた。後半は利用者数、訪問件数とも増加し、2019年度より増収となった。

◆ニッセイせいいいケアプランセンター西大和

2020年度は、新型コロナ感染拡大の影響で会議や研修など縮小傾向の中、制限下での地域ケア会議やケアマネネットワーク会議への参加や研修等参加、「西和地域7町における入退院連携マニュアル」の活用継続などにより、医療・介護・地域との連携強化していく中で予算達成できた。

◆その他公益的事業

(ア) 文化教養講座（開催数1回：写真講座のみ実施 参加者8名）

(イ) ベテル介護教室

①2019年に介護教室を実施した緑ヶ丘自治会へのお便り（9月）及び介護予防関連ビラ配布（2月）

②河合町社協と連携し、引きこもり地域高齢者に対する支援活動として、介護予防に関するビラ等の配布（11月）

(ウ) 献血（実人数31名）

(エ) 小学校児童の下校時見守り（入居者・全職場）

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

新型コロナウイルスの感染拡大という状況下で、園の運営も大幅な軌道修正を強いられた。付設診療所でも職員の感染者が発生したが、感染症対策や危機管理については、平時では経験できない事象も多数存在し、我々の貴重な学びの機会となった。2021年度も当面は大きな状況変化がないと考えられるため、この学びを活かしつつ、入居者にはこのような時だからこそ“ここを選んで良かった”と思っていただけるような施設運営を心掛けていく。

【2020年度事業の振り返り】

1. 有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

(ア) 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上

2020年度はコロナ禍の為実施する事が困難であったが、募集見学会時に「看護・介護・看取り体制」についてのセミナーを開催するなど、将来的な自分自身の方針を具体化してもらおう契機を提供している。

(イ) 人材育成と連携

外部研修への参加が困難な中でeラーニングやYouTubeを活用した知識・技術習得を図った。また、新型コロナウイルス感染対策のため、一般居室と介護居室の交差を制限した事により介護業務一元化には至らなかったが、感染発生時の協力体制を整える事が出来た。

(ウ) 経営基盤の安定

喫食率の向上に向け、9月には食事満足度調査を実施し“味の旅”や新メニューを提供し喫食率アップに向けての取り組みを開始した。人材の活用の点では、外国人介護職の採用を推進し、4月に韓国人介護職を採用、10月にもインドネシア人介護職の採用を行わない外国人が働ける環境が醸成されつつある。

(エ) リスク管理体制の強化

新型コロナウイルスの感染予防、感染拡大防止のために出勤前、出勤時、退勤時の検温実施や、ご入居者に向けての感染予防に関する放送を実施する事により園全体の感染に対する意識を高める事が出来た。

(オ) 社会・地域への貢献と連携

入居者の協力を頂きフードバンクを3回開催し(7月、1月、3月)松戸市社会福祉協議会を通じて『フードバンク千葉』へ提出し、生活困窮者や福祉団体・福祉施設に寄付を行った。

2. 松戸ニッセイ聖隷クリニック

新型コロナウイルス感染対策に伴い、外部からの新規患者受け入れや健診業務の縮小に伴い収益は減少する事となってしまったが、ご入居者の外部医療機関受診の代替えを当クリニックが担う事で、処方や注射を継続する事ができ当クリニックの存在意義が発揮出来た。

3. 高齢者総合福祉センター

教室は集合しない形で9月より1教室再開し、延べ34名の参加があった。イベントは生活

サービス課との共催でリアルタイム放送でのイベントを2回開催し、後日 YouTube にて配信することにより、近隣にお住まいの方にもご覧いただいた。

4. ニッセイエデンヘルパーステーション（訪問介護）

2020年度も要支援者の新規利用者は全体の30%を占めていたが認定更新・区分変更のタイミングで要介護に変更になった方が3名おり、年間を通して予算並みで推移した。コロナ禍での1年であったが、感染予防対策を行ないいつもと変わらず訪問した職員・登録ヘルパーの努力により予算を達成できた。

【公益的事業について】

- ・フードバンクを3回開催し（7月、1月、3月）松戸市社会福祉協議会を通じて『フードバンク千葉』へ提出し、生活困窮者や福祉団体・福祉施設に寄付を行った。
- ・回収した、60kg分のエコキャップをNPO法人エコキャップ推進協会へ寄付した。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	329戸（78戸）	114名	293名	407名

表2：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	36名	106名	93名	78名	40名	43名	9名	2名	0名	407名
構成比	8.8%	26.0%	22.9%	19.2%	9.8%	10.6%	2.2%	0.5%	0%	100.0%

表3：平均年齢

平均	男性	女性
85.1歳	84.1歳	85.6歳

表4：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男性	14名	8名	（6名）
女性	14名	18名	（17名）
計	28名	26名	（23名）

表5：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	121名	22名	19名	26名	26名	7名	14名	7名
期末人数	108名	20名	17名	27名	20名	9名	10名	5名
月平均人数	110.8名	23.9名	16.2名	23.5名	22.3名	8.3名	12.1名	4.5名

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2020年度、明日見らいふ南大沢(東京都住宅供給公社からの運営受託事業)は開設して25年目を迎え、321世帯、入居者354名、平均年齢が86.7歳で終えることとなった。施設として、新型コロナウイルス感染防止(拡大)対策に追われて入居者や職員にとってストレスの溜まる1年であった。しかし一方でリモート(オンライン)面会やデイケアの開設、施設内自主放送を開設しての情報発信など、今までに無かった新しいサービスを生み出すこともできた。

以下、2020年度事業の結果・成果について報告する。

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
 - (ア)「健康長寿」に繋がるプログラムの定着と新しいプログラムの開発
 - ① 朝の体操やトレーニング室、プール等を予約制にするなど、コロナ禍でもご入居者の身体機能が低下しないように工夫しながら実施した。
 - (イ) 生活利便サービスの充実に向けた取り組み
 - ① 業者の入館制限のため、宅配等の受付・連絡・配達などを職員が業者に代わって行った。
 - ② 共用部の換気を行うための網戸や空間除菌装置を設置して感染対策向上に努めた。
 - (ウ) 要介護未認定入居者やサービスにつながりにくいケースに対する支援の実践
 - ① ケアセンターを日中のみ使用していた入居者を対象として、新たにデイケアを開設しソーシャルディスタンスの確保とともに新しいサービスの形を提供できた。
 - (エ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり
 - (オ) 介護が必要になった時に向けての入居者の意志を聞き取る体制づくり
 - (カ) 認知症早期発見に向けての取り組み
 - (キ) ケア充実のための新しい福祉用具・IT機器導入の検討
 - ① リモート(オンライン)面会を行うために、タブレットを購入しWi-Fi環境を整備した。
2. 人材の育成
 - (ア) 役職者のマネージメント能力の向上
 - (イ) 次世代の役職者の育成
 - (ウ) 自信につながる専門領域の習得
 - (エ) 各課の役割を理解し、連携強化を図れる職員の育成
 - (オ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上
3. 地域との交流・協力関係づくり
 - (ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり
 - (イ) 高齢者あんしんセンターとの繋がりによる専門職としての活動の機会づくり
 - (ウ) 入居者の経験や知識を活かした地域貢献活動の場所づくり
 - (エ) 地域活動への参加

4. 環境・エコ活動への取り組み

- (ア) 入居者と共同・協働による環境活動の実施
- (イ) 省エネへの取り組みの継続
- (ウ) 防災対策・ハードの見直し

①防災DVDを作成して分かり易く動きや防災グッズを紹介する新たな形式で開催した。

5. 入居者募集

- (ア) 募集業務の理解を深める

①職員を対象とした施設内研修で募集業務に関する研修を実施し、理解を深めた。

- (イ) 新規入居者のスムーズな受入れ

6. オリンピック開催地として、入居者と共に記念に残るイベントの実施

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	321戸（33戸）	97名	257名	354名

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	中国	計
人数	334名	6名	7名	1名	1名	3名	1名	1名	354名
構成比	94.3%	1.7%	2.0%	0.3%	0.3%	0.8%	0.3%	0.3%	100.0%

表3：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	27名	98名	118名	73名	25名	12名	1名	0名	0名	354名
構成比	7.6%	27.7%	33.3%	20.6%	7.1%	3.4%	0.3%	0%	0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
86.7歳	86.9歳	86.7歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男性	1名	2名	(2名)
女性	5名	5名	(5名)
計	6名	7名	(7名)

表6：介護保険利用者（介護保険請求）

	合計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	100名	15名	11名	20名	12名	18名	13名	11名
期末人数	107名	16名	14名	29名	8名	16名	16名	8名
月平均人数	104.8名	18.8名	13.9名	23.3名	8.3名	16.5名	14.6名	9.4名

表7：職員数・サービス活動収益

職員数（常勤換算）	107.4名
サービス活動収益 ※	112,055千円

※聖隷クリニック南大沢のみ

法人本部

新型コロナウイルス感染症により、事業団全体の経営、運営にも大きな影響を受けた。法人本部として情報収集に努めると共に、職員への行動制限の通達、マスク等の物資不足への対応、業務上感染した際の休職制度など、職員が少しでも安心して感染症対策に向き合える環境整備に努めた。EPA 候補者の渡航制限や第 1 四半期の経営悪化など極めて厳しい人員管理、予算管理、投資抑制が求められた。

一方で、WEB 会議システムの整備を進め、理事会・経営会議をはじめとする各種会議や採用面接、人事研修、監査においてもリモート対応が可能となった。ID-LINK による連携施設や画像共有システムの拡大、財務システムの安定稼働やエルダー職員規則の運用開始など DX や働き方改革を推進するための基盤整備が行われた。

コロナ禍により創立 90 周年記念式典は中止としたが、記念誌の発行や次期中期事業計画の策定がなされ、節目の年として取り組みができた。また、20 年ぶりの理事長交代に関する各種交代事務や広報業務を遂行することができた。

【各部の報告】

《総務部》

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症に伴い、日々の生活や働き方が大きく変化した 1 年であった。経験したことのない事態であり、また地域により感染状況が異なる中で、職員には、医療・福祉従事者として、責任ある行動を促す通達を出し、注意喚起を行った。コロナ禍における働き方としては、出張は必要最低限にすると共に、WEB 会議の導入を推進した。感染症の罹患等により、事務職員が出勤停止となった際に給与支給が滞らないように、BCP 及びテレワーク規則を作成した。また、結婚や永年勤続による特別休暇の取得期間延長も行った。

人材確保・育成と柔軟な働き方への対応としては、長時間労働の是正および有給休暇の消化率向上について、引き続き状況を把握し、各種会議体で情報共有を行った。法改正による看護休暇・介護休暇の時間取得は 2021 年 1 月より規則改定を行い対応した。非正規雇用者については同一労働同一賃金を見据えて、手当や福利厚生の見直しを行った。

健康経営については、ハラスメント、セルフケア、ラインケアの e-ラーニングを実施した。経済産業省の認定制度である健康経営優良法人は継続して取得することができた。

先駆的取り組みとしては、WEB 会議を推進し、法人本部主催の会議は WEB 開催することが定着した。また、この WEB 会議システムを活用し、交通安全講習会を本部から各施設に WEB 配信することにより実施した。職員の利便性向上を目的として、WEB による申請を推進した。2020 年 4 月からは財務部を主導とした、出張・旅費申請の WEB 化を行い、2021 年 1 月には源泉徴収票の完全電子配布を行い、2021 年 4 月からは車両申請を WEB で行うことを確立した。

《人事企画部》

コロナ禍の過酷な社会環境の中、「採用・育成を止めるな！」をスローガンに状況の変化に対応し、役割を遂行することができた。

採用面接や施設見学・説明会はWEB会議システムやLINEビデオ通話を活用し、遠隔地の学生も移動することなく参加できる環境を整え実施した。また、例年一定数の採用が難しい介護職・保育職に向けて公式LINEやInstagram（インスタグラム）を活用した情報発信を行い、母集団形成につなげた。事業団全体の職員採用充足率は、2019年度の84%から2020年度98%へと向上した。また、外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティの推進にも取り組んだ。外国人介護職人材の採用は、EPA介護福祉士候補者や留学生の受け入れを継続したが、コロナ禍の影響を受けた。EPA介護福祉士候補者11名は入国ができず、現在に至っても入国の目途が立っていない。外国人留学生6名や他法人からの外国人介護福祉士3名（インドネシア2名・フィリピン1名）の転職希望者を採用した。障がい者雇用は、障がい者雇用取組事例集【第3版】の発信や障がい者トライアル雇用を推進し、2021年3月に引き上げられた障害者法定雇用率2.3%を上回る結果となった。また、施設の協力のもと障がい者の多様な働き方も促進された。高齢者の活躍に向け2020年4月に改定したエルダー制度により、常勤同様の働きができるエルダーA職員の継続雇用者は70%を超えた。さらに、定年後の退職者も20%を下回ることができ、多様な人材の活用に貢献できた。

各種研修やEPA介護福祉士候補者の学習支援は、事業団が推奨する情報通信技術（ICT；information and communication technology）を活用し、新しい生活様式に対応した。看護職員のキャリアアップのため2019年度から始めた「聖隷看護職人事・育成システム」の研修会は、コロナ禍でも多くの看護職員が視聴できるようにYouTube（ユーチューブ）を活用した。階層別研修・EPA介護福祉士候補者の学習支援は、新型コロナウイルス感染状況により集合・オンライン形式・中止を判断し対応した。

職員の昇進・昇格等に活用している「コンピテンシー評価表」を13年ぶりに改訂した。人材育成にも活用できるよう評価表を公開するなど運用方法も変更した。未着手であった事務職のラダーは「事務部門ラダープロジェクト」で検討し、2021年度に試用し運用に向けて進んでいる。

事業団が提供する外部事業は、介護福祉士実務者研修・喀痰吸引等研修・医療的ケア教員講習会・看護師の特定行為研修の開講により、法人内外の福祉施設の介護職や看護師のスキルアップに貢献している。2020年度は介護職員の人材育成を推進するため「初任者・実務者研修の受講料貸与規則」を改訂し、受講料の削減をしたことで受講しやすい環境を整えた。静岡県主催事業は2019年度に引き続き「外国人介護人材受入れ準備セミナー」、「外国人介護職員のための日本語研修」、「外国人介護職員集合研修」の3事業を受託し企画運営した。看護師特定行為研修は、2021年3月に「呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連」「創傷管理関連」「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」「在宅・慢性期領域パッケージ」の区分追加が認定された。これにより、認定看護師が特定行為研修を受講しやすくなり、さらには地域包括ケアにおける看護師の役割拡大につながる研修が整った。

人事企画部として『働きやすさの追求』『育成環境や研修の充実』等を目指し制度や仕組みの再構築に努めてきた。今後、利用者や職員の『満足』の先にある『感動』を提供できるよう採用・育成・配置・評価における人事の更なる充実を追求する。

《財務部》

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により、資金状況の悪化が見込まれたため、例年以上に資金の動きを注視した一年となった。当座貸越枠を広げ、いざという際の対策を取るとともに、無担保無利息の運転資金借入を実施し、資金の確保を行った。合わせて、設備投資の実施時期の見直しを各事業部に依頼するなどし、資金コントロールに努めた。

また、新財務システムが4月から稼働した。稼働当初はシステムトラブルなどもあり、また経理担当者の習熟度不足も重なって、その対応に多くの労力を割くこととなったが、時間の経過とともにシステム習熟度も上がり、年度決算まで無事終える事が出来た。今後は、本来の目的である経理業務の効率化、経費精算システムの導入施設拡大や財務データの活用を更に進めていく。

関連法人（芙蓉協会、恵愛会、聖愛会）については、事業継続を目的として、総合企画室と連携し、財務的側面から積極的に介入し、経営支援を行った。引き続き、経営状況を踏まえ、積極的に関わっていく。

《総合企画室》

コロナ禍における物品調達、管理業務、補助金のとりまとめを行い、事業部の運営を支援した。厳しい経営環境となる中、関連法人を含む病院経営支援に引き続いて取り組んだ。医師キャリア支援センターとしては14名の医師採用（常勤8、非常勤6）に関与することができた。社会福祉連携推進連携法人制度のため厚生労働省社会援護局社会基盤課との意見交換を継続。山本理事長の全国経営協や静岡県的外部役職業務のリモート化への対応を支援した。創立90周年記念事業では記念式典は中止としたが、記念誌の発行、記念品の配布、特設ホームページの設置などにより節目の年を盛り上げることができた。関連して、次期中期事業計画2021-2025の策定、SDGsの推進など今後の事業展開につながり、聖隷の付加価値を高める取り組みを開始した。年度末の理事長交代においては社内報等での意思表示や取材対応、関係各所への挨拶など、企図とおりに推進することができた。

《総合情報システム部》

2020年度は、情報システムグランドデザインに基づく業務システムの構築を進めた。病院系システムは、聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、聖隷横浜病院、聖隷佐倉市民病院、浜松市リハビリテーション病院、聖隷袋井市民病院、聖隷淡路病院の7病院で同一の電子カルテシステム導入が完了、安定稼働を目的とした保守フェーズへ移行できた。2021年度に予定されている聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院にて医療用画像管理システム(PACS: Picture Archiving and Communication Systems)の更新に連動し、事業団内の画像情報についてBCP対策としての遠隔バックアップ、今後の画像情報の地域連携、AIを活用した診療支援の実現を目的としたVNA(Vendor Neutral Archive)導入プロジェクトを立ち上げ、導入を決定した。2021年3月より利用拡大が進むマイナンバーカードを利用した保険証オンライン資格確認の導入について各施設と連携の上、対応をすすめている。在宅・福祉サービス事業部では、保育園システムの導入、AI技術を利用したケアプラン作成検討、高齢者公益事業部ではETS2020の機能強化、見守りシス

テムの導入、顔認証付自動体温計と既存の喫食管理システムの連携支援を行った。また、両事業部において無線ネットワークの整備や介護支援システムのタブレット利用拡大を支援し現場業務の効率化を実現している。

コロナ禍というこれまでにない状況に面し物事のとらえ方が大きく変化する今日、ICT の活用が大きな位置を占めることを改めて認識した1年であった。特に Web 会議は社会全体で急激に利用が拡大したが、システム部門にて2019年から試験的に導入・検証を進めて蓄積されたノウハウのおかげで対応することができたと考え、先を見据えた検証の積み重ねの重要性を経験した。一方、通信量増加に伴うレスポンス遅延が度々発生しており、ネットワークの強靱化が今後の課題である。その他、RPA (Robotic Process Automation) の検証として10,000件の帳票出力、医療情報のビッグデータ活用について検討を開始した。

最後に将来の情報部門の在り方、次世代の情報部門を担う人材育成について、情報システム責任者会を中心に検討を行った。7月、新しい変化には情報システム部門の意識統一が必要と考え、システム部門に所属する全役職者を対象とした研修を実施した。今後も事業団の各サービスの質向上に寄与するシステム構築に努めたい。

《監査室》

2020年度は、パンデミックの影響により、当初予定していた65施設のうち7施設の内部監査を中止し、結果的に58施設の往査実績となった。1施設当たりの指摘数は前年度とほぼ同数であり、高リスクの指摘数が減少したことから、コロナ禍でも適正な業務活動が維持できていることを確認した。また、テーマ監査として病院施設基準監査を継続して行ったが、コロナ禍により4病院の監査中止を余儀なくされた。

内部通報窓口における相談件数は、2019年度と比較して大幅に減少した。1回目の緊急事態宣言が出された時期に相談がほとんどなかったことから、コロナ禍の影響が考えられるが、前例がないため検証はできない。大幅に減少した相談件数の中でも、ハラスメントに関する相談は2019年度を上回っており、継続的なハラスメント予防の取り組みが求められる結果となった。

コンプライアンス啓発活動については、2019年度と同様、研修用教材の作成、提供を行った。コロナ禍により集合研修を中止した事例があったが、後半はビデオやオンラインでの実施に切り替えた。

2020年度施設整備事業報告

施設種別	有料老人ホーム	
施設名	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	
所在地	静岡県浜松市北区細江町中川7220-99	
工事名	浜名湖エデンの園1.2号館耐震対策建替工事	
事業完了年月日	2020年7月31日	
施設の構造	鉄筋コンクリート造	
延床面積	1.2号館9097.67㎡ 増築4号館4247.49㎡ 電力借室他57.04㎡ 計13402.20㎡	
総事業費	土地購入費	0
	建築工事費	5,348,296,000 (税込)
	設計監理費 (ボーリング、測量含む)	187,964,000 (税込)
	備品費	152,234,000 (税込)
	その他費用 (式典、住替改修費用ほか)	175,804,000 (税込)
	事業費 計	5,864,298,000 (税込)
財源	銀行より借入 (本部借入金含む)	4,750,000,000
	福祉基金繰入	17,926,000 <small>ビオトープ ハイブリットピアノ</small>
	自己資金	1,096,372,000
	財源 計	5,864,298,000
備考		



法人の概要

- ・ 法人名 社会福祉法人 せいらいふくしじぎょうだん 聖隷福祉事業団
- ・ 創立 1930年（昭和5年）5月
- ・ 基本理念 キリスト教精神に基づく「隣人愛」
- ・ 代表者 理事長 やまもと としひろ 山本 敏博
- ・ 所在地 静岡県浜松市中区住吉2丁目12番12号（法人登記）
- ・ 事業内容
 1. 医療事業（病院・診療所・ホスピスなど）
 2. 保健事業（健康増進・健康診断・人間ドック・疾病予防・労働環境測定など）
 3. 福祉事業（特別養護老人ホーム・障害者支援施設・救護施設・無料又は低額診療・保育事業・有料老人ホーム事業など）
 4. 介護サービス事業（介護老人保健施設・通所事業・訪問看護ステーション・在宅訪問事業など）
- ・ 事業規模 施設・事業数：162施設 353事業（2021年3月時点）
職員数：15,988名（非常勤含む）（2021年3月時点）
サービス活動収益：1,211億円（2020年度）

実施する事業の概要

【第1種社会福祉事業】

2021年3月31日現在

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
救護施設	聖隷厚生園讃栄寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	奄美佳南園	80	1974年5月1日	鹿児島県奄美市
特別養護老人ホーム	森町愛光園	80	1993年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	森町愛光園天宮サテライト	29	2012年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	いなさ愛光園	70	1997年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園	102	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園初生サテライト	29	2012年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園和合サテライト	29	2014年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	浜北愛光園	150	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	宝塚栄光園	70	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	花屋敷栄光園	108	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	宝塚すみれ栄光園	100	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	淡路栄光園	60	1999年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	聖隷カーネーションホーム	54	2014年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	横須賀愛光園	104	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
特別養護老人ホーム	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	100	1999年8月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	浦安愛光園	74	2006年4月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	松戸愛光園	103	2003年5月1日	千葉県松戸市
特別養護老人ホーム	藤沢愛光園	100	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
軽費老人ホーム	もくせいの里	50	1978年12月1日	静岡県浜松市
軽費老人ホーム	ケアハウス花屋敷	100	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	浦安市ケアハウス(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
障害者支援施設	障害者支援施設 みるとす	20	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者支援施設	聖隷厚生園信生寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市
障害児入所施設	聖隷おおぞら療育センター	170	2006年10月1日	静岡県浜松市

【第2種社会福祉事業】

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
医療保護施設	聖隷三方原病院	934	1942年11月9日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園わかば	206	1966年11月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園桜ヶ丘	190	1975年4月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園ひかりの子	236	1976年4月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園めぐみ	166	2017年4月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり東	215	1978年4月1日	静岡県磐田市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり豊田	155	2011年4月1日	静岡県磐田市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり富丘	129	2020年4月1日	静岡県磐田市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園夢舞台	120	2017年4月1日	兵庫県淡路市
保育所	こうのとり保育園	120	1971年11月1日	静岡県磐田市
保育所	春日保育園	120	1972年4月1日	鹿児島県奄美市
保育所	逆瀬川あゆみ保育園	45	2002年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	御殿山あゆみ保育園	120	2003年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	野上あゆみ保育園	90	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
事業所内保育所	聖隷浜松病院ひばり保育園	200	2015年4月1日	静岡県浜松市
事業所内保育所	聖隷めぐみ保育園	30	2015年4月1日	静岡県浜松市
小規模保育所	聖隷のあ保育園	19	2019年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
地域子育て支援拠点事業	磐田市子育て支援総合センター のびのび(受託経営)	—	2003年7月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園桜ヶ丘	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園ひかりの子	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園めぐみ	—	2017年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり東	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり豊田	—	2011年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市
一時預かり事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	御殿山あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	野上あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
一時預かり事業	聖隷こども園夢舞台	—	2017年4月1日	兵庫県淡路市
病児保育事業	聖隷こども園わかば	4	2015年4月1日	静岡県浜松市
病児保育事業	こうのとりの保育園	6	2015年4月1日	静岡県磐田市
病児保育事業	聖隷こども園こうのとりの東	4	2015年4月1日	静岡県磐田市
病児保育事業	聖隷こども園こうのとりの富丘	4	2020年4月1日	静岡県磐田市
病児保育事業	聖隷こども園夢舞台	3	2019年1月1日	兵庫県淡路市
児童厚生施設	御殿山児童館	—	2003年4月1日	兵庫県宝塚市
児童厚生施設	野上児童館	—	2008年11月4日	兵庫県宝塚市
助産施設	聖隷浜松病院併設助産所	10	1969年6月1日	静岡県浜松市
助産施設	聖隷三方原病院併設助産所	6	1994年9月19日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	横須賀愛光園デイサービスセンター	30	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園デイサービスセンター	20	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	1996年11月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	森町愛光園デイサービスセンター	42	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人デイサービスセンター	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	和合愛光園デイサービスセンター	62	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	浜北愛光園デイサービスセンター	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷トライサポート和合	40	2001年8月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター初生	50	2004年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザいなさ	35	2015年10月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	1995年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	花屋敷デイサービスセンター	59	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2000年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	デイサービスセンター淡路	35	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	37	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	聖隷ライフサポート津名	25	2020年4月1日	兵庫県淡路市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
老人デイサービスセンター	浦安市高洲高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター	浦安市猫実高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年10月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター	松戸愛光園デイサービスセンター	34	2003年5月1日	千葉県松戸市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター藤沢	40	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターゆい	20	2017年4月1日	沖縄県中頭郡
老人短期入所事業	老人短期入所事業(奄美佳南園)	10	1999年4月1日	鹿児島県奄美市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(森町愛光園)	12	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人短期入所事業	老人短期入所事業(いなさ愛光園)	20	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(和合愛光園)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(浜北愛光園)	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚栄光園)	15	1993年4月1日	兵庫県宝塚市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(花屋敷栄光園)	12	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚すみれ栄光園)	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(淡路栄光園)	19	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(松戸愛光園)	21	2003年6月1日	千葉県松戸市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(横須賀愛光園)	16	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(藤沢愛光園)	20	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人介護支援センター	奄美佳南園在宅介護支援センター(受託経営)	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人介護支援センター	いなさ愛光園在宅介護支援センター(受託経営)	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人介護支援センター	森町愛光園在宅介護支援センター(受託経営)	—	1998年10月1日	静岡県周智郡
老人介護支援センター	聖隷在宅介護支援センター淡路(受託経営)	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人居宅介護等事業	奄美佳南園	—	1993年10月1日	鹿児島県奄美市
老人居宅介護等事業	森町愛光園ホームヘルパーステーション	—	1998年10月1日	静岡県周智郡
老人居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1997年10月1日	兵庫県宝塚市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
認知症対応型老人共同生活援助事業	ほのぼのケアガーデン	9	2001年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2017年11月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション 横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーセンター	—	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	2012年3月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2013年3月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(生活訓練)	生活訓練事業所ナルド	10	2010年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(生活訓練)	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(機能訓練)	聖隷厚生園まじわりの家	6	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(機能訓練)	聖隷デイサービスセンター三方原	共生型	2018年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(機能訓練)	聖隷トライサポート和合	共生型	2019年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 共同生活援助	福祉共同住宅 ファーストステップ	10	2019年6月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園信生寮	60	1993年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	生活訓練事業所ナルド	10	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園まじわりの家	14	2011年10月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
(障害福祉サービス事業) 生活介護	障害者支援施設 みるとす	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	あさひ	35	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	生活介護事業所きらめき	20	2019年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	森町愛光園デイサービスセンター	基準 該当	2017年4月1日	静岡県周智郡
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	基準 該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	花屋敷栄光園デイサービスセンター	基準 該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター	共生 型	2018年10月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	松戸愛光園デイサービスセンター	共生 型	2019年2月1日	千葉県松戸市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	横須賀愛光園デイサービスセンター	共生 型	2019年10月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 療養介護	聖隷おおぞら療育センター	150	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園信生寮	10	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園讃栄寮	4	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	障害者支援施設 みるとす	2	2003年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷おおぞら療育センター	20	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浜北愛光園	—	2013年1月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園初生サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	森町愛光園	—	2013年11月1日	静岡県周智郡
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	奄美佳南園	—	2015年6月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	淡路栄光園	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	宝塚すみれ栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	花屋敷栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	宝塚栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	松戸愛光園	—	2018年2月1日	千葉県松戸市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浦安愛光園	—	2018年4月1日	千葉県浦安市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浦安ベテルホーム	—	2018年9月1日	千葉県浦安市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	横須賀愛光園	—	2019年1月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	ナルド工房	10	2007年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷厚生園チャレンジ工房和合	10	2012年3月15日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房浜北	15	2014年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房浜松学園	10	2019年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房磐田	14	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房カナン	6	2017年4月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	ナルド工房	15	2007年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷厚生園チャレンジ工房和合	15	2012年3月15日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷チャレンジ工房浜北	25	2014年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷チャレンジ工房カナン	14	2017年4月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷チャレンジ工房浜松学園	10	2020年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業A型	ナルド工房	10	2017年9月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業A型	聖隷厚生園チャレンジ工房和合	10	2018年4月1日	静岡県浜松市
地域活動支援センター	ナルド(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション 横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
移動支援事業	奄美佳南園	—	2007年7月1日	鹿児島県奄美市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
無料又は低額診療事業	聖隷淡路病院	152	1999年12月1日	兵庫県淡路市
無料又は低額診療事業	聖隷横浜病院	300	2003年3月1日	神奈川県横浜市
無料又は低額診療事業	聖隷佐倉市民病院	400	2004年3月1日	千葉県佐倉市
無料又は低額介護老人保健施設	三方原ベテルホーム	150	1991年5月1日	静岡県浜松市
無料又は低額介護老人保健施設	浦安ベテルホーム	100	2006年4月1日	千葉県浦安市
障害児通所支援事業	磐田市発達支援センターはあと (受託経営)	—	2007年11月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	児童発達支援センターひかりの子	15	2012年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷こども発達支援センターかるみあ	30	2013年10月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷こども発達支援事業所かるみあ富 丘	10	2016年4月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	児童発達支援センターひかりの子	5	2013年4月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ和合	20	2016年10月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ森町	20	2017年4月1日	静岡県周智郡
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ磐田	10	2017年4月10日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	のぞみ園	20	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷かがやき	10	2019年4月1日	鹿児島県大島郡
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷こども発達支援センターかるみあ	—	2013年10月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	児童発達支援センターひかりの子	—	2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	のぞみ園	—	2015年3月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷かがやき	—	2016年6月1日	鹿児島県大島郡
障害児相談支援事業	ナルド	—	2012年6月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	浜松東	—	2013年9月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡
障害児相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市
障害児相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市
一般相談支援事業	ナルド	—	2013年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	浜松東	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	ナルド	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
特定相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市
特定相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市

【公益事業】

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
医療施設	聖隷浜松病院	750	1962年3月5日	静岡県浜松市
医療施設	聖隷浜松病院附属診療所 聖隷健康診断センター	—	1975年5月16日	静岡県浜松市
医療施設	宝塚エデンの園附属診療所	19	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設	油壺エデンの園附属診療所	15	1986年11月1日	神奈川県三浦市
医療施設	診療所聖隷予防検診センター	11	1987年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	診療所聖隷クリニック南大沢	—	1996年6月1日	東京都八王子市
医療施設	浜名湖エデンの園診療所	—	2000年3月15日	静岡県浜松市
医療施設	浦安せいれいクリニック	—	2006年4月1日	千葉県浦安市
医療施設	浜松市リハビリテーション病院 (受託経営)	225	2008年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	袋井市立聖隷袋井市民病院 (受託経営)	150	2013年5月1日	静岡県袋井市
医療施設	聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	—	2010年4月1日	静岡県静岡市
医療施設	聖隷静岡健診クリニック	—	2013年4月1日	静岡県静岡市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	410	1973年5月1日	静岡県浜松市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	1980年6月20日	愛媛県松山市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	1986年11月1日	神奈川県三浦市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム 藤沢エデンの園一番館	418	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月1日	奈良県北葛城郡

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市
ケア付高齢者住宅	明日見らいふ南大沢 (受託経営)	482	1996年6月1日	東京都八王子市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉	—	1993年1月18日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション細江	—	1995年3月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション浅田	—	1995年10月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	1995年10月1日	兵庫県宝塚市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション貴布祢	—	1997年2月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション高丘	—	1997年11月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉第二	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	—	2020年10月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	1997年5月1日	兵庫県神戸市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2000年3月1日	兵庫県淡路市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション横浜	—	1997年12月1日	神奈川県横浜市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	1998年11月1日	神奈川県横須賀市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーションゆい	—	2013年3月1日	沖縄県中頭郡
高齢者生活支援ハウス	やまぶき(受託経営)	5	1999年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜松	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター細江	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜北	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター森町	—	2000年4月1日	静岡県周智郡
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター和	—	2007年2月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ南部	—	2015年10月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浅田	—	2016年10月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター宝塚	—	2000年4月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター花屋敷	—	2003年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターすみれ	—	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター北神戸	—	2000年4月1日	兵庫県神戸市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター淡路	—	2010年5月1日	兵庫県淡路市
居宅介護等事業	聖隷ケアプランセンター淡路第二	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター横須賀	—	2000年4月1日	神奈川県横須賀市
居宅介護支援事業	松戸愛光園ケアプランセンター	—	2004年4月1日	千葉県松戸市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター藤沢	—	2011年3月1日	神奈川県藤沢市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浦安	—	2011年6月1日	千葉県浦安市
居宅介護支援事業	奄美佳南園 在宅介護支援センター	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
居宅介護支援事業	聖隷居宅介護支援センターゆい	—	2015年1月1日	沖縄県中頭郡
訪問入浴介護事業	奄美佳南園訪問入浴事業所	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅療養管理指導事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
訪問看護事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター和合 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター細江 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター北浜 (受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター高丘 (受託経営)	—	2012年10月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	磐田市南部地域包括支援センター (受託経営)	—	2019年4月1日	静岡県磐田市
地域包括支援センター	花屋敷地域包括支援センター (受託経営)	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市
地域包括支援センター	逆瀬川地域包括支援センター (受託経営)	—	2007年4月1日	兵庫県宝塚市
地域包括支援センター	西第二地域包括支援センター (受託経営)	—	2008年4月1日	神奈川県横須賀市
地域包括支援センター	浦安市高洲地域包括支援センター (受託経営)	—	2016年4月1日	千葉県浦安市
身体障害者向け住宅の事業	シオンハウス (身体障害者用住宅)	5	1992年10月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	聖隷おおぞら療育センター	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	聖隷厚生園信生寮	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	みるとす	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市中障がい者相談支援センター(受託経営)	—	2020年4月1日	静岡県浜松市
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
浜松市生活困窮者自立促進支援モデル事業	浜松市生活自立相談支援センターつながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市
社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業	法人本部	—	2007年4月1日	静岡県浜松市

【収益事業】

施設(事業)の種類	施設名	定員	開設年月日	所在地
貸事務所	法人本部	—	2005年1月1日	静岡県浜松市

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 役員名簿

	氏 名	役 職 名
理事	青木 善治	常務執行役員 (財)芙蓉協会理事
理事	岡 俊明	専務執行役員・聖隷浜松病院院長 (学)聖隷学園理事
理事	荻野 和功	専務執行役員・聖隷三方原病院院長 (学)聖隷学園理事
理事	鎌田 裕子	常務執行役員・人事企画部長
理事	日下部 行宏	常務執行役員 (財)恵愛会常務理事
理事	津幡 佳伸	常務執行役員・在宅・福祉サービス事業部長 (福)十字の園評議員・(福)神戸聖隷福祉事業団評議員
理事	平川 健二	常務執行役員・高齢者公益事業部長 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員
理事	福田 崇典	専務執行役員・保健事業部長 (財)芙蓉協会評議員
理事長	山本 敏博	代表執行役員 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団会長

理事会 開催日

4月 23日
5月 22日
6月 5日
6月 26日
7月 10日
7月 31日
8月 28日
9月 11日
9月 25日
10月 9日
10月 23日
11月 13日
11月 27日
12月 4日
12月 18日
1月 8日
1月 22日
2月 12日
2月 26日
3月 12日
3月 26日

	氏 名	役 職 名
監事	上野 桂子	(社)全国訪問看護事業協会理事
監事	佐野 國治	
監事	白木 政幸	
監事	鈴木 睦明	

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 評議員名簿

	氏 名	役 職 名
評議員	青木 雅人	一般財団法人日本老人福祉財団理事長
評議員	伊藤 孝	一般財団法人芙蓉協会副理事長・聖隷沼津病院院長
評議員	大石 一雄	社会福祉法人さくま理事長
評議員	小野田 全宏	特定非営利法人静岡県ボランティア協会理事長
評議員	小里 俊幸	一般財団法人恵愛会副理事長・聖隷富士病院院長
評議員	小柳 守弘	学校法人聖隷学園専務理事・法人事務局長
評議員	背戸 好廣	
評議員	坪井 一弘	公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事
評議員	中村 一彦	東京海上日動ベターライフサービス株式会社代表取締役社長
評議員	湯口 哲世	浜松商工会議所理事

評議員会 開催日

6月 26日
3月 26日

(2021年3月31日時点・五十音順)

附属明細書

該当ありません。